



## Business Intelligence プラットフォームユーザガイド

■ SAP BusinessObjects Business Intelligence Platform 4.1

2013-06-29

## 著作権

© 2013 SAP AG or an SAP affiliate company. All rights reserved.本書のいかなる部分も SAP AG の明示的許可なしに、いかなる形式、目的を問わず、複写、または送信することを禁じます。本書に記載された情報は、予告なしに変更されることがあります。SAP AGがライセンス、またはその頒布業者が頒布するソフトウェア製品には、他のソフトウェア会社の専有ソフトウェアコンポーネントが含まれています。製品仕様は、国ごとに変わる場合があります。これらの文書は SAP AG およびその関連会社（「SAP グループ」）が情報提供のためにのみ提供するもので、いかなる種類の表明および保証を伴うものではなく、SAP グループは文書に関する錯誤又は脱漏等に対する責任を負うものではありません。SAP グループの製品およびサービスに対する唯一の保証は、当該製品およびサービスに伴う明示的保証がある場合に、これに規定されたものに限られます。本書のいかなる記述も、追加の保証となるものではありません。SAP、および本書で言及されるその他 SAP の製品およびサービス、ならびにそれらのロゴは、ドイツおよびその他諸国における SAP AG の商標または登録商標です。商標に関する情報および表示の詳細については、<http://www.sap.com/japan/company/legal/copyright/index.epx>をご覧ください。

# 目次

第 1 章	ドキュメント履歴.....	9
第 2 章	はじめに.....	11
2.1	このドキュメントについて.....	11
2.2	Business Intelligence プラットフォームについて .....	11
2.3	ライセンス.....	11
2.4	基本概念.....	12
2.5	主要タスク.....	13
第 3 章	セントラル管理コンソール (CMC) の使用.....	15
3.1	セントラル管理コンソールについて.....	15
3.2	ブラウザから CMC にログオンする.....	16
3.3	CMC での移動.....	16
3.4	CMC の基本設定を設定する.....	17
3.4.1	CMC 基本設定のオプション.....	17
3.4.2	優先表示ロケール.....	18
第 4 章	リポジトリへのオブジェクトの追加.....	19
4.1	オブジェクトを管理する.....	19
4.2	オブジェクトの追加.....	19
4.2.1	CMC でオブジェクトを追加する.....	20
4.2.2	CMS へのオブジェクトの保存.....	22
第 5 章	オブジェクトの整理.....	23
5.1	フォルダ .....	23
5.1.1	新しいフォルダを作成する.....	23
5.1.2	フォルダを削除する.....	24
5.1.3	フォルダのコピー/移動.....	24
5.1.4	フォルダのアクセス権の指定.....	25
5.1.5	フォルダレベルでレポートインスタンスを制限する.....	25
5.1.6	個人用フォルダを表示する.....	26
5.2	カテゴリ.....	26

5.2.1	カテゴリの使用.....	27
<b>第 6 章</b>	<b>コンテンツオブジェクトの使用.....</b>	<b>31</b>
6.1	一般的なオブジェクトの管理.....	31
6.1.1	オブジェクトをコピーする.....	31
6.1.2	オブジェクトを移動する.....	32
6.1.3	オブジェクトショートカットを作成する.....	32
6.1.4	オブジェクトを削除する.....	32
6.1.5	1 つまたは複数のオブジェクトを検索する.....	33
6.1.6	新しいハイパーリンクを作成する.....	33
6.1.7	オブジェクトまたはインスタンスを出力先に送信する.....	34
6.1.8	オブジェクトのプロパティを変更する.....	38
6.1.9	関係.....	38
6.2	レポートオブジェクトの管理.....	39
6.2.1	レポートオブジェクトとレポートインスタンスの概要.....	40
6.2.2	レポートの最新表示オプションの設定.....	41
6.2.3	レポートの表示オプションの設定.....	42
6.2.4	デフォルトの Job Server の指定.....	43
6.2.5	データベース設定を変更する.....	44
6.2.6	Crystal レポートのデフォルトプロンプト値を変更する.....	45
6.2.7	Web Intelligence ドキュメントのプロンプトを更新する.....	46
6.2.8	レポートへのフィルタ適用.....	47
6.2.9	プリンタとページレイアウトオプションの設定.....	48
6.2.10	処理拡張機能.....	50
6.2.11	ハイパーリンクを使用したレポートでの作業 .....	51
6.2.12	Crystal レポートの最初のページにサムネイル画像を表示する.....	54
6.2.13	Crystal レポートにアラートを表示する.....	54
6.2.14	Web Intelligence ドキュメントのユニバースを表示する.....	55
6.3	統合環境でのレポートの操作.....	55
6.3.1	BW から BI プラットフォームへのレポートの追加.....	55
6.3.2	開発コンテンツを BW の本稼動システムに移行する .....	56
6.3.3	レポートの表示 .....	57
6.3.4	BW クエリから生成されたレポートのパーソナライゼーション.....	58
6.4	プログラムオブジェクトの管理.....	61
6.4.1	プログラムオブジェクトとインスタンスの概要.....	61
6.4.2	プログラムの処理オプションの設定.....	63
6.4.3	実行可能プログラムオブジェクトの設定.....	64
6.4.4	Java プログラムの設定.....	66
6.4.5	プログラムオブジェクトのユーザアカウントを指定する.....	68
6.5	オブジェクトパッケージ管理.....	68
6.5.1	オブジェクトパッケージ、コンポーネント、およびインスタンス.....	68

6.5.2	新しいオブジェクトパッケージを作成する.....	69
6.5.3	オブジェクトパッケージへのオブジェクトの追加.....	69
6.5.4	オブジェクトパッケージとオブジェクトの設定.....	70
6.5.5	認証およびオブジェクトパッケージ.....	71
<b>第 7 章</b>	<b>オブジェクトのスケジュール.....</b>	<b>73</b>
7.1	カレンダー.....	73
7.1.1	カレンダーを作成する.....	73
7.1.2	カレンダーに日付を追加する.....	74
7.1.3	カレンダーを削除する.....	78
7.1.4	カレンダーへのアクセス権の指定.....	79
7.2	スケジュール.....	79
7.2.1	スケジュールオプションの設定.....	80
7.2.2	オブジェクトを直ちに実行する.....	119
7.2.3	オブジェクトパッケージによるオブジェクトのスケジュール.....	120
7.3	インスタンスの管理.....	120
7.3.1	インスタンス情報の表示.....	121
7.3.2	インスタンスの一時停止および再開.....	125
7.3.3	インスタンスを削除する.....	126
7.3.4	インスタンスに制限を設定する.....	126
7.4	イベント.....	127
7.4.1	ファイルベースのイベント.....	129
7.4.2	スケジュールベースのイベント.....	130
7.4.3	カスタムイベント.....	131
7.4.4	イベントのアクセス権の指定.....	132
<b>第 8 章</b>	<b>アラート.....</b>	<b>135</b>
8.1	アラート.....	135
8.1.1	アラートソース.....	136
8.1.2	アラートワークフロー.....	136
8.1.3	アラートと Crystal レポートアラート通知の相違点.....	137
8.1.4	CMC におけるアラートソースオブジェクトの検索.....	137
8.1.5	アラートに必要なアクセス権.....	138
8.1.6	購読の不整合の解決.....	141
8.1.7	アラートのベストプラクティス.....	141
8.2	アラートタスク.....	141
8.2.1	イベントのアラートを有効化する.....	142
8.2.2	アラートを購読する.....	142
8.2.3	アラートを購読解除する.....	143
8.2.4	他のユーザのアラートの購読を解除する.....	144
8.2.5	他のユーザをアラートの購読者として指定する.....	144

8.2.6	アラート通知を別のユーザの BI 受信ボックスに転送する.....	145
8.2.7	ユーザをアラートから除外する.....	145
8.2.8	アラートソースのアラート設定を管理する.....	145
<b>第 9 章</b>	<b>プロフィールの管理.....</b>	<b>147</b>
9.1	プロフィールの仕組み.....	147
9.1.1	プロフィールと公開のワークフロー.....	147
9.1.2	プロフィールを作成する.....	148
9.2	プロフィールターゲットおよびプロフィール値.....	148
9.2.1	グローバルプロフィールターゲットを指定する.....	149
9.2.2	プロフィール値の指定.....	150
9.3	プロフィール間の競合の解消.....	152
9.3.1	プロフィール値の競合.....	153
9.4	プロフィールのアクセス権の指定.....	154
<b>第 10 章</b>	<b>公開.....</b>	<b>155</b>
10.1	公開について.....	155
10.2	パブリケーションとは.....	155
10.3	公開の概念.....	155
10.3.1	レポートバースト.....	156
10.3.2	配信ルール.....	157
10.3.3	動的受信者.....	159
10.3.4	パブリケーション配信出力先.....	160
10.3.5	パブリケーションソースドキュメント名のパーソナライズされたプレースホルダ.....	167
10.3.6	電子メールフィールドのパーソナライズされたプレースホルダ.....	167
10.3.7	形式.....	168
10.3.8	パーソナライゼーション.....	171
10.3.9	パブリケーション拡張.....	172
10.3.10	購読.....	172
10.3.11	Crystal レポートの場合の PDF ファイルのマージ.....	173
10.4	公開に必要なアクセス権.....	173
10.4.1	公開者と受信者: 表示する内容とアクセス権.....	177
<b>第 11 章</b>	<b>パブリケーションの使用.....</b>	<b>179</b>
11.1	パブリケーションのデザイン.....	179
11.1.1	Live Office 用のパブリケーションのデザイン.....	179
11.1.2	SAP 受信者用パブリケーションの設計.....	179
11.1.3	CMC で新しいパブリケーションを作成する.....	180
11.1.4	BI ラウンチパッドで新しいパブリケーションを作成する.....	180
11.1.5	パブリケーションを開く.....	181

11.1.6	パブリケーションに一般プロパティを定義する.....	181
11.1.7	ソースドキュメントを選択する.....	181
11.1.8	Enterprise 受信者を選択する.....	182
11.1.9	動的受信者を選択する.....	183
11.1.10	パブリケーションの出力先を選択する.....	184
11.1.11	定期的なスケジュールパターンを選択する.....	186
11.1.12	パブリケーションソースドキュメントに対してパーソナライズされたプレースホルダを選択する.....	189
11.1.13	電子メールに動的ソースドキュメントのコンテンツを埋め込む.....	189
11.1.14	Crystal レポートのデザインタスク.....	190
11.1.15	Web Intelligence ドキュメントのデザインタスク.....	205
11.1.16	オプションのパブリケーション機能.....	207
11.2	パブリケーションのデザイン後のタスク.....	211
11.2.1	パブリケーションの最終処理.....	211
11.2.2	パブリケーションをテストする.....	212
11.2.3	パブリケーションを購読または購読解除する.....	212
11.2.4	パブリケーションの実行をスケジュールする.....	213
11.2.5	パブリケーション結果の表示.....	213
11.2.6	パブリケーションインスタンスを再配布する.....	217
11.2.7	失敗したパブリケーションを再試行する.....	217
11.3	パブリケーションパフォーマンスの向上.....	218
11.3.1	ソースドキュメントの追加に関する推奨事項.....	220
11.3.2	動的受信者ソースの使用に関する推奨事項.....	221
11.3.3	電子メールのパブリケーションインスタンスの送受信に関する推奨事項.....	222
付録 A	より詳しい情報.....	223
	索引.....	225





## ドキュメント履歴

以下の表は、最も重要なドキュメント変更の概要です。

バージョン	日付	説明
SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム 4.1	2013 年 5 月	<p>SAP Jam のサポートが追加されました。SAP Jam を統合すると、ソーシャルメディア機能およびコラボレーション機能が BI ラウンチパッドに追加されます。</p> <p>追加のコラボレーションアクセス権がユーザおよびグループに追加されました。コラボレーションのフィードパネルには、インスタンスおよび時刻のドロップダウンリストおよびフィードのフォローまたはフォロー解除のためのボタンが含まれています。SAP Jam または SAP StreamWork のテンプレートドキュメントをフォローすると、関連するすべてのインスタンスを自動的にフォローすることになります。インスタンスに関するコメントは特定のインスタンスに対してのみ投稿されます。</p> <p>ドキュメントおよびインスタンスへの OpenDocument リンクは、タブ上で、またはリンクから開くことができます。OpenDocument リンクからドキュメントまたはインスタンスを表示しているときに、SAP StreamWork のフィードパネルを開いて、ドキュメントフィードをモニタリングしたり、それに返信したりすることができます。</p> <p>[出力先] ダイアログボックスに [ファイル拡張子を追加する] チェックボックスが追加されました。</p>



# はじめに

## 2.1 このドキュメントについて

このドキュメントでは、BI プラットフォームでのオブジェクトの操作と管理に関する情報、および、さまざまなタスクをセントラル管理コンソール (CMC) で実行する方法について説明します。手順は、一般的なタスクを対象に説明します。高度なタスクについては、概念および技術に関する詳細情報を記載しています。

デプロイメントの計画、サーバの管理、権限の設定、認証の設定、ユーザおよびグループの管理など、システム管理タスクの詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。BI プラットフォームのインストールの詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームインストールガイド』を参照してください。いずれのガイドも SAP Help Portal (<http://help.sap.com>) にあります。

### このドキュメントの対象ユーザー

この情報は、リポジトリ内でコンテンツを管理し、更新されたコンテンツを受信者に配布するコンテンツ管理者およびパワーユーザを対象としています。

## 2.2 Business Intelligence プラットフォームについて

SAP BusinessObjects Business Intelligence (BI) プラットフォームは、柔軟でスケーラブルなレポート配布ソリューションです。イントラネットやエクストラネット、インターネット、または企業ポータルなどのあらゆる Web アプリケーションを介して、エンドユーザへの対話型レポートの配布を実現します。レポーティング、データ分析、および情報配信のための統合スイートである BI プラットフォームは、エンドユーザの生産性を向上し、管理の労力を減少させるソリューションを提供します。BI プラットフォームは、週次販売レポートの配布、顧客用に特化したサービスの提供、または企業ポータルの重要情報の統合などのどの目的で使用しても、組織内だけでなくその範囲を越えて利益をもたらします。

## 2.3 ライセンス

BI プラットフォームでは、以下のタイプのユーザライセンスをサポートしています。

- ・ BI ビューア

- ・ BI アナリスト
- ・ 同時接続ユーザ
- ・ 指定ユーザ

ライセンスタイプによって、特定のタスクとアプリケーションに対するアクセスが許可または制限されます。お持ちのライセンスによって、特定のアプリケーションへのアクセス、コンテンツの作成、リポジトリへのドキュメントの追加ができないことがあります。お持ちのライセンスについては、システム管理者に問い合わせてください。ライセンスの詳細については、SAP ヘルプポータルにある、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』(<http://help.sap.com>) を参照してください。

## 2.4 基本概念

始める前に、BI ラウンチパッドの基本概念を一読してください。実行するタスクによっては、該当しない概念もあります。

### オブジェクト

オブジェクトは、BI プラットフォームまたはその他のソフトウェアで作成され、BI プラットフォームリポジトリに保存され管理されるドキュメントまたはファイルです。

### カテゴリ

カテゴリは、フォルダの代替となる組織的な構成です。オブジェクトの分類に使用します。

### スケジュール

スケジュールは、指定した時間に自動的にオブジェクトを実行するプロセスです。スケジュールによって、オブジェクト内の動的コンテンツまたはデータの最新表示、インスタンスの作成、ユーザへのインスタンスの配布、ローカルへの保存が実行されます。

### イベント

イベントは、BI プラットフォームシステム内のオカレンスを表すオブジェクトです。イベントは、次の目的に使用できます。

- ・ スケジュールされたジョブの実行後にアクションをトリガする、スケジュール依存関係として動作する。
- ・ アラート通知をトリガする。
- ・ BI プラットフォームのパフォーマンスを監視する。

### カレンダー

カレンダーは、スケジュールされたジョブの実行日をカスタマイズしたリストです。

### インスタンス

インスタンスは、オブジェクトを実行した時刻以降のデータを含むオブジェクトのスナップショットです。

### 公開

公開は、パーソナライズした動的コンテンツを大量消費するために一般に公開するプロセスです。

### プロフィール

プロフィールは、ユーザおよびグループをパーソナライズした値に関連付けるオブジェクトです。プロフィールは、パーソナライズしたコンテンツを作成し、受信者に配布するために、公開に使用します。

### アラート

アラートは、BI プラットフォームでイベントが発生するとユーザおよび管理者に通知するプロセスです。

## 2.5 主要タスク

リポジトリへオブジェクトを追加するには  
「オブジェクトの追加」を参照してください。

リポジトリに追加されたオブジェクトを変更および管理するには  
オブジェクトの使用方法的詳細については、「一般的なオブジェクトの管理」を参照してください。

オブジェクトを整理するには  
オブジェクトの整理に関する情報については、フォルダおよびカテゴリに関する章を参照してください。

コンテンツをユーザに配布するには  
コンテンツは、スケジュール、公開、およびアラートを使用してユーザに配信できます。

- ・ スケジュールを使用すれば、動的コンテンツドキュメントのデータを最新表示し、最新表示されたデータを一定間隔でユーザに配信できます。「スケジュール」を参照してください。
- ・ 公開を使用すれば動的コンテンツドキュメントのコンテンツを特定のユーザおよびグループ用にパーソナライズおよび最新表示できます。「公開について」を参照してください。
- ・ アラートでは、BI プラットフォームでイベントが発生したときに購読者にアラート通知が送信されます。アラートを参照してください。

### 関連項目

- ・ 19 ページの[オブジェクトの追加](#)
- ・ 31 ページの[一般的なオブジェクトの管理](#)
- ・ 23 ページの[フォルダ](#)
- ・ 26 ページの[カテゴリ](#)
- ・ 79 ページの[スケジュール](#)
- ・ 155 ページの[公開について](#)
- ・ 135 ページの[アラート](#)

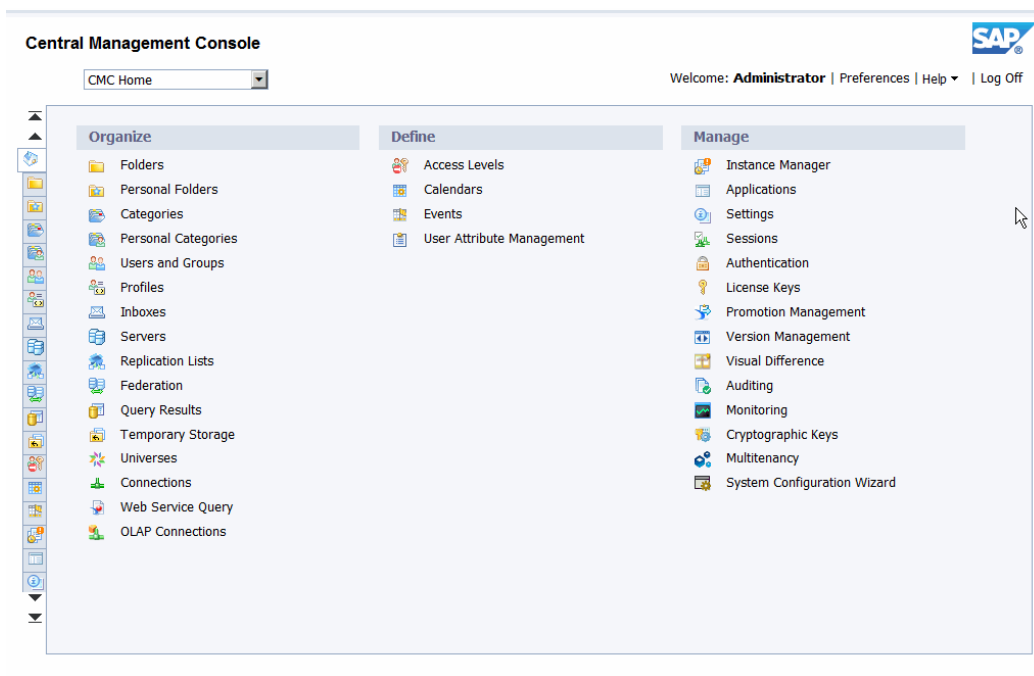


## セントラル管理コンソール (CMC) の使用

### 3.1 セントラル管理コンソールについて

セントラル管理コンソール (CMC) は Web ベースのツールで、ユーザ管理、コンテンツ管理、サーバ管理など日常的な大部分の管理タスクを実行するのに使用できます。

BI プラットフォームの有効なアカウント情報を持っているユーザであれば、だれでも CMC にログインして基本設定を選択できます。Administrators グループに属していないユーザは、タスクのアクセス権を持っていないと管理タスクを実行できません。



CMC にアクセスする方法は 2 つあり、アクセスするコンピュータの名前をブラウザで入力するか、Windows で [プログラム] > [SAP Business Intelligence] > [SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4] > [SAP BusinessObjects BI プラットフォームセントラル管理コンソール] を選択します。

## 3.2 ブラウザから CMC にログインする

- 1 ブラウザで、CMC の URL を入力します。

デフォルトの URL は `http://webserver:8080/BOE/CMC/` です。ただし、デプロイメントによっては、カスタム URL が設定されている場合があります。

webserver には Web サーバマシンの名前を指定します。Web サーバ上のデフォルトの仮想ディレクトリを変更した場合は、その URL を入力する必要があります。必要に応じて、デフォルトのポート番号を、インストール時に指定した番号に変更します。

### ヒント

Windows では、[スタート] > [すべてのプログラム] > [SAP Business Intelligence] > [SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4] > [SAP BusinessObjects BI プラットフォームセントラル管理コンソール] を選択して CMC を起動します。

CMC が Web アプリケーションコンテナサーバ (WACS) にホストされている場合は、[スタート] > [すべてのプログラム] > [SAP Business Intelligence] > [SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4] > [SAP BusinessObjects BI プラットフォーム WACS セントラル管理コンソール] を選択します。

- 2 [システム] ボックスに Central Management Server (CMS) の名前を入力します。
- 3 ユーザ名とパスワードを入力します。

LDAP 認証を使用している場合は、Administrator グループにマップされたアカウントを使用してログインできます。

組織の管理者が初めて CMC にアクセスする場合は、[ユーザ名] として「Administrator」と入力し、インストール中に作成したデフォルトのパスワードを指定します。

- 4 [認証の種類] の一覧で、[Enterprise] を選択します。

Windows AD、LDAP、およびその他の認証方法がリストに表示されます。ただし、これらを使用するには、サードパーティのユーザアカウントとグループが BI プラットフォームにマップされている必要があります。

- 5 [ログイン] をクリックします。

[CMC ホーム] ウィンドウが表示されます。

CMC の使用を終了する場合は、CMC の右上隅にある [ログオフ] をクリックしてログオフし、セッションを終了します。

## 3.3 CMC での移動

次の方法で CMC に移動できます。

- ・ ウィンドウの左側にあるアイコンをクリックするか、[整理]、[定義]、または [管理] のリンクをクリックします。
- ・ ウィンドウの左上隅にある [CMC ホーム] リストのオプションを選択します。



**注**

選択した移動先に多くの子オブジェクトがある場合、ツリービューにすべての子オブジェクトが表示されない可能性があります。このような場合は、ページ区切りのオブジェクトリストを使用して、子オブジェクトを見つけることができます。

### 3.4 CMC の基本設定を設定する

CMC の [基本設定] エリアでは、BI プラットフォームの管理ビューをカスタマイズできます。

- 1 CMC にログインして、CMC の右上隅の [基本設定] をクリックします。  
[設定] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 基本設定オプションを設定します。  
基本設定は、BI ラウンチパッドと同様に機能します。ただし、CMC の基本設定は、CMC と BI ラウンチパッドのオブジェクトの動作に影響します。
- 3 [保存して閉じる] をクリックします。

#### 関連項目

- ・ 17 ページの [CMC 基本設定のオプション](#)

#### 3.4.1 CMC 基本設定のオプション

セントラル管理コンソール (CMC) の [基本設定] ダイアログボックスで [CMC 基本設定] をクリックすると、以下のオプションが表示されます。

CMC 基本設定のオプション	説明
[製品ロケール] リスト	BI プラットフォームのデフォルト言語を選択します。詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームインストールガイド』を参照してください。
[優先表示ロケール] リスト	CMC の日付、時刻、および数値のデフォルトの書式設定オプションを選択します。
[1 ページあたりの最大オブジェクト数] ボックス	CMC で 1 つのウィンドウまたはタブに表示するオブジェクトの最大数を入力します。この値は、表示されるオブジェクトの数を制限するもので、オブジェクトの合計数を制限するものではありません。

CMC 基本設定のオプション	説明
[タイムゾーン] リスト	BI プラットフォームをリモートで管理する場合に、タイムゾーンを選択します。BI プラットフォームは、スケジュールパターンおよびイベントをタイムゾーンと同期します。たとえば、[東部標準時 (米国およびカナダ)] を選択して、サンフランシスコにあるサーバ上で毎日午前 5:00 にレポートを実行するようにスケジュールすると、サーバによって、レポートが太平洋標準時の午前 2:00 に実行されます。
[未保存データをプロンプト] リスト	<p>ユーザがデータを保存せずにダイアログボックスをキャンセルしたり、CMC を閉じようとした場合に、確認のプロンプトを表示するかどうかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [オン] を選択すると、プロンプトが有効になります。</li> <li>・ [オフ] を選択すると、プロンプトが無効になります。</li> <li>・ [デフォルト] を選択すると、プロンプトの動作は、 C:\Program Files (x86)\SAP BusinessObjects\tomcat\webapps\BOE\WEB-INF\config\ の下の custom フォルダまたは default フォルダにある CmcApp.properties ファイルの設定によって決まります。</li> </ul>

### 3.4.2 優先表示ロケール

優先表示ロケール (PVL) では、BI ラUNCHパッドにおける日付、時間、および数値の書式を設定します。また、多言語オブジェクトの場合は PVL でオブジェクトの名前および説明を表示する言語も設定します。オブジェクトに翻訳された名前および説明が複数ある場合、表示言語は以下のようにして決定されます。

- 1 ユーザの PVL に対応する名前および説明が表示されます。

BI プラットフォームではデフォルトのフォールバックロケールが使用されることもありますが、これは通常、ユーザの PVL のバリエーションとなります。たとえば、PVL がフランス語 (カナダ) である場合に、オブジェクトにフランス語 (カナダ) に翻訳された名前および説明がないと、フランス語 (フランス) が使用されます。

- 2 PVL が設定されていない場合、製品のロケールと同じ言語で名前および説明が表示されます。
- 3 上記のオプション 1 または 2 に該当しない場合は、オブジェクトのソース言語で名前および説明が表示されます。

## リポジトリへのオブジェクトの追加

### 4.1 オブジェクトを管理する

BI プラットフォーム内のすべてのドキュメントとファイル（ハイパーリンク、ショートカット、Crystal レポート、および Web Intelligence ドキュメント）は、オブジェクトと呼ばれます。BI プラットフォームではフォルダとカテゴリを使用してオブジェクトを整理します。オブジェクトは 1 つのフォルダに属する必要がありますが、カテゴリに割り当てなくても、複数のカテゴリに割り当ててもかまいません。カテゴリは、パブリック（会社用）カテゴリと個人用カテゴリのどちらでもかまいません。

### 4.2 オブジェクトの追加

Business Intelligence (BI) 環境にオブジェクトを追加し、権限を持つユーザに対してそれらのオブジェクトを使用可能にする必要があります。BI プラットフォームには、次のようなさまざまな種類のオブジェクトを追加できます。

- ・ レポート (SAP Crystal Reports から)
- ・ ドキュメント (Web Intelligence から)
- ・ Flash オブジェクト
- ・ プログラム
- ・ Microsoft Excel、Word、PowerPoint ファイル
- ・ Adobe PDF ファイル
- ・ テキストファイル
- ・ リッチテキスト形式ファイル

オブジェクトを BI プラットフォームに追加するには、CMC で行う方法、または Central Management Server (CMS) にオブジェクトを保存する方法があります。

#### 注

ユーザライセンスによっては、オブジェクトを追加するアクセス権限がない場合もあります。お持ちのライセンスの種類については、システム管理者に問い合わせてください。ライセンスの詳細については、SAP ヘルプポータルにある、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』(<http://help.sap.com>)を参照してください。

## 4.2.1 CMC でオブジェクトを追加する

BI プラットフォームに対する管理権限がある場合、CMC に個別のオブジェクトを追加して、インターネット経由で管理タスクをリモートで実行できます。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 オブジェクトを追加するフォルダを見つけて選択します。
- 3 [管理] > [追加] > [プログラムファイル] または [ローカルドキュメント] を選択して、プログラムオブジェクトまたはその他の種類のオブジェクトを追加します。  
[プログラムファイル] または [新しいローカルドキュメント] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 オブジェクトのプロパティを指定します。  
表示されるプロパティオプションは、追加するオブジェクトの種類によって異なります。
- 5 オブジェクトを 1 つのカテゴリに割り当てるには、リストでカテゴリを選択します。
- 6 [OK] をクリックします。  
ダイアログボックスが閉じ、CMC で最新表示が実行されて、フォルダのオブジェクトおよびその他のコンテンツが表示されます。

オブジェクトを CMC に追加した後に、必要に応じてオブジェクトのプロパティ(タイトル、説明、データベースログオン情報、スケジュール情報、ユーザ権限など)を変更できます。

### 関連項目

- ・ 20 ページの [オブジェクトプロパティのオプション](#)

### 4.2.1.1 オブジェクトプロパティのオプション

オブジェクトの種類	プロパティ	説明
Crystal レポートおよびその他の種類のオブジェクト	ファイル名	追加するオブジェクトの名前を入力し、[参照] をクリックしてオブジェクトを検索します。
	タイトル	オブジェクトの名前を入力します。
	説明	オブジェクトの説明を入力します。
	キーワード	オブジェクトのキーワードを入力します。
Crystal レポートのみ	保存済みデータを保持	レポートの保存済みデータを保持する場合は、このオプションを選択します。
	レポートからの説明を使用する	レポートの概要情報を保持する場合は、このオプションを選択します。
プログラムファイルのみ	既存のプログラムオブジェクトの参照	追加するプログラムオブジェクトの名前を入力し、[参照] をクリックしてオブジェクトを検索します。
	プログラムタイプ	追加するプログラムのタイプを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実行ファイル(バイナリ、バッチ、シェルスクリプト)</li> <li>・ Java</li> <li>・ スクリプト(VBScript、JavaScript)</li> </ul>
その他の種類のオブジェクト	MIME	必要に応じて、オブジェクトの MIME 拡張子を入力します。

## 4.2.2 CMS へのオブジェクトの保存

SAP Crystal Reports for Enterprise、SAP BusinessObjects Web Intelligence などの BI プラットフォームデザイナーコンポーネントがインストールされている場合は、デザイナーから [名前を付けて保存] コマンドを使用して BI プラットフォームにオブジェクトを直接追加することができます。

たとえば、Crystal Reports でレポートを作成した後に、そのレポートを CMS に保存できます。[ファイル] > [名前を付けて保存] を選択して、[名前を付けて保存] ダイアログボックスで [Enterprise] をクリックします。プロンプトが表示されたら CMS にログインし、レポートを保存するフォルダを選択して、[保存] をクリックします。

### 注

SAP BusinessObjects Analysis edition for OLAP ワークスペースを BI プラットフォームに追加することができます。ただし、定期的なスケジュールで実行されるようにワークスペースを設定することはできません。

## オブジェクトの整理

### 5.1 フォルダ

フォルダとは、コンテンツを論理グループに分類できるように他のオブジェクトをグループ化し整理するために使用するオブジェクトです。フォルダレベルでセキュリティを設定できるため、フォルダを使用して情報へのアクセスを制御できます。

組織内にすでに存在する構造（部署、地域、またはデータベーステーブルなど）でフォルダを設定してから、カテゴリを使用して組織の別のシステムを設定することをお勧めします。

BI プラットフォーム内の各オブジェクトは、フォルダ内に置く必要があります。デフォルトでは、フォルダに追加した新しいオブジェクトは、そのフォルダのオブジェクトアクセス権を継承します。

#### 5.1.1 新しいフォルダを作成する

新しい最上位（親）フォルダを作成する前に、[すべてのフォルダ] を表示していることを確認します。

##### ヒント

フォルダの名前、説明、キーワードを編集するには、フォルダを選択し、[管理] > [プロパティ] を選択します。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 フォルダの作成場所に移動します。  
サブフォルダを作成する場合、新しいフォルダを配置するターゲットフォルダを見つけます。
- 3 [管理] > [新規] > [フォルダ] を選択します。
- 4 [フォルダの作成] ダイアログボックスで、新しいフォルダ名を入力し、[OK] をクリックします。

新しいフォルダがフォルダとオブジェクトの一覧に表示されます。

オブジェクトをフォルダに追加したり、フォルダのプロパティを編集したりできます。

##### 関連項目

- ・ 20 ページの[CMC でオブジェクトを追加する](#)
- ・ 38 ページの[オブジェクトのプロパティを変更する](#)

## 5.1.2 フォルダを削除する

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 削除するフォルダを見つけて選択します。

### ヒント

複数のフォルダを同時に削除するには、Ctrl キーまたは Shift キーを押したまま、削除する各フォルダをクリックします。

- 3 [管理] > [削除] を選択します。  
[削除] メッセージボックスが表示されます。
- 4 [OK] をクリックして削除を確定します。

フォルダ、フォルダ内のすべてのサブフォルダ、レポートおよびその他のオブジェクトが BI プラットフォームから削除されます。

## 5.1.3 フォルダのコピー/移動

フォルダをコピーまたは移動すると、そのフォルダ内のオブジェクトもコピーまたは移動されます。BI プラットフォームでは、フォルダのオブジェクト権限は、フォルダをコピーするか移動するかによって異なる方法で扱われます。

フォルダをコピーした場合、コピーされたフォルダは、元のフォルダのオブジェクトアクセス権を保持しません。代わりに、コピーされたフォルダは、新しい親フォルダのオブジェクトアクセス権を引き継ぎます。たとえば、個人用の [営業] フォルダを [パブリック] フォルダにコピーすると、新しい [営業] フォルダは [パブリック] フォルダのオブジェクトアクセス権を持つことになり、[パブリック] フォルダへのオブジェクトアクセス権を持つすべてのユーザーがアクセスできるようになります。

フォルダを移動した場合、そのフォルダに設定されているオブジェクトアクセス権は保持されます。たとえば、個人用の [営業] フォルダをすべてのユーザーがアクセスできるフォルダに移動しても、[営業] フォルダは個人用の設定を保持するため、ほとんどのユーザーはこのフォルダにアクセスできません。

### 5.1.3.1 フォルダをコピー/移動する

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 コピーまたは移動するフォルダを選択します。  
フォルダが最上位のフォルダでない場合は、その親フォルダを探して、親フォルダのコンテンツを選択します。



**ヒント**

複数のフォルダを同時にコピーまたは移動するには、Ctrl キーまたは Shift キーを押したまま、コピーまたは移動する各フォルダをクリックします。

- 3 [整理] > [コピー先]または[整理] > [移動先] を選択します。  
[コピー先] または [移動先] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 コピー先フォルダを選択します。
- 5 [コピー] または、[移動] をクリックします。  
選択したフォルダは、新しい場所へコピーまたは移動されます。

### 5.1.4 フォルダのアクセス権の指定

新しく作成したフォルダのオブジェクトアクセス権を変更することができます。デフォルトでは、フォルダに追加した新しいオブジェクトは、その親フォルダのオブジェクトアクセス権を継承します。アクセス権の詳細については、SAP Help Portal (<http://help.sap.com>) にある『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』のアクセス権の設定に関する説明を参照してください。

### 5.1.5 フォルダレベルでレポートインスタンスを制限する

制限を設定することで、BI プラットフォームのレポートインスタンスを自動的に削除できます。フォルダに対して設定した制限は、そのフォルダ内のすべてのオブジェクトに影響します。フォルダレベルでは、次の制限を設定できます。

- ・ オブジェクト、ユーザ、またはユーザグループごとのインスタンス数
  - ・ ユーザまたはグループのインスタンスが保持される日数
- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
  - 2 制限を設定するフォルダを見つけて選択し、[アクション] > [制限] を選択します。  
[制限] ダイアログボックスが表示されます。
  - 3 [オブジェクトのインスタンスが N 個より多い場合は、超過インスタンスを削除する] チェックボックスをオンにし、フォルダに格納できるオブジェクトあたりの最大インスタンス数 (この数を超過するとインスタンスが削除される) をボックスに入力します。  
デフォルト値は 100 です。
  - 4 [更新] をクリックします。
  - 5 ユーザまたはグループあたりのインスタンス数を制限するには、[超過インスタンスを削除するユーザ/グループ] の隣にある [追加] をクリックします。
  - 6 ユーザまたはグループを選択し、[>] をクリックしてユーザまたはグループを [選択されたユーザ/グループ] リストに追加し、[OK] をクリックします。

- 7 手順6で追加したユーザまたはグループごとに、BIプラットフォームに表示する最大インスタンス数を[ユーザごとのオブジェクトあたりの最大インスタンス数] ボックスに入力します。  
デフォルト値は 100 です。
- 8 ユーザまたはグループあたりのインスタンスの有効期間を制限するには、[N 日後にインスタンスを削除するユーザ/グループ] の隣にある [追加] をクリックします。
- 9 ユーザまたはグループを選択し、[>] をクリックしてユーザまたはグループを [選択されたユーザ/グループ] リストに追加し、[OK] をクリックします。
- 10 手順9で追加したユーザまたはグループごとに、BIプラットフォームからインスタンスが削除されるまでの最大有効日数を [インスタンスの最大保存期間] ボックスに入力します。  
デフォルト値は 100 です。
- 11 [更新] をクリックします。

#### 関連項目

- ・ 126 ページの [インスタンスに制限を設定する](#)

### 5.1.6 個人用フォルダを表示する

フォルダを表示するには、そのフォルダに対する [表示] アクセス権以上が必要です。

BI プラットフォームでは、各ユーザのフォルダがシステム上に作成されます。フォルダは、CMC 内で個人用フォルダとして編成されます。デフォルトでは、Administrator アカウント用と guest アカウント用の個人用フォルダがあります。CMC にログオンして個人用フォルダのリストを表示すると、自分が [表示] アクセス権以上を持っているフォルダのみが表示されます。BI ラウンチパッドでは、これらのフォルダは [お気に入り] フォルダと呼ばれます。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 [個人用フォルダ] をクリックします。

フォルダの一覧が表示されます。各フォルダは、システム上のユーザアカウントに対応します。

## 5.2 カテゴリ

カテゴリを使用してオブジェクトを整理すると、ユーザがオブジェクトをすばやく見つけることができるようになります。カテゴリには、会社用と個人用の 2 つのタイプがあります。

オブジェクトのようにカテゴリにアクセス権を割り当てることができます (つまり、グループやユーザに対してカテゴリへのアクセス権を付与できます)。ただし、カテゴリ内のオブジェクトはそれを格納しているフォルダのアクセス権を継承し、カテゴリのアクセス権は継承しません。

たとえば、コンテンツを部署フォルダに整理し、カテゴリを使用して別のファイリングシステムを作成し、コンテンツを組織内のさまざまなロール（マネージャや VP など）に従って分類できます。このように整理されたモデルを使用すると、部署またはジョブロールに基づいてドキュメントのグループにセキュリティを設定できます。

## 5.2.1 カテゴリの使用

ドキュメントは複数のカテゴリに関連付けることができ、カテゴリ内にサブカテゴリを作成することも可能です。

会社用カテゴリは、管理者、またはカテゴリへのアクセス権がある他のユーザによって作成および管理されます。会社用カテゴリは、表示権限のあるグループおよびユーザにのみ表示されます。

個人用カテゴリは、個人用ドキュメントを整理するために個々のユーザによって作成および管理されます。すべてのオブジェクトをフォルダに格納しておく必要はありますが、カテゴリの割り当ては任意です。オブジェクトは複数のカテゴリに割り当てることができます。個人用カテゴリは、作成者にのみ表示されます。

### 5.2.1.1 新しいカテゴリを作成する

- 1 CMC で、[カテゴリ] エリアを選択します。
- 2 [管理] > [新規] > [カテゴリ] を選択します。  
[カテゴリの作成] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [新しいカテゴリ名の入力] ボックスで、カテゴリの名前を入力します。
- 4 [OK] をクリックします。

カテゴリが BI プラットフォームに追加されます。

カテゴリのプロパティを追加および変更できます。

### 5.2.1.2 カテゴリを削除する

カテゴリを削除すると、カテゴリ内のすべてのサブカテゴリも削除されます。ただし、カテゴリ内のレポートおよびその他のオブジェクトは BI プラットフォームから削除されません。

- 1 CMC で、[カテゴリ] エリアを選択します。
- 2 削除するカテゴリを選択します。  
カテゴリが最上位のカテゴリでない場合は、その親カテゴリを見つけてからサブカテゴリを探します。

#### ヒント

複数のカテゴリを同時に削除するには、Ctrl キーまたは Shift キーを押したまま、削除する各カテゴリをクリックします。

- 3 [管理] > [削除] を選択します。  
[削除] メッセージボックスが表示されます。
- 4 [OK] をクリックして削除を確定します。  
カテゴリが BI プラットフォームから削除されます。

### 5.2.1.3 カテゴリを移動する

カテゴリを移動しても、カテゴリに関連付けられているオブジェクトとそのオブジェクトのアクセス権はそのまま維持されます。

たとえば、南米地域のユーザのみがアクセスできる South American Sales カテゴリと、すべてのユーザがアクセスできる世界中の売上レポートを含む World Sales カテゴリがあるとします。この地域のカテゴリを World Sales カテゴリに移動します。South American Sales カテゴリは、World Sales カテゴリのサブカテゴリになりますが、アクセス権と関連オブジェクトはそのまま維持されます。

- 1 CMC で、[カテゴリ] エリアを選択します。
- 2 移動するカテゴリを選択します。  
カテゴリが最上位のカテゴリでない場合は、その親カテゴリを見つけてからサブカテゴリを探します。

#### ヒント

複数のカテゴリを同時に移動するには、Ctrl キーまたは Shift キーを押したまま、移動する各カテゴリをクリックします。

- 3 [整理] > [移動先] を選択します。

#### ヒント

BI プラットフォームに多数のカテゴリがある場合、[タイトルの検索] ボックスにカテゴリ名を入力するか、[前へ]、[次へ]、または [+] (プラス記号) をクリックしてカテゴリリストを参照します。

[移動先] ダイアログボックスが表示されます。

- 4 移動先のカテゴリを選択して、[移動] をクリックします。  
カテゴリが新しい場所に移動されます。

### 5.2.1.4 オブジェクトをカテゴリに追加する

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 カテゴリに追加するオブジェクトを見つけて選択します。
- 3 [管理] > [カテゴリ] を選択します。  
[カテゴリ] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 オブジェクトを追加するカテゴリを選択します。

- 5 [保存して閉じる] をクリックします。  
オブジェクトがカテゴリに追加されます。

#### 5.2.1.5 カテゴリからオブジェクトを除去または削除する

カテゴリからオブジェクトを除去または削除できます。オブジェクトを除去する場合は、カテゴリから除去されますが、BI プラットフォーム内には残ります。オブジェクトを削除する場合は、カテゴリから除去され、同時に BI プラットフォームからも削除されます。

- 1 CMC で、[カテゴリ] エリアまたは [個人用カテゴリ] エリアを選択します。
- 2 オブジェクトを除去または削除するカテゴリをダブルクリックします。
- 3 除去または削除するオブジェクト (複数可) を選択します。
- 4 次の操作のいずれかを実行します。
  - ・ オブジェクトをカテゴリから除去するが、BI プラットフォームからは削除しない場合は、[アクション] > [カテゴリから削除] の順に選択します。
  - ・ オブジェクトをカテゴリから除去すると同時に BI プラットフォームから削除する場合は、[管理] > [削除] の順に選択します。

[カテゴリから削除] または [削除] ダイアログボックスが表示されます。
- 5 [OK] をクリックして除去または削除を確認します。  
オブジェクトが除去または削除されます。

#### 5.2.1.6 カテゴリのアクセス権の指定


オブジェクトのようにカテゴリにアクセス権を割り当てることができます (つまり、グループやユーザに対してカテゴリへのアクセス権を付与できます)。ただし、カテゴリ内のオブジェクトはそれを格納しているフォルダのアクセス権を継承し、カテゴリのアクセス権は継承しません。アクセス権の設定の詳細については、SAP Help Portal (<http://help.sap.com>) にある、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

#### 5.2.1.7 ユーザの個人用カテゴリを表示する

適切なアクセス権がある場合は、ユーザの個人用カテゴリを表示、編集、および削除することができます。

- 1 CMC で、[カテゴリ] エリアを選択します。
  - 2 表示する個人用カテゴリのユーザアカウントをクリックします。
- ユーザの個人用カテゴリのリストが表示されます。

#### 5.2.1.8 カテゴリに複数のオブジェクトを追加する

- 1 CMC で、[カテゴリ] エリアまたは [個人用カテゴリ] エリアを選択します。
- 2 オブジェクトを追加するカテゴリを見つけて選択します。
- 3 [アクション] > [カテゴリに追加] を選択します。  
[カテゴリに追加] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 [使用できるオブジェクト] で、追加するオブジェクトを見つけて  をクリックし、[選択されたオブジェクト] リストに移動します。
- 5 [OK] をクリックします。  
オブジェクトがカテゴリに追加されます。

## コンテンツオブジェクトの使用


### 6.1 一般的なオブジェクトの管理

BI プラットフォームには、次のようなさまざまな種類のオブジェクトを追加できます。

- ・ SAP Crystal Reports
- ・ Web Intelligence ドキュメント
- ・ プログラム
- ・ Microsoft Excel、Word、PowerPoint ファイル
- ・ Adobe PDF ファイル
- ・ RTF ファイル
- ・ テキストファイル
- ・ ハイパーリンク
- ・ オブジェクトパッケージ
- ・ アクション

追加したオブジェクトは、CMC の [フォルダ] 領域で管理します。

#### 6.1.1 オブジェクトをコピーする

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 コピーするオブジェクトを見つけて選択します。
- 3 [整理] > [コピー先] を選択します。  
[コピー] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 [出力先の選択] エリアで、オブジェクトのコピー先のフォルダを選択し、 をクリックしてフォルダを [出力先] 一覧に移動します。

#### 注

#### ヒント

複数のフォルダを選択するには、Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら各フォルダをクリックします。

- 5 [コピー] をクリックします。  
選択したオブジェクトはコピー先にコピーされます。

## 6.1.2 オブジェクトを移動する

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 移動するオブジェクトを見つけて選択します。
- 3 [整理] > [移動先] を選択します。
- 4 [移動] ダイアログボックスで、オブジェクトの移動先とするフォルダを選択します。

### 注


### ヒント

複数のフォルダを選択するには、Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら各フォルダをクリックします。

- 5 [移動] をクリックします。  
オブジェクトが移動先フォルダに移動されます。

## 6.1.3 オブジェクトショートカットを作成する

ショートカットは、ユーザに、オブジェクトに対するアクセス権を付与し、そのオブジェクトが含まれるフォルダ全体に対するアクセス権は付与しない場合に役立ちます。ショートカットを作成すると、ショートカットが存在するフォルダのアクセス権限を持つユーザは、そのオブジェクトとインスタンスにアクセスできるようになります。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 ショートカットを作成するオブジェクトを見つけて選択します。
- 3 [整理] > [ショートカットの作成] を選択します。  
[ショートカットの作成] ダイアログボックスが開きます。
- 4 [出力先の選択] で、ショートカットを作成するフォルダを選択し、 をクリックしてフォルダを [出力先] 一覧に移動します。

### 注

- 5 [ショートカットの作成] をクリックします。  
オブジェクトへのショートカットが、指定したフォルダに表示されます。

## 6.1.4 オブジェクトを削除する

1つのオブジェクト、複数のオブジェクト、またはフォルダを削除できます。オブジェクトを削除すると、そのオブジェクトのすべての既存のインスタンスとスケジュールされたインスタンスが削除されます。フォルダを削除する



と、そのフォルダ内のすべてのオブジェクトとインスタンスが削除されます。必要に応じて、オブジェクトではなく、オブジェクトインスタンスを削除できます。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 削除するオブジェクトを見つけて選択します。
- 3 [管理] > [削除] を選択します。
- 4 確認のメッセージが表示されたら、[OK] をクリックします。

オブジェクトが BI プラットフォームから削除されます。

#### 関連項目

- ・ 120 ページの [インスタンスの管理](#)

### 6.1.5 1 つまたは複数のオブジェクトを検索する

オブジェクトのタイトルまたは説明内のテキストを検索できます。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。  
[検索] ボックスは、ウィンドウの右上隅にあります。検索の種類は、デフォルトで [タイトルの検索] に設定されています。
- 2 次のように検索条件を指定します。
  - a ファイル名で検索する場合は、[タイトルの検索] をデフォルトのまま保持し、手順 2c に進みます。
  - b ファイル名以外の条件で検索する場合は、検索の種類を変更するために [タイトルの検索] をクリックして、次のオプションのいずれかを選択します。
    - ・ すべてのフィールドの検索: オブジェクトに関連付けられているファイル名、キーワード、および説明を検索する場合
    - ・ タイトルの検索: ファイル名を検索する場合。これが、デフォルトのオプションです。
    - ・ キーワードの検索: オブジェクトに関連付けられているキーワードを検索する場合
    - ・ 説明の検索: オブジェクトに関連付けられている説明を検索する場合
  - c [検索] ボックスに、検索するテキストを入力します。
- 3 [検索] をクリックします。

検索条件に一致した結果のリストが表示されます。

### 6.1.6 新しいハイパーリンクを作成する

- 1 CMC で、[フォルダ] エリアまたは [個人用フォルダ] エリアを選択します。
- 2 ハイパーリンクを作成するフォルダを見つけて選択します。
- 3 [管理] > [新規] > [ハイパーリンク] を選択します。

- 4 [ハイパーリンク] ダイアログボックスに、ハイパーリンクのタイトル、説明、およびキーワードを入力します。
- 5 ナビゲーション一覧で [URL] をクリックします。
- 6 [URL] ボックスに、ハイパーリンクの URL を入力します。
- 7 [OK] をクリックします。

フォルダにハイパーリンクが作成されます。

### 6.1.7 オブジェクトまたはインスタンスを出力先に送信する

[整理] > [送信] を使用して、既存のオブジェクトまたはインスタンスを出力先に送信します。オブジェクトまたはインスタンスのコピーかショートカットのどちらかをほとんどの出力先に送信できます。

#### 注

[送信] オプションは、オブジェクトの実行や新しいインスタンスの作成、またはレポートインスタンスのデータの最新表示には使用できません。

- 1 CMC の [フォルダ] 領域を表示します。
- 2 出力先の場所を選択するために、次の操作のいずれかを実行します。
  - ・ オブジェクトを送信するには、オブジェクトを選択して、[整理] > [送信] を選択して、送信先の場所を選択します。
  - ・ インスタンスを送信するには、オブジェクトを選択して、[アクション] > [履歴] を選択して、[履歴] ダイアログボックスでインスタンスを選択し、[送信] をクリックして、出力先の場所を選択します。

ステータスが [成功] または [失敗] のインスタンスのみを選択します。ステータスが [定期] または [待機] のインスタンスはスケジュールされており、まだデータが格納されていません。

Web Intelligence ドキュメントは、[BI 受信ボックス] または [電子メール] (BI プラットフォームで設定されている出力先) に送信する必要があります。

#### ヒント

複数のオブジェクトを選択するには、Shift キーまたは Ctrl キーを押しながら各オブジェクトをクリックします。

- 3 出力先オプションを設定するために、次の操作のいずれかを実行します。
  - ・ 変更せず、Adaptive Job Server のデフォルト設定を受け入れる。

このオプションは、オブジェクトを SAP StreamWork に送信するために必要です。
  - ・ 次の出力先オプションを定義する。
    - ・ 出力先の場所が [BI 受信ボックス] または [電子メール] の場合は、オブジェクトを受信するユーザおよびグループを選択します。

他の受信者に表示したくない受信者には BCC で送信できます。
    - ・ オブジェクトのコピーまたはそのオブジェクトにリンクするショートカットのどちらを送信するかを選択します。
    - ・ 送信するオブジェクトの名前を入力します。
    - ・ オブジェクトを送信した後にインスタンスをクリーンアップするかどうかを選択します。

- ・ 必要に応じて出力先のオプションを選択します。

たとえば、出力先の場所が[ファイルの保存場所]の場合はディレクトリを選択し、出力先が[FTPの保存場所]の場合はFTP サーバのホスト名と接続ポートを入力します。

4 [送信] をクリックします。

オブジェクトまたはインスタンスが出力先に送信されます。

関連項目

- ・ 36 ページの [オブジェクトタイプ別の出力先](#)

#### 6.1.7.1 出力先の場所

オブジェクトおよびパブリケーションは、以下の出力先にスケジュール、送信、および公開することができます。

出力先の場所	説明
BI 受信ボックス	<p>オブジェクトをユーザの BI ラウンチパッドの BI 受信ボックスに送信する場合に選択します。</p> <p>Web Intelligence ドキュメントは、[BI 受信ボックス] または [電子メール] (BI プラットフォームで設定されている出力先) に送信する必要があります。</p>
電子メール	<p>オブジェクトをユーザの電子メールアドレスに送信する場合に選択します。</p> <p>Web Intelligence ドキュメントは、[BI 受信ボックス] または [電子メール] (BI プラットフォームで設定されている出力先) に送信することができます。</p>
FTP の場所へ	オブジェクトを FTP サーバに送信する場合に選択します。
ファイルの場所	オブジェクトをローカルディスクに送信する場合に選択します。
SAP StreamWork (利用可能な場合)	<p>オブジェクトを SAP StreamWork のコラボレーションのアクティビティに送信する場合に選択します。</p> <p><b>注</b> SAP StreamWork の各種機能は、BI プラットフォームでコラボレーションが設定されて有効化されている場合に使用できます。</p>

### 6.1.7.2 オブジェクトタイプ別の出力先

多くの出力先はほとんどのオブジェクトタイプで使用可能ですが、例外がいくつかあります。受信者がオブジェクトを開くには、BI プラットフォームへのアクセス権を持っていることが必要な場合があります。

#### 注

出力先を使用するには、Adaptive Job Server で出力先が有効になっており、設定されている必要があります。「Job Server で出力先を有効/無効にする」を参照してください。

オブジェクト タイプ	アンマネー ジドディスク	FTP	電子メール(SMTP)		BI 受信ボックス		SAP Stream- Work
			ファイル	リンク	ファイル	リンク	
Crystal レ ポート	○	○	○	○	○	○	○

オブジェクト タイプ	アンマネー ジドディスク	FTP	電子メール(SMTP)		BI 受信ボックス		SAP Stream- Work
			ファイル	リンク	ファイル	リンク	
オブジェクト パッケージ	-	-	-	-	○	○	○
プログラム	○	○	○	○	○	○	○
Web Intelli- gence ドキュ メント	○	○	○	○	○	○	○
SAP Busi- nessObjects Analysis edition for OLAP ワー クスペース	-	-	-	○	○	○	-
Excel ファイ ル	○	○	○	○	○	○	○
Word ファイ ル	○	○	○	○	○	○	○
PDF ファイ ル	○	○	○	○	○	○	○
テキストファ イル	○	○	○	○	○	○	○
RTF ファイ ル	○	○	○	○	○	○	○
PowerPoint ファイル	○	○	○	○	○	○	○

オブジェクト タイプ	アンマネー ジドディスク	FTP	電子メール(SMTP)		BI 受信ボックス		SAP Stream- Work
			ファイル	リンク	ファイル	リンク	
ハイパーリ ンク	-	-	-	○	○	○	-

#### 関連項目

- ・ 106 ページの[Job Server で出力先を有効/無効にする](#)

### 6.1.8 オブジェクトのプロパティを変更する

オブジェクトの名前、キーワード、および説明プロパティを変更できます。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 プロパティを変更するオブジェクトを選択します。
- 3 [管理] > [プロパティ] を選択します。
- 4 [プロパティ] ダイアログボックスで、必要に応じてオブジェクトプロパティを変更します。
- 5 [保存して閉じる] をクリックします。

### 6.1.9 関係

BI プラットフォームでは、オブジェクトはさまざまな方法で互いに関係しています。フォルダはその子フォルダと関係し、接続はそれを使用するユニバースと関係し、レポートやドキュメントはユニバースと関係します。

BI プラットフォーム内のオブジェクトの関係を変更することは、それによってオブジェクトへのリンクが壊れる可能性があるため、難しい場合があります。どのオブジェクト同士が直接関係しているかを知るには、CMC の次の領域で関係クエリを実行することができます。

- ・ フォルダ
- ・ 個人用フォルダ
- ・ カテゴリ
- ・ 個人用カテゴリ
- ・ ユーザとグループ
- ・ プロファイル
- ・ ユニバース

- ・ アクセスレベル
- ・ サーバ
- ・ レプリケーション一覧

関係クエリの実行後、[クエリの結果] ダイアログボックスが開き、クエリの結果が表示されます。[クエリの結果] ダイアログボックスから、その結果オブジェクトに対して基本的なオブジェクト管理タスクを実行できます。

#### 例 関係クエリ

この例では、ある会社のデータベースを別の場所にある新しいデータベースと交換するとします。管理者は、オブジェクトのコンテンツに影響を与えずに、オブジェクトの編集やデータベース接続の削除を行うために、どのオブジェクトが現在の接続に依存しているかを知る必要があります。管理者はある接続について関係クエリを実行し、その接続を使用するユニバースのリストを入手します。これで、すべてのユニバースを更新できます。その後、会社は、接続に依存するすべてのオブジェクトを削除することを決定したとします。この場合、管理者は、最初のクエリ結果によって返された各ユニバースに対して関係クエリを実行して、それらのユニバースを使用しているオブジェクトを特定することができます。

### 6.1.9.1 オブジェクトの関係をチェックする

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 関係クエリを実行するオブジェクトを見つけて選択します。
- 3 [管理] > [ツール] > [関係のチェック] を選択します。

関係クエリの結果が表示されます。

#### ヒント

結果オブジェクトの関係を詳細に確認するには、そのオブジェクトを選択して [管理] > [ツール] > [関係のチェック] を選択します。

#### 注

元のクエリに戻るには、ツリーパネルでそのオブジェクトの名前を選択します。

## 6.2 レポートオブジェクトの管理

レポートオブジェクトの管理には、処理拡張機能の適用、アラート通知の指定、データベース情報の変更、パラメータの更新、フィルタの使用、ハイパーリンクを使ったレポートの処理などが含まれます。この節では、レポートオブジェクトおよびレポートインスタンスについて、それらをセントラル管理コンソール (CMC) で管理する方法について説明します。

#### 注

例外の注記がある場合を除き、この節の説明のほとんどは Web Intelligence ドキュメントオブジェクトにも当てはまります。

## 6.2.1 レポートオブジェクトとレポートインスタンスの概要

レポートオブジェクトは SAP Crystal Reports で作成され、Web Intelligence ドキュメントオブジェクトは BI プラットフォームで作成されます。どちらのタイプのオブジェクトにも、レポート情報（データベースフィールドなど）が含まれるほか、保存データが含まれる場合もあります。

レポートオブジェクトおよび Web Intelligence ドキュメントオブジェクトは、全ユーザまたは特定のユーザグループに属するユーザが使用できるように設定できます。

### スケジュールされたインスタンス

オブジェクトは、CMC、BI ラウンチパッド、またはカスタム Web アプリケーションでスケジュールすることができます。

オブジェクトをスケジュールすると、BI プラットフォームによって、オブジェクトのスケジュールされたインスタンスが作成されます。このインスタンスにはオブジェクトとスケジュールの情報が含まれますが、データは含まれません。スケジュールされたインスタンスは、オブジェクトの [履歴] ウィンドウに表示されます。このインスタンスのステータスは、[定期] または [待機] になります。

レポートオブジェクトは通常、特徴の異なるインスタンスを複数作成できるように設計されています。たとえば、パラメータを持つレポートオブジェクトを実行する場合、1 つの部署のレポートデータを含むインスタンスをスケジュールし、さらに別の部署のデータを含む別のインスタンスをスケジュールすることができます（インスタンスがどちらも同一のレポートオブジェクトから生成された場合でも実行可能です）。

### オブジェクトインスタンス

指定した時刻になると、BI プラットフォームによってオブジェクトが実行されて、データを含むオブジェクトインスタンスが作成されます。インスタンスはオブジェクトの [履歴] ウィンドウに表示され、ステータスは [成功] または [失敗] です。

### オブジェクトのデフォルト設定の変更

オブジェクトに対して行った変更は、そのオブジェクトのデフォルト値には影響しますが、スケジュールされたインスタンスまたはオブジェクトインスタンスには影響しません。次に CMC または BI ラウンチパッドなどのアプリケーションでこのオブジェクトをスケジュールするときには、新しいデフォルト値が表示されます。そのときに、必要に応じてスケジュールされたインスタンスのデフォルト値を変更することができます。

### 注

BI プラットフォームでは、SAP Crystal Reports のバージョン 6 から 2011 で作成したレポートを使用できます。一度 BI プラットフォームに追加したレポートの保存、処理、表示は、バージョン 2011 形式で行われます。ただし、BI プラットフォームで作成したレポートは SAP Crystal Reports for Enterprise 形式のままです。

### 関連項目

- 79 ページの [「スケジュール」](#)



## 6.2.2 レポートの最新表示オプションの設定

### 注

この機能は、Crystal レポートにのみ適用されます。

最新表示オプションでは、BI プラットフォームでレポートを最新表示するときに更新するレポートオブジェクトの設定項目を決定します。

レポートオブジェクトを最新表示すると、BI プラットフォームでは、CMC のレポートオブジェクトと Input File Repository Server の元の .rpt ファイルが比較されます。

- ・ 元のレポートの .rpt ファイルとレポートオブジェクト間でレポート要素が異なる場合、BI プラットフォームは、.rpt ファイルと同じになるようにレポートオブジェクトの要素を削除または追加して、CMC で行った変更を上書きします。
- ・ 元のレポートの .rpt ファイルとレポートオブジェクト間でレポート要素が同じである場合は、最新表示オプションを使用して、元の .rpt ファイル値で更新するレポートオブジェクト要素を決定することができます。

プロンプトが元の .rpt ファイルとレポートオブジェクトの両方にあり、[現在およびデフォルトのパラメータ値] チェックボックスが選択されている場合、BI プラットフォームはレポートオブジェクトのプロンプトのデフォルト値を更新して、CMC で行った変更を上書きします。たとえば、元のレポートの .rpt ファイルにプロンプトがある場合、レポートを最新表示すると、選択しているレポートの最新表示オプションに関係なく、そのプロンプトがレポートオブジェクトに追加されます。

レポートを最新表示したときに、レポート要素に加えた変更を保持するには、該当するチェックボックスをオフに設定します。レポートを最新表示したときに、レポートオブジェクト内のプロンプトの現在の値またはデフォルト値のいずれかを保存するには、[現在およびデフォルトのパラメータ値] チェックボックスをオフにします。レポートオブジェクトのリポジトリオブジェクトを Input File Repository Server の元の .rpt ファイルに対して最新表示しないようにするには、[レポートの最新表示時にオブジェクトリポジトリを使用] チェックボックスをオフにします。

### 6.2.2.1 レポートの最新表示オプションを設定する

この機能は、Crystal レポートにのみ適用されます。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 レポートを選択して、[アクション] > [最新表示オプション] を選択します。
- 3 [最新表示オプション] ダイアログボックスで、ソース .rpt ファイルから最新表示するレポート要素を選択します。
- 4 [更新] をクリックします。

### ヒント

[レポートを最新表示] をクリックして、レポートをすぐに最新表示できます。

## 6.2.3 レポートの表示オプションの設定

### 注

この機能は Web Intelligence ドキュメントには適用されません。

BI プラットフォームのレポート表示オプションを使用して、最適なデータ取得回数で最新情報を求めるニーズと、システム全体のパフォーマンスを適正化するニーズとの間のバランスをとることができます。

データ共有を使用すると、同じレポートオブジェクトにアクセスする複数のユーザが、レポートを表示したり、最新表示したりするときに同じデータを使用することができます。データ共有により、データベースの呼び出しの数を減らすことができます。これにより、同じレポートにアクセスするユーザに対してレポートインスタンスを作成するのに必要な時間を削減し、システムパフォーマンス全体を向上させます。

データ共有オプションはレポート単位またはサーバ単位で設定できます。

- ・ レポート表示に使用するサーバを指定する場合は、サーバ単位のオプションを設定して、レポートのグループに対してデータ共有を標準化し、これらの設定を集中管理します。
- ・ 一部のレポートでデータが共有されないようにする場合は、レポート単位のオプションを設定して、レポートの最新表示時にデータベースアクセスを許可するかどうかをレポートごとに決定することができます。たとえば、レポートごとにデータ共有間隔を設定できます。

データの共有は、すべての組織またはレポートにとって、必ずしも有益であるとは限りません。データ共有の効果を実限に活用するには、一定期間データを再利用させることが必要です。つまり、ユーザによっては、オンデマンドでレポートを表示したり、レポートインスタンスを最新表示するときに、古いデータが表示されることになります。

BI プラットフォームのデフォルトのレポート表示オプションでも、データの最新性と信頼性は確保できます。デフォルトでは、レポートを BI プラットフォームに追加すると、レポートは、レポート共有用にサーバ単位オプションを使用するように設定されます。これにより、ユーザは、レポートを最新表示すると最新の情報が表示され、表示される最も古いデータの経過時間が 0 分であることが保証されます。レポート単位オプションを設定する場合、デフォルトの設定で、データの共有やビューアを最新表示してデータベースから最新データを取得することができ、表示されるデータは 5 分以内のものになります。

### ヒント

レポートデータの共有を無効にすることと、[クライアントに提供する最も古いオンデマンドデータ] オプションを 0 分に設定することは同じではありません。負荷ボリュームが高い場合、BI プラットフォームは同じレポートインスタンスに対して同時に複数の要求を受けることがあります。このような場合、データ共有の間隔を 0 分に設定して、[クライアント間でレポートデータを共有する] オプションを選択すると、BI プラットフォームはユーザのリクエスト間でデータを共有します。複数のユーザにデータを共有させないことが重要な場合は（たとえば、レポートがユーザごとにパーソナライズされたユーザ関数ライブラリ(UFL)を使用している場合）、そのレポートのデータ共有を無効にする必要があります。

### 6.2.3.1 レポートに対してレポート表示オプションを設定する

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 表示オプションを設定するレポートを見つけて選択します。
- 3 [管理] > [デフォルト設定] を選択します。  
[デフォルト設定]ダイアログボックスが表示されます。
- 4 ナビゲーション一覧で [サーバグループの表示] をクリックします。
- 5 [表示データの最新表示] で [レポート独自の表示設定を使用する] を選択して、レポートのオプションを選択します。
- 6 [保存して閉じる] をクリックします。

### 6.2.4 デフォルトの Job Server の指定

レポートオブジェクトの実行や、インスタンスのスケジュール設定と処理のために BI プラットフォームが使用するデフォルトの Job Server を指定することができます。レポートオブジェクトと Web Intelligence ドキュメントでは、ユーザがレポートや Web Intelligence ドキュメントを表示または変更する際に BI プラットフォームが使用するデフォルトのサーバを指定できます。

オブジェクトを特定の Job Server またはサーバグループで処理することで、システムの負荷を分散させることができます。次のいずれかのオプションを使用して、デフォルトの Job Server を指定します。

- ・ BI プラットフォームで利用可能リソースが最も多いサーバを使用する場合は、[最初に見つかった利用可能なサーバを使用する] を選択します。

Central Management Server (CMS) は、各 Job Server の最大負荷の割合をチェックし、最も負荷の低いサーバを表示します。すべての Job Server が同じ負荷の割合を示した場合、CMS はランダムに Job Server を選択します。

- ・ [選択したグループに所属するサーバを優先して使用する] を選択して、リストからサーバグループを選択します。

BI プラットフォームは、選択したサーバグループのサーバでオブジェクトの処理を試みます。選択したグループに使用できるサーバがない場合、オブジェクトは次に利用可能なサーバで処理されます。選択したグループに使用できるサーバがない場合、BI プラットフォームは利用可能な任意のサーバを使用します。

- ・ 選択したサーバグループのサーバのみを使用する場合は、[選択したグループに所属するサーバだけを使用する] を選択します。

グループのサーバが使用できない場合、オブジェクトは処理されません。

オブジェクトのタイプに応じて、BI プラットフォームは次の Job Server を使用して、オブジェクトを処理します。

- ・ Crystal レポートは、Adaptive Job Server、Crystal Reports 2011 Server または Crystal Reports Processing Server (レポートの作成に使用されたデザイナーによる)、および Crystal Reports Cache Server で実行されます。
- ・ Web Intelligence ドキュメントは、Web Intelligence Processing Server で実行されます。

ユーザがグループを選択できるようにするため、サーバグループを作成する必要があります。

サーバが受け付けるジョブの最大数を設定できます。詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

#### 6.2.4.1 オブジェクトの処理にデフォルトのサーバを選択する

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 デフォルトサーバを指定するレポートオブジェクトを選択します。
- 3 [管理] > [デフォルト設定] を選択します。  
[デフォルト設定]ダイアログボックスが表示されます。
- 4 次の操作のいずれかを実行します。
  - ・ レポートオブジェクトをスケジュールするためにデフォルトサーバを指定するには、ナビゲーション一覧で [サーバグループのスケジュール] を選択します。
  - ・ オブジェクト表示時にオブジェクトを処理するためにデフォルトサーバを指定するには、ナビゲーション一覧で、オブジェクトが Crystal レポートの場合は [サーバグループの表示] をクリックし、オブジェクトが Web Intelligence ドキュメントの場合は [Web Intelligence 処理設定] をクリックします。
- 5 [保存して閉じる] をクリックします。

##### 関連項目

- ・ 43 ページの [デフォルトの Job Server の指定](#)

#### 6.2.5 データベース設定を変更する

##### 注

- ・ この機能は Web Intelligence ドキュメントには適用されません。
- ・ データベース設定を変更するレポートオブジェクトを複数選択した場合、同じデータソースに接続しているレポートオブジェクトのみが更新されます。

データベースの種類の選択、デフォルトデータベースログオン情報の設定、レポートオブジェクトとそのインスタンスのデータソースの表示、およびレポートインスタンス表示時の必要に応じたユーザへのログオン名とパスワードの入力要求を行うことができます。

サポートされるデータベースとドライバの詳細については、SAP Service Marketplace でサポートされているプラットフォームドキュメントを参照してください。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 データベース設定を変更するレポートオブジェクトを選択します。
- 3 [管理] > [デフォルト設定] を選択します。  
[デフォルト設定]ダイアログボックスが表示されます。
- 4 ナビゲーション一覧で [データベース設定] をクリックします。
- 5 次の操作のいずれかを実行します。
  - ・ [レポートのオリジナルのデータベースログオン情報を使用する] を選択して、オリジナルのレポートデータベースのユーザ名とパスワードを入力します。
  - ・ [ここで指定するカスタムのデータベースログオン情報を使用する] を選択して、事前定義されたデータベースドライバまたはカスタムデータベースドライバのサーバ名 (ODBC データソースの DSN)、データベース名、ユーザ名、およびパスワードを入力します。データベースのデフォルトのテーブルプレフィックスを変更した場合は、カスタムテーブルプレフィックスを指定します。
- 6 データベースログオンオプションを選択するために、次の操作のいずれかを実行します。
  - ・ ユーザがレポートを最新表示するときにユーザにパスワードを求める場合は、[ユーザにデータベースログオン入力を要求する] を選択します。  
  
ユーザが初めてレポートを最新表示するときに、BI プラットフォームによってメッセージが表示されます。ユーザが再度レポートを最新表示するときは、メッセージは表示されません。このオプションはスケジュールされたインスタンスには影響しません。
  - ・ ユーザのログオンとパスワードを使用してデータベースにログオンする場合は、[SSO コンテキストをデータベースログオンに使用する] を選択します。  
  
エンドツーエンドシングルサインオンまたはデータベースに対するシングルサインオン用に BI プラットフォームを設定する必要があります。詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム Web アプリケーションデプロイメントガイド』を参照してください。
  - ・ レポートを Job Server で実行したときに使用したのと同じデータベースログオン情報を使用する場合は、[レポート実行時と同じデータベースログオン情報を使用する] を選択します。
  - ・ ユーザアカウントに指定されているデータベース認証を使用する場合は、[ユーザのデータベース認証をデータベースログオンに使用する] を選択します。
- 7 [保存して閉じる] をクリックします。

## 6.2.6 Crystal レポートのデフォルトプロンプト値を変更する

### 注

この機能は、Crystal レポートにのみ適用されます。

既定値を含むパラメータフィールドを使用すると、ユーザは BI プラットフォームに表示するデータを表示および指定できます。レポートにパラメータが含まれる場合は、各パラメータのデフォルト値を設定できます。デフォルト値は、レポートインスタンス生成時に使用されます。

BI ランチパッドなどの BI プラットフォームアプリケーションを使用すると、ユーザはデフォルト値を使用してレポートを開くか、別の値を選択できます。デフォルト値を指定しなかった場合、ユーザはレポートをスケジュールする際に値の入力を求められます。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 デフォルトのプロンプト値を更新するレポートオブジェクトを選択します。
- 3 [管理] > [デフォルト設定] を選択します。  
[デフォルト設定]ダイアログボックスが表示されます。
- 4 ナビゲーション一覧で [プロンプト] をクリックします。  
このオプションは、レポートオブジェクトにパラメータが含まれる場合にのみ利用できます。パラメータが含まれない場合は、このオプションは利用できないため、この手順をスキップします。
- 5 [デフォルト値] 列で、パラメータのデフォルト値を入力するか選択します。  
デフォルト値を変更するためのオプションが表示されます。パラメータ値のタイプに応じて、ボックスに値を入力するか、リストで値を選択することができます。
- 6 [値のクリア] ボタンをクリックして、パラメータに設定されている現在の値をクリアします。
- 7 BI プラットフォームアプリケーションでレポートインスタンスを表示する前にユーザにプロンプトを表示するには、[表示時にプロンプトを表示] チェックボックスをオンにします。
- 8 [保存して閉じる] をクリックします。

## 6.2.7 Web Intelligence ドキュメントのプロンプトを更新する

### 注

この機能は、Web Intelligence ドキュメントにのみ適用されます。

既定値を含むプロンプトフィールドを使用すると、表示するデータを指定できます。レポートにパラメータが含まれる場合は、各パラメータのデフォルトのプロンプト値を設定できます。デフォルト値は、レポートインスタンス生成時に使用されます。

BI ランチパッドなどの BI プラットフォームアプリケーションでは、ユーザはあらかじめ設定されたデフォルト値を使用するか、別の値を選択して、レポートを使用できます。デフォルト値を指定しなかった場合、ユーザはレポートをスケジュールする際に値の入力を求められます。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 プロンプトを更新する Web Intelligence ドキュメントを選択します。
- 3 [管理] > [デフォルト設定] を選択します。  
[デフォルト設定]ダイアログボックスが表示されます。
- 4 ナビゲーション一覧で [プロンプト] をクリックします。  
このオプションは、Web Intelligence ドキュメントオブジェクトにプロンプトが含まれる場合にのみ表示されます。プロンプトが含まれない場合は、このオプションは利用できません。
- 5 [変更] をクリックします。
- 6 プロンプトを選択して、プロンプト値を入力します。

**ヒント**

使用可能な値が表示されていない場合は、[値の最新表示] ボタンをクリックします。

- 7 変更するプロンプト値それぞれについて、手順 5 と 6 を繰り返します。
- 8 [適用]をクリックします。
- 9 [保存して閉じる]をクリックします。

**関連項目**

- ・ 45 ページの[Crystal レポートのデフォルトプロンプト値を変更する](#)

## 6.2.8 レポートへのフィルタ適用

レポートのデフォルトの選択式を設定できます。選択式は、必要な情報のみが表示されるよう結果を絞り込むという点で、[パラメータ] フィールドに似ています。ただし、ユーザは、レポートを表示または最新表示するときに選択式の値の入力を求められることはありません。ユーザは、BI ラウンチパッドなどの Web ベースのクライアントアプリケーションでレポートをスケジュールするときに、レポートに適用する選択式を修正することもできます。デフォルトで、Web ベースのクライアントアプリケーションは、CMC で定義されている式を使用します。選択式の詳細については、『SAP Crystal Reports for Enterprise ユーザガイド』を参照してください。

処理拡張機能を作成している場合は、選択式の変更に加えて、レポートに適用する拡張機能を選択できます。処理拡張機能と共にフィルタを使用する場合は、処理拡張機能で処理されたデータのサブセットが返されます。選択式と処理拡張機能は、レポートに適用するフィルタとして機能します。

**注**

選択式と処理拡張機能は、Web Intelligence ドキュメント、.rptr 形式の SAP Crystal レポート、または SAP Crystal Reports for Enterprise で作成したレポートには適用されません。

### 6.2.8.1 フィルタを使用する

**注**

この機能は、Web Intelligence ドキュメント、.rptr 形式の SAP Crystal レポート、または SAP Crystal Reports for Enterprise で作成したレポートには適用されません。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 フィルタを追加するレポートオブジェクトを選択します。
- 3 [管理] > [デフォルト設定] を選択します。  
[デフォルト設定]ダイアログボックスが表示されます。
- 4 ナビゲーション一覧で [フィルタ] をクリックします。
- 5 選択式を更新または新しく追加するために、次の操作のいずれかを実行します。



- ・ [レコードの選択] ボックスで、レポートのスケジュール時に使用するレコード数を制限する1つまたは複数のレコード選択式を作成または編集する。
- ・ [グループの選択] ボックスで、レポートのスケジュール時に使用するグループ数を制限する1つまたは複数のグループ選択式を作成または編集する。

6 [保存して閉じる] をクリックします。

## 6.2.9 プリンタとページレイアウトオプションの設定

### 注

この機能は Web Intelligence ドキュメントには適用されません。

オプションで、レポートのスケジュール時またはレポートを実行するたびに、Crystal レポートインスタンスを印刷できます。レポートインスタンスは、常に Crystal Reports 形式で印刷されます。

### ページレイアウトの選択

レポートインスタンスをいかなる形式で表示、またはスケジュールする場合でも、ページの向き、ページサイズなど、ページレイアウト条件を最初に指定することができます。レポートインスタンスのページレイアウトは、レポート全体の表示スタイルを決定し、インスタンスの印刷方法に影響します。レポート全体の表示スタイルは、レポートを表示するデバイスのプロパティ(フォントメトリクス、ビューアやプリンタのその他レイアウト設定)によっても影響されます。

### プリンタの選択

プリンタを選択するには、Crystal Reports Job Server が、プリンタへのアクセス権を持つアカウントによって実行されている必要があります。

レポートインスタンスは、Crystal Reports Job Server のデフォルトプリンタまたは別のプリンタで、通常の印刷オプションを選択して印刷することができます。

### 6.2.9.1 プリンタを選択する

### 注

この機能は Web Intelligence ドキュメントには適用されません。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 プリンタを割り当てるレポートオブジェクトを選択します。
- 3 [管理] > [デフォルト設定] を選択します。  
[デフォルト設定] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 ナビゲーション一覧で [印刷設定] をクリックします。
- 5 [印刷設定] で、[スケジュール時に Crystal レポートを印刷する] チェックボックスをオンにします。



Crystal レポートは、SAP Crystal Reports 形式でプリンタに送信されます。この形式は、レポートをスケジュールしたときに選択したページレイアウトに影響を与えません。

追加オプションが表示されます。

- 6 [部数] ボックスで、印刷する部数を入力します。
- 7 [ページ範囲] で、[すべて] を選択してレポートのすべてのページを印刷するか、[ページ] を選択してボックスに印刷する最初のページと最後のページを入力します。
- 8 [部単位で印刷するオプションを設定] リストで、次の操作のいずれかを実行します。
  - ・ レポートを部単位で印刷する場合は [部単位で印刷] を選択します。
  - ・ レポートを部単位で印刷しない場合は [ページ単位で印刷] を選択します。
  - ・ プリンタのデフォルトの部単位印刷設定を使用する場合は [プリンタのデフォルト値を使用] を選択します。
- 9 [ページの拡大縮小] リストで、次の操作のいずれかを実行します。
  - ・ 印刷するページに合わせてレポートページを拡大する場合は [拡大して合わせる] を選択します。
  - ・ 印刷するページに合わせてレポートページを縮小する場合は [縮小のみで合わせる] を選択します。
  - ・ レポートの縮小拡大をしない場合は [縮小拡大しない] を選択します。
- 10 印刷するページでレポートを中央揃えにする場合は [ページの中央揃え] チェックボックスをオンにします。
- 11 横方向のページを印刷する 1 ページに合わせて合わせる場合は [横方向のページを 1 ページに合わせて合わせる] チェックボックスをオンにします。
- 12 [ページレイアウトの指定] で、次の操作のいずれかを実行します。
  - ・ Crystal Reports Job Server のデフォルトのプリンタに印刷する場合は、[通常使用するプリンタ] を選択します。
  - ・ [プリンタの指定] を選択して、ボックスにプリンタのパスと名前を入力します。  
 Job Server が Windows にある場合は、「¥¥printserver¥¥printername」と入力します。printserver はプリンタサーバの名前、printername はプリンタの名前です。  
  
 Job Server が Unix にある場合は、Unix プリンタが表示されている (非表示になっていない) ことを確認して、lp -d printername などの通常使用している印刷コマンドを入力します。
- 13 [保存して閉じる] をクリックします。

### 6.2.9.2 ページレイアウトオプションを選択する

#### 注

この機能は Web Intelligence ドキュメントには適用されません。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 ページレイアウトを設定するレポートオブジェクトを選択します。
- 3 [管理] > [デフォルト設定] を選択します。  
[デフォルト設定] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 ナビゲーション一覧で [印刷設定] をクリックします。

- 5 デフォルトの印刷モードを選択するために、[印刷設定] で次の操作のいずれかを実行します。
  - ・ Web ビューアからレポートを印刷するときに PDF 印刷設定を使用する場合は、[常に PDF に印刷する (プレビュー)] を選択します。
  - ・ CMC の基本設定で定義されている Crystal レポートのデフォルトの印刷設定を使用する場合は、[Crystal Reports の基本設定に従う] を選択します。
- 6 [ページレイアウトの指定] の [レイアウトの設定] リストで、次の操作のいずれかを実行します。
  - ・ Crystal Reports で定義されているページレイアウトを使用する場合は、[レポートファイルのデフォルト] を選択します。
  - ・ プリンタのデフォルトのページレイアウトを使用する場合は [指定のプリンタ設定] を選択して、Crystal Reports Job Server のデフォルトのプリンタか別のプリンタを選択します。

スケジュールされたレポートインスタンスは、[スケジュール時の印刷] で指定されたプリンタのみに印刷できます。つまり、1 つのプリンタのデフォルトのページレイアウトを使用するようにレポートを設定した後で、別のプリンタに印刷することはできません。

  - ・ すべてのページレイアウト設定をカスタマイズする場合は、[カスタム設定] を選択して、ページの方向と用紙サイズを選択します。
- 7 [保存して閉じる] をクリックします。

#### 関連項目

- ・ 48 ページの [プリンタとページレイアウトオプションの設定](#)

## 6.2.10 処理拡張機能

### 注

この機能は、Web Intelligence ドキュメント、.rptr 形式の Crystal レポート、または SAP Crystal Reports for Enterprise で作成したレポートには適用されません。

処理拡張機能は、動的にロードされるコードのライブラリであり、特定の表示またはスケジュールリクエストに対して、BI プラットフォームで処理される前にビジネスロジックを適用します。カスタマイズされた処理拡張機能を使用して、レポート環境のセキュリティを向上させることができます。

処理拡張機能により、開発者は、BI プラットフォーム管理 SDK で提供されるハンドルを使用して、レポートが処理される前に、表示リクエストおよびスケジュールリクエストを受信して、これらのリクエストに選択式を追加することができます。SDK には、開発者が処理拡張機能の作成に使用できる API が用意されています。この API の完全な情報は文書化されています。詳細については、製品メディアに収録されている開発者ドキュメントを参照してください。

#### 例 行レベルのセキュリティを実行するレポート処理拡張機能

この種類のセキュリティは、1 つまたは複数のデータベーステーブル内の行ごとのデータアクセスを制限します。開発者は、レポートの表示リクエストまたはスケジュールリクエストが Adaptive Job Server、Crystal Reports Processing Server または Report Application Server によって処理される前に、これらを受信する、動的にロー

ドされるライブラリを作成します。開発者のコードで処理ジョブを所有しているユーザが特定され、サードパーティシステムでユーザのデータアクセス権が検索されます。次に、データベースから返されるデータを制限するために、レコード選択式が生成されて、レポートに追加されます。この例では、処理拡張機能によって、カスタマイズされた行レベルのセキュリティを BI プラットフォームに追加します。

#### 処理拡張機能のレポートへの適用

処理拡張機能をレポートオブジェクトに適用するには、CMC に処理拡張機能を登録する必要があります。レポートオブジェクトには、複数の処理拡張機能を適用することができます。BI プラットフォームサーバコンポーネントは、実行時に処理拡張機能を動的にロードします。

Windows では、動的にロードされるライブラリをダイナミックリンクライブラリ (.dll) と呼びます。Unix では通常、動的にロードされるライブラリを共有ライブラリ (.so) と呼びます。処理拡張機能名には、ファイル拡張子が必要ですが、バックスラッシュ (\) またはスラッシュ (/) を含めることはできません。


### 6.2.10.1 レポートに処理拡張機能を適用する

処理拡張機能をレポートオブジェクトに適用するには、CMC に処理拡張機能を登録する必要があります。

#### 注

この機能は、Web Intelligence ドキュメント、.rptr 形式の Crystal レポート、または SAP Crystal Reports for Enterprise で作成したレポートには適用されません。

レポートオブジェクトには、複数の処理拡張機能を適用することができます。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 処理拡張機能を適用するレポートオブジェクトを選択します。
- 3 [管理] > [デフォルト設定] を選択します。  
[デフォルト設定]ダイアログボックスが表示されます。
- 4 ナビゲーション一覧で [拡張機能] をクリックします。
- 5 [利用可能な処理拡張機能] リストで処理拡張機能を選択し、 をクリックしてその機能を [これらの処理拡張機能を使用する (表示順)] リストに移動します。  
[利用可能な処理拡張機能] リストには、登録済みの処理拡張機能のみが含まれます。
- 6 [上へ移動] ボタンと [下へ移動] ボタンを使用して、処理拡張機能を使用する順序を設定します。
- 7 [保存して閉じる] をクリックします。  
処理拡張機能が、レポートオブジェクトに割り当てられます。

### 6.2.11 ハイパーリンクを使用したレポートでの作業

**注**

この機能は、Web Intelligence ドキュメント、または SAP Crystal Reports for Enterprise で作成したレポートには適用されません。

SAP Crystal Reports では、ハイパーリンクを使用してレポートオブジェクト間を移動することができます。たとえば、レポート内のレポートパーツ、別のレポートオブジェクトやその中のパーツ、またはレポートやレポートパーツの特定のインスタンスに移動できます。BI プラットフォームには、Crystal レポート間ナビゲーションのためのスクリプトベースの DHTML ビューア（ゼロクライアント、サーバ側）が含まれています。あるレポートオブジェクトから別のオブジェクトへ直接リンクすることによって、必要なデータコンテキストが自動的に渡され、オブジェクトに移動したときに適切なデータが表示されます。

まず、SAP Crystal Reports 内のレポート間でハイパーリンクを追加する際には、1 つのファイルから別のファイルへの直接のリンクを作成します。ただし、リンクが設定されたレポートファイルを同時に同じオブジェクトパッケージに追加すると、管理レポートオブジェクトを指すようにリンクが更新されます。各リンクは、ファイルパスによってではなく、Enterprise ID によって適切なレポートを参照するように変更されます。変更されたリンクは、オブジェクトパッケージ内で相対的になります。

オブジェクトパッケージをスケジュールすると、BI プラットフォームはレポートを処理し、各レポートインスタンスのハイパーリンクを再度変更します。オブジェクトパッケージの特定のインスタンスでは、レポートオブジェクト間のハイパーリンクがレポートインスタンス間のハイパーリンクに変換されます。

ハイパーリンクを使用したレポートを表示するには、リンク元レポートとリンク先レポートの両方を BI プラットフォームに追加する必要があります。リンク元レポートとは、リンク先レポートへのハイパーリンクのあるレポートのことです。

レポートオブジェクト間でハイパーリンクを作成する方法については、SAP Crystal Reports ヘルプを参照してください。

**関連項目**

- 120 ページの[オブジェクトパッケージによるオブジェクトのスケジュール](#)

### 6.2.11.1 既存のハイパーリンクを使用したレポートの追加

**注**

この機能は Web Intelligence ドキュメントには適用されません。

ハイパーリンクを使用したレポートを作成する際のベストプラクティスは、個々のレポートを公開してから、それらのレポート間でハイパーリンクを作成する方法です。

SAP Crystal Reports 2011 designer のレポートアップロードウィザードを使用して、リンクしたレポートを同じオブジェクトパッケージに追加します。このような方法でレポートを公開すると、ハイパーリンクは相対リンクに変換されます。

**注**

ハイパーリンクを使用したレポートを、同時に同じオブジェクトパッケージに追加するのではなく、個別にリポジトリに追加すると、レポート間のハイパーリンクはすべて切断されます。SAP Crystal Reports を使用してリンクを

再設定し、レポートを BI プラットフォームに保存する必要があります。詳細については、SAP Crystal Reports ヘルプを参照してください。

#### 関連項目

- 53 ページの[リポジトリにレポートを追加して、そのハイパーリンクを作成する](#)

### 6.2.11.2 ハイパーリンクを使用したレポートの表示

#### 注

この機能は、Web Intelligence ドキュメント、または SAP Crystal Reports for Enterprise で作成したレポートには適用されません。

BI プラットフォームでハイパーリンクを使用したレポート間のナビゲーションが行えるのは、BI ラウンチパッド内の DHTML やアドバンスド DHTML など、スクリプトベースのビューアを使用した場合だけです。CMC で表示形式を変更するには、ウィンドウの右上隅にある [基本設定] をクリックして、優先表示ロケール (PVL) を選択します。優先表示ロケールの変更の詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームユーザガイド』を参照してください。

パラメータ情報は、リンク元レポートからリンク先レポートに転送されません。そのため、リンク元レポート内のハイパーリンクをクリックしてリンク先レポートを表示すると、リンク先レポートに必要なパラメータを入力するように求められます。

#### セキュリティ上の考慮事項

ハイパーリンクを使用したレポートを BI プラットフォームで表示するには、BI プラットフォームとデータベースレベルの両方のアクセス権が必要です。

BI プラットフォームで、リンク元レポートのハイパーリンクを使用してリンク先レポートを表示するには、リンク先レポートに対する表示権限が必要です。ハイパーリンクがレポートオブジェクトを指す場合、レポートオブジェクトのデータをソースに対し最新表示するには、[オンデマンド表示] アクセス権が必要です。

データベースのログオン情報は、ハイパーリンクを使用したレポート間で引き継がれます。リンク元レポートを表示するために入力した認証情報がリンク先レポートで有効でない場合は、リンク先レポートに有効なデータベースログオン認証情報を入力するように求められます。

### 6.2.11.3 リポジトリにレポートを追加して、そのハイパーリンクを作成する

#### 注

この機能は、Web Intelligence ドキュメント、または Crystal Reports for Enterprise で作成したレポートには適用されません。

レポート間のハイパーリンクが切れないようにするために、最初にレポートを追加してからハイパーリンクを作成します。SAP Crystal Reports でのタスクの詳細については、SAP Crystal Reports ヘルプを参照してください。

- 1 Crystal Reports でハイパーリンクを設定せずにレポートを作成します。
- 2 レポートを BI プラットフォームに追加します。
- 3 Crystal Reports を使用して BI プラットフォームにログインします。
- 4 ホームレポートと出力先レポートの間にハイパーリンクを作成します。

Crystal Reports で自動的に、レポート間に相対リンクを確立するか絶対リンクを確立するかが決定されます。BI プラットフォームでは、相対リンクは同じオブジェクトパッケージ内のレポートに割り当てられ、絶対リンクは個別のレポートオブジェクトまたはインスタンスに割り当てられます。

## 6.2.12 Crystal レポートの最初のページにサムネイル画像を表示する

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 最初のページにサムネイル画像を表示するレポートを見つけて選択します。
- 3 [管理] > [デフォルト設定] を選択します。  
[デフォルト設定] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 ナビゲーション一覧で [サムネイル] をクリックします。
- 5 [レポートのサムネイルを表示] チェックボックスをオンにします。
- 6 [保存して閉じる] をクリックします。

## 6.2.13 Crystal レポートにアラートを表示する

BI プラットフォームでは、アラートのトリガとなるレポートインスタンスに関する情報を記録します。SAP Crystal Reports で作成されたレポートのアラートを表示できます。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 表示する Crystal レポートが含まれるフォルダまたはカテゴリを見つけて、オブジェクトを選択します。
- 3 [その他のアクション] > [アラート] を選択します。

[アラート] ダイアログボックスには、アラートを生成したインスタンスが表示されます。

図 6-1: アラートトリガが表示されている [アラート] ダイアログボックス (英語の例)



タイトル	説明	更新時間	前のアイテム
Sale Revenue		2010/07/15 13:14	Sales: Sales are greater than 5,000,00
Sale Revenue		2010/07/15 13:15	Sales: Sales are greater than 5,000,00

- 4 タイトルをダブルクリックしてレポートインスタンスを開きます。

## 6.2.14 Web Intelligence ドキュメントのユニバースを表示する

ユニバースとは、データベースで利用できる情報の表現です。ユニバース内のオブジェクトを使用して、Web Intelligence ドキュメントへのクエリを作成します。CMC では、Web Intelligence ドキュメントが使用するユニバースを表示できます。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 ユニバースを表示する Web Intelligence ドキュメントオブジェクトを選択します。
- 3 [管理] > [デフォルト設定] を選択します。  
[デフォルト設定] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 ナビゲーション一覧で、[レポートユニバース] をクリックします。  
ドキュメントで使用されているユニバースの一覧が表示されます。

## 6.3 統合環境でのレポートの操作

この節では、SAP NetWeaver Business Warehouse (BW) および BI プラットフォームでのレポートの操作について説明します。

### 注

この節の情報は、SAP Crystal Reports for Enterprise で作成されたレポートには適用されません。

### 6.3.1 BW から BI プラットフォームへのレポートの追加

レポートを SAP NetWeaver Business Warehouse (BW) から BI プラットフォームに追加するには、以下の方法があります。

- ・ BW クエリからレポートを作成した直後に、そのレポートを BI プラットフォームに追加する
- ・ BW から BI プラットフォームにレポートをまとめて追加する

Crystal Reports がマシンにインストールされている場合は、BW クエリに基づいてレポートをデザインしてから、レポートの BW への保存と、Crystal Reports から BI プラットフォームへの追加を同時に実行することができます。この機能を有効にするには、Crystal Reports で、[SAP] > [設定] を選択して、[SAP BusinessObjects Enterprise に自動的に公開する] を選択します。



### 6.3.1.1 BI プラットフォームへの Crystal レポートの追加

次の方法で Crystal レポートを BI プラットフォームに追加できます。

- ・ レポートをまとめて BI プラットフォームに追加する。この方法は、すでに多数のレポートを SAP NetWeaver Business Warehouse (BW) に追加している場合に使用します。
- ・ SAP Crystal Reports 2011 または BI プラットフォームのセントラル管理コンソール (CMC) のレポートアップロードウィザードを使用する。

### 6.3.1.2 BW からレポートをまとめて追加

多数の Crystal レポートを BI プラットフォームに追加するには、コンテンツ管理ワークベンチを使用できます。コンテンツ管理ワークベンチでの公開の詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

## 6.3.2 開発コンテンツを BW の本稼動システムに移行する

BI プラットフォームが SAP NetWeaver Business Warehouse (BW) 開発環境にデプロイされている場合は、BW 本稼働環境での使用向けに設定されているレポートコンテンツを BI プラットフォームにインポートできます。次は、コンテンツをインポートする際の留意点です。

- ・ BW は Crystal レポート (.rpt ファイル) をネイティブオブジェクトとして扱います。Crystal レポートが BW 開発システムのリポジトリに格納されている場合、その BW コンテンツを転送して、BI プラットフォームにレポートをまとめて追加できます。このプロセスでは、NetWeaver BW レポートパブリッシャによって、各レポートのデータベース情報が確実に更新されます。BW システム間でのコンテンツの転送の詳細情報を確認する場合は、SAP Help Portal ([help.sap.com](http://help.sap.com)) で「SAP Library」を検索してください。
- ・ BW 開発システムのリポジトリから一部または全部の Crystal レポートを削除している場合は、ライフサイクルマネジメントコンソールを使用して、ある BI プラットフォームインストールから別の BI プラットフォームインストールへレポートオブジェクトをインポートできます。ライフサイクルマネジメントコンソールを使用するときは、インポートする各レポートファイルに正しいデータベース情報を設定する必要があります。
- ・ 移行するレポートファイル数が少ない場合は、CMC で各レポートのデータベース情報を簡単に変更できます ([フォルダ] 領域でレポートを探し、[アクション] > [データベース設定] を選択します)。

コンテンツを移行したら、コンテンツ管理ワークベンチを使用してレポートの管理タスクを行います。レポート管理タスクには、BI プラットフォームと BW の間でのレポートに関する情報の同期化 (ステータスの更新)、不要な



レポートの削除、および前のバージョンの BI プラットフォームから移行されたレポートの更新 (ポスト移行) があります。

### 6.3.3 レポートの表示

Crystal レポートは、BI プラットフォームと SAP NetWeaver Business Warehouse (BW) の統合方法に応じて、多くのアプリケーションで表示できます。例:

- ・ SAP 認証情報を使用して BI ラウンチパッドにログオンし、レポートを表示できます。
- ・ SAP Easy Access の Web ブラウザで、レポートを開くことができます。

#### 6.3.3.1 BI 起動パッドでレポートを表示する

- 1 Web ブラウザで、BI 起動パッドの URL「`http://webserver:portnumber/BOE/BI`」を入力します。  
webserver を Web サーバの名称に、portnumber を BI プラットフォームのポート番号に置き換えます。

##### ヒント

BI プラットフォームがインストールされている場合は、[スタート] > [プログラム] > [SAP Business Intelligence] > [SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4] > [SAP BusinessObjects BI プラットフォーム Java BI ラウンチパッド] を選択します。

[BI 起動パッドへのログオン] ダイアログボックスが表示されます。


- 2 [認証] 一覧で、[SAP] チェックボックスを選択します。
- 3 [SAP システム ID] ボックスに、ご使用の SAP システムの 3 文字の ID (SID) を入力します。
- 4 [SAP クライアント] ボックスに、3 桁の SAP クライアント番号を入力します。
- 5 [ユーザ名] ボックスと [パスワード] ボックスに、SAP ログオン認証情報を入力します。
- 6 [ログオン] をクリックします。  
これで、BI 起動パッドにログオンされます。
- 7 [マイグループ] フォルダをクリックすると、SAP ロールで保存され、BI プラットフォームに公開されているすべてのオブジェクトに簡単にアクセスできます。  
BI ラウンチパッドの使用方法の詳細については、BI ラウンチパッドヘルプを参照してください。

#### 6.3.3.2 公開されたレポートを SAP Easy Access で表示する

- 1 SAP Easy Access にログオンします。

- 2 ロールを参照して、SAP NetWeaver Business Warehouse (BW) に保存されているレポートを探します。

#### ヒント

BW で Crystal レポートアイコン (  ) を探します。

- 3 レポートをダブルクリックします。

レポートが Web ブラウザに表示されます。SAP Web アプリケーションサーバや BI プラットフォームへのログインを促すメッセージが表示された場合は、通常の認証情報を入力します。

### 6.3.4 BW クエリから生成されたレポートのパーソナライゼーション

BI プラットフォームでは、SAP NetWeaver Business Warehouse (BW) クエリから生成されたレポートのパーソナライズ変数をサポートしています。BW クエリに基づくレポートには、返されるデータを制限または指定するためにクエリによって使用される値を含む変数を含めることができます。通常、レポートを実行する際には値を入力するか、事前定義された値の一覧から値を選択します。

SAP Business Explorer (BEx) のパーソナライゼーション機能を利用すると、変数の値を入力し、それをユーザ固有のデフォルト値として保存することができます。レポートを実行すると、変数値に基づいてデータが生成されます。同じレポートを再度実行する場合は、保存したデフォルト値を使用できます。

#### 注

パーソナライズ値はユーザ固有です。パーソナライズ値は自分用にとのみ設定でき、他のユーザに対しては設定できません。各ユーザは、変数の既定値の代わりにパーソナライズ値を設定することができます。

パーソナライゼーションに関する詳細については、BW システムのマニュアルを参照してください。

#### 6.3.4.1 パラメータ

BI ラUNCHパッドでは、レポート変数をパラメータと呼びます。レポートを表示またはスケジュールするには、ダイナミックピックリストから各パラメータの値を選択する必要があります。

#### 注

パラメータに使用できる値は、SAP 環境で各変数に割り当てられており、SAP 内のアクセス権に基づいてフィルタリングされます。

[プロンプト値を入力してください] ダイアログボックスでは、次のタスクを実行できます。

- ・ デフォルトのパラメータ値を使用して、レポートを実行する
- ・ ダイナミックピックリストでパラメータ値を選択し、レポートを実行する
- ・ 各パラメータ値を手動で入力し、レポートを実行する
- ・ 各パラメータ値をパーソナライズし、レポートを実行する

- すべてのパラメータに NULL 値を使用して、レポートを実行する

**注**

一部のオプションは、そのレポートの基になる SAP NetWeaver Business Warehouse (BW) クエリ内または BI プラットフォーム内で有効になっている場合にのみ利用できます。

#### 6.3.4.1.1 デフォルトのパラメータ値を使用してレポートを表示する

レポートのパラメータのデフォルト値は、SAP NetWeaver Business Warehouse (BW) クエリを作成するときに、SAP 環境に設定されます。BI プラットフォームのレポートは BW クエリに基づくため、クエリ変数のデフォルト値が自動的にレポートパラメータのデフォルト値になります。

- 1 BI ラUNCHパッドにログオンします。
- 2 デフォルトのパラメータ値を表示するレポートオブジェクトをダブルクリックします。  
[プロンプト値の入力] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [OK] をクリックします。  
レポートが Crystal レポートビューアに表示されます。このレポートには、パラメータに割り当てられているデフォルト値に基づくデータが表示されます。

#### 6.3.4.1.2 ダイナミックピックリスト内のパラメータ値を使用してレポートを表示する

**注**

このオプションは、SAP NetWeaver Business Warehouse (BW) クエリベースのパラメータでのみ使用できます。

パラメータのダイナミックピックリスト内の選択肢は、SAP 環境でその変数に割り当てられている値に基づいています。BI ラUNCHパッドに表示される値は、ユーザのアクセス権に対応しているため、権限のある値のみが表示されます。

- 1 BI ラUNCHパッドにログオンします。
- 2 パラメータ値を設定するレポートオブジェクトをダブルクリックします。  
[プロンプト値の入力] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 定義する最初のパラメータの横で、[参照] (...) ボタンをクリックします。  
[ピックリスト] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 リスト内でパラメータの値を見つけ、ハイパーリンクをクリックします。  
[プロンプト値を入力してください] ダイアログボックスがもう一度表示され、選択した値がパラメータの編集フィールドに表示されます。
- 5 残りのパラメータに対してもステップ 3 および 4 を繰り返してから、[実行] をクリックします。

レポートが Crystal レポートビューアに表示されます。このレポートには、選択したパラメータ値に基づくデータが表示されます。

#### 6.3.4.1.3 スケジュールされたレポートにおける NULL パラメータ値

Null パラメータ値を使用してレポートをスケジュールすると、レポートの実行時に SAP NetWeaver Business Warehouse (BW) クエリには何も値が渡されません。代わりに、レポートは変数のデフォルト値またはパーソナライズ値を使用します。パーソナライズ値はデフォルト値を上書きします。

レポートの実行に使用されているパラメータ値を変更する場合は、BI プラットフォームでそのレポートをクリックし、新しいパラメータを使用してレポートを再スケジュールします。そのレポートはもともと、NULL パラメータ値を使用して実行するようにスケジュールされていたので、そのレポートに対して値は保存されていません。レポートを次に実行すると、新しいパラメータ値に基づいてデータが生成されます。

変数にデフォルト値またはパーソナライズ値がない場合、レポートは変数の値なしに実行を試みます。クエリによっては、レポートを実行するために変数に値が必要な場合に、エラーメッセージが表示されることがあります。

### NULL パラメータ値を使用してレポートを表示する

#### 注

このオプションは、SAP NetWeaver Business Warehouse (BW) クエリベースのパラメータでのみ使用できます。

この方法は、主にレポートをスケジュールする際に使用されます。

- 1 BI ラUNCHパッドにログオンします。
- 2 パラメータ値を設定するレポートオブジェクトをダブルクリックします。  
[プロンプト値の入力] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 各パラメータで、[NULL に設定] を選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

レポートが Crystal レポートビューアに表示されます。このレポートには、SAP 環境の変数に割り当てられているデフォルト値またはパーソナライズ値に基づくデータが表示されます。

#### 6.3.4.1.4 スケジュールされたレポートのパーソナライズされたパラメータ値

パーソナライズされたパラメータ値を含むレポートに対して定期スケジュールを設定すると、BI プラットフォームはレポートを実行するたびに、パーソナライズ値を使用します。

#### 注

値をパーソナライズすると、BI プラットフォームによってその値が保存され、そのレポートでユーザ固有の永久パラメータ値として設定されます。パラメータのパーソナライズ値を途中で変更しても、スケジュールされたレポートでは、変更前のパーソナライズ値に基づくデータが引き続き表示されます。

パラメータのパーソナライズ値を変更した後、スケジュールされたレポートで新しい値を使用するには、以下を行います。

- ・ 新しいパラメータ値でレポートをもう一度スケジュールする。
- ・ パラメータに対して NULL 値を使用するレポートをスケジュールする。レポートの実行時に、BI プラットフォームによってパーソナライズ値が評価されます。


### パーソナライズされたパラメータ値を使用してレポートを表示する

#### 注

このオプションは、SAP NetWeaver Business Warehouse (BW) クエリベースのパラメータでのみ使用できます。また、SAP NetWeaver MDX ドライバに基づくレポートにのみ適用されます。

パーソナライゼーションを利用することにより、ユーザはパラメータに対するデフォルト値を設定して保存し、後で再利用することができます。パラメータのパーソナライズ値を設定すると、そのパーソナライズ値がデフォルト値になります。

パーソナライズ値はユーザ固有であり、他のユーザに対して定義することはできません。他のユーザが同じレポートを使用する場合、そのユーザは、自分専用のパーソナライズ値を設定することも、そのパラメータの既定値を使用することもできます。パーソナライゼーションに関する詳細は、BW システムのマニュアルを参照するか、システム管理者に問い合わせてください。

- 1 BI ラウンチパッドにログオンします。
- 2 パラメータ値を設定するレポートオブジェクトをダブルクリックします。  
[プロンプト値の入力] ダイアログボックスが表示されます。レポートパラメータのデフォルト値は、[現在の値]の横に表示されています。
- 3 パラメータの値をパーソナライズするには、次の操作のいずれかを実行します。
  - ・ リストから値を選択して、パーソナライズアイコン (  ) をクリックし、その値をパーソナライズ値として設定する。
  - ・ パラメータの [編集] ボックスに値を入力して、パーソナライズアイコンをクリックし、その値をパーソナライズ値として設定する。

これで、パーソナライズ値に基づくデータを使用したレポートを表示できます。今後、同じレポートを表示する際に別のパラメータ値を指定しない限り、このパーソナライズ値に基づいてレポートが実行されます。

## 6.4 プログラムオブジェクトの管理

この節では、プログラムオブジェクトおよびプログラムインスタンスについてと、それらをセントラル管理コンソール (CMC) で管理する方法、タイプ特有のプログラムオブジェクトの設定およびプログラムオブジェクトのセキュリティ上の考慮点について説明します。

### 6.4.1 プログラムオブジェクトとインスタンスの概要

プログラムオブジェクトとは、BI プラットフォーム内のアプリケーションを表すオブジェクトです。プログラムオブジェクトを追加すると、オブジェクトをスケジュールして実行したり、そのオブジェクトに対するアクセス権を管理したりできます。

プログラムオブジェクトまたはその関連ファイルを BI プラットフォームに追加すると、オブジェクトまたはファイルは、Input File Repository Server (FRS) に格納されます。プログラムが実行されるたびに、プログラムとファイルは、Program Job Server に渡され、BI プラットフォームはプログラムインスタンスを作成します。

完全な書式で表示可能なレポートインスタンスと違って、プログラムインスタンスはオブジェクト履歴内にレコードとして存在します。BI プラットフォームでは、各プログラムの標準出力と標準エラーがテキスト形式の出力ファイルに保存されます。これは、オブジェクトの履歴でプログラムインスタンスをクリックすると表示できます。

プログラムオブジェクトを正常にスケジュールし、実行するには、プログラムオブジェクトの実行時に使用するアカウントにログオンする必要があります。

## 関連項目

- ・ 19 ページの[オブジェクトの追加](#)

### 6.4.1.1 プログラムオブジェクトのタイプ

システム管理者は、プログラムオブジェクトのいずれの種類に対しても有効/無効を設定できます。

プログラムオブジェクトをリポジトリに追加すると、CMC の [フォルダ] 領域でこのオブジェクトを設定できるようになります。プログラムオブジェクトのタイプ (実行可能プログラム、Java、または スクリプト) ごとに、コマンドライン引数と作業ディレクトリを指定できます。実行可能プログラムおよび Java プログラムについては、プログラムオブジェクトを設定し、それらのプログラムオブジェクトが他のファイルにアクセスできるようにするための追加の方法 (必須またはオプション) が用意されています。

次のタイプのアプリケーションを、プログラムオブジェクトとしてリポジトリに追加することができます。

プログラムオブジェクト	説明
実行可能プログラム	実行可能プログラムは、バイナリファイル、バッチファイル、またはシェルスクリプトです。一般的に、これらのファイル拡張子は .com、.exe、.bat、.sh です。コマンドラインから実行できる任意の実行可能プログラムを、Program Job Server を実行しているマシンに追加できます。
Java	いずれの Java プログラムも、Java プログラムオブジェクトとしてリポジトリに追加できます。
スクリプト[スクリプト]	スクリプトプログラムオブジェクトには、JScript スクリプトと VBScript スクリプトがあります。これらのスクリプトは、埋め込み COM オブジェクトを使用して Windows 上で実行され、公開後は、BI プラットフォーム SDK オブジェクトを参照できます。  <b>注</b> スクリプトプログラムオブジェクトは、UNIX ではサポートされません。

#### ヒント

プログラムオブジェクトを使用すると、BI プラットフォームに対して実行され、履歴からインスタンスを削除する、などの保守作業を行うスクリプトや Java プログラムを、作成、公開、スケジュールすることができます。BI プラットフォームセッション情報にアクセスするように、スクリプトと Java プログラムを設計することができます。これに

よって、スケジュールされたプログラムオブジェクトが、確実に、ジョブをスケジュールしたユーザのセキュリティアクセス権や制限を保持するようになります。スクリプトおよび Java プログラムは、BI プラットフォーム SDK にアクセスする必要があります。詳細については、『SAP Business Intelligence プラットフォーム Java SDK 開発者ガイド』などの BI プラットフォーム SDK ドキュメントを参照してください。

## 6.4.2 プログラムの処理オプションの設定

### 6.4.2.1 プログラムオブジェクトのコマンドライン引数を指定する

プログラムオブジェクトごとに、そのプログラムのコマンドラインインタフェースがサポートしているコマンドライン引数を指定できます。引数は、解析されずに、コマンドラインインタフェースに直接渡されます。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 コマンドライン引数を指定するプログラムオブジェクトを選択します。
- 3 [管理] > [デフォルト設定] を選択します。
- 4 [デフォルト設定] ダイアログボックスで、[プログラムパラメータ] をクリックします。
- 5 [引数] ボックスに、プログラムのコマンドライン引数を入力します。  
コマンドラインで使用するのと同じ引数形式を使用します。  
たとえば、プログラムにループオプションがある場合に、ループ値を 100 に設定するには、「-loops 100」と入力します。
- 6 [保存して閉じる] をクリックします。

### 6.4.2.2 プログラムオブジェクトの作業ディレクトリの設定

BI プラットフォームでは、プログラムオブジェクトの実行時に、デフォルトで Adaptive Job Server の作業ディレクトリ内に一時サブディレクトリが作成され、このサブディレクトリがそのプログラムの作業ディレクトリとして使用されます。プログラムが実行を停止すると、サブディレクトリは自動的に削除されます。

プログラムオブジェクト用に別の作業ディレクトリを指定するには、[管理] > [デフォルト設定] を選択するか、Adaptive Job Server のデフォルト作業ディレクトリを変更することができます。

#### 注

プログラムの実行に使用するアカウントには、作業ディレクトリとして選択したフォルダに対する適切なアクセス権が必要です。プログラムのアカウントには通常、作業ディレクトリに対する読み取り権限、書き込み権限、および実行権限が必要です。必要なファイル権限のレベルは、プログラムの内容によって異なります。



#### 関連項目

- 71 ページの[認証およびオブジェクトパッケージ](#)

#### 6.4.2.2.1 プログラムオブジェクトの作業ディレクトリを選択する

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 作業ディレクトリを選択するプログラムオブジェクトを選択します。
- 3 [管理] > [デフォルト設定] を選択します。
- 4 [デフォルト設定] ダイアログボックスで、[プログラムパラメータ] をクリックします。
- 5 [作業ディレクトリ] ボックスに、新しい作業ディレクトリの完全パスを入力します。

たとえば、working\_directory という名前の作業ディレクトリを作成した場合、Windows では「C:\working\_directory」と入力し、Unix では「/working\_directory」と入力します。

- 6 [保存して閉じる] をクリックします。

#### 6.4.2.2.2 プログラムオブジェクトのデフォルトの作業ディレクトリを変更する

- 1 CMC で、[サーバ] エリアを選択します。
- 2 プログラムスケジュールサービスをホストする Adaptive Job Server を選択します。

#### ヒント

Adaptive Job Server がプログラムスケジュールサービスをホストしているかどうかを確認するには、サーバを選択して、[管理] > [プロパティ] を選択します。

- 3 [管理] > [プロパティ] を選択します。  
[プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 [一時ディレクトリ] ボックスに、作業ディレクトリとして使用するディレクトリのパスを入力します。
- 5 [保存して閉じる] をクリックします。

### 6.4.3 実行可能プログラムオブジェクトの設定

実行可能プログラムオブジェクトを CMC に追加すると、次のアクションを実行できます。

- 外部ファイルまたは補助ファイルにアクセスするためのオブジェクトの設定
- BI プラットフォームでプログラムを実行する際のシェルの環境変数のカスタマイズ

#### 関連項目

- 66 ページの[Java プログラムの設定](#)



### 6.4.3.1 外部ファイルまたは補助ファイルへのパスを指定する

一部のバイナリファイル、バッチファイル、シェルスクリプトは、外部ファイルまたは補助ファイルにアクセスする必要があります。プログラムオブジェクトでは、作業ディレクトリの定義に加えて、次の方法で外部ファイルや補助ファイルへのアクセスを設定できます。

- ・ 必要なファイルがプログラムスケジュールサービスをホストする Adaptive Job Server と同じマシンに存在する場合は、そのファイルの完全パスを指定します。
  - ・ 必要なファイルがその他の場所にある場合は、必要に応じて、ファイルをプログラムスケジュールサービスに渡す File Repository Server に、そのファイルをアップロードします。
- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
  - 2 パスを指定する実行可能なプログラムオブジェクトを選択します。
  - 3 [管理] > [デフォルト設定] を選択します。
  - 4 [デフォルト設定] ダイアログボックスで、[プログラムパラメータ] をクリックします。
  - 5 [外部依存] ボックスに、ファイルの完全パスを入力し、[追加] をクリックします。

#### ヒント

外部依存を編集または削除するには、[外部依存] でパスを選択して、[編集] または [削除] をクリックします。

- 6 パスを指定するファイルそれぞれについて、手順 5 を繰り返します。
- 7 [保存して閉じる] をクリックします。

### 6.4.3.2 必要なファイルをアップロードする

#### ヒント

アップロードした補助ファイルを削除するには、[現在の補助ファイル] リストでファイル（複数も可）を選択し、[ファイルの削除] をクリックします。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 ファイルをアップロードする実行可能なプログラムオブジェクトを選択します。
- 3 [アクション] > [関連ファイル] を選択します。
- 4 [参照] をクリックして必要なファイルを見つけ、[ファイルの追加] をクリックします。
- 5 必要なファイルのそれぞれで、ステップ 4 を繰り返します。
- 6 [保存して閉じる] をクリックします。

### 6.4.3.3 環境変数を追加する

CMC では、環境変数の追加または変更を行ってプログラムを設定することができます。環境変数を変更すると、元の変数は上書きされます。変更が元の変数に付加されることはありません。

環境変数に対する変更は、BI プラットフォームが稼働する一時的なシェル内でのみ有効です。BI プラットフォームを終了するときに、環境変数は削除されます。

#### 注

BI プラットフォームでは、使用しているオペレーティングシステムの環境変数構文を使用します。ただし、Unix では、規則に従って大文字/小文字を適切に使い分ける必要があります。たとえば、Unix では、name の値をすべて大文字で入力する必要があります。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 環境変数を追加するプログラムオブジェクトを選択します。
- 3 [管理] > [デフォルト設定] を選択します。
- 4 [デフォルト設定] ダイアログボックスで、[プログラムパラメータ] をクリックします。
- 5 [環境変数] ボックスに、追加する環境変数を入力して、[追加] をクリックします。

変数には name=value の形式を使用します。name は変数名、value は変数値です。

たとえば、ユーザの bin ディレクトリを既存のパスに付加するには、path 変数を設定できます。Windows では、「path=%path%;c:\usr\bin」と入力します。Unix では、「PATH=\$PATH:/usr/bin」と入力します。

- 6 [保存して閉じる] をクリックします。

#### 6.4.3.3.1 環境変数を編集または削除する

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 環境変数を編集または削除するプログラムオブジェクトを選択します。
- 3 [管理] > [デフォルト設定] を選択します。
- 4 [デフォルト設定] ダイアログボックスで、[プログラムパラメータ] をクリックします。
- 5 [環境変数] 一覧で、編集または削除する変数を選択して、[編集] または [削除] をクリックします。

## 6.4.4 Java プログラムの設定

BI プラットフォームで Java プログラムを正常にスケジュールして実行するには、プログラムオブジェクトに必要なパラメータを指定する必要があります。Java プログラムが Adaptive Job Server にあるファイルにアクセスできるように設定したり、Java 仮想マシンオプションを指定したりすることもできます。

#### 6.4.4.1 Java プログラムの必須パラメータを指定する

Java プログラムのスケジュールと実行を正常に行うには、BI プラットフォーム Java SDK の IProgramBase インタフェースを実装する .class ファイルの基本名を BI プラットフォームに指定する必要があります。

##### 注

Java Runtime Environment (JRE) は、Adaptive Job Server を実行する各マシン上にインストールする必要があります。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 パラメータを指定する Java プログラムオブジェクトを選択します。
- 3 [管理] > [デフォルト設定] を選択します。
- 4 [デフォルト設定] ダイアログボックスで、[プログラムパラメータ] をクリックします。
- 5 [実行するクラス] ボックスに、SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム Java SDK の IProgramBase (com.businessobjects.sdk.plugin.desktop.program.IProgramBase) を実装する .class ファイルの基本名を入力します。  
たとえば、ファイル名が Arius.class の場合は、「Arius」と入力します。
- 6 [保存して閉じる] をクリックします。

##### 注

OutOfMemoryError が発生したためにスケジュールされたジョブを実行できなかった場合は、JVM に割り当てる最大ヒープサイズを増やしてください。JVM 引数は、[プログラムパラメータ] セクションの [JVM 引数] フィールドで設定できます。実行する Java プログラムに合った最大ヒープサイズを指定します (例: Xmx1024m)。[JVM 引数] フィールドは、エラーを解消する目的のみで使用し、それ以外の場合は空のままにしてください。

#### 6.4.4.2 Java プログラムが他のファイルにアクセスできるように設定する

Java プログラムから、プログラムスケジュールサービスをホストするマシンにある Java ライブラリなどのファイルにアクセスできるように設定することができます。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 ファイルアクセス権を付与する Java プログラムオブジェクトを選択します。
- 3 [管理] > [デフォルト設定] を選択します。
- 4 [デフォルト設定] ダイアログボックスで、[プログラムパラメータ] をクリックします。
- 5 [クラスパス] ボックスに、プログラムスケジュールサービスをホストする Adaptive Job Server に保存されている、必要な Java ライブラリファイルそれぞれの完全パスを入力します。  
複数のパスは、オペレーティングシステムのクラスパス区切り記号 (Windows の場合はセミコロン、Unix の場合はコロン) で区切ります。
- 6 [保存して閉じる] をクリックします。

## 6.4.5 プログラムオブジェクトのユーザアカウントを指定する

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 ユーザアカウントを指定するプログラムオブジェクトを選択します。
- 3 [管理] > [デフォルト設定] を選択します。
- 4 [デフォルト設定] ダイアログボックスで、[プログラムのログオン] をクリックします。
- 5 [ユーザ名] ボックスに、プログラムを実行するユーザアカウントのユーザ名を入力します。
- 6 [パスワード] ボックスに、そのユーザアカウントのパスワードを入力します。
- 7 [保存して閉じる] をクリックします。

## 6.5 オブジェクトパッケージ管理

### 6.5.1 オブジェクトパッケージ、コンポーネント、およびインスタンス

オブジェクトパッケージは、BI プラットフォームの独立したオブジェクトとして機能します。オブジェクトパッケージは、スケジュールが可能なフォルダと考えることができます。オブジェクトパッケージは、BI プラットフォーム内のレポートとプログラムオブジェクトの任意の組み合わせから成ります。

BI プラットフォーム以外のオブジェクト (Microsoft Excel、Microsoft Word、Adobe Acrobat、テキスト、リッチテキスト、Microsoft PowerPoint、ハイパーリンクされたオブジェクトなど) はオブジェクトパッケージに追加できません。

レポートのオブジェクトパッケージでは、ユーザはレポート間で同期されたデータを表示することができます。

#### オブジェクトパッケージのコンポーネントオブジェクト

複数の (コンポーネント) オブジェクトを 1 つのオブジェクトパッケージにまとめると、それらのオブジェクトを同時にスケジュールすることができます。ただし、コンポーネントオブジェクトは、他のオブジェクトよりも設定オプションに制限があります。またコンポーネントオブジェクトは、CMC の [フォルダ] 領域のオブジェクトのリストには表示されません。コンポーネントオブジェクトを表示するには、そのオブジェクトパッケージを開く必要があります。

#### オブジェクトパッケージインスタンス

BI プラットフォームでは、オブジェクトパッケージを実行するたびに、オブジェクトパッケージインスタンスが作成されます。オブジェクトパッケージインスタンスには、パッケージの各コンポーネントオブジェクトの個々のインス

タンスが含まれています。個々のインスタンスは、コンポーネントオブジェクトではなく、オブジェクトパッケージインスタンスと連携しています。

たとえば、オブジェクトパッケージを実行し、インスタンスを作成した後に、オブジェクトパッケージからレポートオブジェクトを削除しても、既存のオブジェクトパッケージインスタンスは変更されません。削除したレポートオブジェクトのインスタンスは含まれたままです。次にオブジェクトパッケージを実行してオブジェクトパッケージインスタンスを作成するときには、削除したレポートオブジェクトのインスタンスは作成されません。

オブジェクトパッケージインスタンス内にあるハイパーリンクされたレポートインスタンスの場合、ハイパーリンクは、同じオブジェクトパッケージインスタンス内にある他のレポートインスタンスをポイントします。

#### 関連項目

- ・ 51 ページの[ハイパーリンクを使用したレポートでの作業](#)」

## 6.5.2 新しいオブジェクトパッケージを作成する

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 オブジェクトパッケージを作成するフォルダを選択します。
- 3 [管理] > [新規] > [オブジェクトパッケージ] を選択します。
- 4 [オブジェクトパッケージ] ダイアログボックスに、オブジェクトパッケージのタイトル、説明、およびキーワードを入力します。
- 5 [OK] をクリックします。

オブジェクトパッケージのプロパティ、コンテンツ、スケジュール情報、出力先、ユーザ権限、オブジェクト設定、および通知を変更できます。[管理] > [プロパティ] または [管理] > [デフォルト設定] を選択します。

## 6.5.3 オブジェクトパッケージへのオブジェクトの追加

CMC では、作成したオブジェクトパッケージに、レポートオブジェクトやプログラムコンポーネントオブジェクトを追加できます。オブジェクトパッケージに新しいオブジェクトを追加したり、オブジェクトをコピーすることができます。オブジェクトのコピー（実際のオブジェクトではなく）をオブジェクトパッケージに移動したり、オブジェクトパッケージ間で移動したりすることができます。

オブジェクトをオブジェクトパッケージにコピーすると、コンポーネントオブジェクトには元のオブジェクトの設定が保持されます。

オブジェクトパッケージ内にオブジェクトのコピーを作成すると、コンポーネントオブジェクトと元のオブジェクトは別のエンティティになります。一方のオブジェクトを変更しても、他方のオブジェクトには影響しません。

#### 関連項目

- ・ 31 ページの[オブジェクトをコピーする](#)」

### 6.5.3.1 新しいオブジェクトをオブジェクトパッケージに追加する

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 オブジェクトを追加するオブジェクトパッケージをダブルクリックします。  
オブジェクトパッケージのコンテンツが詳細パネルに表示されます。
- 3 [管理] > [追加] を選択して、[ローカルドキュメント] または [プログラムファイル] を選択します。
- 4 [参照] をクリックし、追加するオブジェクトを見つけて選択します。
- 5 次の操作のいずれかを実行します。
  - ・ レポートを追加する場合は、次のいずれかのオプションを選択します。
    - ・ レポートの概要情報を保持する場合は、[レポートからの説明を使用する] を選択します。
    - ・ レポートの保存済みデータを保持する場合は、[保存済みデータを保持] を選択します。
  - ・ プログラムオブジェクトを追加する場合は、プログラムの種類として [実行ファイル]、[Java]、または [スクリプト] を選択します。
- 6 [OK] をクリックします。

### 6.5.4 オブジェクトパッケージとオブジェクトの設定

オブジェクトパッケージを使用すると、同様のスケジュール要件を持つ複数のオブジェクトを同時にスケジュールできるため、時間を節約できます。結果として、一部のパラメータはオブジェクトパッケージレベルで設定し、また別の一部はオブジェクトレベル、つまりパッケージ内の個々のオブジェクトに対して設定することになります。

たとえば、オブジェクトパッケージの出力先を指定する必要がありますが、パッケージ内の個々のオブジェクトに対して出力先を指定することはできません。BI プラットフォームでオブジェクトパッケージが実行されると、そのオブジェクトパッケージに対して指定した出力先に出力インスタンスが保存されます。

#### 注

オブジェクトパッケージ内のオブジェクトは、パッケージ外に存在するオブジェクトのコピーであるため、実行した変更内容は、パッケージ外のオブジェクトには反映されません。

#### 6.5.4.1 オブジェクトパッケージのコンポーネントエラーオプションを設定する

実行時にコンポーネントエラーがオブジェクトパッケージに与える影響の程度を指定する必要があります。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。

- 2 オブジェクトパッケージを見つけて選択します。
- 3 [管理] > [デフォルト設定] を選択します。
- 4 [コンポーネントのエラー] をクリックします。
- 5 パッケージ内のコンポーネントでエラーが発生した場合にオブジェクトパッケージを失敗させる場合は、[スケジュールされたパッケージは個々のコンポーネントのエラーのため失敗します] チェックボックスをオンにします。
- 6 [保存して閉じる] をクリックします。

### 6.5.5 認証およびオブジェクトパッケージ

オブジェクトパッケージは、Enterprise とデータベースにおける認証処理を簡便にします。Enterprise 認証を1回入力するだけで、コンポーネントオブジェクトがすべて含まれているオブジェクトパッケージをスケジュールすることができます。そのため、オブジェクトパッケージ内の各オブジェクトに対するスケジュール権限が必要です。スケジュール権限のないコンポーネントオブジェクトが含まれるオブジェクトパッケージをスケジュールしようとすると、コンポーネントインスタンスが失敗します。

データベース認証では、オブジェクトパッケージ内の各レポートコンポーネントオブジェクトに対し、データベースログオン情報を指定する必要があります。レポートをオブジェクトパッケージにコピーした場合は、元のレポートのデータベースログオン情報が最初に継承されています。





## オブジェクトのスケジュール

### 7.1 カレンダー

カレンダーとは、スケジュールされたジョブの実行日をカスタマイズしたリストです。ジョブにカレンダーを適用すると、BI プラットフォームは、ユーザが指定した定義済みの実行日にジョブを実行します。

カレンダーでは、標準のスケジュールオプションよりも複雑な処理スケジュールを作成することができます。

#### 注

レポートオブジェクト、プログラムオブジェクト、およびオブジェクトパッケージを含め、スケジュール可能なオブジェクトでカレンダーを使用できます。

BI プラットフォームでは、カレンダーを必要な数だけ設定することができます。

#### カレンダーおよび処理スケジュール

カレンダーを使用すると、定期的に行われる複雑なジョブを効率的にスケジュールすることができます。カレンダーが特に有効なのは、定期的に行われるジョブを不規則なスケジュールに従って実行する場合や、一連の定期的なスケジュール日付をユーザに提示し、そこから日付を選んでもらう場合です。カレンダーを使用すると、定期的なスケジュール日付に固有のスケジュール日付を組み合わせた、複雑な処理スケジュールを作成することができます。

#### 例 休日用の非実行カレンダー

自国の法定休日を除いて、営業日には毎日レポートオブジェクトを実行する場合、レポートオブジェクトを実行しない非実行日として指定した休日を含むカレンダーを作成することができます。BI プラットフォームは、カレンダーに実行日として指定された日に毎日ジョブを実行します。

---

#### 7.1.1 カレンダーを作成する

新しいカレンダーを作成するには、このタスクを実行します。

#### ヒント

新しいカレンダーを作成するためのテンプレートに使用するカレンダーを作成すると便利です。このようなテンプレートカレンダーは、必要に応じてコピーし、変更することができます。たとえば、週末と会社の休日を除くすべての日付を実行日とした、デフォルトの平日カレンダーを作成することができます。

- 1 CMC の [カレンダー] 管理エリアを表示します。
- 2 [管理] > [新規] > [新しいカレンダー] の順にクリックします。
- 3 新しいカレンダーの名前と説明を入力します。
- 4 [OK] をクリックします。

新しいカレンダーがシステムに追加されました。このカレンダーに実行日を追加することができます。

作成したら、実行日は、[日付] タブでカレンダーに追加できます。

#### 関連項目

- ・ 74 ページの [「カレンダーに日付を追加する」](#)

## 7.1.2 カレンダーに日付を追加する

日付は、さまざまな形式のカレンダーに追加することができます。カレンダーの年単位ビュー、四半期単位ビュー、月単位ビューから特定の日付を選択することや、月や週の曜日に基づく一般的な形式で、定期的な日付を指定することができます。

- 1 CMC の [カレンダー] 管理エリアを表示します。
- 2 変更するカレンダーを選択します。
- 3 [アクション] > [日付の選択] をクリックします。
- 4 カレンダー形式 ([年単位]、[四半期単位]、または [月単位]) を選択するか、または、定期的な日付のカレンダーを作成する場合、[日別] または [曜日別] をクリックします。
- 5 実行日としてカレンダーに追加する月の日付をクリックします。

実行日を削除するには、その日を再度クリックします。

#### ヒント

週を選択する、またはある月の特定の曜日をすべて選択するには、行または列のヘッダをクリックします。

- 6 作業が完了したら、[保存] をクリックします。

#### 注

既存のカレンダーを変更する際には、システム内で現在スケジュールされているすべてのインスタンスが BI プラットフォームによってチェックされます。編集したカレンダーを使用しているオブジェクトは、改定された日付スケジュールに従って実行されるように自動的に更新されます。

### 7.1.2.1 カレンダー形式のオプション

カレンダー形式のオプション	説明
年単位	[年単位] 形式では、1 年間のカレンダーの実行日が表示されます。表示される年を変更するには、[前の年] および [次の年] ボタンをクリックします。[年単位] 形式を使用して日付を追加するには、追加する日、曜日ヘッダ、または週の行ヘッダをクリックします。
四半期単位	[四半期単位] 形式では、現在の四半期カレンダーの実行日が表示されます。[前の四半期] ボタンおよび [次の四半期] ボタンを使用すると、表示される四半期を変更することができます。[四半期単位] 形式を使用して日付を追加するには、追加する日、曜日ヘッダ、または週の行ヘッダをクリックします。
月単位	[月単位] 形式では、現在の月カレンダーの実行日が表示されます。[前の月] および [次の月] ボタンを使用すると、表示される月を変更できます。[月単位] 形式を使用して日付を追加するには、追加する日、曜日ヘッダ、または週の行ヘッダをクリックします。

### 7.1.2.2 個々の日付

カレンダーに特定の日付を追加するには、[年単位]、[四半期単位]、[月単位] の各形式を使用します。

[年単位] 形式では、1 年間の実行スケジュールが表示されます。[四半期単位] 形式では、現在の四半期の実行日が表示されます。また、[月単位] 形式で表示することもでき、現在の月の実行日が表示されます。これら 3 つの形式では、[戻る] ボタンおよび [次へ] ボタンをクリックして、表示される期間の範囲を変更することができます。

追加する日をクリックすることで、任意のカレンダー形式に特定の日付を追加できます。週全体を追加する場合は、その週の行ヘッダの [>] をクリックします。ある月の指定された曜日のすべての日を実行日に追加するには、その曜日の名前をクリックします。

2008 - 2009

前の年

次の年

特定日の追加：

日別

曜日別

表示：年単位

四半期単位

月単位

下の日付をクリックし、実行日を追加または削除してください。

ヘッダーをクリックして特定の曜日の、または左側の行ヘッダーをクリックしてすべての曜日の選択/非選択を切り替えてください。

7月 2008

日	月	火	水	木	金	土
>		1	2	3	4	5
>	6	7	8	9	10	11
>	13	14	15	16	17	18
>	20	21	22	23	24	25
>	27	28	29	30	31	

8月 2008

日	月	火	水	木	金	土
>	3	4	5	6	7	8
>	10	11	12	13	14	15
>	17	18	19	20	21	22
>	24	25	26	27	28	29
>	31					

9月 2008

日	月	火	水	木	金	土
>	1	2	3	4	5	6
>	7	8	9	10	11	12
>	14	15	16	17	18	19
>	21	22	23	24	25	26
>	28	29	30			

10月 2008

日	月	火	水	木	金	土
>	5	6	7	8	9	10
>	12	13	14	15	16	17
>	19	20	21	22	23	24
>	26	27	28	29	30	31

11月 2008

日	月	火	水	木	金	土
>	2	3	4	5	6	7
>	9	10	11	12	13	14
>	16	17	18	19	20	21
>	23	24	25	26	27	28
>	30					

12月 2008

日	月	火	水	木	金	土
>	1	2	3	4	5	6
>	7	8	9	10	11	12
>	14	15	16	17	18	19
>	21	22	23	24	25	26
>	28	29	30	31		

凡例

8 非実行日

8 元の実行日

8 新しい実行日

8 削除した実行日

保存

保存して閉じる

リセット

たとえば、貴社が、日単位または週単位の設定では定義できない不規則なスケジュールに従って製品を出荷している場合は、出荷日カレンダーを使用してこれらの日付のリストを作成することができます。これによって、出荷部門は、各出荷日の終わりにレポートが実行されるように、カレンダーを使用してレポートをスケジュールすることで、出荷を済ませるたびに在庫を確認できるようになりました。

#### 関連項目

- 76 ページの[定期的な日付](#)

### 7.1.2.3 定期的な日付

日別、または曜日別で、定期的な日付を追加することができます。既存の実行日を表示する場合は、年単位、四半期単位、月単位の各形式を使用する必要がありますが、カレンダーに定期的な日付を追加する場合は、一般的な形式を使用します。定期的な日付を追加するには、[日別] または [曜日別] をクリックして、追加する日を選択します。

標準的なスケジュールオプションを使用すると、定期的なスケジュールを設定することができますが、カレンダーでは一度にさまざまな定期的な実行パターンを組み合わせることもできます。個々の日付をカレンダーに追加することによって、パターンに従わない日付でインスタンスを実行することもできます。


たとえば、毎月の月初の 4 日間と、毎月の第 2 および第 4 金曜日にレポートオブジェクトをスケジュールするには、まず、新しいカレンダーオブジェクトを作成して名前を付けます。次に、日別で定期的な日付を追加するこ

とにして、このカレンダーに月初の 4 日間を追加します。このカレンダーを更新すると、新しい実行日が設定された年単位形式が表示されます。

### 特定日の追加 (日別)

特定日の追加 : **日別** **曜日別**

下の日付をクリックし、月単位の定期実行日を追加してください。

開始日 : ☒  

終了日 : ☐

日付

1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

**凡例**

8 非実行日

8 新しい実行日

このカレンダーに第 2 および第 4 金曜日を追加する場合は、曜日別で定期的な日付を追加することにして、第 2 および第 4 金曜日を選択します。

特定日の追加（曜日別）

特定日の追加：

日別

曜日別

表示：

年単位

四半期単位

月単位

下の曜日をクリックし、週単位の定期実行曜日を追加してください。

ヘッダーをクリックして特定の曜日の、または左側の行ヘッダーをクリックしてすべての曜日の選択/非選択を切り替えてください。

開始日： ☒

2008/05/26

終了日： ☐

2009/05/26

曜日

日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
> 第	第	第	第	第	第	第
> 第	第	第	第	第	第	第
> 第	第	第	第	第	第	第
> 第	第	第	第	第	第	第
> 最	最	最	最	最	最	最

凡例

8

非実行日

8

新しい実行日

保存

保存して閉じる

キャンセル

### 7.1.3 カレンダを削除する

カレンダを削除すると、削除されたカレンダに従ってスケジュールされていたオブジェクトはシステムによってもう一度実行されます。カレンダが存在しないため、その後はシステムがそのオブジェクトを再度スケジュールすることはありません。オブジェクトが引き続き実行されるようにするには、異なるカレンダを選択するか、異なる定期スケジュールパターンを選択することにより、そのオブジェクトのスケジュール情報を変更します。

- 1 CMC の [カレンダ] 管理エリアを表示します。
- 2 削除するカレンダを選択します。

#### ヒント

複数のカレンダを選択するには、Ctrl キーまたは Shift キーを押したままで選択するカレンダをクリックします。

- 3 [管理] > [削除] をクリックします。
- 4 [OK] をクリックして確認します。

#### 関連項目

- ・ 80 ページの [オブジェクトをスケジュールする](#)

## 7.1.4 カレンダーへのアクセス権の指定

ユーザおよびグループに対して、カレンダーへのアクセスを許可または拒否することができます。カレンダーの整理方法によって、特定の従業員または部署でのみ利用可能な、特定の日付セットを作成できます。たとえば、財務チームが使用する一連の財務記録日は、他の部署には関係ないでしょう。

### 注

そのカレンダーに対して閲覧するアクセス権のあるユーザだけが、それを閲覧できます。また、特定のグループに対してカレンダーを非公開にすることもできます。

デフォルトでは、カレンダーは現在のセキュリティ設定に基づきます。カレンダーは、ユーザの親フォルダの権限を継承します。

アクセス権の設定の詳細については、SAP ヘルプポータル (<http://help.sap.com>) で入手できる『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』の「アクセス権の設定」の章を参照してください。

## 7.2 スケジュール

スケジュールは、指定した時間に自動的にオブジェクトが実行されるように設定するプロセスです。オブジェクトをスケジュールする場合は、定期スケジュールパターン、およびそのオブジェクトを実行する時刻と頻度を決定するその他のパラメータを選択します。

オブジェクトをスケジュールすると、BI プラットフォームによってスケジュールされたインスタンスが作成されます。スケジュールされたインスタンスは、オブジェクトの [履歴] ダイアログボックスに ([定期] または [待機] というステータスで) 表示されますが、このインスタンスにはオブジェクトとスケジュール情報のみが含まれ、データは含まれません。

BI プラットフォームによってオブジェクトが実行されると、レポートまたはプログラムインスタンスなどのオブジェクトの出力インスタンスが作成されます。レポートインスタンスには、データベースから取得した実際のデータが含まれます。プログラムインスタンスは、プログラムオブジェクトの実行時に生成された標準出力および標準エラーを含むテキストファイルです。オブジェクトの [履歴] ダイアログボックスには、出力インスタンスも ([成功] または [失敗] というステータスで) 表示されます。

オブジェクトのスケジュールおよび実行には、BI ラUNCHパッドまたはカスタム Web アプリケーションなどの Web ベースのクライアントソフトウェアを使用する必要があります。オブジェクトのスケジュールおよびレポートの表示には、BI ラUNCHパッドが使用されます。オブジェクトの管理やスケジュール、およびレポートの表示には CMC が使用されます。

### 関連項目

- 186 ページの [定期的なスケジュールパターンを選択する](#)

## 7.2.1 スケジュールオプションの設定

### 7.2.1.1 オブジェクトをスケジュールする

#### ヒント

オブジェクトのデフォルトのスケジュール設定を変更するには、[スケジュール] ダイアログボックスの [デフォルト設定] をクリックし、スケジュールオプションを設定して、[保存] をクリックします。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 スケジュールするオブジェクトを選択します。
- 3 [アクション] > [スケジュール] を選択します。

[スケジュール] ダイアログボックスが表示され、オブジェクトのデフォルト設定が示されます。

- 4 適切なインスタンスのタイトルを入力します。
- 5 [繰り返し] をクリックし、定期的なスケジュールパターンを選択します。  
たとえば、オブジェクトに対し定期的なスケジュールパターン [週単位] を選択します。
- 6 必要に応じて、実行オプションおよびスケジュールパラメータを指定します。  
たとえば、[月曜日]、[水曜日]、および [金曜日] を選択します。
- 7 [スケジュール] をクリックします。

スケジュールされたインスタンスが作成され、指定したスケジュールに従ってそのインスタンスが実行されます。スケジュールされたインスタンスは、オブジェクトの [履歴] ダイアログボックスに表示されます。

#### 関連項目

- ・ 81 ページの[定期スケジュールパターン](#)」
- ・ 82 ページの[定期的なスケジュールパターンの実行オプション](#)」
- ・ 121 ページの[インスタンス情報の表示](#)」

### 7.2.1.2 個々のユーザに対するオブジェクトのスケジュール

[対象指定] 機能は、特定のユーザを対象としたデータを含むレポートを生成します。この機能は、次のタイプのオブジェクトで使用できます。

- ・ ビジネスビュー、ユニバース、または SAP BEx クエリに基づく Crystal レポート
- ・ ユニバースを使用する Web Intelligence ドキュメント



[指定対象] 機能を使用すると、オブジェクトをスケジュールし、オブジェクトの実行対象となるユーザを指定できます。BI プラットフォームはオブジェクトを実行して、レポートまたはドキュメントの複数のインスタンスを生成します。各インスタンスには、個々のユーザに関係のあるデータが含まれます。

#### 例

営業レポートをスケジュールして、[対象指定] ダイアログボックスですべての営業担当者のユーザ名を指定できます。指定した時刻になると、レポートオブジェクトが実行されて、個々のレポートインスタンスが生成されます。各インスタンスには、指定した営業担当者を対象にした営業情報が含まれます。

#### 7.2.1.2.1 個別のユーザにオブジェクトをスケジュールする

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 スケジュールするレポートオブジェクトを選択します。
- 3 [アクション] > [スケジュール] を選択します。
- 4 [対象指定] をクリックします。
- 5 [現在のユーザだけを対象にスケジュールする] または [スケジュール対象となるユーザ/ユーザグループを指定する] を選択します。
- 6 [スケジュール対象となるユーザ/ユーザグループを指定する] を選択した場合、スケジュールするユーザまたはグループを探して選択し、[>] をクリックして [選択] リストに追加します。

#### ヒント

[選択] リストからユーザまたはグループを削除する場合は、それを選択して [<] をクリックします。

- 7 他のスケジュールオプションを指定し、[スケジュール] をクリックします。

#### 関連項目

- ・ 81 ページの[定期スケジュールパターン](#)」
- ・ 82 ページの[定期的なスケジュールパターンの実行オプション](#)」

#### 7.2.1.3 定期スケジュールパターン

最初に定期的なスケジュールパターンを選択してから、定期的なスケジュールパターンの実行オプションを選択する必要があります。

定期スケジュールパターン	説明
今すぐ	ユーザが [スケジュール] をクリックするとオブジェクトが実行されます。
1 回	オブジェクトは 1 回だけ実行されます。実行時間、開始日、終了日を指定します。

定期スケジュールパターン	説明
時間単位	オブジェクトは時間ごとに実行されます。オブジェクトの実行頻度、実行時間、開始日、終了日を指定します。
日単位	オブジェクトは N 日ごとに 1 回だけ実行されます。オブジェクトの実行頻度、実行時間、開始日、終了日を指定します。
週単位	オブジェクトは毎週実行されます。実行日、実行時間、開始日、終了日を指定します。
月単位	オブジェクトは N カ月ごとに実行されます。オブジェクトの実行頻度、実行時間、開始日、終了日を指定します。
N 日	オブジェクトは毎月 N 日に実行されます。実行する月の日、実行時間、開始日、終了日を指定します。
第 1 月曜日	オブジェクトは毎月第 1 月曜日に実行されます。実行時間、開始日、終了日を指定します。
月末日	オブジェクトは毎月末日に実行されます。開始日と終了日を指定します。
第 N 週の X 日	オブジェクトは各月特定の週の特定の曜日に実行されます。実行する週および曜日、実行時間、開始日、終了日を指定します。
カレンダー	オブジェクトはカレンダーで指定された日に実行されます。

## 関連項目

- ・ 82 ページの[定期的なスケジュールパターンの実行オプション](#)」
- ・ 73 ページの[カレンダー](#)」

### 7.2.1.4 定期的なスケジュールパターンの実行オプション

最初に定期的なスケジュールパターンを選択してから、定期的なスケジュールパターンの実行オプションを選択する必要があります。オブジェクトによって使用できる実行オプションが異なります。変数が含まれる実行オ

プシオンを選択すると、BI プラットフォームに変数のデフォルト値が表示されます。デフォルト値は必要に応じて変更できます。

定期的なスケジュールパターンの実行オプション	説明
[開始日時] リストおよびカレンダーボックス	<p>このオプションは、[今すぐ] および [カレンダー] 以外のすべての定期的なスケジュールパターンで表示されます。</p> <p>オブジェクトの開始時間 (時、分、および午前/午後) および日付を選択します。</p> <p>BI プラットフォームでは、開始時間を過ぎると、指定されたスケジュールに従って可能な限り早くオブジェクトが実行されます。デフォルトは、現在の日時です。たとえば、3 カ月後の開始時間を指定すると、BI プラットフォームでは、他のすべての基準が満たされている場合でも、その開始日が経過するまでオブジェクトは実行されません。開始日後に、BI プラットフォームで指定された時間にレポートが実行されます。</p>
[終了日時] リストおよびカレンダーボックス	<p>このオプションは、[今すぐ] および [カレンダー] 以外のすべての定期的なスケジュールパターンで表示されます。</p> <p>オブジェクトの終了時間 (時、分、および午前/午後) および日付を選択します。</p> <p>終了時間を過ぎると、BI プラットフォームでは、オブジェクトがそれ以上実行されません。デフォルトは遠い将来における現在の時刻と日付で、それまでは何度もオブジェクトが実行されます。</p>
[時間 (N)] リストおよび [分 (X)] リスト	<p>これらのオプションは、定期的なスケジュールパターン [時間単位] を選択すると表示されます。</p> <p>オブジェクトの実行間隔 (時間単位および分単位) を選択します。[N] または [X] の値を入力しない場合、BI プラットフォームでは毎時間レポートが実行されます。</p>
[日数 (N)] ボックス	<p>このオプションは、定期的なスケジュールパターン [日単位] を選択すると表示されます。</p> <p>オブジェクトの実行間隔 (日単位) を入力します。[N] の値を入力しない場合、BI プラットフォームでは毎日レポートが実行されます。</p>

定期的なスケジュールパターンの実行オプション	説明
[月曜日] チェックボックス、[火曜日] チェックボックス、[水曜日] チェックボックス、[木曜日] チェックボックス、[金曜日] チェックボックス、[土曜日] チェックボックス、および [日曜日] チェックボックス	このオプションは、定期的なスケジュールパターン [週単位] を選択すると表示されます。  ジョブを実行する週の各曜日のチェックボックスを選択します。
[月 (N)] リスト	このオプションは、定期的なスケジュールパターン [月単位] を選択すると表示されます。  オブジェクトの実行間隔 (月単位) を入力します。[N] の値を入力しない場合、BI プラットフォームでは毎月レポートが実行されます。
[日 (N)] ボックス	このオプションは、定期的なスケジュールパターン [N 日] を選択すると表示されます。  ジョブを実行する月の日を選択します。[N] の値を選択しない場合、BI プラットフォームでは毎日レポートが実行されます。
[週 (N)] リストおよび [日 (N)] リスト	このオプションは、定期的なスケジュールパターン [第 N 週の X 曜日] を選択すると表示されます。  オブジェクトを実行する月の週および週の曜日を選択します。[N] または [X] の値を入力しない場合、BI プラットフォームでは毎日レポートが実行されます。

### 7.2.1.5 スケジュールされたジョブの成功または失敗の通知

スケジュールされたオブジェクトインスタンスの実行に成功または失敗したときに自動的に通知されるように、オプションを設定できます。監査通知または電子メール通知では、複数の通知方法を組み合わせることが可能なため、成功したインスタンスと失敗したインスタンスで異なる通知オプションを選択して送信することができます。

たとえば、毎日実行するレポートが多数あるとします。管理者は、各インスタンスが正常に実行されたことを確認し、新しいレポートが作成されたことを特定のユーザに電子メールで知らせる必要があります。多数のレポートがある場合、手動でレポートを確認してユーザに通知する作業には非常に時間がかかります。レポートが正常に実行されなかったときには管理者に、新しいレポートインスタンスが正常に実行されたときにはユーザに通知が自動送信されるよう、各オブジェクトの BI プラットフォームのオプションを設定することができます。

### 7.2.1.5.1 スケジューリングジョブ の成功または失敗の決定

オブジェクトをスケジュールすると、スケジュールされたインスタンスは成功するか失敗するかのいずれかです。インスタンスが成功する条件と失敗する条件は、次に示すように、スケジュールしたオブジェクトの種類によって決まります。

- ・ レポートオブジェクトおよび Web Intelligence ドキュメント

オブジェクトの処理中またはデータベースへのアクセス中にエラーが発生しない場合は、レポートインスタンスまたはドキュメントオブジェクトインスタンスの実行は成功となります。ユーザの指定したログオン情報が間違っていると、インスタンスは失敗する可能性があります。

- ・ プログラムオブジェクト

プログラムオブジェクトの場合、成功するためには BI プラットフォームによって実行される必要があります。BI プラットフォームによって実行されない場合、インスタンスは失敗と見なされます。BI プラットフォームによって実行されたものの、本来のタスクが実行されない場合があります。この場合、プログラムオブジェクトが実行された以上、そのインスタンスは、成功と見なされます。BI プラットフォームは、プログラムオブジェクトの内容に応じて問題を監視しているわけではありません。

- ・ オブジェクトパッケージ

オブジェクトパッケージは、そのコンポーネントのどれかが失敗すると、失敗する可能性があります。オブジェクトパッケージ内の個々のオブジェクトに対して、通知、データベースログオン、フィルタ、形式、印刷、パラメータ、サーバグループ、およびアラートなどのスケジュールオプションを設定することができます。

#### ヒント

パッケージ内のオブジェクトが失敗した場合にオブジェクトパッケージが失敗することを防ぐには、[管理] > [デフォルト設定]を選択して、[コンポーネントのエラー]をクリックし、[スケジュールされたパッケージは個々のコンポーネントのエラーのため失敗します] チェックボックスをオフにします。

オブジェクトパッケージには監査通知や電子メール通知は設定できませんが、イベントに連動するオブジェクトパッケージをスケジュールして、オブジェクトパッケージに含まれる個々のオブジェクトに通知を設定できます。

#### 関連項目

- ・ 130 ページの[スケジュールベースのイベント](#)

### 7.2.1.5.2 通知オプション

オブジェクトごとに通知オプションを選択し、条件によって異なる種類の通知を送信することができます。オブジェクトパッケージには、イベント通知しか設定できません。イベント通知は、オブジェクトパッケージの成功または失敗に基づいてイベントを発生させます。より一般的な観点からオブジェクトの失敗と成功を監視するには、BI プラットフォームの監査機能を使用します。

通知が失敗すると、オブジェクトインスタンスも失敗します。たとえば、電子メール通知で無効な電子メールアドレスにメッセージが送信されると、通知が失敗し、オブジェクト履歴には、オブジェクトインスタンスの失敗として記録されます。

通知オプションは、次の中から選択できます。

- ・ 監査通知

監査通知を使用するには、監査データベースを設定し、サーバの監査を有効にする必要があります。監査機能を使用して BI プラットフォームシステムを監視する場合は、監査通知を使用できます。監査データベースの設定と監査機能の有効化の詳細については、SAP Help Portal (<http://help.sap.com>) にある『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

監査通知を選択すると、スケジュールされるオブジェクトの情報が監査データベースに書き込まれます。監査データベースへの通知は、ジョブが正常に実行されたとき、実行が失敗したとき、またはその両方の場合に送信できます。

- ・ 電子メール通知

オブジェクトインスタンスの成功または失敗に関する電子メール通知を送信することができます。電子メールの送信者と受信者、およびインスタンスが失敗したときと成功したときのどちらの場合に通知を送信するかを選択します。たとえば、レポートが失敗した場合には、管理者に電子メールを送信することができます。また、レポートが成功した場合には、レポートが利用可能であることを知らせる電子メールをユーザに自動的に送信することができます。

**注**

電子メール通知を有効にするには、Job Server で電子メール SMTP の出力先を有効にし、設定が行われている必要があります。詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

**注**

スケジュールされたオブジェクトの成功または失敗に関する通知は、アラート通知とは異なります。アラート通知は、レポートの設計に組み込まれている必要があります。たとえば、警告通知を使って、レポート内の特定の値が \$1,000,000 を上回ったときに電子メールを送信することができます。このケースでは、通知はレポートの内容に関係なく、単に、レポートオブジェクトのインスタンスが失敗したか成功したかのみを監視します。

### 7.2.1.5.3 インスタンスの成功または失敗に関する通知を設定する

通知オプションが利用可能な場合、ラベルは[無効]となります。通知タイプが使用中の場合、ラベルは[有効]となります。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 通知を設定するオブジェクトを選択します。
- 3 [アクション] > [スケジュール] を選択します。
- 4 ナビゲーション一覧で [通知] をクリックします。
- 5 監査通知を使用するには、[監査通知] をクリックし、以下のアクションを実行します。
  - ・ ジョブが成功した場合に監査データベースにレコードを送信するには、[ジョブの実行の成功] チェックボックスをオンにします。
  - ・ ジョブが失敗した場合に監査データベースにレコードを送信するには、[ジョブの実行の失敗] チェックボックスをオンにします。
- 6 電子メール通知を使用するには、[電子メール通知] をクリックし、以下のアクションを実行します。
  - ・ ジョブが成功した場合に電子メールを送信するには、[ジョブの実行の成功] チェックボックスをオンにします。電子メールのコンテンツおよび受信者を指定するには、[ここで使用する値を設定する] を選択し、[差出人] ボックスおよび [宛先] ボックスに電子メールアドレスを入力して、件名とメッセージを入力します。複数のアドレスまたは配信リストの区切り文字には、セミコロン (;) を使用してください。

- ・ ジョブが失敗した場合に電子メールを送信するには、[ジョブの実行の失敗] チェックボックスをオンにします。電子メールのコンテンツおよび受信者を指定するには、[ここで使用する値を設定する]を選択し、[差出人] ボックスおよび [宛先] ボックスに電子メールアドレスを入力して、件名とメッセージを入力します。複数のアドレスまたは配信リストの区切り文字には、セミコロン (;) を使用してください。

**注**

デフォルトで、通知はサーバのデフォルトの電子メール宛先に送信されます。

### 7.2.1.6 出力先の選択

BI プラットフォームがオブジェクトを実行すると、出力インスタンスはデフォルトで Output File Repository Server (FRS) に保存されます。ただし、オブジェクトまたはインスタンスを設定して、出力を別の出力先に送信することができます。たとえば、電子メールで特定のユーザに出力を自動配布するようにオブジェクトを設定することができます。追加の出力先を選択すると、エンタープライズシステム内および使用しているシステム外の出力先にインスタンスを柔軟に配布することができます。

デフォルトの Output File Repository Server 以外の出力先を指定すると、BI プラットフォームで出力ファイルの一意のファイル名が生成されます。ファイル名には、ID、オブジェクトの名前またはタイトル、所有者、および日時の情報の組み合わせが使用されます。

セントラル管理コンソール (CMC) または BI ラUNCHパッドでオブジェクトやインスタンスの出力先を選択できます。CMC を使用する場合、ここで選択する値が BI ラUNCHパッドのデフォルトのスケジュール値になります。

**注**

実行後に印刷されるようにオブジェクトインスタンスを設定することができます。

**関連項目**

- ・ 102 ページの[デフォルトの出力先を設定する](#)  
     インスタンスを別の場所ではなく Output File Repository Server (FRS) のみに保存する場合は、出力先として [デフォルトの Enterprise の場所] を使用します。
- ・ 103 ページの[BI 受信ボックスにオブジェクトをスケジュールする](#)
- ・ 103 ページの[オブジェクトを電子メールにスケジュールする](#)
- ・ 105 ページの[オブジェクトをファイルの場所にスケジュールする](#)
- ・ 104 ページの[オブジェクトを FTP サーバにスケジュールする](#)
- ・ 106 ページの[Job Server で出力先を有効/無効にする](#)

#### 7.2.1.6.1 出力先

次の出力先を選択できます。

- ・ デフォルトの Enterprise の場所
- ・ BI 受信ボックス
- ・ 電子メール

- ・ FTP サーバ
- ・ ファイルシステム
- ・ SAP StreamWork (有効化かつ設定されている場合)

表 7-4: デフォルトの Enterprise の場所出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションには、そのパブリケーションを作成したフォルダからアクセスできます。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li><li>・ パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li></ul> <p>この場所にパブリケーションを送信する場合は、すべての受信者がアクセスできるフォルダを選択します。</p>	<p>Output File Repository Server</p> <p>履歴のインスタンスはデフォルトの Enterprise サーバに保存されますが、他の出力先には保存されません。</p>



表 7-5: BI 受信ボックス出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションは、各受信者の BI 受信ボックスに送信されます。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出力先のデフォルト設定を使用する</li> <li>・ 個別のユーザにオブジェクトを配信する</li> </ul> <p><b>注</b> ユーザをすばやく見つけるには、[タイトルの検索] ボックスで受信者のユーザ名、フルネーム、または電子メールアドレスを検索できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ デフォルトのファイル名を使用するか、ファイル名を入力するか、プレースホルダを追加する。[指定の名前を使用する]を選択する場合は、ファイル拡張子を入力するか、ボックスにファイル拡張子のプレースホルダを追加します。</li> <li>・ ファイル名に自動的に拡張子を追加する</li> </ul> <p><b>警告</b> ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パブリケーションをショートカットまたはコピーとして送信する。パブリケーションを受信者の BI 受信ボックスにショートカットとして送信する場合は、すべての受信者がアクセスできるフォルダを選択します。パブリケーションのショートカットを BI 受信ボックスに送信するには、出力先として、[BI 受信ボックス] および [デフォルトの Enterprise の場所] の両方を選択します。</li> <li>・ すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li> <li>・ パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Output File Repository Server</li> <li>・ 指定された BI 受信ボックス</li> </ul>

表 7-6: 電子メール出力先

説明	インスタンスの保存先
	<ul style="list-style-type: none"><li>・ Output File Repository Server</li><li>・ 指定された電子メール受信者</li></ul> <p>レポートインスタンスをスケジュールするかこの出力先に送信するには、Adaptive Job Server で電子メール (SMTP) の出力先を有効にして設定する必要があります。</p>

説明	インスタンスの保存先
<p><b>注</b></p> <p>この出力先を選択する前に、Adaptive Job Server で電子メール設定が正しく設定されていることを確認します。</p> <p>パブリケーションは、電子メールで受信者に送信されます。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出力先のデフォルト設定を使用する</li> <li>・ 個別のユーザにオブジェクトを配信する</li> <li>・ (必須) [差出人] ボックスに自分の電子メールアドレスを入力する。電子メールアドレスを入力しない場合、BI プラットフォームでは、公開者のアカウントに関連付けられている電子メールアドレスが使用されます。公開者のアカウントに電子メールアドレスがない場合、BI プラットフォームでは、Adaptive Job Server の電子メールアドレスが使用されます。</li> </ul> <p><b>警告</b></p> <p>[差出人] ボックス、公開者のアカウント、または Adaptive Job Server のいずれにも電子メールアドレスがない場合、パブリケーションは失敗します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [宛先] ボックスに、受信者の電子メールアドレスを入力するか、電子メールアドレスのプレースホルダを追加する</li> <li>・ [CC] ボックスに、受信者の電子メールアドレスを入力するか、電子メールアドレスのプレースホルダを追加する</li> <li>・ [BCC] ボックスに、受信者の電子メールアドレスを入力するか、電子メールアドレスのプレースホルダを追加する</li> <li>・ [件名] ボックスに件名を入力するか、プレースホルダを追加する</li> <li>・ [メッセージ] ボックスに、パブリケーションと一緒に配信する情報を入力するか、プレースホルダを追加して電子メール本文に動的コンテンツドキュメントを埋め込む</li> <li>・ ソースドキュメントのインスタンスを電子メールに添付する</li> <li>・ デフォルトのファイル名を受け入れるか、ファイル名を入力するか、プレースホルダを追加する。[指</li> </ul>	

説明	インスタンスの保存先
<p>定の名前を使用する]を選択する場合は、ファイル拡張子を入力するか、ボックスにファイル拡張子のプレースホルダを追加します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ ファイル名に自動的に拡張子を追加する</li></ul> <p><b>警告</b> ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li><li>・ パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li></ul>	

表 7-7: FTP サーバ出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションは、FTP サーバに送信されます。[ホスト] ボックスに、FTP サーバの場所を入力する必要があります (入力しないと、BI プラットフォームは、Adaptive Job Server 用に設定された FTP サーバを使用します)。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出力先のデフォルト設定を使用する</li> <li>・ ポート番号、ユーザ名とパスワード、およびアカウントを入力する</li> <li>・ ディレクトリ名を入力する</li> <li>・ デフォルトのファイル名を受け入れるか、ファイル名を入力するか、プレースホルダを追加する。[指定の名前を使用する] を選択する場合は、ファイル拡張子を入力するか、ボックスにファイル拡張子のプレースホルダを追加します。</li> <li>・ ファイル名に自動的に拡張子を追加する</li> </ul> <p><b>警告</b></p> <p>ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li> <li>・ パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Output File Repository Server</li> <li>・ 選択された FTP サーバ</li> </ul>

表 7-8: ファイルシステム出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションは、ファイルシステムのディレクトリに送信されます。パブリケーションのディレクトリを入力する必要があります。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出力先のデフォルト設定を使用する</li> <li>・ ファイルの場所にアクセスするためのユーザ名とパスワードを入力する</li> <li>・ 個別のユーザにオブジェクトを配信する</li> <li>・ デフォルトのファイル名を受け入れるか、ファイル名を入力するか、プレースホルダを追加する。[指定の名前を使用する]を選択する場合は、ファイル拡張子を入力するか、ボックスにファイル拡張子のプレースホルダを追加します。</li> <li>・ ファイル名に自動的に拡張子を追加する</li> </ul> <p><b>警告</b> ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li> <li>・ パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Output File Repository Server</li> <li>・ 選択されたファイルの場所</li> </ul>

表 7-9: SAP StreamWork 出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションは、他のユーザとのコラボレーションのために送信されます。</p> <p><b>注</b> この出力先は、BI プラットフォームで SAP StreamWork が設定されて有効化されている場合に使用できます。</p>	SAP StreamWork

デフォルトでは、すべての出力先に対して [各ユーザにオブジェクトを配信] チェックボックスがオンになっています。ただし、場合によっては、各ユーザにオブジェクトを配信しないようにする場合もあります。たとえば、3 人の受信者が同一のパーソナライゼーション値を持っていると、パブリケーションインスタンスの同じデータが受

信されます。[各ユーザにオブジェクトを配信] チェックボックスをオフにした場合は、1 つのパブリケーションインスタンスが生成され、それが 3 人の受信者すべてに配信されます。[各ユーザにオブジェクトを配信] チェックボックスをオンにした場合は、同じパブリケーションインスタンスが 3 回 (受信者ごとに 1 回ずつ) 配信されます。

パブリケーションを [FTP サーバ] または [ファイルシステム] 出力先に送信し、何人かの受信者が同じパーソナライゼーション値を持っている場合は、[各ユーザにオブジェクトを配信] チェックボックスをオフにすると、処理時間全体を短縮できます。[各ユーザにオブジェクトを配信] をオフにする場合は、出力先の設定時に使用するプレースホルダには、受信者ではなく公開者の情報が入力されます。

#### 7.2.1.6.2 出力先オプション

##### 注

CMC の [サーバ] エリアで、デフォルトの Adaptive Job Server の設定を変更できます。詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

表 7-10: デフォルトの Enterprise の場所出力先

オプション	説明
出力先	<p>デフォルトの Enterprise の場所</p> <p>スケジュールされたジョブは、Output File Repository Server (FRS) で実行されます。この出力先では、追加のオプションを設定する必要はありません。</p> <p>履歴のインスタンスはデフォルトの Enterprise サーバに保存されますが、他の出力先には保存されません。</p>

表 7-11: BI 受信ボックス出力先

オプション	説明
出力先	BI 受信ボックス
履歴にインスタンスを保持する	<p>このチェックボックスをオンにすると、オブジェクトの履歴にこのインスタンスのコピーが保持されます。このチェックボックスはデフォルトではオンになっています。</p> <p>BI プラットフォームでインスタンスを Output FRS から自動的に削除してサーバ上のインスタンス数を最小限に抑える場合は、このチェックボックスをオフにします。</p>

オプション	説明
デフォルト設定を使用	BI 受信ボックスのデフォルトの Adaptive Job Server 値を使用する場合にこのチェックボックスをオンにします。 デフォルトの Adaptive Job Server 値を使用しない場合はこのチェックボックスをオフにして、表示される出力先受信者オプションを設定します。
[利用可能な受信者] および [選択した受信者]	[利用可能な受信者] リストで、インスタンスの送信先とするユーザまたはユーザグループを選択して、[>] をクリックして [選択した受信者] リストにユーザまたはユーザグループを追加します。
タイトルの検索 (利用可能な場合)	[利用可能な受信者] リストでユーザをすばやく見つけるには、[タイトルの検索] ボックスに受信者のユーザ名、フルネーム、または電子メールアドレスを入力します。
ターゲット名	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動的に生成される名前をインスタンスのファイル名に使用する場合は、[自動で生成された名前を使用する] を選択します。</li> <li>インスタンスのファイル名を選択するには、[指定の名前を使用する] を選択し、名前を入力するか、[プレースホルダの追加] リストからファイル名の変数を選択します。使用可能な変数は、[タイトル]、[ID]、[オーナー]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、[ユーザのフルネーム]、および [ファイル拡張子] です。</li> </ul> <p>インスタンスファイル名に自動的にファイル拡張子を追加する場合は、[ファイル拡張子を追加する] チェックボックスを選択します。ファイル拡張子を追加しない場合は、ドキュメントを開けないことがあります。</p>
送信者の名前	<ul style="list-style-type: none"> <li>インスタンスへのショートカットを受信者に送信するには、[ショートカット] を選択します。</li> <li>インスタンスのコピーを受信者に送信するには、[コピー] を選択します。</li> </ul>

表 7-12: 電子メール出力先

オプション	説明
出力先	電子メール



オプション	説明
履歴にインスタンスを保持する	<p>このチェックボックスをオンにすると、オブジェクトの履歴にこのインスタンスのコピーが保持されます。このチェックボックスはデフォルトではオンになっています。</p> <p>BI プラットフォームでインスタンスを Output FRS から自動的に削除してサーバ上のインスタンス数を最小限に抑える場合は、このチェックボックスをオフにします。</p>
デフォルト設定を使用	<p>電子メールのデフォルトの Adaptive Job Server 値を使用する場合にこのチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトの Adaptive Job Server 値を使用しない場合はこのチェックボックスをオフにして、表示される出力先受信者オプションを設定します。</p>
差出人	<p>差出人の電子メールアドレスを入力するか、[プレースホルダの追加] リストから電子メールアドレスの変数を選択します。使用可能な変数は、[タイトル]、[ID]、[オーナー]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、および [ユーザのフルネーム] です変数をクリックして追加します。電子メールアドレスは、セミコロン (;) で区切ります。</p> <p><b>注</b> システム設定によっては、このオプションを使用できない場合があります。</p>
宛先	<p>インスタンスを送信する電子メールアドレスをそれぞれ入力するか、[プレースホルダの追加] リストから電子メールアドレスの変数を選択します。使用可能な変数は、[タイトル]、[ID]、[オーナー]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、および [ユーザのフルネーム] です変数をクリックして追加します。電子メールアドレスは、セミコロン (;) で区切ります。</p>
CC	<p>電子メールとインスタンスのコピーを送信する電子メールアドレスをそれぞれ入力するか、[プレースホルダの追加] リストから電子メールアドレスの変数を選択します。使用可能な変数は、[タイトル]、[ID]、[オーナー]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、および [ユーザのフルネーム] です変数をクリックして追加します。電子メールアドレスは、セミコロン (;) で区切ります。</p>
BCC	<p>非公開受信者の電子メールアドレスをそれぞれ入力するか、[プレースホルダの追加] リストから電子メールアドレスの変数を選択します。使用可能な変数は、[タイトル]、[ID]、[オーナー]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、および [ユーザのフルネーム] です変数をクリックして追加します。電子メールアドレスは、セミコロン (;) で区切ります。</p>
件名	<p>電子メールの件名を入力するか、[プレースホルダの追加] リストから件名の変数を選択します。使用可能な変数は、[タイトル]、[ID]、[オーナー]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、および [ユーザのフルネーム] です変数をクリックして追加します。</p>

オプション	説明
メッセージ	電子メール本文のメッセージを入力するか、[プレースホルダの追加]リストからメッセージの変数を選択します。使用可能な変数は、[タイトル]、[ID]、[オーナー]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、[ユーザのフルネーム]、[ビューア]、および [ドキュメント名] です。変数をクリックして追加します。
添付ファイルの追加	インスタンスを含む電子メールに添付ファイルを追加する場合は、このチェックボックスをオンにします。
ファイル名	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動的に生成される名前をインスタンスのファイル名に使用する場合は、[自動で生成された名前を使用する] を選択します。</li> <li>インスタンスのファイル名を選択するには、[指定の名前を使用する] を選択し、名前を入力するか、[プレースホルダの追加] リストからファイル名の変数を選択します。使用可能な変数は、[タイトル]、[ID]、[オーナー]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、[ユーザのフルネーム]、および [ファイル拡張子] です。</li> </ul> <p>インスタンスファイル名に自動的にファイル拡張子を追加する場合は、[ファイル拡張子を追加する] チェックボックスを選択します。ファイル拡張子を追加しない場合は、ドキュメントを開けないことがあります。</p>

表 7-13: FTP サーバ出力先

オプション	説明
出力先	FTP サーバ
履歴にインスタンスを保持する	<p>このチェックボックスをオンにすると、オブジェクトの履歴にこのインスタンスのコピーが保持されます。このチェックボックスはデフォルトではオンになっています。</p> <p>BI プラットフォームでインスタンスを Output FRS から自動的に削除してサーバ上のインスタンス数を最小限に抑える場合は、このチェックボックスをオフにします。</p>
デフォルト設定を使用	<p>FTP サーバのデフォルトの Adaptive Job Server 値を使用する場合にこのチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトの Adaptive Job Server 値を使用しない場合はこのチェックボックスをオフにして、表示される出力先受信者オプションを設定します。</p> <p>CMC の [サーバ] エリアで、値を変更できます。詳細については、『SAP Business Objects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。</p>

オプション	説明
ホスト	インスタンスを送信する FTP サーバホストコンピュータの IP アドレスを入力します。
ポート	インスタンスを送信する FTP サーバのポートを入力します。デフォルトは「21」です。
ユーザ名	FTP サーバにオブジェクトをアップロードするアクセス権限を持つユーザ名を入力します。
パスワード	FTP サーバへのアクセスに必要なパスワードを入力します。
アカウント	FTP サーバへのアクセスに必要なアカウントを入力します。 <b>注</b> アカウントは標準の FTP プロトコルの一部ですが、実装されている場合はまれです。アカウントは、FTP サーバで必要な場合にのみ入力します。
ディレクトリ	インスタンスを送信する FTP ディレクトリへのパスを入力します。
ファイル名	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動的に生成される名前をインスタンスのファイル名に使用する場合は、[自動で生成された名前を使用する] を選択します。</li> <li>インスタンスのファイル名を選択するには、[指定の名前を使用する] を選択し、名前を入力するか、[プレースホルダの追加] リストからファイル名の変数を選択します。使用可能な変数は、[タイトル]、[ID]、[オーナー]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、[ユーザのフルネーム]、[ドキュメント名]、および [ファイル拡張子] です。</li> </ul> <p>インスタンスファイル名に自動的にファイル拡張子を追加する場合は、[ファイル拡張子を追加する] チェックボックスを選択します。ファイル拡張子を追加しない場合は、ドキュメントを開けないことがあります。</p>

表 7-14: ファイルシステム出力先

オプション	説明
出力先	ファイルシステム

オプション	説明
履歴にインスタンスを保持する	<p>このチェックボックスをオンにすると、オブジェクトの履歴にこのインスタンスのコピーが保持されます。このチェックボックスはデフォルトではオンになっています。</p> <p>BI プラットフォームでインスタンスを Output FRS から自動的に削除してサーバ上のインスタンス数を最小限に抑える場合は、このチェックボックスをオフにします。</p> <p><b>注</b> インスタンスは、イベントを監査するのに必要です。このチェックボックスは、スケジュールされたオブジェクトで監査が有効にされている場合は、無効にされます。</p>
デフォルト設定を使用	<p>ファイルシステムのデフォルトの Adaptive Job Server 値を使用する場合にこのチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトの Adaptive Job Server 値を使用しない場合はこのチェックボックスをオフにして、表示される出力先受信者オプションを設定します。</p>
ユーザ名	<p>出力先ディレクトリにファイルを保存するアクセス権を持つユーザ名を入力します。</p> <p><b>注</b> Windows のサーバにだけ、ユーザ名とパスワードを指定することができます。</p>
パスワード	<p>出力先ディレクトリへのアクセスに必要なユーザパスワードを入力します。</p> <p><b>注</b> Windows のサーバにだけ、ユーザ名とパスワードを指定することができます。</p>
ディレクトリ	<p>ローカルハードディスクの場所かマップされた場所へのパス、またはインスタンスを送信するディレクトリへの UNC パスを入力します。</p> <p>Web Intelligence ドキュメントをスケジュールしていて、変数（インスタンスのタイトル、オーナー、日時、ユーザ名など）に基づいてフォルダを作成する場合は、プレースホルダを使用します。プレースホルダは、このボックスのテキストの後に挿入されます。</p>

オプション	説明
ファイル名	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動的に生成される名前をインスタンスのファイル名に使用する場合は、[自動で生成された名前を使用する] を選択します。</li> <li>インスタンスのファイル名を選択するには、[指定の名前を使用する] を選択し、名前を入力するか、[プレースホルダの追加] リストからファイル名の変数を選択します。使用可能な変数は、[タイトル]、[ID]、[オーナー]、[日時]、(ユーザの) [電子メールアドレス]、[ユーザのフルネーム]、[ドキュメント名]、および [ファイル拡張子] です。</li> </ul> <p>インスタンスファイル名に自動的にファイル拡張子を追加する場合は、[ファイル拡張子を追加する] チェックボックスを選択します。ファイル拡張子を追加しない場合は、ドキュメントを開けないことがあります。</p>

[SAP StreamWork] 出力先は、BI プラットフォームで SAP StreamWork が有効化されて設定されている場合に使用できます。

表 7-15: SAP StreamWork 出力先

オプション	説明
出力先	SAP StreamWork
履歴にインスタンスを保持する	<p>このチェックボックスをオンにすると、オブジェクトの履歴にこのインスタンスのコピーが保持されます。このチェックボックスはデフォルトではオンになっています。</p> <p>BI プラットフォームでインスタンスを Output FRS から自動的に削除してサーバ上のインスタンス数を最小限に抑える場合は、このチェックボックスをオフにします。</p>
デフォルト設定を使用	<p>SAP StreamWork のデフォルトの Adaptive Job Server 値を使用する場合にこのチェックボックスをオンにします。</p> <p>デフォルトの Adaptive Job Server 値を使用しない場合はこのチェックボックスをオフにして、表示される出力先オプションを設定します。</p>
ファイル	このボックスにはファイル名が表示されます。ここで、名前を変更することはできません。
出力先の選択	レポートの出力先として、既存または新しいアクティビティを選択します。ワークリストでアクティビティをフィルタリングする場合は、最初のリストを使用します。

オプション	説明
ワークリストの選択	ワークリストの名前を入力するか、リストで選択します。
アクティビティの選択	アクティビティの名前を入力するか、リストで選択します。
アクティビティ名	オブジェクトを新しいアクティビティに公開する場合は、このボックスにアクティビティの名前が表示されます。
アクティビティの目的	このボックスには、可能な場合に、アクティビティの目的が表示されます。
アイテムの説明	(オプション) 参加者がオブジェクトの内容と使用方法を理解しやすくするために、オブジェクトのコンテンツに関する説明を入力します。
アクティビティの種類 の選択	(オプション) スケジュールするアクティビティの種類を選択します。
参加者の追加	(オプション) 新しい SAP StreamWork アクティビティを作成する場合は、アクティビティに招待する各参加者 (ユーザ) の電子メールアドレスを入力します。電子メールアドレスは、カンマで区切ります。

#### 7.2.1.6.3 デフォルトの出力先を設定する

インスタンスを別の場所ではなく Output File Repository Server (FRS) のみに保存する場合は、出力先として [デフォルトの Enterprise の場所] を使用します。

- 1 セントラル管理コンソール (CMC) で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 デフォルトの出力先を設定するオブジェクトを選択します。
- 3 [アクション] > [スケジュール] を選択します。
- 4 [出力先] をクリックします。
- 5 [出力先] リストで、[デフォルトの Enterprise の場所] を選択します。
- 6 [スケジュール] をクリックします。

#### 関連項目

- ・ 95 ページの [出力先オプション](#)

#### 7.2.1.6.4 BI 受信ボックスにオブジェクトをスケジュールする

オブジェクトをスケジュールする際に、1 つまたは複数のユーザの BI 受信ボックスにインスタンスを送信するように、オブジェクトを設定できます。BI プラットフォームでは、Output File Repository Server (FRS) にインスタンスが保存され、指定した BI 受信ボックスにインスタンスのコピーが送信されます。

デフォルトでは、BI 受信ボックスの出力先が Adaptive Job Server で有効になっており、設定されています。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 スケジュールするオブジェクトを選択します。
- 3 [アクション] > [スケジュール] を選択します。
- 4 [出力先] をクリックします。
- 5 [出力先] リストで、[BI 受信ボックス] を選択します。
- 6 [履歴にインスタンスを保持する] チェックボックスをオンまたはオフにします。
- 7 [デフォルト設定を使用] チェックボックスをオンまたはオフにします。  
チェックボックスをオンにした場合は、手順 9 に移動してください。
- 8 [デフォルト設定を使用] チェックボックスをオフにした場合、以下のアクションを実行します。
  - a [利用可能な受信者] で、インスタンスを送信するユーザを選択します。
  - b [ターゲット名] で、[自動で生成された名前を使用する] または [指定の名前を使用する] を選択します。
  - c [送信者の名前] で、[ショートカット] または [コピー] を選択します。
- 9 [スケジュール] をクリックします。

#### 関連項目

- ・ 95 ページの[出力先オプション](#)
- ・ 106 ページの[Job Server で出力先を有効/無効にする](#)

#### 7.2.1.6.5 オブジェクトを電子メールにスケジュールする

この出力先を使用する前に、Adaptive Job Server で電子メール (SMTP) 出力先が有効になっており、設定されている必要があります。

[電子メール] 出力先を選択する場合、BI プラットフォームでは Output File Repository Server に出力インスタンスが保存され、指定した電子メールアドレスに添付ファイルとしてインスタンスのコピーが送信されます。

#### 注

- ・ Crystal レポートおよびその他のオブジェクトインスタンスは、Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) メールサポートを経由して電子メール出力先に送信されます。
  - ・ BI プラットフォームは、MIME (Multipurpose Internet Mail Extensions) エンコーディングをサポートしています。
- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
  - 2 スケジュールするオブジェクトを選択します。
  - 3 [アクション] > [スケジュール] を選択します。
  - 4 [出力先] をクリックします。

- 5 [出力先] リストで、[電子メール] を選択します。
- 6 [履歴にインスタンスを保持する] チェックボックスをオンまたはオフにします。
- 7 [デフォルト設定を使用] チェックボックスをオンまたはオフにします。  
チェックボックスをオンにした場合は、手順 9 に移動してください。
- 8 [デフォルト設定を使用] チェックボックスをオフにした場合、以下のアクションを実行します。
  - a [差出人] ボックスに、返信先の電子メールアドレスを入力します。
  - b [宛先] ボックスに、インスタンスを送信する各受信者の電子メールアドレスを入力します。
  - c [CC] ボックスに、電子メールおよびインスタンスのコピーを送信する各受信者の電子メールアドレスを入力します。
  - d [BCC] ボックスに、電子メールおよびインスタンスのコピーを送信する非公開の各受信者の電子メールアドレスを入力します。
  - e [件名] ボックスに、電子メールの件名を入力します。
  - f [メッセージ] ボックスに、電子メール本文のメッセージを入力します。
  - g [添付ファイルの追加] チェックボックスをオンまたはオフにします。
  - h [ファイル名] で、[自動で生成された名前を使用する] または [指定の名前を使用する] を選択します。
- 9 [スケジュール] をクリックします。

#### 関連項目

- ・ 95 ページの[出力先オプション](#)
- ・ 106 ページの[Job Server で出力先を有効/無効にする](#)

#### 7.2.1.6.6 オブジェクトを FTP サーバにスケジュールする

この出力先を使用する前に、Adaptive Job Server で出力先が有効になっており、設定されている必要があります。

オブジェクトをスケジュールするときに、オブジェクトの出力先を FTP(File Transfer Protocol)サーバに設定できます。FTP サーバに接続するには、FTP サーバにファイルをアップロードできるアクセス権を持つユーザを指定する必要があります。FTP の出力先を指定する場合、出力インスタンスは、システムにより Output FRS および指定した出力先に保存されます。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 スケジュールするオブジェクトを選択します。
- 3 [アクション] > [スケジュール] を選択します。
- 4 [出力先] をクリックします。
- 5 [出力先] リストで、[FTP サーバ] を選択します。
- 6 [履歴にインスタンスを保持する] チェックボックスをオンまたはオフにします。
- 7 [デフォルト設定を使用] チェックボックスをオンまたはオフにします。  
チェックボックスをオンにした場合は、手順 9 に移動してください。
- 8 [デフォルト設定を使用] チェックボックスをオフにした場合、以下のアクションを実行します。
  - a [ホスト] ボックスに、インスタンスを送信する FTP サーバホストコンピュータの IP アドレスを入力します。
  - b [ポート] ボックスに、インスタンスを送信する FTP サーバのポートを入力します。



- c [ユーザ名] ボックスに、FTP サーバへのオブジェクトのアップロードが可能なアクセス権を持つユーザ名を入力します。
  - d [パスワード] ボックスに、FTP サーバにアクセスするのに必要なユーザパスワードを入力します。
  - e [アカウント] ボックスに、FTP サーバにアクセスするのに必要なアカウントを入力します。
  - f [ディレクトリ] ボックスに、インスタンスを送信する FTP ディレクトリへのパスを入力します。
  - g [ファイル名] で、[自動で生成された名前を使用する] または [指定の名前を使用する] を選択します。
- 9 [スケジュール] をクリックします。

#### 関連項目

- ・ 95 ページの[出力先オプション](#)」
- ・ 106 ページの[Job Server で出力先を有効/無効にする](#)」

#### 7.2.1.6.7 オブジェクトをファイルの場所にスケジュールする

この出力先を使用する前に、Adaptive Job Server で出力先が有効になっており、設定されている必要があります。さらに、処理サーバにファイルの場所への十分なアクセス権がある必要があります。

オブジェクトをスケジュールするときに、出力先がアンマネージドディスクになるようにオブジェクトを設定できます。この場合、BI プラットフォームは Output File Repository Server (FRS) および指定された出力先に出力インスタンスを保存します。

オブジェクトが Web Intelligence ドキュメントまたはオブジェクトパッケージの場合は、出力先としてアンマネージドディスクを選択できません。ただし、オブジェクトパッケージの場合は、オブジェクトパッケージ内の個々のオブジェクトの出力先をアンマネージドディスクに設定することができます。

#### 注

この場所は、処理サーバ上のローカルディレクトリである必要があります。Windows 上のサーバでは、保存場所として Universal Naming Convention (UNC) パスまたはローカルディレクトリを指定できます。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 スケジュールするオブジェクトを選択します。
- 3 [アクション] > [スケジュール] を選択します。
- 4 [出力先] をクリックします。
- 5 [出力先] リストで、[ファイルシステム] を選択します。
- 6 [履歴にインスタンスを保持する] チェックボックスをオンまたはオフにします。
- 7 [デフォルト設定を使用] チェックボックスをオンまたはオフにします。  
チェックボックスをオンにした場合は、手順 9 に移動してください。
- 8 [デフォルト設定を使用] チェックボックスをオフにした場合、以下のアクションを実行します。
  - a [ユーザ名] ボックスに、出力先ディレクトリにファイルを保存可能なアクセス権を持つユーザ名を入力します。
  - b [パスワード] ボックスに、出力先ディレクトリにアクセスするのに必要なユーザパスワードを入力します。
  - c [ディレクトリ] ボックスに、インスタンスの送信先となるローカルハードディスクの場所、マップされた場所、またはディレクトリへの UNC パスを入力します。
  - d [ファイル名] で、[自動で生成された名前を使用する] または [指定の名前を使用する] を選択します。
- 9 [スケジュール] をクリックします。

## 関連項目

- ・ 95 ページの[出力先オプション](#)」
- ・ 106 ページの[Job Server で出力先を有効/無効にする](#)」

## 7.2.1.6.8 コラボレーションのオブジェクトをスケジュールする

- ・ この出力先を使用する前に、Adaptive Job Server で出力先が有効になっており、設定されている必要があります。
  - ・ コラボレーションのオブジェクトをスケジュールするには、SAP StreamWork アカウントが有効化されている必要があります。
- 1 セントラル管理コンソール (CMC) で、[フォルダ] 領域を選択します。
  - 2 スケジュールするオブジェクトを選択します。
  - 3 [アクション] > [スケジュール] を選択します。
  - 4 [出力先] をクリックします。
  - 5 [出力先] リストで、[コラボレーション] を選択します。  
SAP StreamWork アカウントをユーザ名に関連付けていない場合は、SAP StreamWork へのログオンを求められます。
  - 6 [履歴にインスタンスを保持する] チェックボックスをオンまたはオフにします。
  - 7 [デフォルト設定を使用] チェックボックスをオンまたはオフにします。  
チェックボックスをオンにした場合は、手順 9 に移動してください。
  - 8 チェックボックスをオフにした場合、以下のアクションを実行します。
    - a [送信先の選択] リストで、レポートの出力先として既存または新しいアクティビティを選択します。
    - b [ワークリストの選択] リストで、スケジュールするワークリストの名前を入力するか、リストから名前を選択します。
    - c [アクティビティの選択] リストで、スケジュールするアクティビティの名前を入力するか、リストから名前を選択します。アクティビティの名前が [アクティビティ名] ボックスに表示されます。アクティビティの目的が定義されている場合は、[アクティビティの目的] ボックスに表示されます。
    - d [アイテムの説明] ボックスに、オブジェクトの説明を入力します。
    - e [アクティビティの種類の選択] リストで、アクティビティの種類を選択します。
    - f 新しいアクティビティを作成している場合は、[参加者の追加] ボックスに、アクティビティに招待する参加者の電子メールアドレスをカンマで区切って入力します。
  - 9 [スケジュール] をクリックします。

## 関連項目

- ・ 95 ページの[出力先オプション](#)」
- ・ 106 ページの[Job Server で出力先を有効/無効にする](#)」

## 7.2.1.6.9 Job Server で出力先を有効/無効にする

出力先を使用する前に、Adaptive Job Server で出力先が有効になっており、設定されている必要があります。

デフォルトでは、BI プラットフォームでのスケジュールされたレポートまたはプログラムオブジェクトの実行時に、作成された出力インスタンスが Output File Repository Server (FRS) に保存されます。オブジェクトをスケジュールしたり送信したりする出力先 (デフォルトの Enterprise の場所以外) を選択した場合、BI プラットフォームは、Output FRS に出力インスタンスを保存し、指定した出力先にコピーを保存します。

デフォルトでは、レポートおよびドキュメントを配信できるように、BI 受信ボックスの出力先が Adaptive Job Server で有効になっており、設定されています。Adaptive Job Server に出力先を追加して設定できます。

- 1 CMC で、[サーバ] エリアを選択します。
- 2 出力先を有効または無効にする Adaptive Job Server を選択します。
- 3 [管理] > [プロパティ] を選択します。
- 4 [プロパティ] ダイアログボックスで、[出力先] をクリックします。
- 5 次の操作のいずれかを実行します。
  - ・ 出力先を有効にするには、[出力先] リストで出力先を選択し、[追加] をクリックします。出力先を有効化したら、出力先を設定する必要があります。
  - ・ 出力先を無効にするには、[出力先] リストで出力先を選択し、[削除] をクリックします。
- 6 [保存] または [保存して閉じる] をクリックします。

### 7.2.1.7 Crystal レポートアラート通知

#### 注

アラート通知は、Crystal レポートにのみ適用されます。この機能は、Web Intelligence ドキュメントには適用されません。

Crystal レポートのアラート通知は、BI ラウンチパッドのアラートとは異なります。アラート通知は SAP Crystal Reports で作成されるカスタムメッセージです。レポートデータが条件を満たすと表示されます。アラート条件 (SAP Crystal Reports で定義されます) が満たされると、アラートが呼び出され、ユーザーが実行する必要があるアクションやレポートデータに関する情報を含むメッセージが表示されます。

BI プラットフォームには、オプションで Crystal レポートのスケジュール時にアラート通知を送信できます。アラート通知を有効にすると、SMTP サーバからメッセージが送信されます。さらに、電子メールの配信オプションの設定、電子メールアドレス、件名、およびメッセージの入力、受信者が使用するビューアの URL、および送信するアラートレコードの最大数の設定が可能です。

[アラート通知] リンクは、Crystal レポートオブジェクトにアラートがある場合にのみ使用できます。アラート通知を有効にするには、Adaptive Job Server で電子メール (SMTP) の出力先を有効にし、設定を完了しておく必要があります。詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

#### 注

アラート通知を無効にしても、Crystal レポートオブジェクト内ではアラートが発生します。ただし、通知は送信されません。

#### 関連項目

- ・ 137 ページの [アラートと Crystal レポートアラート通知の相違点](#)

#### 7.2.1.7.1 アラート通知を設定する

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 アラートを設定するレポートオブジェクトを選択します。
- 3 [アクション] > [スケジュール] を選択します。
- 4 [スケジュール] ウィンドウで [通知] をクリックします。
- 5 [アラート通知を有効にする] チェックボックスをオンにします。
- 6 [デフォルト設定を使用] をオンにしてデフォルトの Adaptive Job Server 設定を使用してアラート通知を配信するか、[カスタム設定] を選択して電子メール設定を指定します。

##### 注

CMC の [サーバ] エリアで、デフォルトの Adaptive Job Server の設定を変更できます。詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

- 7 受信者がレポートの表示に使用するビューアの URL を入力するか、デフォルトビューアを選択します。

ビューア URL には、W3C (World Wide Web Consortium) エンコーディングを使用する必要があります。たとえば、パス内のスペースを %20 に置き換えます。詳細については、<http://www.w3.org/>を参照してください。

##### ヒント

ビューア URL をデフォルトとして設定するには、CMC の [アプリケーション] エリアにある [セントラル管理コンソール] を選択し、[アクション] > [処理設定] を選択して [URL (URL エンコードされている必要があります)] ボックスに URL を入力します。

ビューア URL は、アラート通知電子メール内にハイパーリンクとして表示されます。

- 8 アラート通知に含めるアラートレコードの最大数を入力します。

アラート通知内のハイパーリンクは、アラートを発生させたレコードが含まれるレポートページを表示します。

##### ヒント

SAP Crystal Reports でアラート名およびステータスを入力します。

- 9 [スケジュール] をクリックします。

#### 7.2.1.8 インスタンスの出力ファイル形式

##### Crystal レポートのファイル形式[crystalレポートノファイルケイシキ]

オブジェクトは、インスタンスの種類ごとに異なる形式で送信またはスケジュールすることができます。Crystal レポートを特定の形式にスケジュールするために必要なオプションの詳細については、『SAP Crystal Reports 2011 ユーザガイド』のエクスポートに関する情報を参照してください。

[Crystal Reports] オプションは、すべてのオプションのほとんどの書式設定を保持します。Crystal Reports 以外のオプションを選択する場合、BI プラットフォームはその形式で可能な限り多くの書式設定を保持します。ただし、レポートでは一部または全部の書式設定が失われる場合があります。

**注**

スケジュール時にレポートの印刷を選択すると、レポートインスタンスが Crystal Reports 形式で自動的にプリンタに送信されます。このファイル形式は、レポートをスケジュールする際に選択したファイル形式と競合することはありません。

形式	説明
Crystal レポート	この .rpt 形式は、すべての出力形式オプションのほとんどの書式設定を保持します。この形式では、通常の編集可能なレポートが作成されます。
Crystal レポート (RPTR)	この .rprr 形式では、読み取り専用の Crystal レポートが作成されます。
Microsoft Excel(97-2003)	この .xls 形式では、元のレポートの外観を維持しようとします。データを保持し、セルのマージを行いません。レポートの書式設定プロパティをいくつか指定する必要があります。
Microsoft Excel (97-2003) (データのみ)	この .xls 形式ではデータのみが保存され、各セルはフィールドを表します。
Microsoft Excel ワークブックデータのみ	
Microsoft Word(97-2003)	この .doc 形式では、グラフィックを含め、できるだけ多くの書式設定が保持されます。各オブジェクトは、個別のテキストフィールドに表示されます。
PDF	.pdf 形式
リッチテキスト形式(RTF)	この .rtf 形式では、グラフィックを含め、できるだけ多くの書式設定が保持されます。各オブジェクトは、個別のテキストフィールドに表示されます。このオプションは、Web ビューアでのみ使用できます。
Microsoft Word - 編集可能 (RTF)	この .doc 形式で維持される書式設定は、Microsoft Word (97-2003) オプションよりも少なくなります。テキストは行内に表示され、イメージはテキストと共に行内に配置されます。
テキスト	
ページ区切り付きテキスト	レポートの書式設定プロパティをいくつか指定する必要があります。

形式	説明
タブ区切りテキスト (TTX)	この形式では、複数の値の間にタブ文字を置きます。レポートの書式設定プロパティをいくつか指定する必要があります。
カンマ区切り値(CSV)	この .csv 形式では、複数の値の間に指定された文字を置きます。レポートの書式設定プロパティをいくつか指定する必要があります。たとえば、このオプションを選択した場合は、区切り文字および区切り記号を入力する必要があります。
XML	.xml 形式

## Web Intelligence ファイル形式

形式	説明
Web Intelligence	
Microsoft Excel	
Adobe Acrobat	.pdf 形式
カンマ区切り値 (CSV)	.csv 形式

## 7.2.1.8.1 出力ファイル形式を選択する

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 出力ファイル形式を選択するレポートオブジェクトを選択します。
- 3 [アクション] > [スケジュール] を選択します。
- 4 [形式] をクリックします。
- 5 出力形式を選択します。  
たとえば、Crystal レポートの場合は、[選択したドキュメントの形式オプション] で形式を選択します。Web Intelligence ドキュメントの場合は、[出力形式] で形式を選択します。
- 6 必要に応じて他のスケジュールオプションを設定します。
- 7 [スケジュール] をクリックします。

## 関連項目

- ・ 111 ページの[Crystal レポートインスタンスの書式設定オプション](#)」

## 7.2.1.8.2 Crystal レポートインスタンスの書式設定オプション

Crystal レポートインスタンスをいくつかの出力形式にスケジュールする場合、追加のオプションの設定が必要になる場合があります。

表 7-18: Microsoft Excel (97-2003) 形式

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ すべてのページをレポートに含めるには、[すべて] を選択します。</li> <li>・ ある範囲のページを含めるには、[開始] をクリックして最初を含めるページを入力し、[終了] フィールドに最後に含めるページ番号を入力します。</li> </ul>
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスをクリックします。他の書式設定オプションは設定できません。
列幅の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レポート内のオブジェクトに基づいて Excel 列の幅を設定するには、[列幅を次のオブジェクトに合わせる] を選択し、リストで列幅を取得するレポート領域を選択します。</li> <li>・ 一定の列幅を設定するには、[列幅を一定にする (ポイント単位)] を選択し、ボックスに幅を入力します。</li> </ul>
ページヘッダとページフッタをエクスポートする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ インスタンスにページヘッダとページフッタをエクスポートするタイミングを選択するには、[レポートごとに 1 回] または [各ページ] を選択します。</li> <li>・ インスタンスからページヘッダおよびページフッタを除外するには、[なし] を選択します。</li> </ul>
ページごとにページ区切りを作成	レポート内の各ページの後にページ区切りを作成する場合は、このチェックボックスを選択します。
日付の値を文字列に変換する	レポート内の日付値をテキスト文字列としてエクスポートする場合は、このチェックボックスを選択します。
グリッドラインの表示	エクスポートしたドキュメントにグリッドラインを表示する場合は、このチェックボックスを選択します。

表 7-19: Microsoft Excel (97-2003) (データのみ) および Microsoft Excel ワークブックのデータ専用形式

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスをクリックします。他の書式設定オプションは設定できません。
列幅の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポート内のオブジェクトに基づいて Excel 列の幅を設定するには、[列幅を次のオブジェクトに合わせる] を選択し、リストで列幅を取得するレポート領域を選択します。</li> <li>一定の列幅を設定するには、[列幅を一定にする (ポイント単位)] を選択し、ボックスに幅を入力します。</li> </ul>
オブジェクトの書式設定をエクスポートする	オブジェクトの書式設定を維持する場合は、このチェックボックスを選択します。
画像をエクスポートする	レポート内の画像をエクスポートする場合は、このチェックボックスを選択します。
集計にワークシートの関数を使用する	レポートで集計を使用して Excel でワークシート関数を作成する場合は、このチェックボックスを選択します。
オブジェクトの相対位置を維持する	別のオブジェクトと相対的なオブジェクトの位置を維持する場合は、このチェックボックスを選択します。
列の配置を維持する	レポートの列内のテキスト配置を維持する場合は、このチェックボックスを選択します。
ページヘッダとページフッタをエクスポートする	インスタンスにヘッダおよびフッタを含める場合は、このチェックボックスを選択します。
ページヘッダを簡略化する	簡略なページヘッダを使用する場合は、このチェックボックスを選択します。
グループのアウトラインを表示する	グループアウトラインを表示する場合は、このチェックボックスを選択します。



表 7-20: Microsoft Word (97-2003) 形式

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのページをレポートに含めるには、[すべて] を選択します。</li> <li>ある範囲のページを含めるには、[開始] をクリックして最初を含めるページを入力し、[終了] フィールドに最後に含めるページ番号を入力します。</li> </ul>

表 7-21: PDF 形式

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのページをレポートに含めるには、[すべて] を選択します。</li> <li>ある範囲のページを含めるには、[開始] をクリックして最初を含めるページを入力し、[終了] フィールドに最後に含めるページ番号を入力します。</li> </ul>
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスをクリックします。他の書式設定オプションは設定できません。
グループツリーからブックマークを作成	レポートのツリー構造に基づいて PDF ファイルにブックマークを作成する場合は、このチェックボックスを選択します。これにより、レポート内での移動が簡単になります。

表 7-22: リッチテキスト形式 (RTF)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのページをレポートに含めるには、[すべて] を選択します。</li> <li>ある範囲のページを含めるには、[開始] をクリックして最初を含めるページを入力し、[終了] フィールドに最後に含めるページ番号を入力します。</li> </ul>

表 7-23: Microsoft Word – 編集可能 (RTF) 形式

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのページをレポートに含めるには、[すべて] を選択します。</li> <li>ある範囲のページを含めるには、[開始] を選択して最初を含めるページを入力し、[終了] ボックスに最後に含めるページを入力します。</li> </ul>

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスをクリックします。他の書式設定オプションは設定できません。
レポートのページごとに改ページする	レポート内の各ページの後にページ区切りを挿入する場合に、このチェックボックスを選択します。

表 7-24: テキスト形式

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスをクリックします。他の書式設定オプションは設定できません。
インチあたりの文字数	インチあたりに含める文字数として 8 ～ 16 の値を入力します。この設定では、テキストファイルの表示方法と書式設定方法を指定します。

表 7-25: ページ区切り付きテキスト形式

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスをクリックします。他の書式設定オプションは設定できません。
1 ページあたりの行数	ページ区切り間に含めるテキストの行数を入力します。
インチあたりの文字数	インチあたりに含める文字数として 8 ～ 16 の値を入力します。この設定では、テキストファイルの表示方法と書式設定方法を指定します。

表 7-26: 区切り値 (CSV) 形式

オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスをクリックします。他の書式設定オプションは設定できません。
区切り文字	区切り文字として使用する文字を入力します。
区切り文字	値を区切るのに使用する文字を入力するか、[タブ] チェックボックスを選択します。
モード	[標準モード] または [レガシーモード] を選択します。 [標準モード] を選択すると、インスタンスに含めるレポートセクション、ページセクション、およびグループセクションを選択できます。[レガシーモード] を選択すると、レポートセクション、ページセクション、またはグループセクションのオプションを選択できません。
レポートセクションとページセクション	[標準モード] を選択した場合、[エクスポート] または [エクスポートしない] を選択してレポートセクションとページセクションをエクスポートするかどうかを指定します。 [エクスポート] を選択した場合、レポートセクションとページセクションを切り離すには、[レポート/ページセクションを切り離す] チェックボックスを選択します。
グループセクション	[標準モード] を選択した場合、[エクスポート] または [エクスポートしない] を選択してグループセクションをエクスポートするかどうかを指定します。 [エクスポート] を選択した場合、グループセクションを切り離すには、[グループセクションを切り離す] チェックボックスを選択します。

表 7-27: XML


オプション	説明
レポートで指定されたエクスポートオプションを使用	レポートで指定されたエクスポートオプションを使用する場合は、このチェックボックスをクリックします。他の書式設定オプションは設定できません。
XML エクスポート形式	[Crystal Reports XML] などの XML エクスポート形式を選択します。

### 7.2.1.9 Web Intelligence ドキュメントのキャッシュ形式を選択する

キャッシュ形式の選択は、Web Intelligence ドキュメントにのみ適用されます。キャッシュ形式は、Crystal レポートには影響しません。

スケジュールされた Web Intelligence ドキュメントを BI プラットフォームが実行する際には、生成されたインスタンスが Output File Repository Server (FRS) に保存されます。キャッシュ形式を選択すると、BI プラットフォームは適切なレポートサーバにインスタンスをキャッシュします。キャッシュ形式を選択しないと、システムはインスタンスをキャッシュしません。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 キャッシュ形式を選択する Web Intelligence ドキュメントオブジェクトを選択します。
- 3 [アクション] > [スケジュール] を選択します。
- 4 [キャッシュ] をクリックします。
- 5 [キャッシュで利用可能な形式] で、[Microsoft Excel]、[標準の HTML]、または [Adobe Acrobat] を選択します。  
複数の形式を選択できます。  
キャッシュは、選択した形式で事前ロードされます。

- 6 [利用可能なロケール] で、キャッシュの事前ロードで使用するロケールを選択し、 をクリックしてロケールを [選択されたロケール] リストに移動します。

複数のロケールを選択できます。この Web Intelligence ドキュメントをスケジュールすると、BI プラットフォームはこれらのロケールにドキュメントのキャッシュ済みバージョンを生成します。

キャッシュは、選択したロケールで事前ロードされます。

- 7 必要に応じて他のスケジュールオプションを設定します。
- 8 [スケジュール] をクリックします。

### 7.2.1.10 オブジェクトのイベント発生時のスケジュールの設定

イベント発生に合わせてオブジェクトをスケジュールすると、イベントが発生したときにのみオブジェクトが実行されます。以下のイベントタイプが発生するまで、オブジェクトが待機するようにスケジュールできます。

- ・ ファイルベース: 特定のファイルが存在する場合に発生します。
- ・ カスタム: 手動で発生させます。
- ・ スケジュールベース: 実行中の他のオブジェクトによって発生します。

スケジュールされたオブジェクトによってイベントを発生させるには場合は、スケジュールベースのイベントを選択する必要があります。

### イベントの発生に基づくオブジェクトのスケジュール

イベントの発生に基づくオブジェクトをスケジュールすると、そのイベントが発生し、他のスケジュール条件が満たされたときにのみオブジェクトは実行されます。

オブジェクトの開始日時より前にイベントが発生した場合、オブジェクトは実行されません。オブジェクトの終了日時を指定して、その終了日時より前にイベントが発生しなかった場合は、すべての条件が満たされないためオブジェクトは実行されません。

週単位、月単位、またはカレンダースケジュールを選択すると、オブジェクトを実行できる特定の時間枠が設定されます。オブジェクトが実行されるためには、イベントがその時間枠内に発生する必要があります。たとえば、毎週火曜日に実行する週単位レポートオブジェクトをスケジュールした場合、イベントはそのインスタンスの日付が終わる前に（この場合月曜日の終わりまで）に発生する必要があります。

### イベントを発生させるオブジェクトのスケジュール

#### 注

イベント発生に合わせてオブジェクトをスケジュールするには、最初にイベントを作成しておく必要があります。


スケジュールベースのイベントを発生させるようにオブジェクトをスケジュールすると、そのオブジェクトの実行後にイベントが発生します。たとえば、スケジュールベースのイベントが成功したインスタンスに基づく場合、インスタンスが失敗するとイベントは発生しません。

#### 関連項目

- ・ 31 ページの[一般的なオブジェクトの管理](#)
- ・ 116 ページの[オブジェクトのイベント発生時のスケジュールの設定](#)

## 7.2.1.10.1 イベントの発生に基づいてオブジェクトの実行をスケジュールする

イベントの発生後にスケジュールされたジョブを実行する場合は、このタスクを実行します。


- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 イベントの発生に基づいて実行するオブジェクトを選択します。
- 3 [アクション] > [スケジュール] を選択します。
- 4 ナビゲーション一覧で [繰り返し] をクリックします。
- 5 [オブジェクトの実行] リストで、実行オプションを選択します。
- 6 必要に応じて、オブジェクトの他の定期的なスケジュールオプションを設定します（開始日、終了日など）。
- 7 ナビゲーション一覧で [イベント] をクリックします。
- 8 [利用可能なイベント] で、1 つまたは複数のイベントを選択し、 をクリックしてそのイベントを [待機するイベント] リストに追加します。
- 9 [スケジュール] をクリックします。

#### 関連項目

- ・ 81 ページの[定期スケジュールパターン](#)
- ・ 82 ページの[定期的なスケジュールパターンの実行オプション](#)
- ・ 127 ページの[イベント](#)

### 7.2.1.10.2 イベントを発生させるオブジェクトをスケジュールする

スケジュールされたジョブの実行時にイベントを発生させる場合は、このタスクを実行します。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 イベントを発生させるオブジェクトを選択します。
- 3 [アクション] > [スケジュール] を選択します。
- 4 ナビゲーション一覧で [繰り返し] をクリックします。
- 5 [オブジェクトの実行] リストで、実行オプションを選択します。
- 6 必要に応じて、オブジェクトの他の定期的なスケジュールオプションを設定します (開始日、終了日など)。
- 7 ナビゲーション一覧で [イベント] をクリックします。
- 8 [利用可能なスケジュールイベント] で、1 つまたは複数のイベントを選択し、 をクリックしてそのイベントを [完了時に発生させるイベント] リストに追加します。  
スケジュールに基づくイベントだけを選択できます。
- 9 [スケジュール] をクリックします。

#### 関連項目

- ・ 81 ページの[定期スケジュールパターン](#)」
- ・ 82 ページの[定期的なスケジュールパターンの実行オプション](#)」
- ・ 130 ページの[スケジュールベースのイベント](#)」

### 7.2.1.11 スケジュールされたオブジェクトのサーバを選択する

スケジュールされたオブジェクトを実行するサーバを選択できます。これにより、負荷分散をさらに制御できます。たとえば、システムリソースを独占しないように、特定のサーバグループ上でプログラムジョブを実行できます。

ユーザが Crystal レポートまたは Web Intelligence ドキュメントのインスタンスを表示しながら最新表示するときに BI プラットフォームで使用するサーバグループを選択することができます。

- 1 CMC で、[フォルダ] 領域を選択します。
- 2 スケジュールするオブジェクトを選択します。
- 3 [アクション] > [スケジュール] を選択します。
- 4 ナビゲーション一覧で [サーバグループのスケジュール] をクリックします。
- 5 適切なオプションを選択します。
  - ・ [最初に見つかった利用可能なサーバを使用する]を選択すると、サーバグループに関係なく、できるだけ速やかにオブジェクトを実行します。
  - ・ 複数のサーバグループを利用できる場合に特定のサーバグループを使用する場合は、[選択したグループに所属するサーバを優先して使用する]を選択します。

- ・ [選択したグループに所属するサーバだけを使用する]を選択すると、必ず指定されたサーバグループでジョブが実行されます。

**注**

プログラムスケジュールサービスをホストする Adaptive Job Server 上にローカルで保存されたファイルにアクセスする必要があるプログラムオブジェクトをスケジュールする際、Adaptive Job Server が複数存在する場合は、プログラムを実行するサーバを指定する必要があります。

- 6 オブジェクトが存在する場所で実行する場合は、[元のサイトで実行]を選択または選択解除します。
- 7 その他のスケジュールオプションを設定し、[スケジュール]をクリックします。

### 7.2.1.12 レポートインスタンスの言語を選択する

**注**

このタスクは、SAP Crystal Reports のみに適用されます。

このタスクは、レポートインスタンスを異なる言語で生成する場合に実行します。

- 1 CMC の [フォルダ] 管理エリアで、スケジュールするオブジェクトを選択します。
- 2 [アクション] > [スケジュール]をクリックします。
- 3 ナビゲーション一覧で [言語] をクリックします。
- 4 以下の言語オプションからいずれかを選択します。
  - ・ 優先表示ロケールでレポートをスケジュール

このオプションを選択すると、基本設定で設定した優先表示ロケールに従ってレポートがスケジュールされ、そのロケールだけを使用してインスタンスが生成されます。

- ・ 複数のロケールでレポートをスケジュール

このオプションを選択すると、レポートが複数の言語でスケジュールされます。このオプションを選択した場合は、ロケールの選択も必要になります。このためには、[すべてのロケール] 一覧から [選択インスタンスロケール] 一覧にロケールを移動します。

- 5 必要に応じて他のスケジュールパラメータを設定し、[スケジュール] をクリックします。

### 7.2.2 オブジェクトを直ちに実行する

スケジュールする代わりに、[今すぐ実行] を使用すると、CMC の [フォルダ] 管理エリアからオブジェクトを一度に実行できます。オブジェクトをすぐに実行すると、オブジェクトはデフォルトのスケジュール設定を使用して直ちに実行されます。

- 1 CMC の [フォルダ] 管理エリアを表示します。
- 2 実行するオブジェクトを探して選択します。

- 3 [アクション] > [今すぐ実行] をクリックします。

### 7.2.3 オブジェクトパッケージによるオブジェクトのスケジュール

オブジェクトパッケージ機能を使用すると、オブジェクトをバッチでスケジュールすることができます。オブジェクトパッケージは、BI プラットフォームの独立したオブジェクトです。レポートオブジェクト、プログラムオブジェクト、および Web Intelligence ドキュメントなどのスケジュール可能なオブジェクトを自由に組み合わせてこれに含めることができます。オブジェクトパッケージを使用することで認証処理が簡便になり、ユーザは異なるオブジェクトのインスタンス間で同期されたデータを表示することができます。

オブジェクトパッケージを使用してオブジェクトをスケジュールするには、最初にオブジェクトパッケージを作成します。次に、既存のオブジェクトをオブジェクトパッケージにコピーします。最後に、任意のオブジェクトと同様に、そのオブジェクトパッケージをスケジュールします。

#### 注

オブジェクトパッケージに含まれている各コンポーネントの処理情報は、個別に設定する必要があります。たとえば、スケジュール時にオブジェクトパッケージ内のレポートオブジェクトを印刷する場合は、[スケジュール] ダイアログボックスの [コンポーネント] をクリックし、印刷するコンポーネントのタイトルをクリックして、オブジェクトの印刷を設定する必要があります。次にそのコンポーネントの [出力設定] を展開して、コンポーネント自体についてスケジュールするときと同様に印刷を設定します。

#### 関連項目

- ・ 70 ページの [オブジェクトパッケージとオブジェクトの設定](#)
- ・ 51 ページの [ハイパーリンクを使用したレポートでの作業](#)

## 7.3 インスタンスの管理

BI プラットフォームでは、オブジェクトからインスタンスが生成されます。つまり、レポートオブジェクトがスケジュールされ、Job Server によって実行されると、レポートインスタンスが生成されます。レポートインスタンスは、1 つまたは複数のデータベースから取得されたレポートデータが含まれるレポートオブジェクトです。各インスタンスには、レポートが処理された時点のデータが含まれます。

同様に、BI プラットフォームでは、プログラムオブジェクトがスケジュールされ、Job Server によって実行されるたび、プログラムインスタンスも生成されます。完全な書式で表示可能なレポートインスタンスと違って、プログラムインスタンスはオブジェクト履歴内にレコードとして存在します。BI プラットフォームでは、プログラムの標準出力と標準エラーがテキスト形式の出力ファイルに保存されます。

インスタンスを表示および管理するには、以下のいずれかを実行します。

- ・ オブジェクトの [履歴] ダイアログボックスを開く。
- ・ インスタスマネージャに移動する。



## 関連項目

- ・ 121 ページの[インスタンス情報の表示](#)」
- ・ 126 ページの[インスタンスに制限を設定する](#)」
- ・ 122 ページの[インスタンスマネージャ](#)」

## 7.3.1 インスタンス情報の表示

BI プラットフォームでは、[インスタンスマネージャ] または各オブジェクトの [履歴] ダイアログボックスを使用して、インスタンスを管理できます。以下の表に、各インスタンスの列と表示されるインスタンス情報を示します。

表 7-28: [履歴] ダイアログボックスに表示されるインスタンス情報

列	表示される情報
インスタンスの日時	各インスタンスの最終更新日時。
タイトル	インスタンスのタイトル。
ステータス	各インスタンスのステータス。
実行者	インスタンスをスケジュールしたユーザ。
書式	レポートインスタンスを保存するときの書式。レポートオブジェクトのみに適用されます。
パラメータ	各インスタンスで使用された、または使用される予定のパラメータ。レポートオブジェクトのみに適用されます。
引数	各インスタンスのコマンドラインインタフェースに渡された、または渡される予定のコマンドラインオプション。プログラムオブジェクトのみに適用されます。

## 注

オブジェクトタイプによっては、上の表に示されていない別の列が表示される場合があります。

表 7-29: インスタンスマネージャに表示されるインスタンス情報

列	表示される情報
タイトル	インスタンスのタイトル。
型	オブジェクトの種類
ステータス	各インスタンスのステータス。

列	表示される情報
場所	リポジトリ内のオブジェクトの場所。
所有者	インスタンスをスケジュールしたユーザ。
終了時刻	インスタンスの実行が完了した日時。
次回実行時	定期スケジュールが設定され、ステータスが保留となっているオブジェクトの次回実行時刻。
送信時刻	ユーザがオブジェクトをスケジュールした日時。
開始時刻	オブジェクトの実行開始日時。
期間 (秒)	スケジュールされたジョブの期間。
繰り返し	スケジュールされたジョブの頻度。
有効期限	インスタンスの実行終了日時、またはエラーによる終了日時。
サーバ	インスタンスが実行されたサーバ。
エラー	実行中に発生し、オブジェクトの失敗原因となったエラー (エラーが発生した場合)。

#### 関連項目

- ・ 125 ページの[インスタンスを表示する](#)」
- ・ 125 ページの[インスタンスの一時停止および再開](#)」
- ・ 126 ページの[インスタンスを削除する](#)」

### 7.3.1.1 インスタンスマネージャ

[インスタンスマネージャ] を使用すると、BI プラットフォームデプロイメント内のすべてのインスタンスを 1 つの場所から表示および管理できます。インスタンスマネージャを使用すると、以下のようなタスクを実行できます。

- ・ 特定のインスタンスを検索する。
- ・ 複数のインスタンスを選択し、それらに対して、一時停止、再開、削除などのバッチ操作を実行する。
- ・ 単一インスタンスの詳細情報を表示する。
- ・ インスタンスエラーの原因となっているシステムの問題を診断して解決する。

インスタンスマネージャのデフォルトビューには、保留中のインスタンスがタイトル別に表示されます。インスタンスに関する詳細情報を表示するには、インスタンスを選択し、ツールバーの[インスタンスの詳細]アイコンをクリックします。

#### 例 インスタンスマネージャを使用したトラブルシューティング

管理者がCMCにログオンし、インスタンスマネージャを確認して、複数のジョブが失敗していることに気づいたとします。管理者は一覧をフィルタ処理し、この2日間に失敗したジョブだけを表示すると、それらはすべて同じサーバで実行されていることがわかりました。管理者は一覧をサーバ別に並べ替え、失敗したジョブがすべて同じサーバで実行されていることを確認します。各失敗のエラーコードは同じでした。管理者が1つのインスタンスの詳細情報を表示すると、データベース接続が正しく再接続されていないことがわかりました。管理者はデータベース接続を正しく再接続し、インスタンスマネージャに戻って失敗したすべてのジョブを再実行します。

---

#### 7.3.1.1.1 インスタンスマネージャでの特定のインスタンスの検索

インスタンスマネージャで特定のインスタンスを検索するには、[次の基準を満たすインスタンスを検索する]のオプションを使用します。次の表に、使用可能なオプションを示します。

オプション	有効化方法
親フォルダ	[親フォルダ] チェックボックスをオンにして、リポジトリフォルダを参照します。BI プラットフォームでは、親フォルダ内のすべてのインスタンスが一覧表示されます。
所有者	[所有者] チェックボックスをオンにし、ユーザ名を入力して、そのユーザによってスケジュールされているインスタンスを検索します。
ステータス	[ステータス] チェックボックスをオンにして、一覧から以下のステータスのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成功</li> <li>・ 失敗</li> <li>・ 実行中</li> <li>・ 一時停止</li> <li>・ 待機中</li> <li>・ 繰り返し</li> </ul>
オブジェクトタイプ	[オブジェクトタイプ] チェックボックスをオンにして、一覧からオブジェクトタイプを選択します。
終了時刻	[終了時刻] チェックボックスをオンにして、開始時刻と停止時刻を設定します。 <b>注</b> 完了したパブリケーションインスタンスについては、[オブジェクトの種類]を有効にし、[パブリケーション]に設定して、終了時刻を設定することをお勧めします。
次回実行時	[次回実行時] チェックボックスをオンにして、開始時刻と停止時刻を設定します。

複数のオプションを同時に使用してインスタンスを検索することができます。入力したすべての基準に一致するインスタンスだけが表示されます。完了したら、[検索] をクリックします。

#### 注

BI 受信ボックスにオブジェクトをスケジュールすると、ユーザが BI 受信ボックスで受け取ったドキュメントはインスタンスとして見なされません。したがって、これらの BI 受信ボックスドキュメントはインスタンスマネージャに表示されません。

### 7.3.1.2 オブジェクトのインスタンスを管理する

このタスクは、特定のオブジェクトのインスタンスを表示および管理する場合に実行します。すべてのオブジェクトのインスタンスを表示および管理する場合は、このタスクの代わりに、インスタンスマネージャを使用します。

- 1 CMC の [フォルダ] 管理エリアで、オブジェクトを選択します。
- 2 [アクション] > [履歴] をクリックします。
- 3 インスタンス(複数可)を選択します。

**注**

このリストを最新表示するには、[最新表示] をクリックします。この場合、最初にインスタンスを選択する必要はありません。

- 4 [今すぐ実行]、[一時停止]、[再開]、[送信]、[再スケジュール]、または[削除]のいずれかをクリックします。  
[今すぐ実行] をクリックすると、システムはオブジェクトをすぐに実行するようにスケジュールします。スケジュールされたジョブのステータスは、[待機中] になります。

**関連項目**

- ・ 122 ページの [インスタスマネージャ](#)

### 7.3.1.3 インスタンスを表示する

- 1 CMC の [フォルダ] 管理エリアで、オブジェクトを選択します。
- 2 [アクション] > [履歴] をクリックします。
- 3 [インスタンスの日時] 列で、表示するインスタンスをクリックします。

インスタスマネージャを使用すると、ステータス別やユーザ別にインスタンスのリストを表示することができます。

すべての列をデフォルトの幅で表示するためには、右側にスクロールする必要があります。

**注**

[送信時刻]、[開始時刻]、[期間]、[繰り返し]、または[有効期限]列を使用してインスタンスを並べ替えることはできません。

**関連項目**

- ・ 122 ページの [インスタスマネージャ](#)

### 7.3.2 インスタンスの一時停止および再開

必要に応じてインスタンスを一時停止し、後でこれを再開することができます。一時停止と再開はスケジュールされたインスタンスのみに適用できます。つまり、ステータスが“定期”と“待機”のインスタンスのみです。

たとえば、保守作業のために Job Server が休止している場合などには、スケジュールされたインスタンスを一時停止することが望ましい場合もあります。一時停止にすることによってオブジェクトの実行が停止され、Job Server の休止によるオブジェクトの失敗を防ぐことができます。Job Server が再始動したら、このスケジュールされたオブジェクトを再開することができます。

### 7.3.2.1 インスタンスを一時停止する

- 1 オブジェクトの[履歴]ダイアログボックスを表示します。
- 2 一時停止するスケジュール済みインスタンスを選択します。
- 3 [一時停止]をクリックします。

### 7.3.2.2 一時停止したインスタンスを再開する

- 1 オブジェクトの[履歴]ダイアログボックスを表示します。
- 2 再開するスケジュール済みインスタンスを選択します。
- 3 [再開]をクリックします。

## 7.3.3 インスタンスを削除する

必要に応じてオブジェクトからインスタンスを削除できます。ステータスが“定期”または“待機”のスケジュールされたインスタンスと、ステータスが“成功”または“失敗”のレポートインスタンスまたはプログラムインスタンスの両方を削除できます。

- 1 オブジェクトの[履歴]ダイアログボックスを表示します。
- 2 削除するインスタンス(複数可)を選択します。
- 3 [削除]をクリックします。

## 7.3.4 インスタンスに制限を設定する

制限は、古いインスタンスの自動/定期クリーンアップに対して設定します。システム上に残すオブジェクトやユーザ/グループのインスタンスの数をオブジェクトレベルで制限することができます。また、ユーザ/グループのインスタンスをシステム上に残す日数を制限することもできます。

制限は、オブジェクトレベルだけでなく、フォルダレベルでも設定することもできます。フォルダレベルで制限を設定した場合、その制限は、フォルダ内にあるすべてのオブジェクト（そのサブフォルダ内のオブジェクトも含む）に適用されます。

#### 注

オブジェクトレベルで制限を設定した場合、オブジェクトの制限が、フォルダに対して設定された制限を上書きします。つまり、オブジェクトはフォルダの制限を継承しません。

1 CMC の [フォルダ] 管理エリアで、オブジェクトを選択します。

2 [アクション] > [制限]をクリックします。

[制限]ダイアログボックスが表示されます。

3 制限を設定します。

オプション	説明
オブジェクトのインスタンスが N 個より多い場合は、超過インスタンスを削除する	オブジェクトあたりのインスタンス数を制限するには、このチェックボックスをオンにします。システム上に残すインスタンスの最大数を入力しますデフォルト値は 100 です。
超過インスタンスを削除するユーザ/グループ	ユーザやグループのインスタンス数を制限するには、このエリアで[追加]をクリックします。使用可能なユーザとグループから選択して、[>]を押して一覧に追加します。[OK]をクリックします。[インスタンスの制限]列にインスタンスの最大数を入力しますデフォルト値は 100 です。
N 日後にインスタンスを削除するユーザ/グループ	ユーザやグループのインスタンスが保存される日数を制限するには、このエリアで[追加]をクリックします。使用可能なユーザとグループから選択して、[>]を押して一覧に追加します。[OK]をクリックします。次に、[最大日数]列にインスタンスの最大有効日数を入力しますデフォルト値は 100 です。

4 [更新]をクリックします。

#### 関連項目

- 25 ページの [フォルダレベルでレポートインスタンスを制限する](#)

## 7.4 イベント

イベントは、システム内での発生を表すオブジェクトです。イベントタイプに従って、スケジュール、アラート、またはシステムの健全性をモニタリングするために使用できます。CMC の [イベント] 管理エリアでは、イベントタイプに従ってすべてのイベントがフォルダに整理されます。各イベントタイプフォルダ内では、イベントの保存と管理のためにサブフォルダを作成できます。

## イベントとスケジュール

イベントベースのスケジュールを使用すると、オブジェクトのスケジュールをより詳細に制御できます。たとえば、指定したイベントが発生した後にのみオブジェクトが処理されるように、イベントを設定できます。イベントに関する作業は、イベントの作成と、イベント発生に合わせたオブジェクトのスケジュールという 2 つのステップによって成り立ちます。一度イベントを作成すれば、オブジェクトをスケジュールする際にそれを依存関係として選択できます。これにより、スケジュールされたジョブは、イベントの発生時にのみ処理されます。

スケジュールと併用する、以下のタイプのイベントを作成できます。

- ・ ファイルイベント

ファイルベースのイベントを定義するときには、Event Server で監視する特定のファイルの名前を指定します。その名前のファイルが生成されると、Event Server はイベントを生成します。たとえば、他のプログラムやスクリプトの通常のファイル出力に応じてレポートが実行されるようにできます。ファイルイベントは、[システムイベント] フォルダに保存されます。

- ・ スケジュールイベント

スケジュールベースのイベントを定義するときには、イベントのトリガとして機能する定期的なスケジュールが設定されているオブジェクトを選択します。スケジュールベースのイベントでは、このようにして、スケジュールされたオブジェクト間に依存関係(条件)を設定することができます。たとえば、大量のレポートを連続して実行したり、詳細売上レポートが正常に実行された場合のみ、特定の売上集計レポートを実行するようにできます。スケジュールイベントは、[システムイベント] フォルダに保存されます。

- ・ カスタムイベント

カスタムイベントを作成するときには、イベントを発生させるためのショートカットを手動で作成します。カスタムイベントは、[カスタムイベント] フォルダに保存されます。

イベントを使ってスケジュールする場合、オブジェクトの定期的なスケジュールによってオブジェクトの実行頻度が決定されることに注意してください。たとえば、ファイルベースイベントに依存する日次レポートは、指定したファイルが毎日生成される限り、1 日 1 回実行されます。さらにこのイベントは、ユーザがイベントベースのレポートのスケジュールで設定した時間枠内に発生する必要があります。

## ヒント

アラートにはファイルベースのイベントを使用します。

## 自動的に作成されたイベント

リポジトリに特定のタイプのオブジェクト (例: Crystal レポート) が追加されると、対応するイベントが自動的に作成されます。

## 注

これらのタイプのイベントは [イベント] エリアで表示できます。ただし、これらのタイプのイベントを管理または変更するには、対応するイベントソース、または関連アプリケーションに対するアクセス権が必要です。

## イベントのモニタリング

システムの総合的な健全性を監視するために、BI プラットフォームにはモニタリングイベントがあります。これらのイベントは [モニタリング] エリアで作成および管理されるモニタリングプローブに対応します。

## 関連項目

- ・ 135 ページの[アラート](#)
- ・ 135 ページの[アラート](#)



- ・ 129 ページの[ファイルベースのイベント](#)」
- ・ 130 ページの[スケジュールベースのイベント](#)」
- ・ 131 ページの[カスタムイベント](#)」
- ・ 116 ページの[オブジェクトのイベント発生時のスケジュールの設定](#)」

## 7.4.1 ファイルベースのイベント

ファイルベースのイベントは、イベント発生前に特定のファイル(トリガ)が作成されるのを待ちます。ファイルベースのイベントの発生を待つオブジェクトをスケジュールする前に、まず CMC の[イベント]管理エリアでファイルベースのイベントを作成する必要があります。次に、オブジェクトをスケジュールしてイベントを選択します。

ファイルベースのイベントは、[Event Server] によって監視されます。指定したファイルが作成されると、[Event Server] はイベントを生成します。CMC は、イベントに応じてスケジュールリクエストを送信します。

たとえば、データベース分析プログラムが終了して自動ログファイルが書き込まれた後に、日次レポートを実行するとします。これを行うには、ファイルベースのイベントにログファイルを指定して、そのイベントを依存関係として日次レポートをスケジュールします。ログファイルが作成されると、イベントが生成され、レポートが処理されます。

### 注

イベント作成前にすでにファイルが存在する場合は、イベントは生成されません。この場合、ファイルが削除後に再作成されたときのみ、イベントが生成されます。イベントを複数回生成させたい場合は、イベント生成のたびにファイルを削除して再作成する必要があります。

### 関連項目

- ・ 116 ページの[オブジェクトのイベント発生時のスケジュールの設定](#)」

### 7.4.1.1 ファイルベースのイベントを作成する

- 1 CMC の [イベント] 管理エリアに移動して、[システムイベント] フォルダを開きます。  
ファイルベースのイベントは、[システムイベント] に保存され、管理されます。
- 2 [管理] > [新規] > [新規イベント] をクリックします。
- 3 [タイプ] リストで [ファイル] を選択します。
- 4 [イベント名] にイベントの名前を入力します。
- 5 [説明] に説明を入力します。
- 6 [サーバ] リストで、指定したファイルをモニタリングする Event Server を選択します。
- 7 [ファイル名] にファイル名を入力します。

**注**

Event Server が監視するファイルの絶対パス (例: C:\<フォルダ>\<ファイル名> または /<ホーム>/<フォルダ>/<ファイル名>) を入力します。指定するドライブとディレクトリは、Event Server から見えるようにしておく必要があります。通常は、ローカルドライブ上のディレクトリを指定してください。

- 8 イベントのアラートを有効化するには、[アラート有効] を選択し、[アラートメッセージ] にメッセージを入力します。  
イベントがトリガされると、ユーザに送信されるアラート通知に入力したメッセージが含まれます。
- 9 [OK] をクリックします。

## 7.4.2 スケジュールベースのイベント

スケジュールベースのイベントは、スケジュールされたオブジェクトに依存します。特定のオブジェクトが処理されると、完了したジョブ、またはスケジュールされたオブジェクトの成功/失敗に基づいてイベントが開始されます。

スケジュールベースのイベントには、スケジュールされたオブジェクトを少なくとも 2 つ関連付ける必要があります。1 つ目のオブジェクトはイベントのトリガとして機能します。オブジェクトが処理されると、イベントが発生します。2 つ目のオブジェクトはイベントに依存します。イベントが発生すると、2 つ目のオブジェクトが実行されます。

たとえば、プログラムオブジェクト P1 を実行した後に、レポートオブジェクト R1 と R2 を実行させるとします。これを実行するには、最初にスケジュールベースのイベントを [イベント] 管理エリアで作成してから、イベントの [成功] オプションを指定します (つまり、イベントはプログラム P1 が正常に実行された場合のみ開始されます)。次に、イベント発生に合わせてレポート R1 と R2 をスケジュールします。新しいスケジュールベースのイベントを依存として選択します。イベント発生に合わせてプログラム P1 をスケジュールして、プログラム P1 が正常に完了するとスケジュールベースのイベントが生成されるように設定します。プログラム P1 が正常に実行されると、スケジュールベースのイベントが生成され、レポート R1 と R2 が処理されるようになります。

**関連項目**

- ・ 116 ページの [オブジェクトのイベント発生時のスケジュールの設定](#)

### 7.4.2.1 スケジュールベースのイベントを作成する

- 1 CMC の [イベント] 管理エリアに移動して、[システムイベント] フォルダを開きます。  
スケジュールベースのイベントは、[システムイベント] に保存され、管理されます。
- 2 [管理] > [新規] > [新規イベント] をクリックします。  
[新規イベント] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [タイプ] リストで [スケジュール] を選択します。

- 4 [イベント名] にイベントの名前を入力します。
- 5 [説明] フィールドに入力します。
- 6 イベントのステータスオプションを選択します。

イベントのステータス	説明
成功	指定したオブジェクトが正常に完了した場合のみ、イベントが発生します。
失敗	指定したオブジェクトが正常に完了しなかった場合のみ、イベントが発生します。
成功または失敗	このイベントは、指定したオブジェクトが完了した場合に発生します。

- 7 イベントのアラートを有効化するには、[アラート有効] を選択します。  
イベントがトリガされると、ユーザにアラート通知が送信されます。
- 8 [OK] をクリックします。

### 7.4.3 カスタムイベント

カスタムイベントは、明示的に呼び出したときのみ発生します。他のイベントと同様、カスタムイベントに基づくオブジェクトは、オブジェクトのスケジュールパラメータで設定されている時間枠内にイベントが発生したときのみ実行されます。カスタムイベントは、クリックすると依存スケジュールリクエストが生成されるショートカットを設定できるため、便利です。

たとえば、データベースで情報を更新した後に、多数のレポートをスケジュールしてそれらのレポートを実行するようにするとします。これを行うには、新しいカスタムイベントを作成して、そのイベントの発生に合わせてレポートをスケジュールします。データベースのデータを更新してレポートを実行する必要がある場合は、CMC のイベントに戻って手動でトリガします。BI プラットフォームでレポートが実行されます。

#### 注

カスタムイベントは複数回発生させることができます。たとえば、2 組のイベントベースのオブジェクトをスケジュールして、1 組は午前、もう 1 組は午後というように毎日実行させるとします。関連するカスタムイベントを午前に発生させると、1 組のプログラムが実行されます。そのイベントを午後に発生させると、もう 1 組のプログラムが実行されます。午前にイベントを発生させるのを忘れて、午後にだけ発生させた場合、2 組ともプログラムが実行されます。

#### 関連項目

- ・ 116 ページの [オブジェクトのイベント発生時のスケジュールの設定](#)

### 7.4.3.1 カスタムイベントを作成する

- 1 CMC の [イベント] 管理エリアに移動して、[カスタムイベント] フォルダを開きます。
- 2 [管理] > [新規] > [新規イベント] をクリックします。
- 3 [イベント名] フィールドにイベントの名前を入力します。
- 4 [説明] フィールドに入力します。
- 5 イベントのアラートを有効化するには、[アラート有効] を選択し、[アラートメッセージ] フィールドにメッセージを入力します。  
イベントがトリガされると、ユーザに送信されるアラート通知に入力したメッセージが含まれます。
- 6 [OK] をクリックします。

#### 注

このカスタムイベントを発生させる前に、このイベントに依存するオブジェクトをスケジュールしてください。

#### 関連項目

- ・ 80 ページの [オブジェクトをスケジュールする](#)
- ・ 142 ページの [イベントのアラートを有効化する](#)

### 7.4.3.2 カスタムイベントを発生させる

- 1 CMC の [イベント] 管理エリアに移動して、[カスタムイベント] フォルダを開きます。
- 2 カスタムイベントを選択します。
- 3 [アクション] > [イベントの呼び出し] をクリックします。

### 7.4.4 イベントのアクセス権の指定

ユーザおよびグループに対して、イベントおよびイベントフォルダへのアクセスを許可または拒否することができます。特定の従業員または部署でのみ使用できるように、イベントを指定することができます (たとえば、管理者や IT 担当者に対して特定のイベントを指定する)。

ユーザは、表示権限のあるイベントのみを表示することができます。権限を使用して、特定のグループに対して適用されないイベントを非表示にすることができます。たとえば、IT 関連のイベントへのアクセス許可を IT 管理グループだけに限れば、人事管理グループのユーザはこれらのイベントを閲覧することはできません。したがって、イベントリストがあれば人事管理グループにも閲覧させることが可能になります。

**注**

デフォルトでは、イベントは現在のセキュリティ設定に基づきます。

権限は、ユーザの親フォルダから継承されます。

**ヒント**

イベントは、イベントタイプに基づいてフォルダに保存されます。各イベントタイプのフォルダ内では、より細かい精度でイベントを並べ替えるためにサブフォルダを作成できます。

アクセス権の詳細については、SAP Help Portal (<http://help.sap.com>) で入手できる『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』の「アクセス権の設定」の章を参照してください。



## アラート

### 8.1 アラート

アラートは BI プラットフォーム内の複数のアプリケーションを対象とする機能です。アラートを使用し、例外に基づいてオブジェクトとイベントを管理することができます。アラートは、変更についてユーザに通知したり、イベントがトリガされたときにユーザおよび管理者に通知する機能です。

#### 例 アラートおよび Crystal レポート

たとえば、Julie は自動車保険会社で働いており、Crystal レポートを使用して提出された保険金請求を監視しています。Julie は日単位の保険金請求数アラートを購読しており、アラート通知を電子メールで受け取ることを選択しました。1 週間後、自動車保険の保険金請求数が 10,000 件に達し、アラートの条件が満たされて、イベントがトリガされました。Julie は電子メール通知を受け取り、自動車保険の保険金請求数が大幅に増加していることに気がきます。Julie はマネージャに通知し、安全運転を呼びかけるキャンペーンの開始を推奨します。

---

#### アラートの購読

BI プラットフォームでは、ユーザおよび管理者は、BI ラUNCHパッドまたはセントラル管理コンソール (CMC) でアラートを購読できます。

#### アラートの有効化

レポート作成者は、新しいレポートを作成したときにアラートを有効化します。イベントがトリガされると、通知が購読者の電子メールアドレスまたは BI システム出力先 (BI ラUNCHパッドアカウントなど) に送信されます。

#### アラート通知の表示

BI プラットフォームでは、ユーザおよび管理者は BI ラUNCHパッドまたは電子メールで通知を表示します。

アラートのタイトル、メッセージ、トリガ時刻などのアラート情報を表示するには、アラートを右クリックして、[その他を表示] を選択します。

#### アラートの管理

コンテンツ管理者とパワーユーザは、BI ラUNCHパッドまたは CMC でアラートを管理します。

システム管理者は、CMC でアラートを管理し、アクセス権限を割り当ててユーザアクセスを制御します。

### 8.1.1 アラートソース

アラートをサポートするオブジェクト	説明
Crystal レポート	<p>Crystal レポートには、複数のアラートを含めることができます。アラートを含むレポートをリポジトリに追加すると、BI プラットフォームはレポートの各アラートに対応するイベントオブジェクトを自動的に作成します。イベントオブジェクトは、CMC の [イベント] の下の [Crystal Reports のイベント] フォルダに入っています。[コンテンツ検索] を使用してアラートを検索できます。</p> <p><b>注</b> BI プラットフォームで作成されたレポートのみがアラートをサポートし、レポートが追加された場合にユーザがアラート通知を購読することができます。購読するには、レポートを見つけ、レポートオブジェクトで購読タスクを実行します。</p>
イベント (ファイルベース、スケジュールベース、カスタム)	任意のイベントに対して、アラートを有効化することができます。

モニタリングでは、アラートを使用して、BI プラットフォームの全体的な状態の変化をシステム管理者に通知します。モニタリングプローブに基づくアラートは、CMC の [イベント] の下の [監視イベント] フォルダに入っています。モニタリングの詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

Information Steward および Event Insight などのアプリケーションで作成されたオブジェクトにも、アラートが使用されます。詳細については、アプリケーションのドキュメントを参照してください。

### 8.1.2 アラートワークフロー

#### Crystal レポートのアラートワークフロー[crystalレポートノアラートワークフロー]

- 1 レポート作成者が、SAP Crystal Reports for Enterprise においてアラートを含むレポートを作成します。
- 2 レポート作成者またはコンテンツ管理者が、CMC の [フォルダ] または [個人用フォルダ] エリアのフォルダに Crystal レポートを追加します。レポートが追加されると、BI プラットフォームにより、レポートのアラートに基づいてレポートイベントオブジェクトが自動的に作成されます。
- 3 ユーザが CMC または BI ラウンチパッドにログオンし、Crystal レポートを検索して、アラートを購読します。
- 4 レポート作成者またはコンテンツ管理者が、Crystal レポートの実行をスケジュールします。

アラート条件が満たされた場合、アラートがトリガされ、購読設定に基づいてユーザに通知が送信されます。



### イベントのアラートワークフロー

- 1 コンテンツ管理者が CMC でイベントを作成し、新規イベントに対してアラートを有効化します。
- 2 ユーザが CMC の [イベント] エリアでアラートを確認するか、BI ラウンチパッドでアラートを検索して、アラートを購読します。
- 3 イベントが発生し、アラートがトリガされます。
- 4 イベントが発生したことを示す通知が、購読設定に基づいてユーザに送信されます。


### 8.1.3 アラートと Crystal レポートアラート通知の相違点

旧バージョンの BI プラットフォームでは、レポートのスケジュール時に Crystal レポートのアラート通知を設定することができました。BI プラットフォームは、SAP Crystal Reports で作成されたレポートについては、この機能を引き続きサポートします。

主な相違点	Crystal レポートにおけるアラート通知	BI ラウンチパッドにおけるアラート
サポートされるオブジェクト	Crystal Reports で作成されたレポート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Crystal Reports のみで作成されたレポート</li> <li>・ イベント</li> <li>・ モニタリングプローブ</li> <li>・ Information Steward アラート</li> <li>・ Event Insight アラート</li> </ul>
サポートされる送信先	電子メール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ BI 起動パッドの [マイアラート]</li> <li>・ 電子メール</li> </ul>
用法	<p>アラートは Crystal レポートをスケジュールするときに設定します。</p> <p>受信者には Enterprise ユーザまたは動的ユーザを指定することができます。すべての受信者の電子メールアドレスを手動で入力する必要があります。</p>	<p>アラートソースからのアラート通知を購読し、必要に応じて購読を変更することができます。</p> <p>受信者には Enterprise ユーザまたは動的ユーザを指定することができます。動的受信者の場合は、電子メールアドレスを手動で入力する必要があります。</p>

### 8.1.4 CMC におけるアラートソースオブジェクトの検索

アラートソースは、オブジェクトタイプに基づいて異なる場所に格納されます。下の表は、各種アラートソースを検索する方法をまとめたものです。

オブジェクト (アラートソース)	CMC での場所
Crystal レポート	[フォルダ] または [個人用フォルダ] エリア  アラートをサポートするシステムにおけるすべての Crystal レポートアラートのリストは、CMC の [イベント] エリアの [Crystal Reports のイベント] フォルダにあります。アラートを購読するには、Crystal レポートを [フォルダ] または [個人用フォルダ] エリアに格納します。
イベント (ファイルベース、スケジュールベース、カスタム)	[イベント] エリア  [イベント] は、イベントタイプで整理されます。アラートが有効化されたイベントは、  アイコンで示されます。

### 8.1.5 アラートに必要なアクセス権

アラートワークフローにおけるロールと責任によって、必要なアクセス権が異なる可能性があります。

表 8-2: ドキュメントアラート権限

ロール	タスク	必要な権限
ユーザ	ドキュメントアラートの購読	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドキュメントに対する [表示] 権限</li> <li>対応するイベントに対する [表示] 権限</li> <li>ユーザ自身のアカウントに対する [購読] 権限</li> <li>(アラート通知に含まれるドキュメントリンクを使用してインスタンスを表示する場合) ドキュメントに対する [インスタンスの表示] 権限</li> </ul>
ユーザ	ドキュメントアラートの購読解除	<ul style="list-style-type: none"> <li>対応するイベントに対する [表示] 権限</li> <li>ユーザ自身のアカウントに対する [購読] 権限</li> </ul>
ユーザ	ドキュメントアラートに関する通知の受信	<ul style="list-style-type: none"> <li>対応するイベントに対する [表示] 権限</li> <li>ドキュメントに対する [表示] 権限</li> </ul>

ロール	タスク	必要な権限
コンテンツ管理者	ドキュメントアラートの送信先およびパラメータ設定の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドキュメントに対する[編集] 権限</li> <li>イベントに対する[編集] 権限</li> </ul>
コンテンツ管理者	ドキュメントのアラート設定の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドキュメントに対する[表示] 権限、および[編集] 権限</li> <li>対応するイベントに対する[表示] 権限、および[編集] 権限</li> <li>購読者として追加するユーザまたはグループに対する[表示] 権限、および[購読] 権限</li> </ul> <p><b>注</b> 購読者のリストにユーザグループを追加する場合は、ユーザグループオブジェクトに対する[表示] 権限、および[購読] 権限が必要です。グループ内の個別ユーザに対する[表示] 権限、および[購読] 権限では不十分です。</p>
コンテンツ管理者	ユーザのドキュメントアラートの購読解除	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドキュメントに対する[表示] 権限</li> <li>対応するイベントに対する[表示] 権限</li> <li>ユーザに対する[表示] 権限、および[購読] 権限</li> </ul>
コンテンツ管理者	ドキュメントアラートのトリガ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドキュメントに対する[表示] 権限、および[スケジュール] 権限</li> <li>対応するイベントに対する[表示] 権限、および[呼び出し] 権限</li> </ul>

表 8-3: イベントアラート権限

ロール	タスク	必要な権限
ユーザ	イベントアラートの購読	<ul style="list-style-type: none"> <li>イベントに対する[表示] 権限</li> <li>ユーザ自身のアカウントに対する[購読] 権限。デフォルトで、各ユーザは自分のアカウントに対する[購読] 権限が付与されています。</li> </ul>

ロール	タスク	必要な権限
ユーザ	イベントアラートの購読解除	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベントに対する[表示] 権限</li> <li>・ ユーザ自身のアカウントに対する[購読] 権限。デフォルトで、各ユーザは自分のアカウントに対する[購読] 権限が付与されています。</li> </ul>
コンテンツ管理者	イベントのアラート設定の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベントに対する[表示] 権限、および[編集] 権限</li> <li>・ 購読者として追加するユーザまたはグループに対する[表示] 権限、および[購読] 権限</li> </ul> <p><b>注</b> 購読者のリストにユーザグループを追加する場合は、ユーザグループオブジェクトに対する[表示] 権限、および[購読] 権限が必要です。グループ内の個別ユーザに対する[表示] 権限、および[購読] 権限では不十分です。</p>
コンテンツ管理者	イベントのトリガ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベントに対する[表示] 権限、および[呼び出し] 権限</li> </ul>

表 8-4: アラート通知権限

ロール	タスク	必要な権限
ユーザ	アラート通知の受信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 対応するイベントに対する[表示] 権限</li> </ul>
ユーザ	アラート通知の既読または未読への設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アラート通知に対する[表示] 権限</li> <li>・ ユーザアカウントに対する[購読] 権限</li> </ul>
ユーザ	アラート通知の再読	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アラート通知に対する[表示] 権限</li> </ul>
ユーザ	BI 起動パッドにおけるアラート通知の削除	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ アラート通知に対する[表示] 権限</li> <li>・ ユーザアカウントに対する[購読] 権限</li> </ul>

### 8.1.6 購読の不整合の解決

グループメンバーシップの結果として、ユーザの購読設定が不整合の原因となる可能性があります。購読設定の不整合が発生すると、アラートは以下の方法でそれを解決します。

- ・ ユーザに対する設定により、グループメンバーシップから継承されたすべての設定が上書きされます。
- ・ サブグループに対する設定により、グループから継承されたすべての設定が上書きされます。

ユーザが階層で等しいレベルにある 2 つのグループから異なる購読設定を継承することがあります。この場合、ユーザはそれぞれの設定に基づいてアラート通知を受け取ります。

#### 注

[除外する]リストは、その他すべての購読設定より優先されます。アラートを購読しているものの、[除外する]リストに含まれているユーザは、アラート通知を受け取りません。

#### 例 階層で等しいレベルにある 2 つのグループからの購読設定

Julie は、北米販売グループと南米販売グループに属しています。どちらのグループも、もう 1 つのグループのサブグループではありません。北米販売グループは収益アラート通知を電子メールと BI 受信トレイで受け取り、南米販売グループは収益アラート通知を電子メールのみで受け取ります。Julie は両方のグループに属しているため、収益アラート通知を電子メールと BI 受信トレイで受け取ります。レポートに定義済みのパラメータ（北米および南米の地域パラメータ値など）がある場合、Julie は個別の電子メールアラート通知を受け取ります。それ以外の場合、アラートは 1 件の電子メールにまとめられます。

---

### 8.1.7 アラートのベストプラクティス

- ・ Crystal レポートのアラートの名前変更は行わないようにしてください。BI プラットフォームは、名前変更された Crystal レポートアラートを新しいオブジェクトとして解釈します。アラートを名前変更すると、アラートの購読設定は失われます。
- ・ Everyone グループではなく、特定のグループを購読者として指定します。
- ・ 大容量のアラートに対しては、BI 起動パッドではなく電子メールを出力先に使用してください。BI ラウンチパッドに送信されるアラートメッセージはシステムに格納されます。アラートメッセージが蓄積されると、システムのパフォーマンスを低下させる可能性があります。

## 8.2 アラートタスク

## 8.2.1 イベントのアラートを有効化する

アラートは、アラートを含む Crystal レポートに対して自動的に有効化されます。つまり、ユーザは、レポートがリポジトリに追加された瞬間から、レポートアラートを購読することができます。イベントのアラートを有効化するには、新しいイベントの作成時にアラートを有効化するなどの追加の手順が必要になります。

- 1 CMC の [イベント] エリアで、アラートを有効化するイベントを選択します。
- 2 [管理] > [プロパティ] をクリックします。
- 3 [プロパティ] ダイアログボックスのナビゲーションペインで、[イベントの設定] をクリックします。
- 4 [アラート有効] チェックボックスをオンにし、アラートがトリガされたときに購読者に送信されるメッセージを [アラートメッセージ] ボックスに入力します。

### 注

スケジュールベースのイベントに対してメッセージを入力することはできません。

- 5 [保存して閉じる] をクリックします。

## 8.2.2 アラートを購読する

- 1 CMC の [イベント] エリアで、アラートソースを見つけて選択します。
- 2 [アクション] > [購読] を選択します。  
[パブリケーションの購読] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [送信先] で、アラートの送信先を選択します。

オプション	説明
マイアラート	このチェックボックスをオンにすると、アラート通知がビジネスインテリジェンスシステム (BI ラウンチパッドなど) の送信先に送信されます。
電子メール	<p>このチェックボックスをオンにすると、アラート通知が BI プラットフォームのユーザアカウントに対して指定された電子メールアドレスに送信されます。</p> <p><b>注</b> 送信先は、ユーザアカウントに対して電子メールアドレスが指定されている場合にのみ使用することができます。</p> <p><b>警告</b> 電子メールアドレスが有効であり、正しく入力されていることを確認します。電子メールアドレスが正しくない場合、アラート通知を受け取ることができません。</p>

- 複数のドキュメントが [アラート] に一覧表示されている場合、受信する各アラートのチェックボックスをオンにします。
- アラートのパラメータを指定するには、[パラメータ] で [編集] をクリックして、パラメータ値を変更します。ドキュメントがパーソナライズされている場合、アラートのチェックボックスにマウスを重ねると、パーソナライゼーションの詳細が表示されます。
- 必要に応じて、残りのアラート購読オプションを設定します。  
アラートソースによっては、その他の購読オプションが表示される場合があります。たとえば、複数のアラートを含む Crystal レポートの場合、購読するアラートを選択する必要があります。
- [OK] をクリックします。

次回アラートがトリガされると、通知が選択した送信先に送信されます。アラート通知を別の出力先に送信するには、アラートソースを選択し、[アクション] > [購読の変更] を選択します。このオプションを使用して、アラートを購読する Crystal レポートを選択することもできます。

アラートソースのカスタム設定を指定しない場合、通知は、アラートアプリケーションに対して設定された送信先デフォルトを使用して送信されます。

#### 関連項目

- 145 ページの [アラートソースのアラート設定を管理する](#)  
アラートソースのアラート設定を変更しない限り、通知はアラートアプリケーションのデフォルト送信先設定を使用して送信されます。
- 137 ページの [CMC におけるアラートソースオブジェクトの検索](#)

## 8.2.3 アラートを購読解除する

- CMC の [イベント] エリアで、アラートソースを見つけて選択します。
- [アクション] > [購読解除] を選択します。

- 3 [アラートの購読解除] ダイアログボックスで確認を求めるメッセージが表示されたら、[購読解除] をクリックします。

## 8.2.4 他のユーザのアラートの購読を解除する

- 1 CMC の [イベント] エリアで、アラートソースを見つけて選択します。
- 2 [アクション] > [購読者の管理] を選択します。  
[購読者の管理] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 ナビゲーションペインの [受信者一覧] をクリックします。
- 4 アラートの購読を停止するユーザまたはユーザグループを選択し、[購読解除] をクリックします。

## 8.2.5 他のユーザをアラートの購読者として指定する

- 1 CMC の [イベント] エリアで、アラートソースを見つけて選択します。
- 2 [アクション] > [購読者の管理] を選択します。
- 3 [購読者の管理] ダイアログボックスのナビゲーションペインで、[受信者一覧] をクリックします。
- 4 新しい購読者を追加するには、次の手順を実行します。
  - a [追加] をクリックします。
  - b [購読者の追加] ダイアログボックスで、[>] ボタンを使用して、ユーザおよびグループを [利用可能] リストから [購読済み] リストに移動させ、[デフォルト購読の追加] をクリックします。
  - c [購読の編集] ダイアログボックスで、必要に応じてアラートおよび送信先オプションを設定します。  
たとえば、購読するアラート（アラートソースに複数のアラートが含まれる場合）を変更することができます。アラートソースによっては、その他の設定も行うことができます。
  - d [保存して閉じる] をクリックします。
- 5 購読者の設定を編集するには、次の手順を実行します。
  - a [購読者] 列でユーザを選択し、[編集] をクリックします。
  - b ユーザが受信するアラートを編集するには、[購読の編集] ダイアログボックスのナビゲーション一覧で、[アラート] をクリックし、ユーザが購読する各アラートのチェックボックスをオンにします。  
アラートソースに複数のアラートが含まれている場合、各アラートが一覧表示されます。複数のアラートが含まれていない場合、1 つのアラートのみが表示されます。
  - c アラートの送信先を編集するには、ナビゲーション一覧で [送信先] をクリックし、アラートの各送信先のチェックボックスをオンにします。  
Adaptive Job Server で有効化および設定されている電子メール送信先のみを使用できます。電子メール送信先が設定されていない場合、[マイアラート] チェックボックスのみが表示されます。
  - d 使用可能な場合、必要に応じて他のアラートオプションを設定します。  
アラートソースによっては、その他のオプションも使用できます。



- e [保存して閉じる] をクリックします。
- 6 [購読者の管理] ダイアログボックスで、[保存して閉じる] をクリックします。

### 8.2.6 アラート通知を別のユーザの BI 受信ボックスに転送する

[マイアラート] から別のユーザの BI 受信ボックスにアラート通知を転送できます。

- 1 [ドキュメント] タブで [マイドキュメント] ドロワを展開し、[マイアラート] をクリックします。
- 2 転送するアラート通知を右クリックし、[整理] > [転送] を選択します。
- 3 アラートを転送するユーザの BI 受信ボックスを入力し、[OK] をクリックします。

### 8.2.7 ユーザをアラートから除外する

ユーザの除外は、グループの少数ユーザのみを購読者として指定する場合に有用です。グループ全体を購読者として指定してから、アラート通知を受け取る必要がないユーザを除外します。

#### 注

[除外する] リストは、ユーザのその他すべての購読設定より優先されます。

- 1 CMC の [イベント] エリアで、アラートソースを見つけて選択します。
- 2 [アクション] > [購読者の管理] を選択します。  
[購読者の管理] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 ナビゲーションパネルで [除外リスト] が選択されていることを確認します。
- 4 [>] ボタンを使用して、ユーザまたはグループを [利用可能] リストから [除外する] リストに移動させます。
- 5 [保存して閉じる] をクリックします。

#### 関連項目

- ・ 137 ページの [CMC におけるアラートソースオブジェクトの検索](#)

### 8.2.8 アラートソースのアラート設定を管理する

アラートソースのアラート設定を変更しない限り、通知はアラートアプリケーションのデフォルト送信先設定を使用して送信されます。

- 1 CMC の [イベント] エリアで、アラートソースを見つけて選択します。
- 2 [アクション] > [アラート設定の管理] を選択します。

[アラート設定の管理] ダイアログボックスが表示されます。

- 3 BI ラウンチパッドを送信先として有効化するには、[マイアラートの有効化] チェックボックスをオンにします。  
このオプションをオンにすると、アラート通知が購読者の BI ラウンチパッドアカウントに送信され、購読者はアラート通知を BI ラウンチパッドの [マイアラート] で表示できます。
- 4 送信先として電子メールを有効化するには、[電子メールを有効にする] チェックボックスをオンにし、[デフォルト電子メール設定を使用] または [カスタム電子メール設定を使用] を選択します。  
[デフォルト電子メール設定を使用] を選択した場合、[アプリケーション] エリアで設定されたアラート値からデフォルト設定が生成されます。
- 5 [カスタム電子メール設定を使用] を選択した場合、必要に応じて次のアクションを実行します。
  - a [差出人] ボックスで、差出人の電子メールアドレスを入力するか、[プレースホルダの追加] リストから電子メールアドレスの変数を選択します。
  - b [宛先] ボックスで、アラート通知を送信する電子メールアドレスをそれぞれ入力するか、[プレースホルダの追加] リストから電子メールアドレスの変数を選択します。
  - c [CC] ボックスで、アラート通知を送信する電子メールアドレスをそれぞれ入力するか、[プレースホルダの追加] リストから電子メールアドレスの変数を選択します。
  - d [BCC] ボックスで、アラート通知を送信する非公開の受信者の電子メールアドレスをそれぞれ入力するか、[プレースホルダの追加] リストから電子メールアドレスの変数を選択します。
  - e [件名] ボックスで、アラート通知の件名を入力するか、[プレースホルダの追加] リストから件名の変数を選択します。
  - f [メッセージ] ボックスで、アラート通知の本文のメッセージを入力するか、[プレースホルダの追加] リストからメッセージの変数を選択します。
  - g アラート通知に添付ファイルを追加する場合は、[添付ファイルの追加] チェックボックスをオンにします。
  - h [ファイル名] で、[自動で生成された名前を使用する] または [指定の名前を使用する] を選択します。  
[指定の名前を使用する] を選択した場合、ファイル名を入力するか、リストのプレースホルダを選択します。
  - i ファイル名に自動的にファイル拡張子を追加する場合は、[ファイル拡張子を追加する] チェックボックスをオンにします。

#### 警告

ファイル名にファイル拡張子を追加しない場合は、ドキュメントを開くことができません。

- 6 [保存して閉じる] をクリックします。

#### 関連項目

- ・ 137 ページの [CMC におけるアラートソースオブジェクトの検索](#)

## プロフィールの管理

### 9.1 プロファイルの仕組み

プロフィールは、パブリケーションと共に動作し、コンテンツをパーソナライズします。

#### オブジェクトとしてのプロフィール

プロフィールは、ユーザおよびグループを分類する BI プラットフォーム内のオブジェクトでもあります。プロフィールは、レポート内のデータを個人用にカスタマイズするために使用されるプロフィール値に、ユーザとグループをリンクします。プロフィールは、プロフィールのレポートへの適用方法を示した“プロフィールターゲット”も使用します。異なるプロフィール値を割り当てることで、レポート内のデータを特定のユーザまたはグループに合わせて調整できます。多くの異なるカスタマイズバージョンのレポートがユーザに配信されます。

#### プロフィールおよびロール

プロフィールは、組織構造の中でのユーザとグループのロールを反映することがあります。たとえば、部署プロフィールに組織のすべての従業員を含むようにできます。ユーザとグループのそれぞれのプロフィール値は、組織内のロールを反映します（たとえば、財務、販売、マーケティングなど）。公開者がパブリケーションに部署プロフィールを適用すると、従業員は自分の部署に関連したデータを受け取ります。

#### プロフィールおよびドキュメントコンテンツ

プロフィールは、ドキュメントのコンテンツを詳細に設定したり、フィルタリングしたりするために使用され、データへのアクセスは管理しません。プロフィールを使用してデータのサブセットをユーザに表示することは、ユーザにデータ参照の制約をかけることとは異なります。ユーザに適切なアクセス権があつてドキュメントの元の形式にアクセスした場合、BI 起動パッドまたは CMC でドキュメントを表示することにより、そのドキュメントの完全データを参照できます。プロフィールは、データソースからクエリされたデータを変更またはセキュリティ保護することなく、データのビューをフィルタリングします。

#### 9.1.1 プロファイルと公開のワークフロー

プロフィールを使用したパブリケーションをパーソナライズするためのプロセスは 2 つの部分で構成されます。最初に、CMC の [プロフィール] エリアでプロフィールを作成します。プロフィールの作成には、以下のタスクが含まれます。

- 1 プロファイルの作成
- 2 プロファイルにユーザおよびグループを追加する。
- 3 プロファイルの各ユーザおよびグループにプロフィール値を割り当てる。

- 4 必要に応じて、グローバルプロフィールターゲットを指定する。

パブリケーションの作成には、以下のタスクが含まれます。

- 1 受信者としてユーザおよびグループを追加します。
- 2 プロファイルのローカルプロフィールターゲットを指定してフィルタを適用する (Crystal レポート内のフィールドなど)。
- 3 パーソナライゼーションで使用するプロフィールを指定します。

#### 関連項目

- ・ 171 ページの [パーソナライゼーション](#)

## 9.1.2 プロファイルを作成する

- 1 CMC の[プロフィール]管理エリアに移動します。
- 2 [管理] > [新規] > [新規プロフィール]の順にクリックします。  
[新規プロフィールの作成]ダイアログボックスが開きます。
- 3 [タイトル]フィールドにプロフィールの名前を入力します。
- 4 [説明]フィールドに入力します。
- 5 [OK]をクリックします。

#### 関連項目

- ・ 148 ページの [プロフィールターゲットおよびプロフィール値](#)
- ・ 150 ページの [プロフィール値を指定する](#)
- ・ 154 ページの [プロフィールのアクセス権の指定](#)

## 9.2 プロファイルターゲットおよびプロフィール値

プロファルを使用してパブリケーションを個人用にカスタマイズするには、プロパティのプロファイル値とプロフィールターゲットを設定する必要があります。

#### プロフィールターゲット

プロフィールターゲットとは、個人用にカスタマイズされたパブリケーションを提供するために、プロフィール値がフィルタを適用したり、対話するデータソースです。プロフィールターゲットには次の 2 つの種類があります。

- ・ ローカルプロフィールターゲット

ローカルプロファイルターゲットは、Web Intelligence ドキュメントの変数、または Crystal レポートのフィールドまたはパラメータにすることができます。ローカルプロファイルターゲットを使用する場合、ローカルプロファイルターゲットを含むソースドキュメントはパブリケーションの受信者に対してフィルタ処理されます。

- ・ グローバルプロファイルターゲット

グローバルプロファイルターゲットはユニバースにすることができます。同様に、ユニバース内のオブジェクトを指定する必要があります。このタイプのプロファイルターゲットは、ユニバースを使用するすべてのソースドキュメントをフィルタ処理できます。

#### 注

グローバルプロファイルターゲットは、Web Intelligence ドキュメントを含むパブリケーションで使用できます。Crystal レポートではグローバルプロファイルターゲットは使用できません。

### プロファイル値

プロファイル値は、特定のユーザまたはグループをプロファイルに割り当てるときに、これらのユーザやグループの詳細を示す属性です。プロファイルがパブリケーションに適用されると、そのプロファイルに割り当てられたユーザおよびグループは、自らに設定されたプロファイル値に従ってフィルタ処理されたパブリケーションバージョンを受信します。

#### 注

プロファイル値をユーザとグループの両方に割り当てると、セキュリティ設定の場合と同様に、継承も有効になる点に注意してください。詳細については、SAP Help Portal (<http://help.sap.com>) で入手可能な『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』の「アクセス権の設定」の章を参照してください。

### プロファイルターゲットおよびプロファイル値の使用

プロファイルターゲットとプロファイル値により、プロファイルは受信者に合わせてパブリケーションをカスタマイズできます。プロファイルに対して指定されているユーザとグループは、自身に最も関連するデータのみを表示する、同じパブリケーションのフィルタ済みバージョンを受け取ります。

グローバルな売上レポートを、北米、南米、アジアにある会社の地域営業チームに配布する例を考えます。各地域営業チームは、その地域に固有のデータのみ表示する必要があります。管理者は、“地域営業”プロファイルを作成し、各地域営業チームをグループとしてプロファイルに追加します。管理者は各地域の営業チームに対応するプロファイル値を割り当てます(たとえば、北米の営業チームには、北米を割り当てます)。公開中に、公開者はグローバルな売上レポートの“地域”フィールドをローカルプロファイルターゲットとして使用し、レポートにプロファイルを適用します。各地域営業チームに設定されたプロファイル値に従って、グローバルな売上レポートがフィルタ処理されます。グローバルな売上レポートが配布されると、各地域営業チームはその地域の売上データのみを表示する、カスタマイズされたバージョンを受信します。

## 9.2.1 グローバルプロファイルターゲットを指定する

このタスクでは、プロファイルのグローバルプロファイルターゲットを指定できます。ローカルプロファイルターゲットは、公開プロセス中に指定します。

- 1 CMC の [プロファイル] エリアで、プロファイルターゲットを指定するプロファイルを選択します。
- 2 [アクション] > [プロファイルターゲット] をクリックします。

[プロファイルターゲット] ダイアログボックスが表示されます。

- 3 [追加] をクリックします。
- 4 [ユニバース名] 一覧からユニバースを選択します。
- 5 [クラス名] フィールドにクラス名を入力するか、[ユニバースからオブジェクトを選択します] をクリックします。
- 6 [変数名] フィールドに変数名を入力するか、[ユニバースからオブジェクトを選択します] をクリックします。
- 7 [OK] をクリックします。

## 9.2.2 プロファイル値の指定

プロファイル値として、静的な値、式、または変数を使用できます。

最も一般的なプロファイル値の種類は、静的な値で、すべてのソースドキュメントの種類フィルタ処理に使用できます。1 つのプロファイルのユーザまたはグループに対して、複数の静的な値を入力することもできます。たとえば、複数の部署からデータを受信する管理者は、“部署” プロファイルの静的なプロファイル値として製造、設計、マーケティングなどを指定できます。

式は、ソースドキュメントの種類に固有の構文を使用します。SAP Crystal Reports および Web Intelligence 式を使用して、複雑なパーソナライゼーションとフィルタ処理を実行できます。ユーザに対して値の範囲、または指定された値よりも大きいあるいは小さい値の範囲をフィルタ処理する場合に、式が役に立ちます。

プロファイル値としてユーザ情報を使用する場合は、ユーザ名、フルネーム、および電子メールアドレスの変数を使用できます。これらの変数は、ユーザ情報にマップされてプレースホルダとして機能します。プロファイルのパブリケーションに適用すると、システムはユーザの最新情報を取得します。

プロファイル値に変数を使用することによって、情報の手動入力に関連する管理コストおよび発生する可能性のあるエラーを減らすことができます。管理者が AD ユーザをシステムにマップし、ユーザを 2 つのプロファイルに追加する状況を考えてみます。管理者はユーザのデータに使用する変数を指定することで、プロファイル値ごとに手動で情報を入力する手間がなくなり、入力エラーは発生しなくなります。

サードパーティユーザの場合、ユーザの情報が外部のシステムで変更された場合、BI プラットフォーム内のデータはパブリケーションが実行されたときにそれらの変更を反映して更新されます。

### ヒント

サードパーティユーザアカウントのデータを外部ディレクトリのユーザ属性では上書きできない場合、そのユーザオブジェクトの [プロパティ] ダイアログボックスを開いて [フルネームと電子メールアドレスのインポート] チェックボックスをオフにします。

### 注

静的な値のプロファイル値は、ソースドキュメントの文字列フィールドだけをフィルタ処理できます。不適切なタイプのフィールドをプロファイルにマップすると、パーソナライゼーションは失敗します。

### 9.2.2.1 プロファイル値を指定する

このタスクでは、ユーザまたはグループにプロファイルを割り当てます。

- 1 CMCの [プロファイル] 管理エリアで、プロファイルを選択します。

#### ヒント

または、[ユーザとグループ] エリアでユーザまたはグループを選択することができます。

- 2 [アクション] > [プロファイル値]をクリックします。  
[プロファイル値]ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [追加]をクリックします。
- 4 [選択] をクリックします。
- 5 ユーザまたはグループ(それぞれ複数可)を選択し、[>]をクリックして右側の一覧に選択したものを移動します。
- 6 [OK] をクリックします。
- 7 選択したユーザまたはグループのプロファイル値を入力します。

さまざまな種類のプロファイル値を使用できます。静的プロファイル値または式を入力することができます。また、システムにマップされているサードパーティのユーザおよびグループとして、変数プロファイル値を指定することができます。

- ・ 値を使用する場合
  - a [値] をクリックします。
  - b [新しい値] フィールドに値を入力します。
  - c [追加] をクリックします。

#### ヒント

- ・ ユーザまたはグループに、複数の静的な値を追加できます。追加する静的な値ごとにステップ 1 から 3 ままでを繰り返します。
- ・ パーソナライゼーションのためにプロファイルでフィルタ処理できる値がユーザまたはグループに含まれていない場合は、%NULL% を静的なプロファイル値として使用できます。
- ・ フィルタ式を使用する場合
  - a [フィルタ式]をクリックします。
  - b 使用する式の種類に応じて、[Web Intelligence 式] フィールドまたは [Crystal Reports 式] フィールドに式を入力します。

#### 注

Web Intelligence 式を使用するには、プロファイルに対するグローバルプロファイルターゲットを指定する必要があります。

#### ヒント

複数のドキュメントの種類にプロファイルを適用する場合は、3 つのフィールドすべてにフィルタ式を入力します。

- 8 [OK]をクリックします。

#### 関連項目

- ・ 152 ページの[変数をプロファイル値として使用する](#)



### 9.2.2.2 変数をプロフィール値として使用する

このタスクでは、ユーザの変数プロフィール値をプロフィールに追加するときに指定できます。ユーザのフルネーム、アカウント名、または電子メールアドレスの変数プロフィール値を指定できます。

- 1 CMC の [プロフィール] エリアで、ユーザまたはグループを追加するプロフィールを選択します。
- 2 [アクション] > [プロフィール値] をクリックします。  
[プロフィール値] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 [追加] をクリックします。
- 4 [選択] をクリックします。
- 5 左側の一覧からユーザまたはグループを選択し、[>] をクリックして右側の一覧にユーザまたはグループを移動します。
- 6 [OK] をクリックします。
- 7 [値] をクリックします。
- 8 [プレースホルダの追加] 一覧からプレースホルダ変数を選択し、[追加] をクリックします。

以下の表に、プロフィールの外部化に使用できる変数の概要を示します。

変数	説明
タイトル	この変数は、ユーザのアカウント名に関連付けられます。
ユーザのフルネーム	この変数はユーザのフルネームに関連付けられます。
電子メールアドレス	この変数はユーザの電子メールに関連付けられます。

#### ヒント

これらの変数はグループにも使用できます。電子メールアドレス変数をグループ全体で共通の電子メールアドレスにマップできます。このようにすると、システムが変数を解決して、グループの各メンバーの個別の電子メールアドレスを取得します。

プレースホルダは、[既存値] フィールドに表示されます。

- 9 [OK] をクリックします。

プロフィールを使用してパブリケーションをパーソナライズする場合、サードパーティユーザのプロフィール値は最新のユーザ情報で自動的に更新されます。たとえば、最後にパブリケーションを実行した後にユーザの電子メールアドレスが変更された場合、次にパブリケーションを実行すると、プロフィール値に使用されている電子メールアドレスが変更されます。

## 9.3 プロフィール間の競合の解消



ユーザおよびグループが複数のプロフィールに割り当てられている場合、プロフィール間の競合が発生します。2つの競合するプロフィールを持つドキュメントをユーザに配布する場合、この競合を解消する必要があります。

たとえば、トニーはメキシコオフィスの製品マネージャです。彼には、メキシコのデータのみを表示するように彼のドキュメントをパーソナライズする“地域”というプロフィールが割り当てられています。また、製品マネージャにデータを表示するように、彼のドキュメントをパーソナライズする“マネジメント”というプロフィールも割り当てられています。

これらのプロフィールを両方とも使用するドキュメントでは、トニーにどのようなデータが表示されるのでしょうか。1つのプロフィールに従えば、メキシコのデータを参照します。もう1つのプロフィールに従うと、製品マネージャのデータのみを参照します。

BI プラットフォーム での競合を解決するには、以下の2つの方法があります。

- ・ マージしない

BI プラットフォームは、パブリケーションで考えられるすべてのビューを判別し、それぞれの場合に固有のビューを使用します。例では、トニーはメキシコのデータを表示するようにパーソナライズされたパブリケーションと、製品マネージャのデータを表示するパブリケーションを受け取ります。

- ・ マージ

マージを選択すると、BI プラットフォームは考えられる異なるデータビューを判別し、競合していないプロフィールをマージします。この種類のプロフィールの解決は、ロールベースのセキュリティに対して設計されます。例では、トニーはメキシコの製品マネージャのデータを表示するようにパーソナライズされた単一のパブリケーションを受け取ります。

#### 注

このマージしない/マージするシナリオは、継承されたプロフィール値のみに適用されます。ユーザが2つのプロフィール値に明示的に割り当てられている場合、パブリケーションインスタンスは必ずマージされます。

#### 関連項目

- ・ 210 ページの[プロフィールの解決方法を指定する](#)

## 9.3.1 プロファイル値の競合

グループメンバーシップの結果としてユーザが2つの相反するプロフィール値を継承したときに、プロフィール値の競合が発生することがあります。通常、明示的に割り当てられたプロフィール値は、グループメンバーシップから継承したプロフィール値より優先されます。ユーザまたはサブグループに割り当てられたプロフィール値は、グループメンバーシップから継承したプロフィール値より優先されます。

たとえば、David は“北アメリカ営業”グループと“カナダ営業”グループに所属しています。“カナダ営業”グループは“北アメリカ営業”グループのサブグループです。2つのグループが両方とも“地域”プロフィールに追加されます。David は、“北アメリカ営業”グループからは“地域”プロフィール値北アメリカを継承し、“カナダ営業”グループからはカナダを継承します。この場合、サブグループに割り当てられるプロフィール値はグループに割り当てられるプロフィール値より優先され、David はカナダに対するデータのパブリケーションを受信します。

ユーザに対して、グループメンバーシップから継承したプロフィールと相反するプロフィール値が明示的に割り当てられたときにも、プロフィール値の競合が発生します。たとえば、Paula は“北アメリカ営業”グループに所属し、その“地域”プロフィール値は北アメリカです。管理者が、Paula に“地域”プロフィール値としてスペインを割り当てました。この場合、メンバーに割り当てられるプロフィール値はグループから継承したプロフィール値より優先され、Paula はスペインに対するデータのパブリケーションを受信します。

しかし、2 つの異なるグループから、1 つのプロフィールに対して異なるプロフィール値を継承することがあります。どちらのグループも階層上は対等で、一方が他方のサブグループではない場合、どちらのプロフィールも他方より優先されません。この場合、両方のプロフィールが有効になり、ユーザは各プロフィール値に対するパブリケーションインスタンスを受信します。

このようにプロパティ値が競合すると、重複するレポートインスタンスが複数の異なるパブリケーションインスタンスに含まれ、同じユーザに送信される場合があります。たとえば、2 つの北米オフィスのマネージャを務める Sandra は、2 つのレポートを含むパブリケーションを電子メールで受信しています。レポート 1 は、レポートプロフィールを使用してカスタマイズされています。このレポートプロフィールで Sandra はグループメンバーシップから競合するプロフィール値米国およびカナダを継承します。レポート 2 は役割プロフィールを使用してカスタマイズされています。この役割プロフィールで Sandra はプロフィール値マネージャを継承します。プロフィール値の競合がない場合は、パーソナライゼーションの後に、Sandra はマージされたレポート 1 インスタンス (米国とカナダのデータ) およびレポート 2 インスタンス (マネージャデータ) を含む 1 つの電子メールを受信します。競合がある場合、Sandra は 2 つの電子メールを受信します。1 つの電子メールには、レポート 1 の米国のインスタンスが含まれ、もう 1 つの電子メールにはレポート 1 のカナダのインスタンスが含まれています。どちらの電子メールにも、同じレポート 2 のマネージャインスタンスが含まれています。

#### ヒント

重複するパブリケーションインスタンスの送信の原因となるプロフィール値の競合をできる限り防ぐには、ユーザがグループメンバーシップからプロフィール値を継承できるようにする代わりに、プロフィール値をユーザに明示的に割り当てます。

## 9.4 プロファイルのアクセス権の指定

ユーザおよびグループに対して、プロフィールへのアクセスを許可または拒否することができます。プロフィールの構成方法によっては、特定の従業員または部署だけが特定のプロフィールを利用できるようにすることができます。

CMC に対するアクセス権があるユーザは、参照するアクセス権のあるプロフィールだけを閲覧できるので、アクセス権を使用して特定のグループに対してプロフィールを非公開にすることもできます。たとえば、IT 関連のプロフィールへのアクセス許可を IT 管理グループだけに限れば、人事管理グループのユーザはこれらのプロフィールを閲覧することはできません。したがって、プロフィールリストがあれば人事管理グループにも閲覧させることが可能になります。

BI プラットフォーム内のアクセス権モデルの詳細については、SAP ヘルプポータル (<http://help.sap.com>) で入手可能な『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』の「アクセス権の設定」の章を参照してください。

## 公開

### 10.1 公開について

公開により、Crystal レポートおよび Web Intelligence ドキュメントなどのドキュメントはディスクに保存され、BI プラットフォームで Web の表示、アーカイブ、取得、スケジュール用に管理されて、電子メールまたは FTP サーバ経由で自動的に使用可能になります。

BI ラウンチパッドまたは CMC を使用して、ドキュメントを異なるそれぞれのユーザ（受信者）用にカスタマイズしたり、スケジュールして一定の間隔で実行したり、また、BI 受信ボックスや電子メールアドレスなどの複数の出力先に送信したりすることができます。

### 10.2 パブリケーションとは

パブリケーションは、不特定多数の受信者に配信するドキュメントのコレクションです。ドキュメントを配信する前に、公開者はメタデータのコレクションを使用してパブリケーションを定義します。このメタデータには、パブリケーションのソース、受信者、および適用されるパーソナライゼーションが含まれます。

パブリケーションを使用すると、組織内への情報提供をより効果的に行うことができます。例:

- ・ ユーザまたはユーザグループにユーザ用またはグループ用にカスタマイズしたフィルタを適用して、情報を簡単に配信できます。
- ・ イン트라ネット、エクストラネット、またはインターネット経由で、パスワード保護されたポータルを使って、ユーザまたはユーザグループにターゲットビジネス情報を配信します。
- ・ ユーザがドキュメント処理要求を送信する手間が省かれるので、データベースへのアクセスを最小限に抑えることができます。

Crystal レポートまたは Web Intelligence ドキュメントに基づいて、さまざまな種類のパブリケーションを作成できます。

### 10.3 公開の概念

### 10.3.1 レポートバースト

公開中、ドキュメント内のデータがデータソースに対して最新表示され、パーソナライズされてから、パブリケーションが受信者に配信されます。この複合処理はレポートバーストと呼ばれます。

パブリケーションのサイズや、対象受信者の数に応じて、以下のレポートバースト方法を使用できます。

- すべての受信者のデータベースフェッチ: パブリケーション内のすべてのドキュメントが 1 回最新表示され、パーソナライズされ、各受信者に配信されます。このレポートバースト方式では、公開者のデータソースログオン認証情報を使用してデータが最新表示されます。

これは Web Intelligence ドキュメントパブリケーションのデフォルトオプションで、データベースに対する公開の影響を最小限に抑える必要がある場合に推奨されます。このオプションのパフォーマンスは、受信者数によって異なります。

このオプションは、ソースドキュメントが静的ドキュメントとして配信される場合にのみ安全です。たとえば、Web Intelligence ドキュメントをその元の形式で受信した受信者は、ドキュメントを変更したり、他の受信者に関連するデータを表示できます。ただし、ドキュメントが PDF ファイルとして配信された場合は、そのデータは安全です。

#### 注

このオプションは、Crystal レポートが元の形式で配信されたかどうかに関係なく、ほとんどの Crystal レポートに対して安全です。

- 受信者のバッチごとのデータベースフェッチ: パブリケーションを最新表示、パーソナライズし、受信者に対して指定されたパーソナライゼーション値に基づいて受信者のバッチに配信します。バッチサイズは、指定したパーソナライゼーション値に応じて決まり、設定できません。このレポートバースト方式では、公開者のデータソースログオン認証情報を使用してデータが最新表示されます。

これは、Crystal レポートパブリケーションのデフォルトオプションで、高ボリュームシナリオの場合に推奨されます。このオプションを使用すると、さまざまなサーバでバッチを同時に処理できるので、大量のパブリケーションに必要な処理負荷や時間を大幅に削減できます。

#### 注

このオプションは Web Intelligence ドキュメントでは使用できません。

- 受信者ごとのデータベースフェッチ: ドキュメント内のデータは受信者ごとに最新表示されます。このレポートバースト方式では、受信者のデータソースログオン認証情報を使用してデータが最新表示されます。たとえば、1 つのパブリケーションに受信者が 5 人いる場合、パブリケーションは 5 回最新表示されます。

このオプションは、パブリケーションをできる限り安全に配信する必要がある場合に推奨されます。

ユニバースまたはビジネスビューに基づく Crystal レポートをサポートする場合は、セキュリティを最大化するためにこのオプションを選択します。

#### 関連項目

- 211 ページの[レポートバースト方法を選択する](#)

## 10.3.2 配信ルール

### 注

この機能は Web Intelligence ドキュメントでは使用できません。

配信ルールは、パブリケーション内のドキュメントの処理および配布方法に影響します。ドキュメントに配信ルールを設定すると、パブリケーションはドキュメント内の内容が特定の条件と一致する場合にのみ受信者に配信されます。配信ルールには次の 2 種類があります。

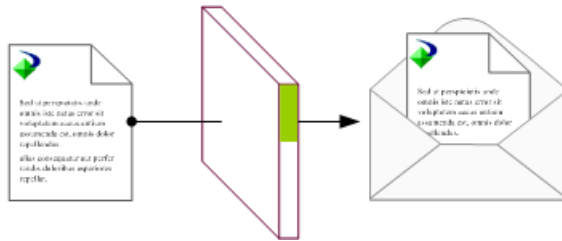
配信ルール	説明
グローバル配信ルール	<p>指定されたドキュメント内のデータが配信ルールに一致すると、パブリケーションはすべての受信者に配信されます。</p> <p>グローバル配信ルールに対して指定されるドキュメントは、パブリケーションで使用されている 1 つまたは複数のドキュメントと異なる場合があります。たとえば、パブリケーション内のドキュメントではなく、動的受信者ソースとして使用されるドキュメントにグローバル配信ルールを設定できます。</p>
受信者配信ルール	<p>受信者のインスタンス内のデータが配信ルールに一致すると、そのインスタンスはすべての受信者に配信されます。</p>

パブリケーションにグローバル配信ルールと受信者配信ルールの両方が設定されている場合、グローバル配信ルールが最初に評価され、パブリケーションが処理されるかどうか決まります。パブリケーションがグローバル配信ルールに一致すると、BI プラットフォームによって受信者配信ルールが評価され、受信者ごとにどのインスタンスを処理および配布するかが決定されます。

配信ルールの設定方法は、公開するドキュメントの種類に応じて異なります。Crystal レポートの場合は、レポートデザイナーが Crystal レポートで作成した名前の付いたアラートに基づいて配信ルールを指定します。配信ルールは、パーソナライズされたパブリケーションにデータが含まれているかどうかに基づいて設定することもできます。

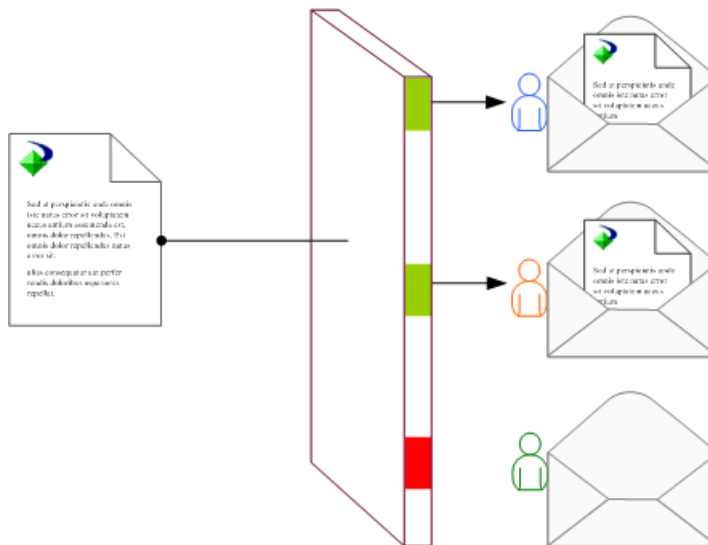
以下の図は、アラートに基づくグローバル配信ルールの動作を示しています。グローバル配信ルールは、パブリケーション内のドキュメントに設定されています。Crystal レポートには、100,000 を超える金額に対する“売上げ”アラートが含まれています。公開者は、“売上げ”アラートに基づいてグローバル配信ルールを作成します。Crystal レポートは、売上げが 100,000 を超える場合にのみ受信者に配信されます。この場合、配信ルールに一致するため、Crystal レポートが配信されます。

図 10-1: グローバル配信ルールに一致している場合



以下の図は、受信者配信ルールの動作を示しています。公開者は、レポートに特定の受信者向けのデータが含まれている場合に、その受信者にも Crystal レポートが配信されるように、受信者配信ルールを作成します。レポートが受信者ごとにパーソナライズされている場合、緑の受信者は、Crystal レポートにデータがないため、パブリケーションを受信しません。青の受信者とオレンジの受信者は、レポートにデータがあるため、パブリケーションを受信します。

図 10-2: 受信者配信ルールに一致していない場合



複数のドキュメントおよびオブジェクトを含むパブリケーションの場合、ドキュメントごとに独自の受信者配信ルールを設定できます。処理および配信に関する、以下のオプションがあります。

- ・ パブリケーション内のあるドキュメントが、ある受信者の受信者配信ルールに一致しない場合、パブリケーション全体がその受信者に対して配信されません。
- ・ パブリケーション内のあるドキュメントが、ある受信者の受信者配信ルールに一致しない場合、そのドキュメントは配信されませんが、パブリケーション内の他のドキュメントはすべてその受信者に配信されます。

配信ルールは、多数の受信者を対象としたパブリケーションをより効率的に処理および配信できるため便利です。たとえば、保険会社の公開者が、次のオブジェクトを含む顧客向けのパブリケーションを作成するとします。

- ・ 保険請求書（パーソナライズされた Crystal レポート）
- ・ 月間ステートメント（パーソナライズされた Crystal レポート）
- ・ 支払方法に関するパンフレット（PDF ファイル）

保険請求書には、0 を超える金額に対して “支払額” アラートが存在します。公開者は、保険請求書に対して “支払額” 受信者配信ルールを作成して、顧客が支払を行う必要がある場合のみ保険請求書が発行および配布されるようにします。また、公開者は、顧客が保険料を支払う必要がない場合に月間ステートメントやパン



フレットを顧客が受信しないようにする必要があるため、保険請求書が配信ルールに一致しない場合、パブリケーション全体が公開されないように指定します。パブリケーションを実行すると、パブリケーションが処理されて、支払義務のある顧客にのみ配信されます。

**注**

パブリケーションの実行時に Crystal レポートパブリケーションの印刷がスケジュールされている場合、パブリケーション内のドキュメントが配信ルールに一致せず、受信者に配信されない場合でも、印刷ジョブは実行されます。これは、印刷ジョブがパーソナライゼーションのときに処理され、配信ルールはパーソナライズ後のパブリケーションに適用されるからです。

**関連項目**

- ・ 202 ページの[\(オプション\) Crystal レポートのグローバル配信ルールを設定する](#)
- ・ 201 ページの[\(オプション\) Crystal レポートの受信者配信ルールを設定する](#)

### 10.3.3 動的受信者

動的受信者は、BI プラットフォームのユーザアカウントは持たないが、データベース、LDAP、または AD ディレクトリなどの外部データソースのユーザ情報を持つパブリケーション受信者です。

パブリケーションを動的受信者に配布するには、動的受信者ソースを使用します。これは、BI プラットフォーム外のパブリケーション受信者に関する情報を提供するドキュメントまたはカスタムデータプロバイダです。パブリケーションにつき 1 つの動的受信者ソースを使用して、外部データソースに直接リンクし、動的受信者用の最新データを取得することができます。動的受信者ソースを使用すると、パブリケーションを動的受信者に配布する前に動的受信者の BI プラットフォームユーザアカウントを作成する必要がないため、管理コストが削減されます。

たとえば、請求会社が BI プラットフォームユーザ以外の顧客に請求書を配信する場合、顧客情報は外部データベースに存在します。公開者は、外部データベースに基づいてドキュメントを作成し、パブリケーションの動的受信者ソースとしてドキュメントを使用します。顧客は請求パブリケーションを受信し、公開者とシステム管理者は動的受信者ソースを使用して最新の連絡先情報を管理できます。

動的受信者ソースを使用して、次のアクションを実行できます。

- ・ 1 つのパブリケーションを、動的受信者と BI プラットフォームユーザに同時に配布する

**注**

動的受信者はパブリケーションから自身を自動的に購読解除できません。

- ・ パブリケーションを作成するときに動的受信者の一覧をプレビューする
- ・ パブリケーションをすべての動的受信者に配布するか、特定の動的受信者を除外するかを指定する
- ・ パブリケーションを電子メールや FTP サーバなどの外部出力先に配布する

**注**

動的受信者は BI プラットフォームのユーザアカウントを持たないため、BI 受信ボックスは動的受信者には無効な宛先です。

動的受信者ソースを使用するには、次の値ごとに 1 つの列を指定します。

- ・ 受信者 ID(必須)
- ・ 受信者のフルネーム
- ・ 電子メールアドレス

[受信者 ID] 列によって、パブリケーションを受信する動的受信者の数が決まります。動的受信者ソースは受信者 ID によって並べ替えます。

レポートの作成についての概要は、『SAP Crystal Reports ユーザガイド』を参照してください。カスタムコーディングされた動的受信者ソースの作成については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム Java SDK 開発者ガイド』を参照してください。

### 10.3.4 パブリケーション配信出力先

出力先は、パブリケーションが配信される場所です。出力先には、パブリケーションが格納される BI プラットフォーム内の場所、BI 受信ボックス、電子メールアドレス、FTP サーバ、またはファイルシステム内のディレクトリを指定できます。1 つのパブリケーションに複数の出力先を指定できます。

複数の Crystal レポートを公開する場合は、それらを出力先ごとに 1 つの PDF ファイルにマージすることができます。

パブリケーションを圧縮 (.zip) ファイルとして公開する場合は、出力先ごとにインスタンスを圧縮または抽出できます。たとえば、電子メール受信者向けにインスタンスを圧縮したり、BI 受信ボックス向けにインスタンスを抽出したりすることができます。

#### 10.3.4.1 出力先

次の出力先を選択できます。

- ・ デフォルトの Enterprise の場所
- ・ BI 受信ボックス
- ・ 電子メール
- ・ FTP サーバ
- ・ ファイルシステム
- ・ SAP StreamWork (有効化かつ設定されている場合)



表 10-2: デフォルトの Enterprise の場所出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションには、そのパブリケーションを作成したフォルダからアクセスできます。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li><li>パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li></ul> <p>この場所にパブリケーションを送信する場合は、すべての受信者がアクセスできるフォルダを選択します。</p>	<p>Output File Repository Server</p> <p>履歴のインスタンスはデフォルトの Enterprise サーバに保存されますが、他の出力先には保存されません。</p>

表 10-3: BI 受信ボックス出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションは、各受信者の BI 受信ボックスに送信されます。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出力先のデフォルト設定を使用する</li> <li>・ 個別のユーザにオブジェクトを配信する</li> </ul> <p><b>注</b> ユーザをすばやく見つけるには、[タイトルの検索] ボックスで受信者のユーザ名、フルネーム、または電子メールアドレスを検索できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ デフォルトのファイル名を使用するか、ファイル名を入力するか、プレースホルダを追加する。[指定の名前を使用する]を選択する場合は、ファイル拡張子を入力するか、ボックスにファイル拡張子のプレースホルダを追加します。</li> <li>・ ファイル名に自動的に拡張子を追加する</li> </ul> <p><b>警告</b> ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パブリケーションをショートカットまたはコピーとして送信する。パブリケーションを受信者の BI 受信ボックスにショートカットとして送信する場合は、すべての受信者がアクセスできるフォルダを選択します。パブリケーションのショートカットを BI 受信ボックスに送信するには、出力先として、[BI 受信ボックス] および [デフォルトの Enterprise の場所] の両方を選択します。</li> <li>・ すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li> <li>・ パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Output File Repository Server</li> <li>・ 指定された BI 受信ボックス</li> </ul>

表 10-4: 電子メール出力先

説明	インスタンスの保存先
	<ul style="list-style-type: none"><li>・ Output File Repository Server</li><li>・ 指定された電子メール受信者</li></ul> <p>レポートインスタンスをスケジュールするかこの出力先に送信するには、Adaptive Job Server で電子メール (SMTP) の出力先を有効にして設定する必要があります。</p>

説明	インスタンスの保存先
<p><b>注</b></p> <p>この出力先を選択する前に、Adaptive Job Server で電子メール設定が正しく設定されていることを確認します。</p> <p>パブリケーションは、電子メールで受信者に送信されます。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出力先のデフォルト設定を使用する</li> <li>・ 個別のユーザにオブジェクトを配信する</li> <li>・ (必須) [差出人] ボックスに自分の電子メールアドレスを入力する。電子メールアドレスを入力しない場合、BI プラットフォームでは、公開者のアカウントに関連付けられている電子メールアドレスが使用されます。公開者のアカウントに電子メールアドレスがない場合、BI プラットフォームでは、Adaptive Job Server の電子メールアドレスが使用されます。</li> </ul> <p><b>警告</b></p> <p>[差出人] ボックス、公開者のアカウント、または Adaptive Job Server のいずれにも電子メールアドレスがない場合、パブリケーションは失敗します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ [宛先] ボックスに、受信者の電子メールアドレスを入力するか、電子メールアドレスのプレースホルダを追加する</li> <li>・ [CC] ボックスに、受信者の電子メールアドレスを入力するか、電子メールアドレスのプレースホルダを追加する</li> <li>・ [BCC] ボックスに、受信者の電子メールアドレスを入力するか、電子メールアドレスのプレースホルダを追加する</li> <li>・ [件名] ボックスに件名を入力するか、プレースホルダを追加する</li> <li>・ [メッセージ] ボックスに、パブリケーションと一緒に配信する情報を入力するか、プレースホルダを追加して電子メール本文に動的コンテンツドキュメントを埋め込む</li> <li>・ ソースドキュメントのインスタンスを電子メールに添付する</li> <li>・ デフォルトのファイル名を受け入れるか、ファイル名を入力するか、プレースホルダを追加する。[指定の名前を使用する]を選択する場合は、ファイ</li> </ul>	

説明	インスタンスの保存先
<p>ル拡張子を入力するか、ボックスにファイル拡張子のプレースホルダを追加します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ファイル名に自動的に拡張子を追加する</li> </ul> <p><b>警告</b> ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li> <li>パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li> </ul>	

表 10-5: FTP サーバ出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションは、FTP サーバに送信されます。[ホスト] ボックスに、FTP サーバの場所を入力する必要があります (入力しないと、BI プラットフォームは、Adaptive Job Server 用に設定された FTP サーバを使用します)。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出力先のデフォルト設定を使用する</li> <li>ポート番号、ユーザ名とパスワード、およびアカウントを入力する</li> <li>ディレクトリ名を入力する</li> <li>デフォルトのファイル名を受け入れるか、ファイル名を入力するか、プレースホルダを追加する。[指定の名前を使用する] を選択する場合は、ファイル拡張子を入力するか、ボックスにファイル拡張子のプレースホルダを追加します。</li> <li>ファイル名に自動的に拡張子を追加する</li> </ul> <p><b>警告</b> ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li> <li>パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Output File Repository Server</li> <li>選択された FTP サーバ</li> </ul>

表 10-6: ファイルシステム出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションは、ファイルシステムのディレクトリに送信されます。パブリケーションのディレクトリを入力する必要があります。次の操作が実行できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出力先のデフォルト設定を使用する</li> <li>・ ファイルの場所にアクセスするためのユーザ名とパスワードを入力する</li> <li>・ 個別のユーザにオブジェクトを配信する</li> <li>・ デフォルトのファイル名を受け入れるか、ファイル名を入力するか、プレースホルダを追加する。[指定の名前を使用する]を選択する場合は、ファイル拡張子を入力するか、ボックスにファイル拡張子のプレースホルダを追加します。</li> <li>・ ファイル名に自動的に拡張子を追加する</li> </ul> <p><b>警告</b> ファイル名にファイル拡張子を追加しないと、ドキュメントを開けない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ すべてのエクスポートされた PDF ドキュメントを結合する (Crystal レポートのみ)</li> <li>・ パブリケーションを圧縮ファイル (.zip) ファイルとしてパッケージ化する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Output File Repository Server</li> <li>・ 選択されたファイルの場所</li> </ul>

表 10-7: SAP StreamWork 出力先

説明	インスタンスの保存先
<p>パブリケーションは、他のユーザとのコラボレーションのために送信されます。</p> <p><b>注</b> この出力先は、BI プラットフォームで SAP StreamWork が設定されて有効化されている場合に使用できます。</p>	SAP StreamWork

デフォルトでは、すべての出力先に対して [各ユーザにオブジェクトを配信] チェックボックスがオンになっています。ただし、場合によっては、各ユーザにオブジェクトを配信しないようにする場合もあります。たとえば、3 人の受信者が同一のパーソナライゼーション値を持っていると、パブリケーションインスタンスの同じデータが受

信されます。[各ユーザにオブジェクトを配信] チェックボックスをオフにした場合は、1 つのパブリケーションインスタンスが生成され、それが 3 人の受信者すべてに配信されます。[各ユーザにオブジェクトを配信] チェックボックスをオンにした場合は、同じパブリケーションインスタンスが 3 回 (受信者ごとに 1 回ずつ) 配信されます。

パブリケーションを [FTP サーバ] または [ファイルシステム] 出力先に送信し、何人かの受信者が同じパーソナライゼーション値を持っている場合は、[各ユーザにオブジェクトを配信] チェックボックスをオフにすると、処理時間全体を短縮できます。[各ユーザにオブジェクトを配信] をオフにする場合は、出力先の設定時に使用するプレースホルダには、受信者ではなく公開者の情報が入力されます。

### 10.3.5 パブリケーションソースドキュメント名のパーソナライズされたプレースホルダ

プレースホルダは、変数データのコンテナです。パーソナライズされたプレースホルダをファイル名に組み込むと、受信者はフィルタリングされたデータを簡単に識別できます。パーソナライゼーション値が異なる複数のユーザグループに属している受信者は、同じソースドキュメントの複数のバージョンの違いをそのコンテンツを表示することなく区別できます。

#### 注

パブリケーションに複数のソースドキュメントが含まれている場合、すべてのソースドキュメントが同じフィールドでフィルタリングされていなければ [指定の名前を使用する] の [プレースホルダの追加] 一覧にパーソナライズされたプレースホルダは含まれません。

レポートで使用する各フィルタに、次のパーソナライズされたプレースホルダが表示されます。

- ・ %<field name>\_VALUE%

たとえば、電子メールアドレスプレースホルダを選択する場合、[指定の名前を使用する] ボックスには %SI\_EMAIL\_ADDRESS% が表示されます。実行時に、プレースホルダはレポートをフィルタリングするために使用されるフィールドの値に置換されます。このプレースホルダは受信者ごとに固有です。

- ・ %<field name>\_NAME%

たとえば、タイトルプレースホルダを選択する場合、[指定の名前を使用する] ボックスには %SI\_Name% が表示されます。実行時に、プレースホルダはフィールドの実際の名前に置換されます。このプレースホルダはすべての受信者で同じです。

#### 関連項目

- ・ 189 ページの [パブリケーションソースドキュメントに対してパーソナライズされたプレースホルダを選択する](#)

### 10.3.6 電子メールフィールドのパーソナライズされたプレースホルダ

パーソナライゼーション時にレポートで使用されるフィルタごとに、以下のプレースホルダが[プレースホルダの追加] 一覧に表示されます。

- ・ %Field - Query 1-VALUE%

実行時に、プレースホルダはレポートをフィルタリングするために使用されるパーソナライズされた値に置換されます。このプレースホルダは受信者ごとに固有です。

- ・ %Field - Query 1-NAME%

実行時に、プレースホルダはフィールドの名前に置換されます。このプレースホルダはすべての受信者で同じです。

パブリケーションの電子メール送信時に [件名] ボックスおよび [メッセージ] ボックスでパーソナライズされたプレースホルダを使用するには、パブリケーションのすべてのソースドキュメントが同じフィールドでパーソナライズされている必要があります。

パブリケーションに複数のソースドキュメントが含まれている場合、すべてのソースドキュメントが同じフィールドでフィルタリングされていなければ、[件名] および [メッセージ] フィールドの [プレースホルダの追加] 一覧にパーソナライゼーションパラメータは表示されません。

### 10.3.7 形式

パブリケーションのドキュメントのファイルタイプは形式によって定義されます。単一のドキュメントを複数の形式で公開することができます。この場合、選択する形式ごとにドキュメントのインスタンスが作成されます。各インスタンスを複数の出力先に配信できます。複数のドキュメントを含むパブリケーションの場合、それぞれのドキュメントに異なる形式を指定できます。Web Intelligence ドキュメントを含むパブリケーションの場合は、ドキュメント全体またはドキュメント内の 1 つのレポートタブを複数の形式で公開できます。

ドキュメントに対して選択した形式は、パブリケーションのすべての受信者に適用されます。たとえば、1 つのドキュメントを、ある受信者には Microsoft Excel ファイルとして公開し、別の受信者には PDF ファイルとして公開することはできません。一部の受信者が両方の形式でインスタンスを受信する必要がある場合は、すべての受信者が、Microsoft Excel ファイルと PDF ファイルを 1 つずつ受信する必要があります。

#### 関連項目

- ・ 193 ページの[Crystal レポートのパブリケーションの形式を指定する](#)
- ・ 205 ページの[Web Intelligence ドキュメントのパブリケーション形式を指定する](#)

#### 10.3.7.1 パブリケーションの書式設定オプション



ドキュメントの種類	形式	説明
すべての種類	mHTML	<p>ドキュメントは mHTML 形式で公開されます。ドキュメントの内容を電子メールに mHTML として埋め込むことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Crystal レポートの場合は、1 つのレポートの内容を電子メールに埋め込むことができます。</li> <li>・ Web Intelligence ドキュメントの場合は、1 つのレポートタブの内容を電子メールに埋め込むことができます。</li> </ul> <p>ドキュメントは、ソースドキュメントが [新規パブリケーション] ダイアログボックスに一覧表示される順序で出力されます。たとえば、ダイアログボックスの上部のドキュメントは電子メールの上部に表示されます。</p>
	PDF	<p>ドキュメントは静的な PDF ファイルとして公開されます。</p> <p>PDF マージと合わせてこのオプションを使用すると、ドキュメントは、ソースドキュメントが [新規パブリケーション] ダイアログボックスに一覧表示される順序で出力されます。たとえば、ダイアログボックスの上部のドキュメントはマージされた PDF ファイルの上部に表示されます。</p>
	Microsoft Excel(97-2003)	<p>ドキュメントは Microsoft Excel (.xls) ファイルとして公開され、元の書式設定ができる限り保持されます。</p>

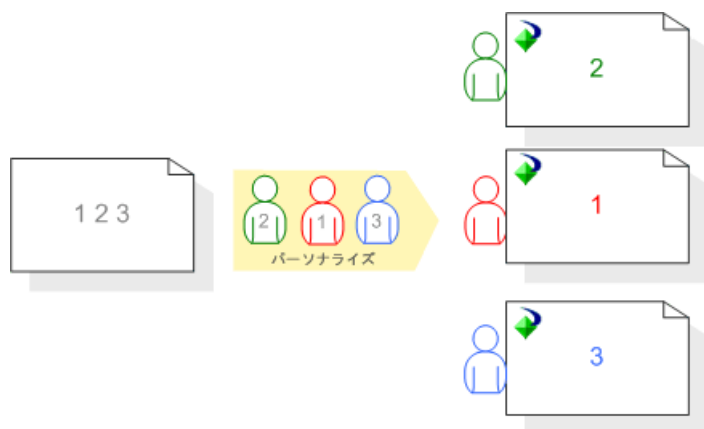
ドキュメントの種類	形式	説明
Crystal レポート	Microsoft Excel (97-2003) (データのみ)  Microsoft Excel ワークブック データのみ	Crystal レポートはデータのみを含む Excel (.xls) ファイルとして公開されます。
	XML	Crystal レポートは XML (.xml) 形式で公開されます。
	Crystal レポート	Crystal レポートは元の (.rpt) 形式で公開されます。
	Crystal レポート (RPTR)	Crystal レポートは読み取り専用 (.rprr) 形式で公開されます。
	Microsoft Word(97-2003)	Crystal レポートは Microsoft Word (.doc) ファイルとして公開され、Crystal レポートの元の書式が保持されます。  受信者が変更を加えずにパブリケーションを表示する場合に、このオプションを使用します。
	Microsoft Word - 編集可能 (RTF)	Crystal レポートは受信者が編集できる Word (.rtf) ファイルとして公開されます。  受信者がパブリケーションを表示してその内容を編集する場合に、このオプションを使用します。
	リッチテキスト形式(RTF)	Crystal レポートはリッチテキスト形式 (.rtf) で公開されます。
	テキスト	Crystal レポートはテキスト (.txt) 形式で公開されます。
	ページ区切り付きテキスト	Crystal レポートはテキスト (.txt) 形式で公開され、パブリケーションの内容がページで区切られます。
	タブ区切りテキスト (TTX)	Crystal レポートはテキスト (.ttx) 形式で公開され、タブを使用して列の内容が区切られます。
	カンマ区切り値(CSV)	Crystal レポートは文字区切り値 (.csv) ファイルとして公開されます。

ドキュメントの種類	形式	説明
Web Intelligence ドキュメント	Web Intelligence	Web Intelligence ドキュメントは元の (.wid) 形式で公開されます。

### 10.3.8 パーソナライゼーション

パーソナライゼーションとは、パブリケーションの受信者に対して関連するデータのみが表示されるように、ソースドキュメントのデータをフィルタリングする処理です。パーソナライゼーションはデータのビューを変更しますが、データソースからクエリされたデータを変更したり保護したりすることはありません。

以下の図では、パーソナライゼーションの動作方法を示します。パーソナライズされていないレポートに、データタイプ 1、2、および 3 が含まれているとします。レポートにパーソナライゼーションが適用されると、ユーザは自分に関係のあるデータのみを受信します。ユーザ 2 はデータタイプ 2 のみ、ユーザ 1 はデータタイプ 1 のみ、ユーザ 3 はデータタイプ 3 のみを受信します。



ソースドキュメントをパーソナライズする

- Enterprise 受信者の場合は、パブリケーションを設計するときにプロファイルを適用する必要があります。Enterprise 受信者のデータのパーソナライズにプロファイルを使用する前に、BI プラットフォームでプロファイルを設定する必要があります。BI プラットフォームに追加するプロファイルが必要な場合は、システム管理者に問い合わせてください。
- 動的受信者の場合は、ソースドキュメントのデータフィールドまたは列を動的受信者ソースのデータにマップできます。たとえば、ソースドキュメントの“顧客 ID”フィールドを動的受信者ソースの“受信者 ID”フィールドにマップできます。

**注**

パーソナライゼーションの完了後、パーソナライズされていないパブリケーションインスタンスを受信する受信者の一覧を表示するには、[新規パブリケーション] ダイアログボックスで、[追加オプション] > [詳細] を選択して、[パーソナライゼーションが適用されないユーザを表示] チェックボックスを選択します。

**関連項目**

- ・ 191 ページの [パラメータ値を使用して Crystal レポートをパーソナライズする](#)
- ・ 192 ページの [フィールドをフィルタリングして Crystal レポートをパーソナライズする](#)
- ・ 205 ページの [グローバルプロファイルターゲットを使用して Web Intelligence ドキュメントをパーソナライズする](#)
- ・ 206 ページの [フィールドをフィルタリングして、Web Intelligence ドキュメントをパーソナライズする](#)
- ・ 167 ページの [パブリケーションソースドキュメント名のパーソナライズされたプレースホルダ](#)

### 10.3.9 パブリケーション拡張

パブリケーション拡張とは、ビジネスロジックをパブリケーションに適用するコードのライブラリです。処理または配信後に、パブリケーションの自動カスタマイズが必要な場合にパブリケーション拡張を使用します。パブリケーション拡張を使用して、処理後に次のようなタスクを実行できます。

- ・ 同じタイプのドキュメントをマージする。たとえば、複数の Excel スプレッドシートを 1 つの Excel ワークブックにマージできます。
- ・ ドキュメントにパスワード保護を追加する、またはドキュメントを暗号化する。
- ・ ドキュメントを別の形式に変換する。
- ・ パブリケーションジョブ用のカスタムログファイルを作成する。

パブリケーション拡張は、セントラル管理コンソール (CMC) で指定します。

**注**

BI ラウンチパッドでパブリケーションを作成している場合は、パブリケーション拡張を使用できません。

パブリケーション拡張の詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム Java SDK 開発者ガイド』を参照してください。

**関連項目**

- ・ 207 ページの [パブリケーション拡張を選択する](#)

### 10.3.10 購読

購読では、パブリケーションの受信者ではないユーザが、最新インスタンスを表示できます。Enterprise 受信者は、いつでもパブリケーションの購読解除を行うことができます。動的受信者はパブリケーションの購読および購読解除のいずれも行うことはできません。

適切な権限を持っているユーザは、他のユーザの購読および購読解除を行うことができます。パブリケーションの購読または購読解除を実行するには、BI プラットフォームのアカウントおよび以下の権限が必要です。

- ・ BI ラウンチパッドまたはセントラル管理コンソール (CMC) へのアクセス権
- ・ パブリケーションの表示権限
- ・ ユーザアカウントの購読者権限 (Enterprise 受信者)

#### 関連項目

- ・ 212 ページの[「パブリケーションを購読または購読解除する」](#)

### 10.3.11 Crystal レポートの場合の PDF ファイルのマージ

Crystal レポートの PDF インスタンスと静的 PDF ドキュメントを 1 つの PDF ファイルにマージして、マージされた PDF に対して以下のタスクを実行することができます。

- ・ 目次の追加および書式設定
- ・ 連続したページ番号の挿入
- ・ PDF ファイルの表示および編集に必要なユーザパスワードと所有者パスワードの追加
- ・ 受信者が PDF ファイルで実行できる処理に対する制限の設定

すべての静的 PDF ソースドキュメントは、マージされた PDF ファイルに格納されます。PDF ファイル以外の静的ソースドキュメントは、除外されます。

## 10.4 公開に必要なアクセス権

ロール	タスク	必要な権限
ドキュメントデザイナー	パブリケーションの基となるドキュメントを作成する。	なし
ドキュメントデザイナー	ドキュメントを BI プラットフォームに追加する。	<ul style="list-style-type: none"><li>ドキュメントを追加するフォルダまたはカテゴリに対する表示権限および追加権限</li></ul>
ドキュメントデザイナー	動的受信者ソースとして使用するドキュメントを作成する。	<ul style="list-style-type: none"><li>ドキュメントを追加するフォルダまたはカテゴリに対する表示権限および追加権限</li></ul>
Publisher	パブリケーションを作成する。	<ul style="list-style-type: none"><li>パブリケーションが保存されるフォルダに対する追加権限</li><li>受信者となるユーザおよびグループに対する表示権限</li><li>パーソナライゼーションに使用されるプロファイルに対する表示権限</li><li>パブリケーションのドキュメントに対する表示権限</li><li>パブリケーションのドキュメントに対するスケジュール権限</li><li>Enterprise 受信者に対するスケジュール権限</li></ul>

ロール	タスク	必要な権限
Publisher	パブリケーションをスケジュールする。	<p><b>注</b> パブリケーションをスケジュールする権限は、公開者のみが保持する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ パブリケーションに対する表示権限、スケジュール権限、追加権限、およびセキュリティの変更権限</li> <li>・ パブリケーションに対するインスタンスの削除権限</li> <li>・ 受信者となるユーザおよびグループに対する表示権限</li> <li>・ パーソナライゼーションに使用されるプロファイルに対する表示権限</li> <li>・ パブリケーションのドキュメントに対する表示権限およびスケジュール権限</li> <li>・ 動的受信者ソースに対する表示権限および最新表示権限</li> <li>・ 配信ルールが設定されるドキュメントに対する表示権限および最新表示権限</li> <li>・ パブリケーションのオブジェクトで使用するユニバースに対するデータアクセス権限</li> <li>・ 使用されるユニバース接続に対するデータアクセス権限</li> <li>・ BI 受信ボックスにスケジュールする場合、各受信者の BI 受信ボックスに対する追加権限および表示権限</li> <li>・ パブリケーションを含むフォルダに対する「オブジェクトに対するユーザの権限を変更する」権限</li> <li>・ 受信者に対する購読権限</li> <li>・ 公開者がパブリケーションインスタンスを印刷する場合、Crystal レポートソースドキュメントに対する印刷権限</li> <li>・ [受信者ごとのデータベースフェッチ] を選択している場合、Enterprise 受信者に対する「他のユーザの代理としてスケジュール」権限</li> </ul>

ロール	タスク	必要な権限
公開者	失敗したパブリケーションインスタンスを再試行する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ パブリケーションインスタンスに対する編集権限</li> <li>・ パブリケーションに対する表示権限、購読権限、追加権限、およびセキュリティの変更権限</li> <li>・ パブリケーションに対するインスタンスの削除権限</li> <li>・ 受信者となるユーザおよびグループに対する表示権限</li> <li>・ パーソナライゼーションに使用されるプロファイルに対する表示権限</li> <li>・ パブリケーションのドキュメントに対する表示権限およびスケジュール権限</li> <li>・ 動的受信者ソースに対する表示権限および最新表示権限</li> <li>・ 配信ルールが設定されるドキュメントに対する表示権限および最新表示権限</li> <li>・ パブリケーションのオブジェクトで使用するユニバースに対するデータアクセス権限</li> <li>・ 使用されるユニバース接続に対するデータアクセス権限</li> <li>・ BI 受信ボックスにスケジュールする場合、各受信者の BI 受信ボックスに対する追加権限および表示権限</li> <li>・ パブリケーションを含むフォルダに対する「オブジェクトに対するユーザの権限を変更する」権限</li> <li>・ 受信者に対する購読権限</li> <li>・ 公開者がパブリケーションインスタンスを印刷する場合、Crystal レポートソースドキュメントに対する印刷権限</li> <li>・ [受信者ごとのデータベースフェッチ] を選択している場合、Enterprise 受信者に対する「他のユーザの代理としてスケジュール」権限</li> </ul>



ロール	タスク	必要な権限
公開者	パブリケーションインスタンスを再配布する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>パブリケーションに対する表示権限、スケジュール権限、追加権限、およびセキュリティの変更権限</li> <li>各受信者の BI 受信ボックスに対する追加権限および表示権限</li> <li>パブリケーションインスタンスに対するインスタンスの表示権限および編集権限</li> </ul>
受信者	パブリケーションを表示する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>パブリケーションに対する表示権限</li> <li>パブリケーションに対するインスタンスの表示権限</li> </ul> <p>これらの権限により、BI プラットフォームでのパブリケーションオブジェクトの表示が可能になります。これらの権限は、BI 受信ボックスに送信された内容を表示する場合は必要ありません。</p>
受信者	パブリケーションを購読および購読解除する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>パブリケーションに対する表示権限</li> <li>Enterprise 受信者に対する購読権限</li> </ul>

#### 10.4.1 公開者と受信者: 表示する内容とアクセス権

公開者（パブリケーションを所有し、スケジュールするユーザ）は、すべての受信者のすべてのパブリケーションインスタンスを表示できます。受信者は、自分用にパーソナライズされたパブリケーションインスタンスのみを表示できます。この設定では、公開者のみが、パブリケーションのスケジュールおよびすべてのパブリケーションインスタンスを表示する権限を持っているため、パブリケーションデータのセキュリティを最大にすることができます。

##### ヒント

公開者が自身をパブリケーションに受信者として追加する場合は、自分用に、公開者アカウントと受信者アカウントの2つのユーザアカウントを作成します。公開者アカウントでは、パブリケーションの作成およびスケジュールに必要なアクセス権が付与され、受信者アカウントでは通常の受信者のアクセス権が付与されます。



## パブリケーションの使用

### 11.1 パブリケーションのデザイン

新しいパブリケーションをデザインするには、BI プラットフォーム内の公開機能を使用します。公開機能には、所有している権限と BI プラットフォームの Web ベースアプリケーションへのアクセス権に応じて、セントラル管理コンソール (CMC) または BI ラウンチパッドでアクセスできます。

パブリケーションデザイン時には、任意の時点でパブリケーションの変更の保存、終了、リオープン、および追加変更ができます。

#### 11.1.1 Live Office 用のパブリケーションのデザイン

SAP BusinessObjects Live Office で使用するためのパブリケーションをデザインする場合は、次の点に注意してください。

- ・ 動的なコンテンツのドキュメントは、元の形式の Crystal レポートまたは Web Intelligence ドキュメントでのみ構成できます。
- ・ 動的受信者はサポートされません。
- ・ 使用できる出力先オプションは、[デフォルトの Enterprise の場所] のみです。
- ・ 受信者がパーソナライゼーションの後に複数のパブリケーションインスタンスを受信した場合、最初のパブリケーションインスタンスのみを、Live Office クライアントで表示できます。グループメンバーシップから複数のプロファイル値を継承している受信者は、複数のインスタンスを受信する可能性があります。複数のインスタンスが送信されることを回避するため、必要なプロファイル値のみを受信者に割り当ててください。

#### 関連項目

- ・ 171 ページの [「パーソナライゼーション」](#)

#### 11.1.2 SAP 受信者用パブリケーションの設計

SAP 受信者用パブリケーションは、Enterprise または動的受信者用のパブリケーションと同じ方法で動作します。ただし、SAP 受信者の場合、公開ワークフローにおいて以下の違いがあります。

- ・ SAP 受信者用にソースドキュメントをデザインする場合、パーソナライゼーションは使用しません。各 SAP 受信者には、BI プラットフォーム以外のユーザアカウントにマップされているプロファイル値があり、このプロファイル値が組み込みのパーソナライゼーションの機能を果たします。BI プラットフォームで SAP 受信者のプロファイルおよびプロファイル値を作成したり、ソースドキュメントフィールドにプロファイルをマップしたりする必要はありません。
- ・ SAP 受信者用のパブリケーションに関して機能するレポートバースト方法は、[受信者ごとのデータベースフェッチ]のみです。この方法はセキュリティを最大化し、各パブリケーション受信者のデータベースログオン認証情報を個別に処理します。

シングルサインオン設定および認証の詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

### 11.1.3 CMC で新しいパブリケーションを作成する

- 1 CMC の [フォルダ] で [グループツリー] をクリックし、パブリケーションを作成するフォルダを見つけます。
- 2 フォルダを右クリックして、[新規] > [パブリケーション] を選択します。  
[新規パブリケーション] ダイアログボックスが開き、一般プロパティのオプションが表示されます。
- 3 (必須) [タイトル] ボックスに、パブリケーションのタイトルを入力します。
- 4 (オプション) [説明] ボックスに、パブリケーションの説明を入力します。
- 5 (オプション) [キーワード] ボックスに、パブリケーションの内容に関連するキーワードを入力します。
- 6 ナビゲーション一覧の [ソースドキュメント] をクリックしてから、[追加] ボタンをクリックします。
- 7 [ソースドキュメントの選択] ダイアログボックスで、パブリケーションに追加するソースドキュメントを 1 つまたは複数選択し、[OK] をクリックします。  
各ソースドキュメントでは、[実行時に最新表示] チェックボックスがデフォルトで選択されています。これにより、パブリケーションの実行時に、ドキュメントがデータソースに合わせて最新表示されます。
- 8 パブリケーションの実行時にソースドキュメントを最新表示しない場合は、ドキュメントの [実行時に最新表示] チェックボックスをオフにします。
- 9 [保存して閉じる] をクリックします。

### 11.1.4 BI ラウンチパッドで新しいパブリケーションを作成する

- 1 [ドキュメント] タブで [フォルダ] ドロワを展開し、パブリケーションを作成するフォルダを見つけます。
- 2 フォルダを右クリックして、[新規] > [パブリケーション] を選択します。  
[新規パブリケーション] ダイアログボックスが開き、一般プロパティのオプションが表示されます。
- 3 (必須) [タイトル] ボックスに、パブリケーションのタイトルを入力します。
- 4 (オプション) [説明] ボックスに、パブリケーションの説明を入力します。
- 5 (オプション) [キーワード] ボックスに、パブリケーションの内容に関連するキーワードを入力します。

- 6 ナビゲーション一覧の [ソースドキュメント] をクリックしてから、[追加] ボタンをクリックします。
- 7 [ソースドキュメントの選択] ダイアログボックスで、パブリケーションに追加するソースドキュメントを 1 つまたは複数選択し、[OK] をクリックします。  
各ソースドキュメントでは、[実行時に最新表示] チェックボックスがデフォルトで選択されています。これにより、パブリケーションの実行時に、ドキュメントがデータソースに合わせて最新表示されます。
- 8 実行時にソースドキュメントを最新表示しない場合は、[実行時に最新表示] チェックボックスをオフにします。
- 9 [保存して閉じる] をクリックします。

パブリケーションに必要なその他の情報 (受信者、配信形式、出力先、およびドキュメントのパーソナライズ方法) を指定する必要があります。

### 11.1.5 パブリケーションを開く

- 1 パブリケーションを見つけるには、以下の操作を行います。
  - ・ BI ラウンチパッドの [ドキュメント] タブで [フォルダ] ドロワを展開します。
  - ・ セントラル管理コンソール (CMC) の [フォルダ] 管理領域を表示します。
- 2 パブリケーションを右クリックし、[表示] を選択します。  
パブリケーションが新しいウィンドウで開きます。

### 11.1.6 パブリケーションに一般プロパティを定義する

- 1 一般プロパティを入力するパブリケーションを右クリックし、[プロパティ] を選択します。  
[プロパティ] ダイアログボックスが表示され、パブリケーションの一般プロパティとタイトルが表示されます。
- 2 (オプション) [説明] ボックスに、パブリケーションの説明を入力します。
- 3 (オプション) [キーワード] ボックスに、パブリケーションの内容に関連するキーワードを入力します。
- 4 [保存して閉じる] をクリックします。

### 11.1.7 ソースドキュメントを選択する

パブリケーションに含めるソースドキュメントを選択する際、動的コンテンツドキュメントの種類によって利用可能なオプションが決まります。

**ヒント**

ソースドキュメントを添付ファイルまたは結合された PDF ファイルとして送信する場合、表示するドキュメントの順番を設定できます。[新規パブリケーション] ダイアログボックスの [ソースドキュメント] 領域で、[選択] リストからドキュメントを選択し、[上へ移動] または [下へ移動] をクリックしてドキュメントを順序内の別の位置に移動します。

- 1 パブリケーションを右クリックして、[スケジュール] を選択します。  
[プロパティ] ダイアログボックスが表示され、パブリケーションの一般プロパティとタイトルが表示されます。
- 2 [新規パブリケーション] ダイアログボックスで、[ソースドキュメント] をクリックします。
- 3 [追加] をクリックします。  
[ソースドキュメントの選択] ダイアログボックスが開きます。
- 4 パブリケーションに含める同じタイプのドキュメントの動的コンテンツドキュメントを見つけて選択し、[OK] をクリックします。

**ヒント**

Ctrl + クリックまたは Shift + クリックを押して複数のソースドキュメントを選択するか、1 つのソースドキュメントをダブルクリックして選択します。

選択したソースドキュメントが、[新規パブリケーション] ダイアログボックスの [選択] リストに表示されます。ソースドキュメントでは、[実行時に最新表示] 列内のチェックボックスはデフォルトで選択されています。チェックボックスが選択されている場合、パブリケーションの実行時にデータソースに対してドキュメントは最新表示されます。

- 5 パブリケーションの実行時にデータソースに対してソースドキュメントの最新表示を行わない場合、[実行時に最新表示] 列内のドキュメントのチェックボックスの選択を解除します。

**ヒント**

システムのパフォーマンスを向上させるために、最新表示が必要ないドキュメントごとに、[実行時に最新表示] 列内のチェックボックスの選択を解除してください。

- 6 [保存して閉じる] をクリックします。

### 11.1.8 Enterprise 受信者を選択する

- 1 パブリケーションを右クリックして、[スケジュール] を選択します。  
[スケジュール] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 ナビゲーション一覧で [出力先] をクリックし、[Enterprise 受信者] をクリックします。
- 3 パブリケーションの受信者を選択します。
  - a [利用可能] の下にある [ユーザー一覧] をクリックして BI プラットフォームのすべてのユーザの一覧を表示するか、[グループリスト] をクリックして BI プラットフォームのすべてのユーザグループ一覧を表示します。
  - b ユーザまたはユーザグループを選択し、ユーザまたはグループを [選択] リストに移動します。

**ヒント**

[利用可能な受信者]リストでユーザをすばやく見つけるには、[タイトルの検索]ボックスに受信者のユーザ名、フルネーム、または電子メールアドレスを入力します。

**ヒント**

- ・ 複数のユーザまたはグループを選択するには、Shift + クリックまたは Ctrl + クリックを押します。
- ・ 受信者を除外するには、[選択]リストのユーザまたはユーザグループを選択し、ユーザまたはユーザグループを [除外する] リストに移動します。

- 4 [OK] をクリックします。

### 11.1.9 動的受信者を選択する

動的受信者を指定する前に、動的受信者ソースが設計されており、使用可能な状態であることが必要です。

動的受信者は、BI プラットフォームユーザ以外の受信者です。動的受信者ソースには受信者のデータを格納し、Crystal レポート、Web Intelligence ドキュメント、またはカスタムコーディングされたデータプロバイダを使用できます。カスタムコーディングされた動的受信者ソースの作成については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム Java SDK 開発者ガイド』を参照してください。

**注**

動的受信者データはクエリから取得され、ドキュメントを表示すると表示されるデータと一致していない場合があります。クエリの作成方法によっては、Web Intelligence コンポーネントで作成された動的受信者ソースには、パブリケーションのソースドキュメント内のデータに対応しない値が含まれる場合があります。たとえば、レポート内のフィルタで関連の値を除外したり、クエリが重複行を取得するように設定されているために重複するレコードが表示される場合があります。パブリケーションの設計プロセスの間に動的受信者の完全なリストを確認してください。

**ヒント**

より効率的にパブリケーションを処理するには、[受信者の識別子]リストを使用し、受信者 ID を基準に受信者データを並べ替えます。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 ナビゲーション一覧で [動的受信者] をクリックします。

**注**

Crystal レポート動的受信者のソースを、.rptr 形式にすることはできません。

- 3 [動的受信者のソースの選択] の下で、[Web Intelligence レポート動的受信者プロバイダ] または [Crystal Reports 動的受信者データプロバイダ] のいずれかを選択します。
- 4 動的受信者ソースとして使用するオブジェクトを検索して選択し、[OK] をクリックします。
- 5 動的受信者ソースとして Web Intelligence ドキュメントを選択する場合は、[ドキュメントのデータソース名の選択] リストからドキュメントに表示されるクエリを選択します。
- 6 [受信者の識別子 (必須)] リストから、受信者の ID 値が含まれるフィールドを選択します。
- 7 (オプション) [フルネーム] リストから受信者のフルネームが含まれるフィールドを選択します。

- 8 パブリケーションを電子メールアドレスに配信する場合は、[電子メール]リストから受信者の電子メールアドレスが含まれるフィールドを選択します。
- 9 パブリケーションを配信する動的受信者ソース内の受信者を、以下のように決定します。
  - ・ パブリケーションをすべての動的受信者に送信するには、[完全リストの使用] チェックボックスを選択します。
  - ・ パブリケーションを特定の動的受信者に送信するには、[完全リストの使用] チェックボックスの選択を解除し、[利用可能] の下で、受信者のチェックボックスを選択して受信者を [選択] リストに移動します。

#### ヒント

[利用可能な受信者]リストでユーザをすばやく見つけるには、[タイトルの検索] ボックスに受信者のユーザ名、フルネーム、または電子メールアドレスを入力します。

#### ヒント

受信者を除外するには、受信者のチェックボックスを選択し、[除外する] リストに移動します。

- 10 [OK] をクリックします。

パブリケーションの動的受信者を指定した後、動的受信者に対するパブリケーションをパーソナライズできます。これを行うには、ソースドキュメント内のフィールドを動的受信者ソース内の列にマップします。

### 11.1.10 パブリケーションの出力先を選択する

Enterprise 受信者がパブリケーションインスタンスを表示するには、そのパブリケーションの [表示] 権限を所持している必要があります。動的受信者は、BI アカウントを所持していないため、パブリケーションインスタンスにアクセスできません。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [出力先] をクリックします。
- 3 (オプション) 使用しているシステムにパブリケーションインスタンスを保存しないようにするには、[送信先の選択] の下にある [デフォルトの Enterprise の場所] チェックボックスの選択を解除します。
- 4 パブリケーションオブジェクトのインスタンスの制限を低く設定します。  
手順については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームユーザガイド』を参照してください。
- 5 [送信先の選択] で、パブリケーションを送信する各出力先の隣にあるチェックボックスを選択します。  
パブリケーションのショートカットを作成する場合、出力先として [BI 受信ボックス] および [デフォルトの Enterprise の場所] を選択します。  
パブリケーションが電子メール受信者に送信され、電子メール本文に Enterprise の場所へのリンクを埋め込む場合、出力先として [電子メール] および [デフォルトの Enterprise の場所] を選択します。  
選択した出力先が、[選択した出力先のオプションを表示] リストに表示されます。複数の出力先を選択した場合、最後に選択したチェックボックスに対するオプションが表示されます。
- 6 必要に応じて、[選択した出力先のオプションを表示] リストで設定を行うには、出力先を選択します。  
その出力先に対するオプションが表示されます。



- 7 (オプション) パブリケーションの名前を選択するには、[指定の名前を使用する]を選択し、名前を入力するか [プレースホルダの追加] リストにあるプレースホルダを選択します。

名前を選択しないと、システムで生成された名前がパブリケーションに割り当てられます。

パブリケーションの実行時、各プレースホルダに値が挿入されます。

- 8 (オプション) [指定の名前を使用する] を選択し、パブリケーションに個別の名前を割り当てる複数のドキュメントが含まれている場合、[ドキュメントごとの指定の名前] チェックボックスを選択し、各ドキュメントの名前を入力するか、[プレースホルダの追加] リストにあるプレースホルダを選択します。

名前を選択しないと、システムで生成された同じ名前が各ドキュメントに割り当てられます。

- 9 ([電子メール] のみ) 電子メール本文に Enterprise の場所へのリンクを埋め込むには、[メッセージ] ボックスにカーソルを置き、ボックスの下にある [プレースホルダの追加] リストにある [ビューア] を選択します。

プレースホルダ %SL\_VIEWER\_URL% が電子メール本文に挿入されます。これは、パブリケーションの実行時にリンクに置換されます。

#### ヒント

リンクを埋め込むことができない場合、出力先として [電子メール] および [デフォルトの Enterprise の場所] の両方が選択されていることを確認してください。

- 10 ([BI 受信ボックス] のみ) [送信者の名前] の下で、[ショートカット] をクリックしてパブリケーションへのショートカットを作成するか、[コピー] をクリックしてパブリケーションのコピーを作成します。

#### ヒント

ショートカットを作成できない場合、出力先として [BI 受信ボックス] および [デフォルトの Enterprise の場所] の両方が選択されていることを確認してください。

- 11 複数の出力先を選択している場合、出力先の選択および設定のために、手順 5 ～ 10 を出力先ごとに繰り返します。
- 12 [OK] をクリックします。

### 11.1.10.1 パブリケーション配信出力先

出力先は、パブリケーションが配信される場所です。出力先には、パブリケーションが格納される BI プラットフォーム内の場所、BI 受信ボックス、電子メールアドレス、FTP サーバ、またはファイルシステム内のディレクトリを指定できます。1 つのパブリケーションに複数の出力先を指定できます。

複数の Crystal レポートを公開する場合は、それらを出力先ごとに 1 つの PDF ファイルにマージすることができます。

パブリケーションを圧縮 (.zip) ファイルとして公開する場合は、出力先ごとにインスタンスを圧縮または抽出できます。たとえば、電子メール受信者向けにインスタンスを圧縮したり、BI 受信ボックス向けにインスタンスを抽出したりすることができます。

### 11.1.11 定期的なスケジュールパターンを選択する

定期的なスケジュールパターンでは、パブリケーションの実行頻度を決定します。

- 1 パブリケーションを右クリックして、[スケジュール] を選択します。
- 2 [スケジュール] ダイアログボックスで[定期] をクリックします。
- 3 [オブジェクトの実行] リストで、定期的なスケジュールパターンを選択します。
- 4
- 5
- 6 [スケジュール] をクリックします。

パブリケーションは、スケジュールされた時刻に実行されます。

#### 11.1.11.1 定期スケジュールパターン

オプション	説明
今すぐ	オブジェクトを 1 回実行します。すぐに開始されます。
1 回	<p>指定された開始時間に、オブジェクトを 1 回だけ実行します。イベントを使用してオブジェクトをスケジュールする場合、開始時間と終了時間の間にイベントが発生すると、オブジェクトは 1 度だけ実行されます。</p> <p>[開始日時] リストおよび [終了日時] リストで、オブジェクトの開始日時および終了日時を選択し、開始日時および終了日時を入力します。</p>

オプション	説明
時間単位	<p>指定された時間に、毎時間インスタンスを作成します。指定された開始日時に最初のインスタンスが作成されると、指定された終了時間にオブジェクトの実行が終了するまで、毎時間指定された時間にインスタンスが作成されます。</p> <p>[時間 (N)] リストおよび [分 (X)] リストでオブジェクトの実行頻度を選択し、[開始日時] リストおよび [終了日時] リストで、オブジェクトの開始日時および終了日時を選択し、開始日時および終了日時を入力します。</p>
日単位	<p>指定された開始時間に、オブジェクトを 1 日に 1 回だけ実行します。指定された開始日時に最初のインスタンスが作成されると、指定された終了時間にオブジェクトの実行が終了するまで、毎日指定された時間にインスタンスが作成されます。</p> <p>[日数 (N)] ボックスでオブジェクトの実行間隔を入力し、[開始日時] リストおよび [終了日時] リストで、オブジェクトの開始日時および終了日時を選択し、開始日時および終了日時を入力します。</p>
週単位	<p>毎週指定された曜日の指定された開始時間に、オブジェクトを実行します。指定された開始日時に最初のインスタンスが作成されると、指定された終了時間にオブジェクトの実行が終了するまで、毎週指定された曜日の指定された時間にインスタンスが作成されます。</p> <p>オブジェクトを実行する各曜日のチェックボックスを選択し、[開始日時] リストおよび [終了日時] リストで、オブジェクトの開始日時および終了日時を選択し、開始日時および終了日時を入力します。</p>

オプション	説明
月単位	<p>指定された月間隔で、指定された日の指定された開始時間に、オブジェクトを実行します。指定された開始日時に最初のインスタンスが作成されると、指定された終了時間にオブジェクトの実行が終了するまで、指定された月間隔の指定された時間にインスタンスが作成されます。</p> <p>[月 (N)] ボックスでオブジェクトの実行間隔を選択し、[開始日時] リストおよび [終了日時] リストで、オブジェクトの開始日時および終了日時を選択し、開始日時および終了日時を入力します。</p>
N 日	<p>毎月指定された日の指定された開始時間に、インスタンスを作成します。指定された開始日時に最初のインスタンスが作成されると、指定された終了時間にオブジェクトの実行が終了するまで、毎月指定された日の指定された時間にインスタンスが作成されます。</p> <p>オブジェクトの実行開始日時および終了日時、オブジェクトを実行する月の日を入力します。</p>
第 1 月曜日	<p>毎月第 1 月曜日の指定された開始時間に、インスタンスを作成します。</p> <p>オブジェクトの実行開始時間および実行停止時間を入力します。</p>
月末日	<p>毎月月末の指定された開始時間に、インスタンスを作成します。</p> <p>オブジェクトの実行開始時間および実行停止時間を入力します。</p>
第 N 週の X 日	<p>毎月指定された週の日の指定された開始時間に、インスタンスを作成します。</p> <p>オブジェクトの実行開始日時および終了日時、オブジェクトを実行する月の週と週の日を入力します。</p>

オプション	説明
カレンダー	<p>指定されたカレンダーの日付の指定された開始時間に、インスタンスを作成します。</p> <p>オブジェクトの実行開始時間および終了時間を入力し、オブジェクトを実行するカレンダーの日付を選択します。</p>

#### 11.1.12 パブリケーションソースドキュメントに対してパーソナライズされたプレースホルダを選択する

パーソナライズされたプレースホルダをパブリケーションインスタンス名に使用する前に、ソースドキュメントのデータを絞り込むためのパーソナライゼーションを使用している必要があります。

##### ヒント

パブリケーション名には、テキストとプレースホルダを組み合わせて使用できるほか、複数のプレースホルダを使用できます。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 ナビゲーション一覧で [出力先] をクリックします。
- 3 [選択した出力先のオプションを表示] の下で [指定の名前を使用する] を選択し、[プレースホルダの追加] リストからパブリケーション名に対するプレースホルダを選択します。  
選択したプレースホルダは、ドキュメントタイトルの [指定の名前] ボックスに表示されます。
- 4 個々のドキュメントを追加するには、以下の手順に従います。
  - a [ターゲット名] の下で、[ドキュメントごとの指定の名前] を選択します。
  - b ドキュメントタイトルごとに、[プレースホルダの追加] リストからプレースホルダを選択します。  
選択したプレースホルダは、各ドキュメントタイトルの [指定の名前] ボックスに表示されます。
- 5 [OK] をクリックします。

パブリケーションに対するパーソナライズの設定が終了したら、パーソナライズされたプレースホルダは [出力先] ダイアログボックスの [プレースホルダの追加] リストに表示されます。

#### 11.1.13 電子メールに動的ソースドキュメントのコンテンツを埋め込む

動的コンテンツドキュメントから、電子メールの本文にコンテンツを埋め込むことができます。Crystal レポートの場合は、レポートのコンテンツを埋め込むことができます。Web Intelligence ドキュメントの場合は、ドキュメント全体または 1 つのレポートタブを埋め込むことができます。

- 1 パブリケーションを右クリックし、[プロパティ] を選択します。  
[プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 ナビゲーション一覧で [形式] をクリックします。
- 3 [ドキュメント] で、電子メールに埋め込む動的コンテンツドキュメントを選択します。
- 4 Crystal レポートの場合、[選択したドキュメントの形式オプション] で [mHTML] チェックボックスを選択します。
- 5 Web Intelligence ドキュメントの場合は、ドキュメント全体を公開するか、ドキュメント内のレポートタブの 1 つを公開するかを選択します。
  - a [出力形式] で、[mHTML] チェックボックスを選択します。
  - b [出力形式の詳細] で、[すべてのレポート] を選択してドキュメント全体を公開するか、[1 つのレポートを選択] を選択してリスト内のレポートタブを選択します。
- 6 ナビゲーション一覧で [出力先] をクリックします。
- 7 [出力先] ダイアログボックスの [送信先の選択] で、[電子メール] チェックボックスを選択します。  
電子メールの設定オプションが表示されます。
- 8 [差出人] ボックスで、名前または電子メールアドレスを入力するか、[プレースホルダの追加] リストから電子メールを選択します。  
たとえば、「Robert」、「公開者」、「publisher@sap.com」などを入力できます。たとえば、「Publisher@emailserver」のように、名前を入力すると、その名前が電子メールサーバに追加されます。
- 9 [件名] ボックスに、件名を入力するかプレースホルダを選択します。  
レポートをパーソナライズした場合、パーソナライズされたプレースホルダは [プレースホルダの追加] リストで使えるようになります。
- 10 [メッセージ] ボックスに、電子メールの本文に表示するメッセージを入力します。
- 11 [メッセージ] ボックスに動的コンテンツを埋め込むには、コンテンツを埋め込む [メッセージ] ボックスにカーソルを置いて、[プレースホルダの追加] リストから [レポート HTML コンテンツ] を選択します。  
[メッセージ] ボックスに、%SI\_DOCUMENT\_HTML\_CONTENT% と表示されます。パブリケーションの実行時、動的コンテンツドキュメントのパーソナライズされたコンテンツにプレースホルダが置き換えられます。
- 12 パブリケーションにその他のソースドキュメントが含まれている場合、[添付ファイルの追加] チェックボックスを選択します。  
パブリケーションの実行時、パブリケーション内のその他のソースドキュメントは、添付ファイルとして電子メールに追加されます。
- 13 [OK] をクリックします。

#### 11.1.14 Crystal レポートのデザインタスク

#### 11.1.14.1 パラメータ値を使用した Crystal レポートのパーソナライゼーション

各受信者に対して事前に定義されたパラメータ値に基づいて、受信者の Crystal レポートをパーソナライズできます。パラメータ値に基づくパーソナライゼーションは、他のパーソナライゼーション方法で上書きされる場合があります。

たとえば、プロファイルがパラメータにマップされ、Enterprise 受信者のプロファイル値がパラメータ値と競合する場合は、パブリケーションが実行されると、プロファイル値によってパラメータ値が上書きされます。同様に、動的受信者ソースの値が動的受信者のパラメータ値と競合する場合、パブリケーションが実行されるとパラメータ値は上書きされます。

##### 注

可能な場合は、Crystal レポートをローカルプロファイルターゲットでパーソナライズしてください。パラメータがレコード選択式、コマンド、テーブル、またはストアドプロシージャで使用される場合、パラメータベースのパーソナライゼーションでは受信者ごとにデータベースフェッチを 1 回行う必要があり、パブリケーションの処理に時間がかかる場合があります。

#### 11.1.14.2 パラメータ値を使用して Crystal レポートをパーソナライズする

- ・ Enterprise 受信者のデータのパーソナライズにプロファイルを使用する前に、BI プラットフォームでプロファイルを設定する必要があります。
- ・ このタスクを実行するには、Crystal レポートにパラメータが含まれている必要があります。
  - 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
  - 2 ナビゲーション一覧で [パーソナライゼーション] をクリックします。
  - 3 [パラメータ] でパラメータ値を検討し、変更が必要な値がないか確認します。
  - 4 デフォルト値を変更する場合は、デフォルトパラメータ値の横にある [値の編集] ボタンをクリックし、パラメータ値を選択または入力して [OK] をクリックします。
  - 5 次の操作のいずれかを実行します。
    - ・ デフォルトパラメータのパーソナライゼーション値を Enterprise 受信者のプロファイル値で上書きする場合は、[Enterprise 受信者のマッピング] 列で、一覧からプロファイルを選択します。

##### 注

このプロファイルが BI プラットフォームで設定されていない場合、パーソナライゼーションは失敗します。BI プラットフォームに追加するプロファイルが必要な場合は、システム管理者に問い合わせてください。

- ・ デフォルトパラメータ値のみを使用してレポートをパーソナライズする場合は、[Enterprise 受信者のマッピング] 列で [すべての受信者のデフォルト値] を選択します。

**注**

[Enterprise 受信者のマッピング] 列は、Enterprise 受信者向けのパブリケーションにのみ表示されます。

- 6 デフォルトパラメータのパーソナライゼーション値を動的受信者のパーソナライゼーション値で上書きする場合は、[動的受信者のマッピング] 列で、一覧から動的受信者ソースを選択します。

**注**

[動的受信者のマッピング] 列は、動的受信者向けのパブリケーションにのみ表示されます。

デフォルトパラメータ値を使用してレポートをパーソナライズする場合は、[動的受信者のマッピング] 列で [指定なし] を選択します。

- 7 [OK] をクリックします。

### 11.1.14.3 フィールドをフィルタリングして Crystal レポートをパーソナライズする

Enterprise 受信者のデータのパーソナライズにプロファイルを使用する前に、BI プラットフォームでプロファイルを設定する必要があります。

Crystal レポートでは、複数のフィールドをフィルタリングできます。フィルタを使用すると、ViewTime 選択式がレポートに追加され、データがフィルタリングされます。この式は、パブリケーションの実行時に適用され、レポートには保存されません。

**注**

- ・ 静的値のプロファイルでは、Crystal レポートの文字列フィールドのみをフィルタリングできます。他の種類のフィールドをフィルタ処理する場合は、式のプロファイル値を使用します。不適切なタイプのフィールドをプロファイルにマップすると、パーソナライゼーションは失敗します。
- ・ この機能は、.rptr 形式の Crystal レポートでは使用できません。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。

[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。

- 2 ナビゲーション一覧で [パーソナライゼーション] をクリックします。
- 3 [ローカルプロファイル] の [レポートフィールド] 列で、一覧から Crystal レポートフィールドを選択します。  
使用可能なフィールドの一覧には、メインレポートおよび非オンデマンド型サブレポートのすべてのデータベースフィールドおよび繰り返し式が含まれています。

- 4 [Enterprise 受信者のマッピング] 列で、一覧からプロファイルを選択します。

このプロファイルはレポートのセントラル管理コンソール (CMC) のフィールドを Enterprise 受信者用に定義されたプロファイル値にマッピングします。このプロファイルが BI プラットフォームで設定されていない場合、パーソナライゼーションは失敗します。BI プラットフォームに追加するプロファイルが必要な場合は、システム管理者に問い合わせてください。

**注**

[Enterprise 受信者のマッピング] 列は、Enterprise 受信者向けのパブリケーションにのみ表示されます。

- 5 [動的受信者のマッピング] 列で、一覧から動的受信者のソースを選択します。

レポートフィールドは、対応する値を含む動的受信者ソースの列にマッピングされます。



**注**

[動的受信者のマッピング] 列は、動的受信者向けのパブリケーションにのみ表示されます。

- 6 フィルタリング対象の各レポートフィールドに対し、手順 2 ～ 5 を繰り返します。
- 7 [OK] をクリックします。

#### 11.1.14.4 Crystal レポートのパブリケーションの形式を指定する

1 つの Crystal レポートに対して複数のパブリケーション形式を選択して設定することができます。形式を選択すると、使用可能な形式オプションが表示されます。[Crystal Reports] および [Crystal Reports (RPTR)] などの一部のオプションでは、形式オプションが表示されず、デフォルトのソースドキュメント形式が適用されます。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 ナビゲーション一覧で [形式] をクリックします。
- 3 [選択したドキュメントの形式オプション] で、Crystal レポートを公開する形式を選択します。  
選択した形式のオプションが表示されます。
- 4 必要に応じて書式オプションを設定します。
- 5 [レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスが使用可能な場合は、以下のいずれかを行います。
  - ・ ソースドキュメントで定義されているデフォルトのエクスポートオプションを使用する場合は、チェックボックスをオンにします。
  - ・ 選択した形式でのエクスポートオプションを設定する場合は、チェックボックスをオフにして、表示されるオプションを設定します。
- 6 Crystal レポートを公開する各形式に対し、手順 3 ～ 5 を繰り返します。
- 7 [OK] をクリックします。

パブリケーションの Crystal レポートごとに、このタスクを繰り返します。

##### 11.1.14.4.1 Crystal レポートの書式設定オプション

Microsoft Excel(97-2003)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レポート全体を Excel ファイルとして公開する場合は、[すべて] を選択します。</li> <li>・ 特定のレポートページを公開する場合は、[ページ] を選択し、[開始] ボックスに最初のページの番号を入力してから [終了] ボックスに最後のページの番号を入力します。</li> </ul>

オプション	説明
[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。	
列幅の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートのオブジェクトを基準にして列幅を定義する場合は、[列幅を次のオブジェクトに合わせる] を選択して、リストからオプション ([レポート全体]、[レポートヘッダ]、[ページヘッダ]、[グループヘッダ #]、[詳細]、[グループフッタ #]、[ページフッタ]、または [レポートフッタ]) を選択します。</li> <li>すべての列に対して一定の幅を定義する場合は、[列幅を一定にする (ポイント単位)] を選択して、ボックスに数値を入力します。</li> </ul>
ページヘッダとページフッタをエクスポートする	Excel ファイルでヘッダとフッタを表示する頻度を選択する場合は、このチェックボックスを選択して、リストからオプション ([なし]、[レポートごとに 1 回]、または [各ページ]) を選択します。
ページごとにページ区切りを作成	このチェックボックスを選択すると、レポートのページ区切りを反映するページ区切りを作成できます。
日付の値を文字列に変換する	このチェックボックスを選択すると、データ値をテキスト文字列に変換できます。
グリッドラインの表示	このチェックボックスを選択すると、Excel ファイルにグリッドラインを表示できます。

## Microsoft Excel(97-2003)(データのみ)

オプション	説明
[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。	

オプション	説明
列幅の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートのオブジェクトを基準にして列幅を定義する場合は、[列幅を次のオブジェクトに合わせる]を選択して、リストからオプション ([レポート全体]、[レポートヘッダ]、[ページヘッダ]、[グループヘッダ #]、[詳細]、[グループフッタ #]、[ページフッタ]、または [レポートフッタ]) を選択します。</li> <li>すべての列に対して一定の幅を定義する場合は、[列幅を一定にする (ポイント単位)] を選択して、ボックスに数値を入力します。</li> </ul>
オブジェクトの書式設定をエクスポートする	オブジェクトの書式設定を維持するには、このチェックボックスを選択します。
画像をエクスポートする	Excel ファイルでレポート画像を公開するには、このチェックボックスを選択します。
集計にワークシートの関数を使用する	レポートの集計を使用して Excel ファイルのワークシート関数を作成するには、このチェックボックスを選択します。
オブジェクトの相対位置を維持する	レポートオブジェクトの相対位置を維持するには、このチェックボックスを選択します。
列の配置を維持する	レポートの列の配置を維持するには、このチェックボックスを選択します。
ページヘッダとページフッタをエクスポートする	Excel ファイルでヘッダとフッタを表示する頻度を選択する場合は、このチェックボックスを選択して、リストからオプション ([なし]、[レポートごとに 1 回]、または [各ページ]) を選択します。
ページヘッダを簡略化する	ページヘッダを簡略化する場合は、このチェックボックスを選択します。
グループのアウトラインを表示する	レポートのグループアウトラインを表示するには、このチェックボックスを選択します。

## Microsoft Excel Workbook データのみ

オプション	説明
[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。	
列幅の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>レポートのオブジェクトを基準にして列幅を定義する場合は、[列幅を次のオブジェクトに合わせる]を選択して、リストからオプション ([レポート全体]、[レポートヘッダ]、[ページヘッダ]、[グループヘッダ #]、[詳細]、[グループフッタ #]、[ページフッタ]、または [レポートフッタ]) を選択します。</li> <li>すべての列に対して一定の幅を定義する場合は、[列幅を一定にする (ポイント単位)] を選択して、ボックスに数値を入力します。</li> </ul>
オブジェクトの書式設定をエクスポートする	オブジェクトの書式設定を維持するには、このチェックボックスを選択します。
画像をエクスポートする	Excel ファイルでレポート画像を公開するには、このチェックボックスを選択します。
集計にワークシートの関数を使用する	レポートの集計を使用して Excel ファイルのワークシート関数を作成するには、このチェックボックスを選択します。
オブジェクトの相対位置を維持する	レポートオブジェクトの相対位置を維持するには、このチェックボックスを選択します。
列の配置を維持する	レポートの列の配置を維持するには、このチェックボックスを選択します。
ページヘッダとページフッタをエクスポートする	Excel ファイルでヘッダとフッタを表示する頻度を選択する場合は、このチェックボックスを選択して、リストからオプション ([なし]、[レポートごとに 1 回]、または [各ページ]) を選択します。
ページヘッダを簡略化する	ページヘッダを簡略化する場合は、このチェックボックスを選択します。

オプション	説明
グループのアウトラインを表示する	レポートのグループアウトラインを表示するには、このチェックボックスを選択します。

## Microsoft Word(97-2003)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レポート全体を Word ファイルとして公開する場合は、[すべて] を選択します。</li> <li>・ 特定のレポートページを公開する場合は、[ページ] を選択し、[開始] ボックスに最初のページの番号を入力してから [終了] ボックスに最後のページの番号を入力します。</li> </ul>

## PDF

以下のオプションは、PDF ファイルとして公開されるソースドキュメントに適用されます。

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レポート全体を PDF ファイルとして公開する場合は、[すべて] を選択します。</li> <li>・ 特定のレポートページを公開する場合は、[ページ] を選択し、[開始] ボックスに最初のページの番号を入力してから [終了] ボックスに最後のページの番号を入力します。</li> </ul>
[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。	
グループツリーからブックマークを作成	Crystal レポートのパブリケーションを目次付きの結合 PDF ファイルとして公開する場合は、このチェックボックスを選択します。

## リッチテキスト形式(RTF)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レポート全体を RTF ファイルとして公開する場合は、[すべて] を選択します。</li> <li>・ 特定のレポートページを公開する場合は、[ページ] を選択し、[開始] ボックスに最初のページの番号を入力してから [終了] ボックスに最後のページの番号を入力します。</li> </ul>

## Microsoft Word – 編集可能(RTF)

オプション	説明
ページ範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レポート全体を Word ファイルとして公開する場合は、[すべて] を選択します。</li> <li>・ 特定のレポートページを公開する場合は、[ページ] を選択し、[開始] ボックスに最初のページの番号を入力してから [終了] ボックスに最後のページの番号を入力します。</li> </ul>
[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。	
レポートのページごとに改ページする	このチェックボックスを選択すると、レポートのページ区切りを反映するページ区切りを作成できます。

## テキスト

オプション	説明
[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。	
インチあたりの文字数	テキストファイルで 1 インチあたりに表示する文字数を入力します。推奨される範囲は 8 ～ 16 です。

## ページ区切り付きテキスト

オプション	説明
[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。	
1 ページあたりの行数	値を入力し、ページ区切り付きテキストファイルの各ページにおける行数を指定します。
インチあたりの文字数	ページ区切り付きテキストファイルで 1 インチあたりに表示する文字数を入力します。推奨される範囲は 8 ～ 16 です。

## タブ区切りテキスト (TTX)

書式設定オプションとして [タブ区切りテキスト (TTX)] を選択する場合は、追加のオプションは表示されません。

## カンマ区切り値(CSV)

オプション	説明
[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。	
区切り文字	区切り文字として使用する文字を入力します。
区切り文字	値の区切り文字として使用する文字を入力するか、[タブ] チェックボックスを選択してタブで値を区切ります。
モード	<p>[標準モード] (デフォルト) または [レガシーモード] を選択します。</p> <p>標準モードでは、CSV 出力にレポートのページ、グループヘッダ、およびグループフッタを表示する方法を制御できます。</p>

オプション	説明
レポートセクションとページセクション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ レポートセクションとページセクションをエクスポートする場合は、[エクスポート] を選択します。</li> <li>・ レポートセクションとページセクションをエクスポートしない場合は、[エクスポートしない] を選択します。</li> <li>・ レポートセクションとページセクションを切り離す場合は、[レポート/ページセクションを切り離す] チェックボックスを選択します。</li> </ul>
グループセクション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループセクションをエクスポートする場合は、[エクスポート] を選択します。</li> <li>・ グループセクションをエクスポートしない場合は、[エクスポートしない] を選択します。</li> <li>・ グループセクションを切り離す場合は、[レポート/ページセクションを切り離す] チェックボックスを選択します。</li> </ul>

## XML

オプション	説明
[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスをオフにすると、次のオプションを使用できます。	
XML エクスポート形式	XML 形式を指定するには、一覧からオプションを選択します。

## 11.1.14.5 (オプション) パブリケーションの Crystal レポートに印刷オプションを設定する

デフォルトプリンタの印刷オプションを設定するには、プリンタが適切にインストールおよび設定されている必要があります。

## 注

- ・ このタスクはオプションであり、パブリケーションのデザインまたはスケジュールの必須設定ではありませんが、パブリケーションのパフォーマンスを向上させることができます。



- Crystal Reports Job Server は、指定したプリンタにアクセスする権限を持つアカウントによって実行される必要があります。詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

Crystal Reports Job Server のデフォルトプリンタまたはその他のプリンタを使用して、パブリケーションを実行するたびに Crystal レポート形式のインスタンスを印刷できます。BI プラットフォームは、パブリケーションがパーソナライズされた後、それが配信される前にインスタンスを印刷します。

- 1 パブリケーションを右クリックして、[スケジュール] を選択します。
- 2 [スケジュール] ダイアログボックスで、[出力設定] をクリックします。
- 3 [ドキュメント] で、パブリケーションの実行時に印刷する Crystal レポートを選択します。
- 4 [スケジュール時に Crystal レポートを印刷する] チェックボックスを選択します。  
Crystal レポートの印刷オプションが表示されます。
- 5 [通常使用するプリンタ] を選択して Job Server のデフォルトプリンタを使用するか、[プリンタの指定] を選択して、プリンタのパスおよび名前を選択します。
  - Job Server が Windows で実行されている場合には、[プリンタを指定する] ボックスに「¥¥printserver¥¥printername」と入力します。  
printserver には使用しているプリンタサーバの名前を入力し、printername には使用しているプリンタの名前を入力してください。
  - Job Server が Unix で実行されている場合は、Unix が表示されている (非表示でない) ことを確認し、通常使用する印刷コマンドを [プリンタを指定] ボックスに入力します。  
たとえば、「lp -d printername」と入力します。
- 6 [部数] ボックスで、印刷する部数を入力します。
- 7 [ページ範囲] で、[すべて] を選択してパブリケーションのすべてのページを印刷するか、[ページ] を選択して、印刷するページ範囲を入力します。
- 8 (オプション) [部単位で印刷するオプションを設定] リストで、[部単位で印刷]、[ページ単位で印刷]、または [プリンタのデフォルト値を使用] を選択します。
- 9 (オプション) [ページの拡大縮小] リストで、[拡大して合わせる]、[縮小のみで合わせる]、または [縮小拡大しない] を選択します。
- 10 (オプション) レポートコンテンツをページ上で中央揃えにするには、[ページの中央揃え] チェックボックスをオンにします。
- 11 (オプション) 幅の広い Crystal レポートを 1 ページに印刷するには、[横方向のページを 1 ページに合わせる] チェックボックスをオンにします。
- 12 [スケジュール] をクリックします。

#### 11.1.14.6 (オプション) Crystal レポートの受信者配信ルールを設定する

##### 注

このタスクはオプションであり、パブリケーションのデザインまたはスケジュールの必須設定ではありませんが、パブリケーションのパフォーマンスを向上させることができます。

受信者配信ルールでは、処理およびパーソナライゼーションの後、各受信者にパブリケーションを配信するかどうかを決定します。パブリケーションの作成後、パブリケーションを開いてその配信ルールを変更できます。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。
- 2 [新規パブリケーション] ダイアログボックスで、[追加オプション]を展開して[配信ルール]をクリックします。
- 3 [受信者配信ルール] で、[条件に一致するときに個々のドキュメントを配信する] または [すべての条件が一致する場合のみすべてのドキュメントを配信する] を選択します。
- 4 各ドキュメントの横にある [条件] 列で、パブリケーションを配信するために満たす必要がある条件を選択します。
- 5 [保存して閉じる] をクリックします。

#### 11.1.14.7 (オプション) Crystal レポートのグローバル配信ルールを設定する

グローバル配信ルールを設定するには、Crystal レポートにアラートが含まれている必要があります。

##### 注

このタスクはオプションであり、パブリケーションのデザインまたはスケジュールの必須設定ではありませんが、パブリケーションのパフォーマンスを向上させることができます。

グローバル配信ルールでは、パブリケーションを処理してすべての受信者に配信するかどうかを決定します。グローバル配信ルールは、BI プラットフォームの任意の Crystal レポートで設定できます。

- 1 パブリケーションを右クリックして、[スケジュール] を選択します。
- 2 [スケジュール] ダイアログボックスで、[配信ルール] をクリックします。
- 3 [グローバル配信ルール] で、[参照] をクリックします。  
グローバル配信ルールを設定する Crystal レポートを選択することができる [アラートを含むレポートを選択します] ウィンドウが表示されます。
- 4 Crystal レポートを見つけて選択し、[OK] をクリックします。
- 5 [条件] リストで、グローバル配信ルールを満たすためにレポートに必要なアラート値を選択します。
- 6 [スケジュール] をクリックします。

#### 11.1.14.8 (オプション) マージされた PDF ファイルの書式設定

##### 注

マージされた PDF ファイルの書式設定はオプションであり、パブリケーションのデザインまたはスケジュールの必須設定ではありませんが、パブリケーションのパフォーマンスを向上させることができます。

マージされた PDF ファイルを書式設定する前に

- Crystal レポートをマージされた PDF ファイルに含めるには、レポートにタイトルが必要です。レポートにタイトルを設定するには、レポートを SAP Crystal Reports で開き、[ファイル] > [プロパティ] を選択し、[概要]

タブの [タイトル] ボックスにレポートのタイトルを入力します。レポートを保存し、リポジトリに再エクスポートします。

- ・ BI ラウンチパッドでは、[スケジュール] ダイアログボックスの [ソースドキュメント] に、マージする Crystal レポートおよび PDF ファイルが正しい順序で表示されている必要があります。
- ・ BI ラウンチパッドでは、[スケジュール] ダイアログボックスの [書式設定] で、マージされた PDF ファイルに含める Crystal レポートの形式として、各レポートに対し [PDF] チェックボックスが選択されている必要があります。
- ・ BI ラウンチパッドでは、[スケジュール] ダイアログボックスの [出力先] で、マージされた PDF ファイルを送信する各出力先に対し、[エクスポートされた PDF をマージ] チェックボックスが選択されている必要があります。

マージされた PDF ファイルの目次に Crystal レポートが確実に表示されるようにするには、リストされている各 Crystal レポートについて、[書式設定] 領域の [ドキュメント] リストでレポートを選択し、[レポートで指定されたエクスポートオプションを使用] チェックボックスを選択解除し、[グループツリーからブックマークを作成] チェックボックスを選択します。

#### 11.1.14.8.1 (オプション) 結合 PDF ファイルを書式設定する

##### 注

このタスクはオプションであり、パブリケーションのデザインまたはスケジュールの必須設定ではありませんが、パブリケーションのパフォーマンスを向上させることができます。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。
- 2 [プロパティ] ダイアログボックスで、[結合 PDF オプション] をクリックします。
- 3 結合 PDF ファイルの目次を作成します。
  - a [目次の作成] チェックボックスをオンにします。  
目次の書式設定オプションが表示されます。
  - b [タイトル] ボックスに、目次のタイトルを入力します。
  - c [タイトルのフォント] 一覧で、目次のタイトルのフォント、フォントサイズ (ポイント単位)、およびフォントの色を選択します。
  - d [アイテムのフォント] 一覧で、目次のアイテムのフォント、フォントサイズ (ポイント単位)、およびフォントの色を選択します。
- 4 結合 PDF ファイルのページ番号の書式設定を行います。
  - a [連続したページ番号を適用] チェックボックスをオンにします。  
ページ番号の書式設定オプションが表示されます。
  - b [数値の書式設定] ボックスにページ番号の書式を入力します。  
デフォルトでは、Page &p of &P が設定されています。この書式は変更できます。ただし、現在のページ番号のプレースホルダには &p、ページ総数のプレースホルダには &P を使用する必要があります。
  - c [数値の場所] 一覧で、結合 PDF ファイルのページ番号の向きを選択します。
  - d [数値のフォント] 一覧で、ページ番号のフォント、フォントサイズ (ポイント単位)、フォントの色を選択します。
  - e 目次にページ番号を含める場合は、[目次ページにページ番号を適用] チェックボックスをオンにします。
- 5 受信者のログオン認証情報と受信者アクションに関する許可を設定します。

- a [制限の設定] チェックボックスをオンにします。
  - b [ユーザパスワード] ボックスに、結合 PDF ファイルを受信者が表示する場合に必要なパスワードを入力します。
  - c [所有者パスワード] ボックスに、結合 PDF ファイルを受信者が編集する場合に必要なパスワードを入力します。
  - d 受信者が PDF ファイルを印刷できるようにするには、[印刷を許可] チェックボックスをオンにします。
  - e 受信者が PDF ファイルを変更できるようにするには、[コンテンツの変更を許可] チェックボックスをオンにします。
  - f 受信者が PDF のコンテンツをコピーおよび貼り付けできるようにするには、[コピーと貼り付けを許可 (埋め込まれた Flash オブジェクトの実行に必要)] チェックボックスをオンにします。
  - g 受信者が PDF ファイルの注釈を変更できるようにするには、[注釈の変更を許可] チェックボックスをオンにします。
- 6 [OK] をクリックします。

#### 11.1.14.9 (オプション) Crystal レポートのデータベースログオン情報を設定する

設定を開始する前に、Crystal レポートのデータベース設定が正しいことを確認してください。CMC の [フォルダ] で Crystal レポートを選択し、[管理] > [デフォルト設定] > [データベース設定] を選択し、データベース情報を確認するか、新しい情報を入力します。

##### 注

このタスクはオプションであり、パブリケーションのデザインまたはスケジュールの必須設定ではありませんが、パブリケーションのパフォーマンスを向上させることができます。

場合によっては、Crystal レポートが内部的に参照するデータソース情報を修正する必要があります。SAP Crystal Reports で Crystal レポートを開き、[データベース] > [データソースの保存場所の設定] を選択します。[データソースの保存場所の設定] ダイアログボックスで、接続を選択するか、新しい接続を作成します。

このタスクでは、受信者がデータベースにログオンしたり、Crystal レポートのデータを最新表示したりする場合に必要なデータベースログオン情報を変更できます。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。
- 2 [データベースログオン] をクリックします。
- 3 [タイトル] 一覧から Crystal レポートを選択します。  
Crystal レポートのデータベース情報が [タイトル] 一覧の下に表示されます。
- 4 [データベースサーバ] ボックスおよび [データベース] ボックスの情報が正しいことを確認します。
- 5 [ユーザ] ボックスに、受信者がログオンに使用するユーザ名を入力します。
- 6 [パスワード] ボックスに、受信者がログオンに使用するパスワードを入力します。
- 7 [OK] をクリックします。

## 11.1.15 Web Intelligence ドキュメントのデザインタスク

### 11.1.15.1 Web Intelligence ドキュメントのパブリケーション形式を指定する

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 ナビゲーション一覧で [形式] をクリックします。
- 3 [出力形式] で、以下の形式から Web Intelligence ドキュメントの出力形式のチェックボックスを選択します。
  - ・ Web Intelligence
  - ・ Microsoft Excel
  - ・ Adobe Acrobat
  - ・ mHTML
- 4 [カンマ区切り値 (CSV)] を選択した場合、[形式オプションと設定] で以下のアクションを実行します。
  - a [テキスト修飾子] リストで、テキスト修飾子を選択します。
  - b [列区切り文字] リストで、列区切り文字を選択します。
  - c [文字セット] リストで、文字セットを選択します。
  - d 新しい文字セットを入力する場合、[新しい文字セットの入力] チェックボックスを選択し、ボックスに文字セットを入力します。
  - e 指定した設定をデフォルトとして使用する場合、[デフォルト値として設定] チェックボックスを選択します。
  - f 各データソースに対してカンマ区切り値を生成する場合、[データプロバイダごとに個別の CSV を生成する] チェックボックスを選択します。
- 5 ドキュメントを公開する各形式に対し、手順 3 ～ 4 を繰り返します。
- 6 [OK] をクリックします。

パブリケーション内の各動的コンテンツソースドキュメントに対して、このタスクを繰り返します。

### 11.1.15.2 グローバルプロファイルターゲットを使用して Web Intelligence ドキュメントをパーソナライズする

- ・ Enterprise 受信者のデータのパーソナライズにプロファイルを使用する前に、BI プラットフォームでプロファイルを設定する必要があります。
- ・ このタスクを実行する前に、使用するプロファイルにグローバルプロファイルターゲットが含まれている必要があります。

グローバルプロファイルターゲットを絞り込むことにより、Enterprise 受信者向けの Web Intelligence ドキュメントをパーソナライズできます。このプロファイルが BI プラットフォームで設定されていない場合、パーソナライゼーションは失敗します。BI プラットフォームに追加するプロファイルが必要な場合は、システム管理者に問い合わせてください。

#### ヒント

[グローバルプロファイル]の下でパーソナライゼーションオプションを設定する場合、[フィルタ]の下にあるパーソナライゼーションオプションを設定する必要はありません。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [パーソナライゼーション] をクリックします。
- 3 [グローバルプロファイル]の下にある [Enterprise 受信者のマッピング] 列で、リスト内のプロファイルを選択します。  
このプロファイルにより、ドキュメントが、Enterprise 受信者でフィルタリングされたユニバースフィールド (グローバルプロファイルターゲット) にマップされます。
- 4 [OK] をクリックします。

### 11.1.15.3 フィールドをフィルタリングして、Web Intelligence ドキュメントをパーソナライズする

Enterprise 受信者のデータのパーソナライズにプロファイルを使用する前に、BI プラットフォームでプロファイルを設定する必要があります。

#### 注

静的な値のプロファイルは、ソースドキュメントの文字列フィールドのみをフィルタできます。他の種類のフィールドをフィルタ処理する場合は、式のプロファイル値を使用します。不適切なタイプのフィールドをプロファイルにマップすると、パーソナライゼーションは失敗します。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [パーソナライゼーション] をクリックします。
- 3 [ローカルプロファイル]の下で、[タイトル] 列のプロファイルごとに、[レポートフィールド] 列を選択します。  
このプロファイルは、Enterprise 受信者向けにレポートフィールドをプロファイル値にマップします。

#### 注

このプロファイルが BI プラットフォームで設定されていない場合、パーソナライゼーションは失敗します。BI プラットフォームに追加するプロファイルが必要な場合は、システム管理者に問い合わせてください。

- 4 [ローカルプロファイル]の下にある [Enterprise 受信者のマッピング] 列で、リスト内のプロファイルを選択します。  
このプロファイルにより、ドキュメントが、Enterprise 受信者でフィルタリングされたユニバースフィールド (グローバルプロファイルターゲット) にマップされます。
- 5 [動的受信者のマッピング] 列で、リスト内のプロファイルを選択します。  
ソースドキュメント内のフィールドは、動的受信者ソース内の対応する値を含む列にマップされます。

- 6 フィルタリング対象の各フィールドに対し、手順 3 ～ 5 を繰り返します。
- 7 [OK] をクリックします。

#### 11.1.15.4 (オプション) Web Intelligence ドキュメントのプロンプト値を変更する

プロンプト値を変更する前に、ドキュメントにプロンプトが含まれている必要があります。

##### 注

このタスクは、パブリケーションのデザインまたはスケジュールの必須設定ではありませんが、パブリケーションのパフォーマンスを向上させることができます。

Web Intelligence ドキュメントのデフォルトプロンプト値を使用するか、このタスクを実行してプロンプト値を編集できます。

- 1 パブリケーションを右クリックして、[スケジュール] を選択します。
- 2 [スケジュール] ダイアログボックスで、[追加オプション] を展開し、[プロンプト] をクリックします。  
プロンプトが含まれた Web Intelligence ドキュメントが表示されます。
- 3 [変更] をクリックします。  
[プロンプト] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 [値の最新表示] をクリックします。  
左側に、指定可能なプロンプト値の一覧が表示されます。
- 5 プロンプト値を左側のリストから右側のリストに移動します。
- 6 [適用] をクリックします。  
プロンプト値の一覧が更新されます。

#### 11.1.16 オプションのパブリケーション機能

この節のタスクはオプション（パブリケーションのデザインおよびスケジュールの必須設定ではない）ですが、パブリケーションのパフォーマンスを向上させることができます。

##### 11.1.16.1 パブリケーション拡張を選択する

パブリケーション拡張を使用する前に、拡張機能が、Adaptive Processing Server が動作するコンピュータにデプロイされている必要があります。場所は、オペレーティングシステムによって変わります。



- ・ Windows の場合、場所は `INSTALLDIR\SAP BusinessObjects\SAP BusinessObjects Enterprise XI 4.0\java\lib\` です。
- ・ Unix の場合、場所は `INSTALLDIR/sap_bobj/enterprise_xi40/java/lib/` です。

パブリケーション拡張が配布されたら、Adaptive Processing Server と、公開サービスをホストするその他のサーバを再起動する必要があります。パブリケーション拡張の詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム Java SDK 開発者ガイド』を参照してください。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [追加オプション] を展開し、[パブリケーション拡張] をクリックします。
- 3 [パブリケーション拡張名] ボックスに、拡張の名前を入力します。
- 4 [クラス名] ボックスに、拡張の完全修飾クラス名を入力します。
- 5 (オプション) [パラメータ] ボックスに、パラメータ名を入力します。
- 6 処理後かつ配信前に拡張を使用するには、[パブリケーション配信前] リストの上部にある [追加] ボタンをクリックします。  
拡張が [パブリケーション配信前] リストに追加されます。
- 7 配信後に拡張を使用するには、[パブリケーション配信後] リストの上部にある [追加] ボタンをクリックします。  
拡張が [パブリケーション配信後] リストに追加されます。
- 8 [保存] をクリックします。
- 9 追加するすべての拡張に対し、それぞれ手順 2 ～ 8 を繰り返します。

#### ヒント

パブリケーション拡張の実行順序を指定するには、[パブリケーション配信前] リストまたは [パブリケーション配信後] リストの下にある [上へ移動] または [下へ移動] をクリックします。

### 11.1.16.2 パブリケーションジョブの電子メール通知を設定する

電子メール通知で Adaptive Job Server のデフォルト値を使用するには、このサーバが適切に設定されている必要があります。

パブリケーションジョブの実行後に電子メール通知を受信するには、次のタスクを実行します。

#### 注

この機能は CMC でのみ使用できます。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [通知] をクリックして、[電子メール通知: 無効] を展開します。
- 3 成功したパブリケーションジョブの電子メール通知を受け取る場合は、[ジョブの実行の成功] を選択して、以下のアクションのいずれかを実行します。



- ・ Adaptive Job Server のデフォルト値を使用する場合は、[Job Server のデフォルト値を使用する] をクリックします。
  - ・ 電子メール設定を入力する場合は、[ここで使用する値を設定する] をクリックして以下を実行します。
    - a [差出人] ボックスに、電子メールアドレスまたは名前を入力します。
    - b [宛先] ボックスに、メッセージの送信先となる電子メールアドレスを入力します。
    - c [CC] ボックスに、電子メール通知を受信する各ユーザの電子メールアドレスを入力します。
    - d [件名] ボックスに、電子メールの件名を入力します。
    - e [メッセージ] ボックスに、電子メール通知に添付するメッセージを入力します。
- 4 失敗したパブリケーションジョブの電子メール通知を受け取る場合は、[ジョブの実行の失敗] を選択して、以下のアクションのいずれかを実行します。
- ・ Adaptive Job Server のデフォルト値を使用する場合は、[Job Server のデフォルト値を使用する] をクリックします。
  - ・ 電子メール設定を入力する場合は、[ここで使用する値を設定する] をクリックして以下を実行します。
    - ・ [差出人] ボックスに、電子メールアドレスまたは名前を入力します。
    - ・ [宛先] ボックスに、メッセージの送信先となる電子メールアドレスを入力します。
    - ・ [CC] ボックスに、電子メール通知を受信する各ユーザの電子メールアドレスを入力します。
    - ・ [件名] ボックスに、電子メールの件名を入力します。
    - ・ [メッセージ] ボックスに、電子メール通知に添付するメッセージを入力します。
- 5 [OK] をクリックします。

### 11.1.16.3 パブリケーションジョブ用の監査通知を有効化する

監査の詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

#### 注

この機能は CMC でのみ使用できます。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [追加オプション] を展開し、[通知] をクリックして [監査通知: 無効] を展開します。
- 3 成功したパブリケーションジョブを監査する場合は、[ジョブの実行の成功] を選択します。
- 4 失敗したパブリケーションジョブを監査する場合は、[ジョブの実行の失敗] を選択します。

### 11.1.16.4 イベントを指定する

イベントベースのスケジュールでは、パブリケーションのスケジュールに対して追加制御を行うことができます。イベント発生後にのみパブリケーションが処理されるように、イベントを設定できます。

イベント発生後にパブリケーションジョブを実行する場合、または、イベントが停止したときにパブリケーションジョブがイベントを起動する場合、このタスクを実行します。イベントの詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォームユーザガイド』を参照してください。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [追加オプション] を展開し、[イベント] をクリックします。
- 3 パブリケーションにファイルベースのカスタムイベントを指定するには、[>] ボタンをクリックしてイベントを [利用可能なイベント] リストから [待機するイベント] リストに移動します。  
イベントにより、パブリケーションジョブが起動されます。
- 4 パブリケーションにスケジュールイベントを指定するには、[>] ボタンをクリックしてイベントを [利用可能なスケジュールイベント] リストから [完了時に発生させるイベント] リストに移動します。  
パブリケーションジョブが実行されるとイベントが発生します。
- 5 [OK] をクリックします。

#### 11.1.16.5 サーバグループを選択する

このタスクは、特定のサーバを使用してパブリケーションを処理する場合に実行します。サーバグループの詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

##### 注

フェデレーションのサイトをまたいでパブリケーションをスケジュールすることはできません。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [追加オプション] を展開し、[スケジューリングサーバグループ] をクリックします。
- 3 サーバグループオプションを選択します。
- 4 元のサイトでパブリケーションジョブを実行する場合、[元のサイトで実行] チェックボックスを選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

#### 11.1.16.6 プロファイルの解決方法を指定する

プロファイルの競合が発生した場合、プロファイルの解決方法により、インスタンスを結合するか別々のドキュメントとして配信するかが決定されます。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [追加オプション] を展開し、[詳細設定] をクリックします。
- 3 [プロファイルの解決方法] の下で、以下のようにオプションを選択します。
  - ・ 複数のユーザグループのプロファイルを別々のドキュメントに適用する場合、[マージしない]を選択します。
  - ・ 複数のユーザグループのプロファイルを同じドキュメントに適用する場合、[マージ]を選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

### 11.1.16.7 レポートバースト方法を選択する

パブリケーションが以下の条件に当てはまる場合は、レポートバースト方法を慎重に選択してください。

- ・ パブリケーションには Enterprise 受信者向けの Web Intelligence ドキュメントが含まれます。
- ・ パーソナライゼーションに使用されるプロファイルには、フィルタ式があります。

レポートバーストの方法により、ソースドキュメントのパーソナライゼーション、処理、および配信方法が決定されます。レポートバースト方法には、ドキュメントのパーソナライゼーションと処理の際に異なるフィルタタイプが使用されます。たとえば、[すべての受信者のデータベースフェッチ] オプションではレポートフィルタが使用され、[受信者ごとのデータベースフェッチ] オプションではクエリフィルタが使用されます。各フィルタタイプは、異なる演算子のセットをサポートします。レポートバースト方法でサポートされない演算子をフィルタ式が使用する場合は、パブリケーションに失敗することがあります。

- 1 パブリケーションをダブルクリックして開きます。  
[プロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
- 2 [追加オプション] を展開し、[詳細設定] をクリックします。
- 3 [レポートバースト方法] の下で、レポートバースト方法を選択します。
- 4 [OK] をクリックします。

## 11.2 パブリケーションのデザイン後のタスク

この節で説明するタスクはオプションであり、パブリケーションデザインの後に行うことができます。

### 11.2.1 パブリケーションの最終処理

パブリケーションデザインプロセスの途中または後の任意の時点で、[概要] ダイアログボックスでパブリケーションのプロパティの概要を確認できます。プロパティには、パブリケーションのタイトル、場所、説明、ソースドキュメント、そのパブリケーションを受信する受信者数 (受信者タイプ (Enterprise または動的) によって並べ替え)、パブリケーションのパーソナライズ方法、配布形式および出力先などが含まれます。

[概要] ダイアログボックスを開くには、[概要] をクリックします。ナビゲーションパネルの他のオプションを使用してプロパティを変更したり、パブリケーションの保存およびスケジュールを実行することができます。

### 11.2.2 パブリケーションをテストする

BI ラウンチパッドのテストモードを使用し、受信者にパブリケーションを送信する前に自分自身に送信することができます。テストでは、受信者と同じ情報を受信できます。パブリケーション受信者の BI 受信ボックスまたは電子メールアドレスの代わりに、ユーザの BI 受信ボックスまたは電子メールアドレスが使用されるよう、出力先は自動的に更新されます。

必要に応じて、テストモードでは、元の受信者グループから選択した受信者を除外できます。

- 1 パブリケーションを右クリックし、[テストモード] を選択します。
- 2 (オプション) [テストモード] ダイアログボックスで、Enterprise 受信者の一覧を編集します。
  - a [Enterprise 受信者] をクリックします。
  - b [利用可能] の下でユーザまたはユーザグループを選択し、[>] ボタンをクリックしてユーザまたはユーザグループを [選択] リストまたは [除外する] リストに移動します。
- 3 (オプション) 動的受信者のリストを編集するには以下の手順に従います。
  - a [動的受信者] をクリックします。
  - b [動的受信者のソースの選択] の下で、[Web Intelligence レポート動的受信者プロバイダ] または [Crystal Reports 動的受信者データプロバイダ] を選択します。
- 4 [テスト] をクリックします。

テストモードでパブリケーションが実行されます。

### 11.2.3 パブリケーションを購読または購読解除する

適切なアクセス権を持つ Enterprise 受信者は、パブリケーションまたはパブリケーションインスタンスの購読または購読解除を実行できます。たとえば、パブリケーションが週 2 回実行されるようスケジュールされている場合、受信者は最初のパブリケーションインスタンスを購読し、2 回目のインスタンスは購読しないよう指定できます。

#### 注

動的受信者は、パブリケーションインスタンスの購読または購読解除ができません。

- 1 [ドキュメント] タブの [フォルダ] ドロワで、購読または購読解除するパブリケーションを探して選択します。
- 2 次の操作のいずれかを実行します。

- ・ セントラル管理コンソール (CMC) で、[アクション] > [購読] をクリックするか [購読解除] を選択します。
- ・ BI ラウンチパッドで、パブリケーションを右クリックし、[購読] または [購読解除] を選択します。

#### ヒント

パブリケーションインスタンスの購読または購読解除を行うには、パブリケーションを選択して CMC で [アクション] > [履歴] を選択するか、BI ラウンチパッドでパブリケーションを右クリックし [履歴] を選択します。[履歴] ダイアログボックスで、インスタンスを選択し、購読または購読解除します。

## 11.2.4 パブリケーションの実行をスケジュールする

パブリケーションの実行をスケジュールする前に、パブリケーションを設計して保存する必要があります。

パブリケーションのスケジュール時に、[定期] の下にある設定を使用するか、新しい設定を入力できます。パブリケーションのスケジュールごとに、受信者を変更できます。

- 1 パブリケーションを右クリックし、CMC で [アクション] > [スケジュール] を選択するか、BI ラウンチパッドで [スケジュール] を選択します。
  - 2 [スケジュール] ダイアログボックスで、[定期] をクリックし、[オブジェクトの実行] リスト内で選択されているオプションが正しいことを確認します。
  - 3 [スケジュール] をクリックします。
- 指定したとおりにパブリケーションが実行されます。

#### ヒント

パブリケーションの実行中に進捗を表示するには、ジョブを右クリックし、CMC で [アクション] > [履歴] をクリックするか、BI ラウンチパッドで [履歴] を選択します。[ステータス] 列で、ステータス ([成功]、[失敗]、[実行中]) をクリックし、[パブリケーションの履歴] ダイアログボックスの下にある [ログファイルの表示] をクリックします。

## 11.2.5 パブリケーション結果の表示

#### 公開者による結果の表示

パブリケーションの結果はさまざまな方法で表示できます。パブリケーション実行後、パブリケーション履歴が表示され、パブリケーションインスタンス、パブリケーションの実行日時、およびパブリケーションが成功したか失敗したかが一覧表示されます。[インスタンスの日時] 列で、パブリケーションインスタンスへのリンクをクリックし、パブリケーション実行時にすべての受信者に対して生成されたインスタンスを表示できます。

#### ヒント

パブリケーション履歴に素早くアクセスするには、パブリケーションを右クリックし、CMC で [アクション] > [履歴] を選択するか、BI ラウンチパッドで [その他のアクション] > [履歴] を選択します。

#### パブリケーションジョブ用のログファイルの表示

ログファイルは、パブリケーションの問題解決や、パブリケーションインスタンスを受信しなかった受信者を識別するのに役立ちます。BI プラットフォームでは、パーソナライズされたパブリケーションインスタンスの各バッチ

が処理されると、パブリケーションジョブの情報をログに記録し、詳細を1つまたは複数のログファイルにまとめます。ログファイルの最大サイズは 10 MB で、この値は変更できません。多数の詳細を含む大容量のパブリケーションを実行している場合、パブリケーションインスタンスのログファイルが複数になる場合があります。

パブリケーションインスタンスのログファイルは、[履歴] ダイアログボックスで以下の手順に従って表示できます。

- 一連の中で最後のログファイルを表示するには、[ステータス] 列で、ステータス ([成功]、[失敗]、[実行中]) をクリックし、[インスタンスの詳細] ダイアログボックスの下にある [ログファイルの表示] をクリックします。

#### ヒント

パブリケーション実行中に、最後のログファイルを表示できます。

- すべてのログファイルを表示するには、[インスタンスの日時] 列で、パブリケーションインスタンスに対するリンクをクリックします。パーソナライズされたインスタンスの後にログファイルがリストされます。

ログファイルは、2 分おきに新しい情報で更新されます。パブリケーションジョブが 2 分未満しか実行されなかった場合、ログファイルのステータスは [待機] になります。

#### 受信者による結果の表示

以下の表は、パブリケーションの表示方法をまとめたものです。

出力先	パブリケーション結果の表示方法
デフォルトの Enterprise の場所	<p><b>注</b> 動的受信者が BI プラットフォームにログオンしてパブリケーション結果を表示することはできません。</p> <p>受信者は、自身のパーソナライズ済みパブリケーションインスタンスのみを BI プラットフォームで表示できます。他の受信者向けにパーソナライズされたパブリケーションインスタンスは表示できません。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>以下のアクションのいずれかを実行し、CMC を起動します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Windows では、[スタート] &gt; [プログラム] &gt; [SAP Business Intelligence] &gt; [SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4] &gt; [SAP BusinessObjects BI プラットフォームセントラル管理コンソール] を選択します。</li> <li>Web ブラウザに「http://&lt;サーバ名&gt;:&lt;接続ポート&gt;/CMC」と入力します。</li> </ul> <p>&lt;サーバ名&gt; を使用している CMS 名に変更し、&lt;接続ポート&gt; を (インストール中に指定した) 使用している接続ポート番号に変更します。デフォルトの接続ポート番号は 8080 です。</p> </li> <li>ログオン認証情報を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[システム] ボックスで、CMS 名と CMS ポートが正しいことを確認します。</li> <li>ユーザ名とパスワードを入力します。</li> <li>[認証] リストで、認証の種類を選択します。</li> </ul> </li> <li>[ログオン] をクリックします。</li> <li>[フォルダ] の下で、パブリケーションを右クリックし [履歴] を選択します。</li> <li>[履歴] ダイアログボックスで、[インスタンスの日時] 列のリンクをクリックします。</li> <li>表示するインスタンスをダブルクリックします。</li> </ol>

出力先	パブリケーション結果の表示方法
BI 受信ボックス	<p><b>注</b> 動的受信者が BI ラウンチパッドにログオンしてパブリケーション結果を表示することはできません。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>以下のアクションのいずれかを実行し、BI ラウンチパッドを起動します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Windows では、[スタート] &gt; [プログラム] &gt; [SAP Business Intelligence] &gt; [ SAP BusinessObjects BI プラットフォーム 4] &gt; [SAP BusinessObjects BI プラットフォーム Java BI ラウンチパッド] を選択します。</li> <li>Web ブラウザに「http://&lt;ServerName&gt;:&lt;ConnectionPort&gt;/BOE/BI」と入力します。</li> </ul> <p>&lt;サーバ名&gt; を使用している CMS 名に変更し、&lt;接続ポート&gt; を (インストール中に指定した) 使用している接続ポート番号に変更します。デフォルトの接続ポート番号は 8080 です。</p> </li> <li>ログオン認証情報を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>[システム] ボックスで、CMS 名が正しいことを確認します。</li> <li>ユーザ名とパスワードを入力します。</li> <li>[認証] リストで、認証の種類を選択します。</li> </ul> </li> <li>[ログオン] をクリックします。</li> <li>[マイ受信ボックス] をクリックします。</li> <li>表示するインスタンスをダブルクリックします。</li> </ol>
電子メール	電子メールにログオンし、埋め込まれたパブリケーションコンテンツを表示するか、添付ファイルをダウンロードします。
FTP サーバ	FTP ホストにログオンします。
ローカルディスク	パブリケーションのデザイン時に指定された場所に移動します。



## 11.2.6 パブリケーションインスタンスを再配布する

受信者にインスタンスを再送信したいがパブリケーション全体を再実行したくない場合、成功したパブリケーションインスタンスを最初の受信者全員または受信者の一部に再配布できます。最初のパブリケーション実行時に指定された受信者のみが、再配布されたインスタンスを受信できます。

- 1 パブリケーションを右クリックし、CMC で [アクション] > [履歴] を選択するか、BI ラウンチパッドで [履歴] を選択します。  
[履歴] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 成功したパブリケーションインスタンスを選択します。
- 3 以下のアクションのいずれかを実行します。
  - ・ BI ラウンチパッドで、[その他のアクション] > [再スケジュール] を選択します。
  - ・ CMC で、[アクション] > [再スケジュール] を選択します。
- 4 再配布されるインスタンスを受信する受信者を選択します。
  - ・ インスタンスを Enterprise の受信者に再配布するには、[Enterprise 受信者] をクリックし、[>] ボタンをクリックして受信者を [利用可能] リストから [選択] リストに移動します。
  - ・ インスタンスを動的受信者に再配布する
    - a [動的受信者] をクリックし、受信者 ID、フルネーム、および電子メールアドレスにマップされている列が正しいことを確認します。
    - b パブリケーションをすべての動的受信者に再配布するには、[完全リストの使用] を選択します。
    - c パブリケーションを選択された動的受信者に再配布するには、[>] ボタンをクリックして受信者を [利用可能] リストから [選択] リストに移動します。
- 5 [再配布] をクリックします。  
パブリケーション履歴が表示され、再配布されたインスタンスのステータスが [実行中] となっています。[インスタンスの日時] 列の日付は、再配布の日時に合わせて更新されます。

## 11.2.7 失敗したパブリケーションを再試行する

このタスクを開始する前に、失敗したパブリケーションインスタンスのログファイルを確認し、エラーを修正し、パブリケーションを再スケジュールします。

- 1 失敗したパブリケーションインスタンスを選択します。
- 2 以下のアクションのいずれかを実行します。
  - ・ BI ラウンチパッドで、[その他のアクション] > [履歴] を選択します。
  - ・ セントラル管理コンソール (CMC) で、[アクション] > [履歴] を選択します。インスタンスのステータスが [実行中] になります。

パブリケーションが再び失敗した場合は、新しいログファイルを確認し、発生したエラーを修正してください。

### 11.3 パブリケーションパフォーマンスの向上

#### Adaptive Processing Server

領域	考慮点
CPU およびメモリ	使用可能な CPU が多く、BI プラットフォーム Feature Pack 3 以降がインストールされているより高速なマシンに Adaptive Processing Server を移行します。Adaptive Processing Server は使用できる CPU 数に合わせて自動調整されます。
	専用の Adaptive Processing Server で公開サービスおよびパブリケーションポスト処理サービスを分離し、これらのサーバにホストされている使用されていないサービスを削除します。各サービスは、Adaptive Processing Server 上で多くの共有リソース（スレッドプールへのリクエスト、メモリ、および CPU）を消費するため、公開パフォーマンスが改善される場合があります。

#### 公開サービス

公開はハードドライブに負荷をかけるプロセスであるため、公開サービスは入出力性能の高いマシン、または FRS 用に SAN ディスクを使用するマシンにインストールする必要があります。

領域	考慮点
同時に実行される多数のパブリケーションインスタンス	<p>基礎をなす CMS、FRS、Adaptive Job Server、およびレポート処理サーバが適切に調整されている場合は、公開サービスを 1 つ以上のマシンの複数の Adaptive Processing Server に水平的に拡張することで、より多くのパブリケーションインスタンスを同時に処理できます。</p> <p><b>注</b> 単一のパブリケーションジョブ（たとえば、受信者が 100 万人）は、複数の Adaptive Processing Server でホストされている公開サービス間で共有されません。公開サービスの水平的な拡張では、受信者数にかかわらず、単一のパブリケーションの処理時間は短縮されません。</p>

領域	考慮点
受信者の多いパブリケーション	<p>CPU および RAM がより多いマシン上で Adaptive Processing Server を垂直的に拡張することで、より多くの受信者を同時に処理し、Adaptive Processing Server でより多くのジョブを生成することができます。</p> <p><b>注</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Adaptive Job Server およびレポート処理サーバも、スループット拡大のために適宜調整が必要になる場合があります。</li> <li>CPU コアが 9 個以上あるマシンで Adaptive Processing Server を実行する場合は、Adaptive Processing Server のヒープサイズを拡大 (-Xmx を 2 GB 以上に設定) にすることが適切です。CPU コア数が増えると、Adaptive Processing Server でより多くのスレッドを生成でき、スループットが増大します。ただし、スレッド数の増加に応じて RAM 容量も増大させる必要があります。</li> </ul>
公開クリーンアップオプション	再配信の必要のない大規模なパブリケーションのため、またはレポートでアーティファクトを表示する場合は、デフォルトの出力先を選択しないでください。
Crystal レポートパブリケーション	各受信者に固有のセキュリティを適用する必要がない場合は、[受信者のバッチごとのデータベースフェッチ] を選択します。データベースアクセスが複数の小規模な同時クエリにバッチ化されます。
Web Intelligence パブリケーション	<p>[すべての受信者のデータベースフェッチ] または [受信者ごとのデータベースフェッチ] を選択します。</p> <p>大規模なパブリケーションで [すべての受信者のデータベースフェッチ] を選択した場合は、データベースクエリを複数の小規模なクエリに分割するために、公開サービスをホストするすべての Adaptive Processing Server へのディスクデリバリを加速する以下のコマンドラインオプションを追加します。</p> <pre>-Dcom.businessobjects.publisher.scopebatch.max.recipients=&lt;integer&gt;</pre>
Windows の単一フォルダへのディスクデリバリに時間がかかる大規模なパブリケーション	Microsoft TechNet ( <a href="http://technet.microsoft.com">http://technet.microsoft.com</a> ) で、『自動の短いファイル名の生成を無効にする方法』(文書番号: 210638) または『NtfsDisable8dot3NameCreation』を検索して、その説明に従います。

領域	考慮点
ファイル数が 300,000 を超える Windows の単一フォルダへのディスクデリバリーに時間がかかる大規模なパブリケーション	<a href="http://technet.microsoft.com">http://technet.microsoft.com</a> で、『how NTFS works』を検索して、その説明に従います。

### パブリッシングポスト処理サービス

[ZIP ファイルとしてパッケージ化する] チェックボックス ([スケジュール] ダイアログボックス)、および/または [エクスポートされた PDF をマージ] チェックボックス ([出力先] ダイアログボックス) を選択するか、パブリケーションでカスタムポスト処理プラグインを有効化すると、パブリッシングポスト処理サービスが呼び出されます。

領域	考慮点
[ZIP ファイルとしてパッケージ化する] および [エクスポートされた PDF をマージ] の両方が選択されているパブリケーション	パブリッシングポスト処理サービスを水平的に拡張すると、ZIP および PDF をマージするワークロードが、複数の Adaptive Processing Server にホストされる複数のパブリッシングポスト処理サービス全体に分散されます。

## 11.3.1 ソースドキュメントの追加に関する推奨事項

この節では、パブリケーションに動的コンテンツドキュメントを追加する際の推奨事項について説明します。

### パブリケーションログファイルを使用して、失敗したパブリケーションをトラブルシューティングする

パブリケーションの実行をスケジュールすると、ログファイルが生成され、パブリケーションの実行時に発生したエラーが記録されます。パブリケーションインスタンスのログファイルをすべて表示するには、[その他のアクション] > [履歴] を選択します。[履歴] ダイアログボックスで、[インスタンスの日時] 列にあるインスタンスのリンクをクリックします。インスタンスの詳細が新しいウィンドウで開きます。

Crystal レポートでパラメータを使用したパーソナライゼーションを使用する場合は、パラメータをデフォルトに設定する

パラメータベースのパーソナライゼーションを実行すると、パブリケーションのパフォーマンスが低下する場合があります。Enterprise 受信者のプロファイルまたは動的受信者のパーソナライゼーション値にフィールドをマップして、Crystal レポートのパブリケーションをパーソナライズすると、処理速度が大幅に改善します。

パラメータを使用して Crystal レポートをパーソナライズする必要がある場合は、[パーソナライゼーション] セクションのパラメータをデフォルト値に設定します。

### 注

パブリケーションで Enterprise 受信者のプロファイルを使用するには、BI プラットフォームでプロファイルを設定する必要があります。

個々の動的コンテンツドキュメントをパブリケーションに追加する前に、それらを表示してスケジュールする動的コンテンツドキュメントを正しく表示およびスケジュールできた場合は、データソース接続が正しく機能し、パブリケーションをスケジュールするときにソースドキュメントデータを最新表示できます。動的コンテンツドキュメントを正しく表示およびスケジュールできない場合は、データソース接続の設定が間違っていないか確認してください。設定の確認方法を次の表に示します。

ドキュメントの種類	データソース接続の設定の確認方法
Crystal レポート	CMC で Crystal レポートを選択し、[管理] > [デフォルト設定] を選択します。[デフォルト設定] ダイアログボックスで、ナビゲーションパネルの [データベース設定] をクリックします。
Web Intelligence ドキュメント	CMC で Web Intelligence ドキュメントを選択し、[管理] > [デフォルト設定] を選択します。[デフォルト設定] ダイアログボックスで、ナビゲーションパネルの [レポートユニバース] をクリックします。

場合によっては、デザイナーで動的コンテンツドキュメントを開いてデータベースソース接続を設定し、CMS リポトリにファイルを再エクスポートして、前のコピーを上書きする必要がある場合があります。動的コンテンツドキュメントのデータソース接続の設定については、デザイナーのマニュアルを参照してください。

#### 不必要なデータの最新表示をしない

動的コンテンツドキュメントのデータを最新表示する必要がない場合は、[ソースドキュメント] セクションで、そのドキュメントの [実行時に最新表示] チェックボックスをオフにすると、パブリケーションの全体的なパフォーマンスが向上します。

## 11.3.2 動的受信者ソースの使用に関する推奨事項

動的受信者ソースは受信者 ID 列に従って並べ替える。

一般に、動的受信者ソースは [受信者 ID] 列に従って並べ替える必要があります。特に、高ボリュームのパブリケーションを実行している場合、または [受信者のバッチごとのデータベースフェッチ] を選択している場合は、複数のパーソナライゼーション値を持つ受信者への配信数を低減できるため、この並べ替えは重要です。

Crystal レポートの動的受信者ソースの場合は、データベースの設定情報が正しいことを確認する。

CMC で動的受信者ソースを選択し、[管理] > [デフォルト設定] を選択し、次の設定を確認します。

- ・ [データベース設定] で、データベースログオン情報が正しく設定されており、[レポート実行時と同じデータベースログオン情報を使用する] が選択されている。
- ・ [パラメータ] で、すべてのパラメータに値が指定されており、パラメータのすべての [表示時にプロンプトを表示] チェックボックスがオフになっている。

Crystal レポートの動的受信者ソースを使用する場合は、RAS が正しく設定されていることを管理者に確認する。

RAS (Report Application Server) は、少なくとも動的受信者ソースの受信者と同数のデータベースレコードを読み込むよう設定する必要があります。たとえば、100,000 人の受信者のデータを持つ動的受信者ソースを処理するには、100,000 件以上のデータベースレコードを読み込むよう RAS を設定する必要があります。

### 11.3.3 電子メールのパブリケーションインスタンスの送受信に関する推奨事項

可能であれば、電子メールパブリケーションインスタンスに埋め込まれたコンテンツを Outlook 2003 で表示する。

可能であれば、電子メールパブリケーションインスタンスに埋め込まれたコンテンツを Outlook 2003 で表示する。電子メールパブリケーションインスタンスに埋め込まれたコンテンツを Outlook 2007 や、Hotmail、Gmail などの Web 電子メールアカウントで表示すると、形式上の問題が発生する場合があります。

Destination Job Server で電子メールが正しく設定されているか管理者に確認する。

Destination Job Server で電子メールが正しく設定されていることを確認する必要があります。電子メールで送信するパブリケーションは、Adaptive Job Server の出力先が正しく設定されていないことが原因で失敗する場合があります。詳細については、『SAP BusinessObjects Business Intelligence プラットフォーム管理者ガイド』を参照してください。

## より詳しい情報

情報リソース	場所
SAP BusinessObjects 製品情報	<a href="http://www.sap.com">http://www.sap.com</a>
SAP ヘルプ ポータル	<p><a href="http://help.sap.com/businessobjects/">http://help.sap.com/businessobjects/</a> へアクセスし、[SAP BusinessObjects Overview] サイドパネルから [All Products] をクリックします。</p> <p>SAP ヘルプ ポータルでは、すべての SAP BusinessObjects 製品とそのデプロイメントについて扱った最新のドキュメンテーションにアクセスできます。PDF 版またはインストール可能な HTML ライブラリのダウンロードが可能です。</p> <p>一部のガイドは SAP サービス マーケットプレイスに格納されており、SAP ヘルプ ポータルからは入手できません。ヘルプ ポータルのガイド一覧で、そのようなガイドには SAP サービス マーケットプレイスへのリンクが付いています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。</p>
SAP サービス マーケットプレイス	<p><a href="http://service.sap.com/bosap-support">http://service.sap.com/bosap-support</a> &gt; ドキュメンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インストール ガイド: <a href="https://service.sap.com/bosap-instguides">https://service.sap.com/bosap-instguides</a></li> <li>・ リリース ノート: <a href="http://service.sap.com/releasenotes">http://service.sap.com/releasenotes</a></li> </ul> <p>SAP サービス マーケットプレイスには、一部のインストール ガイド、アップグレードおよび移行ガイド、デプロイメント ガイド、リリース ノート、サポート対象プラットフォームに関するドキュメントが格納されています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。SAP ヘルプ ポータルから SAP サービス マーケットプレイスにリダイレクトされた場合は、左側のナビゲーション ペインのメニューを使用して、アクセスするドキュメンテーションが含まれているカテゴリを探します。</p>
Docupedia	<p><a href="https://cw.sdn.sap.com/cw/community/docupedia">https://cw.sdn.sap.com/cw/community/docupedia</a></p> <p>Docupedia は追加のドキュメンテーションリソース、協調的なオーサリング環境、および対話型のフィードバックチャネルを提供します。</p>

情報リソース	場所
開発者向けリソース	<a href="https://boc.sdn.sap.com/">https://boc.sdn.sap.com/</a> <a href="https://www.sdn.sap.com/irj/sdn/businessobjects-sdklibrary">https://www.sdn.sap.com/irj/sdn/businessobjects-sdklibrary</a>
SAP Community Network 上の SAP BusinessObjects に関する記事	<a href="https://www.sdn.sap.com/irj/boc/businessobjects-articles">https://www.sdn.sap.com/irj/boc/businessobjects-articles</a> これらの記事は、以前はテクニカル ペーパーという名称でした。
ノート	<a href="https://service.sap.com/notes">https://service.sap.com/notes</a> これらのノートは、以前はナレッジ ベース記事という名称でした。
SAP Community Network 上のフォーラム	<a href="https://www.sdn.sap.com/irj/scn/forums">https://www.sdn.sap.com/irj/scn/forums</a>
トレーニング	<a href="http://www.sap.com/services/education">http://www.sap.com/services/education</a> 弊社では、従来のクラス型の学習から目標を定めた eラーニング セミナーまで、学習ニーズや好みの学習スタイルに合わせたトレーニング パッケージを提供しています。
オンライン カスタマー サポート	<a href="http://service.sap.com/bosap-support">http://service.sap.com/bosap-support</a> SAP サポート ポータルには、カスタマー サポート プログラムとサービスに関する情報が含まれています。また、さまざまなテクニカル情報およびダウンロードへのリンクも用意されています。保守契約を締結されたお客様には、このサイトにアクセスするための正規ユーザー ID が付与されます。ID の入手方法については、お客様担当のカスタマー サポート担当者までお問い合わせください。
コンサルティング	<a href="http://www.sap.com/services/bysubject/businessobjectsconsulting">http://www.sap.com/services/bysubject/businessobjectsconsulting</a> コンサルタントは、初期の分析段階からデプロイメントプロジェクトの実現まで一貫したサポートを提供します。リレーショナル データベースと多次元データベース、接続、データベース設計ツール、カスタマイズされた埋め込みテクノロジーなどのトピックに関する専門的なサポートを行います。



# 索引

## A

Adaptive Job Server 222  
出力先を無効にする 106  
出力先を有効にする 106

## B

BEx パーソナライゼーション 58  
BI 起動パッド 57  
お気に入りフォルダ 26  
フォルダ 26  
BI 受信ボックス  
アラート通知の転送 145  
オブジェクトのスケジュール先 103  
スケジュール先 95  
他のユーザへのアラート通知の転送 145  
BI ラウンチパッド  
カテゴリ 29  
パブリケーション結果の表示 213  
パブリケーションの作成 180  
レポートの表示 57  
BI アナリストライセンス 11  
BI ビューアライセンス 11  
BW  
システムの移行 56  
レポートの追加 56  
BW でのレポートコンテンツの移行 56

## C

Cache Server  
レポートの表示 43  
CMC  
管理エリア 16  
基本設定の選択 17  
ナビゲーション 16  
パブリケーション結果の表示 213  
ログオン 16  
CMC タスク  
アラート、購読 142  
アラート、購読解除 143  
アラートソースオブジェクト、検索 138  
アラート、他のユーザを購読者として 指定する 144  
アラートワークフロー、Crystal レポート 136  
アラートワークフロー、イベント 136  
ジョブの電子メール通知 208  
パブリケーションの購読 212

CMC タスク (続き)  
パブリケーションの購読解除 212  
パブリケーションの作成 180  
他のユーザのアラートの購読解除 144  
CMS、オブジェクトの保存先 22  
CMS へのオブジェクトのエクスポート 22  
Crystal Reports  
BW から 57  
公開形式 168  
サムネイル 54  
スケジュール形式 111  
データベースログオンの設定 204  
配信ルール 157, 201, 202  
フィルタ 47  
処理拡張機能 47  
選択式 47  
プロンプト値の指定 45  
Crystal レポート 145  
BI プラットフォームへの追加 56  
BW から追加 56  
PDF のマージ 173  
PDF ファイルのマージ  
書式設定 202, 203  
アラート 54  
アラート通知 137  
印刷 200  
ページ レイアウト オプション 49  
形式  
指定 193  
最新表示オプション 41  
書式設定オプション 193  
処理拡張機能 50  
スケジュールに使用する Job Server 43  
データの共有 42  
データベース設定 44  
動的受信者ソースのトラブルシューティング 221  
トラブルシューティング 220  
パーソナライゼーション  
パラメータを使用した 191  
ローカルプロファイルターゲット 192  
表示オプション 42  
プリンタの選択 48  
既存のハイパーリンクを使用した追加 52  
Crystal レポートのフィルタ選択 47  
処理拡張機能 47  
選択式 47

CSV、スケジュール形式 111

## D

DLL ファイル 50

## E

Enterprise 受信者の追加 182  
Excel、スケジュール形式 111

## F

FTP(出力先)  
スケジュール 104  
FTP サーバ  
スケジュール先 95

## J

Java プログラム 62  
Adaptive Job Server 67  
設定 66  
他のファイルへのアクセスの設定 67  
パラメータの設定 66  
必要なファイルへのアクセス 67  
プログラムスケジュールサービス 67  
Job Server  
出力先を無効にする 106  
出力先を有効にする 106  
Job Server での出力先  
有効化と無効化 106

## M

mHTML 190

## N

NetWeaver BW  
システムの移行 56  
レポートの追加 55  
NULL 値 60  
Null パラメータ値 59

## P

PDF  
結合 173

PDF (続き)

スケジュール形式 111

PVL 18

## R

Report Application Server 43, 221

## S

SAP BusinessObjects Enterprise SDK 50

SAP BusinessObjects Live Office 179

SAP Easy Access 57

SAP StreamWork

オブジェクトのスケジュール先 106

スケジュール先 95

SAP ログオン 57

SMTP メールサポート 103

## T

TXT、スケジュール形式 111

## W

Web Intelligence ドキュメント

キャッシュオプションの選択 116

形式の指定 205

公開形式 168

スケジュールに使用するサーバ 43

トラブルシューティング 220

パーソナライゼーション 205, 206

プロンプト

更新 46

ユニバースの表示 55

Web Intelligence ドキュメントのキャッシュ形式 116

Web Intelligence ドキュメントのプロンプト 207

Web Intelligence ドキュメントオブジェクト 39

Word、スケジュール形式 111

## X

XML、スケジュール形式 111

## あ

アクセス

イベント 132

カテゴリ 28, 29

カレンダー 79

プロファイル 154

アクセス権

アラートの不整合 141

イベント 132

カテゴリ 29

カレンダー 79

公開 173, 177

フォルダ 25

フォルダの移動 24

フォルダのコピー 24

プロファイル 154

アラート 135, 138, 141

Crystal レポート 142, 143, 144

Crystal レポート設定 145

Crystal レポートでの表示 54

アラートソース 136

アラート通知との比較 137

イベント 142, 143, 144

イベントに対して有効化 142

権限の不整合 141

購読 142

購読解除 143

設定、管理 145

必要な権限 138

他のユーザの購読解除 144

他のユーザの除外 145

他のユーザを購読者として指定する 144

ワークフロー 136

アラート管理 141

アラートソースオブジェクト、CMC 138

アラート通知 107

BI 受信ボックスへの転送 145

アラートとの比較 137

他のユーザへの転送 145

アラートの管理 141

アンマネージドディスク (出力先) 105

## い

移動

フォルダ 24

イベント

アクセス 132

アラート 145

アラート設定 145

アラート、有効化 142

カスタム 131

管理 127

スケジュール 116, 117

スケジュールベース 130

通知 85

発生させるオブジェクトのスケジュール 118

パブリケーション 210

ファイルベース 129

印刷

Crystal レポート 48

Crystal レポートパブリケーション 200

プリンタの割り当て 48

インスタンス 126

Crystal レポート形式 108

Web Intelligence 形式 108

一時停止 125

オブジェクト 40

オブジェクトパッケージ 68

管理 120, 122, 124

形式 168

検索する 123

再開 125

再配布 217

削除 126

失敗 85

出力フォーマット 108

スケジュール 40

送信 34

通知 85

表示 125

フォルダレベルで制限を設定 25

プログラムオブジェクト 61

列 125

レポートオブジェクト 40

インスタンス形式

選択 110

インスタンスマネージャ 122

インポート 56

BW コンテンツ 56

## え

エリア、管理 16

## お

お気に入りフォルダ 26

オブジェクト

CMC での追加 20

CMS へのエクスポート 22

CMS への保存 22

移動 32

オブジェクトパッケージへの追加 69

カテゴリへの追加 28, 30

管理 19, 31

検索 33

コピー 31

削除 32

失敗の通知 84

書式設定 108

スケジュール 79

成功の通知 84

送信 34

直ちに実行 119

## オブジェクト (続き)

- 追加 19
- プログラム 69
- プロパティのオプション 20
- プロパティの変更 38
- ショートカットの作成 32
- 変更
  - デフォルトの設定 40
- レポート 69
- オブジェクトインスタンス 40
- オブジェクトショートカット 32
- オブジェクトのアクセス権
  - カテゴリの移動時 28
- オブジェクトの管理 19, 39
- オブジェクトの種類
  - Web Intelligence ドキュメント 85
  - オブジェクトパッケージ
    - 個々のオブジェクトのスケジュール  
ルオプション 85
    - 失敗の回避 85
  - プログラムオブジェクト 85
  - レポートオブジェクト 85
- オブジェクトのスケジュール  
イベント
  - 発生 118
- オブジェクトのスケジュール実行オプション 82
- オブジェクトパッケージ
  - インスタンス 68
  - オブジェクトの移動先 69
  - オブジェクトのコピー先 69
  - オブジェクトのコピーの作成場所 69
  - オブジェクトの追加 20, 69
  - 間でのオブジェクトの移動 69
  - コンポーネントオブジェクト 68
  - コンポーネントのエラー 70
  - 作成 69
  - スケジュール 120
  - 設定 70
  - 認証 71
  - プログラムオブジェクト 69
  - レポートオブジェクト 69
- オブジェクトへのショートカット 32
- 親フォルダ
  - 作成 23

## か

- 外部受信者 159
- [概要]ダイアログボックス、パブリケーション 211
- 拡張機能、処理 50
- カスタムイベント 127, 131
- カテゴリ
  - アクセス権 26, 29
  - 移動 28

## カテゴリ (続き)

- オブジェクトの削除 29
- オブジェクトの追加 28
- 会社用 26, 27
- 個人 26
- 個人用 27
- 削除 27
- 作成 27
- 複数のオブジェクトの追加 30

## カレンダー 73

- アクセス権の指定 79
- 形式オプション 74
- 削除 78
- 作成 73
- 定期実行日 76
- 日付 74, 75

## 環境変数

- 削除 66
- 削除される時 66
- 追加 66
- 変更 66
- 編集 66

## 関係クエリ 38

- 関係のクエリ 39
- 監査通知 85, 209

## 管理 15

- CMC 15
- イベント 132
- カテゴリ 29
- ツール 15
- フォルダ 25
- プロファイル 154

## 管理エリア 16

- 管理のツール 15

## き

## 基本設定

- CMC での設定 17
- 共有ライブラリ、処理拡張機能として 50
- 行レベルセキュリティ、処理拡張機能 50

## く

- クエリ、関係 38, 39
- 区切り値、スケジュール形式 111
- グローバル配信ルール 202
- グローバルプロファイルターゲット 148, 149, 205

## け

## 形式 205

- Crystal レポート 193
- mHTML 190

## 形式 (続き)

- Web Intelligence ドキュメント 205
- パブリケーション 168
- 権限、アラート
  - インスタンスの表示 138
  - 購読 138
  - スケジュール 138
  - 表示 138
  - 編集 138
  - 呼び出し 138
- 言語
  - レポートの表示 57
- 検索 33

## こ

## 公開 155

- SAP 統合 179
- アクセス権 173, 177
- 役割のプロファイル 147
- 公開されたレポート
  - 表示 57
- 公開者 177
- 購読 172, 212
- 高ボリュームのパブリケーション 218
- 大容量パブリケーション 156
- 個人用カテゴリ
  - 表示 29
- コピー
  - オブジェクト 31
  - フォルダ 24
- コマンドライン引数の指定 63
- コラボレーション
  - オブジェクトのスケジュール 106
  - スケジュール 95
- コンテンツ管理ワークベンチ 56

## さ

## サーバ

- オブジェクトのスケジュールのデフォルト 43
- レポートの表示と変更の使用 43
- サーバグループのスケジュール 210
- 最上位フォルダ
  - 作成 23
- 最新表示
  - ソースドキュメントデータ 156, 220
- 最新表示オプション 41
  - 設定 41
- 削除
  - サブフォルダ 24
  - フォルダ 24
- 作成
  - ハイパーリンク 33
  - フォルダ 23

## サブカテゴリ

アクセス権 26  
会社用 26, 27  
個人 26, 27

## サブフォルダ

移動 24  
コピー 24  
削除 24

サムネイル、Crystal Reports 54

## し

システムパフォーマンス 141

実行可能プログラム 62

設定 64

失敗したパブリケーションの再試行 217

指定ユーザライセンス 11

## 受信者

インスタンスの再配布 217

動的 159

配信ルール 201

パブリケーションのパーソナライゼーション 171

## 出力先

BI 受信ボックス 103

FTP 104

アンマネージドディスク 105

オブジェクトタイプ別 36

スケジュール 87, 95

選択 184

送信 34

デフォルトの設定 102

電子メール 190

SMTTP メールサポート 103

場所 35

パブリケーション 160, 185

パブリケーション名 167

ファイルシステム 105

ファイルの場所 105

プレースホルダ 184

## 出力先のスケジュール

場所 87, 160

## 出力ファイル形式

選択 110

## 書式設定オプション

Crystal レポート 193

## 処理拡張機能 50

選択 51

レポートへの適用 50

## 処理拡張機能としてのダイナミックリンク

ライブラリ 50

処理サーバ 43, 220

処理の設定 118

## す

スクリプトプログラム 62

スケジュール 79

イベント 116, 117, 210

オブジェクト 80

グループ 80

実行オプション 82

定期パターン 81

バッチ 120

ユーザ 80

オブジェクトパッケージ 120

形式 111

個別のユーザ

グループ 81

ユーザ 81

サーバグループ 210

サーバグループの設定 118

使用するサーバの指定 43

通知 84

パブリケーション 186, 213

スケジュールイベント 127, 130

スケジュールされたインスタンス 40

スケジュールされたレポート

パーソナライズされたパラメータ値 60

## せ

## 制限

フォルダレベルインスタンス 25

静的ソースドキュメント 156

セキュリティ、処理拡張機能 50

## 選択

Enterprise 受信者 182

## そ

ソースドキュメント、トラブルシューティング 220

## つ

## 通知

イベント 85

インスタンスの設定 86

監査 85, 86

警告 107

失敗 85

スケジュール済みオブジェクト 84

電子メール 85, 86

## て

定期的なスケジュールパターン 186

定期パターンオプション 186

定期パターンでのオブジェクトのスケジュール 81

データの最新表示 156, 220

データベース

設定 44

ログオン、Crystal レポート 204

データベースのフェッチ 156, 211

テストモード 212

デフォルトサーバ

選択 44

デフォルト値 59

デフォルトの Enterprise の場所、スケ

ジュール先 95

## 電子メール

オブジェクトのスケジュール先 103

スケジュール先 95

通知 208

パブリケーションインスタンスのトラブルシューティング 222

パブリケーションコンテンツの埋め込み 190

電子メール通知 85

## と

同時接続ユーザライセンス 11

動的受信者 159

ソース 159

追加 183

トラブルシューティング 221

## トラブルシューティング

失敗したパブリケーション 217

ソースドキュメント 220

電子メールパブリケーションインスタンス 222

動的受信者ソース 221

パブリケーションパフォーマンス 218

## に

認証、オブジェクトパッケージ 71

## は

パーソナライズされたパラメータ値 60

パーソナライズされたプレースホルダ 167

パーソナライゼーション 58, 171

Crystal レポート 191, 192

Web Intelligence ドキュメント 205, 206

パブリケーション 171

パーソナライゼーションなし 171

## 配信ルール

Crystal レポート 157

グローバル 202

受信者 201

ハイパーリンク  
 作成 33  
 パスワード 17  
 パフォーマンス、パブリケーション、向上  
 218  
 パブリケーション 155  
 Enterprise 受信者の追加 182  
 SAP BusinessObjects Live Office 179  
 一般プロパティ 180, 181  
 インスタンスの再配布 217  
 形式 168  
 結果の表示 213  
 購読 172, 212  
 購読解除 172, 212  
 最終処理 211  
 作成  
 BI ラウンチパッド 180  
 CMC 180  
 実行 186  
 出力先 160, 185  
 スケジュール 186, 213  
 ソースドキュメント 180  
 ソースドキュメントの追加 181  
 追加のオプション 207  
 デザイン 179  
 テスト 212  
 電子メールへのコンテンツの埋め込  
 み 190  
 動的受信者 159, 183  
 ドキュメントのファイルタイプ 168  
 名前のパーソナライゼーション 167  
 パーソナライゼーション 171  
 配信ルール 157  
 パブリケーション拡張 172  
 開く 181  
 プレースホルダ 171  
 レポートバースト 156  
 パブリケーションインスタンスの再配布  
 217  
 パブリケーション拡張 172, 207  
 パブリケーションソースドキュメント  
 パーソナライズされたプレースホルダ  
 189  
 パブリケーションの電子メール送信  
 パーソナライズされたプレースホルダ  
 の使用 167  
 パブリケーションファイル  
 パブリケーションのパーソナライゼー  
 ション 167  
 パブリケーション名  
 パーソナライゼーション 167  
 プレースホルダ 189  
 プレースホルダ 167  
 パラメータ  
 BW クエリーの変数 58  
 Crystal レポート 191

パラメータ (続き)  
 Java プログラム 66  
 NULL 値 60  
 ダイナミックピックリスト 59  
 デフォルト値 59  
 パーソナライゼーション 60  
 パラメータとレポート変数 58

## ひ

ピックリスト 59

## ふ

ファイルイベント 127, 129  
 ファイルシステム、スケジュール先 95  
 ファイル場所、スケジュール先 95  
 フィルタ  
 パブリケーションデータ 171  
 フォルダ 23  
 アクセス権 25  
 移動 24  
 インスタンスの制限の設定 25  
 お気に入り 26  
 個人 26  
 コピー 24  
 削除 24  
 作成 23  
 デフォルトのユーザフォルダ 29  
 デフォルトユーザ 26  
 複数のプロファイル値 179  
 プレースホルダ 167, 171, 189  
 プレースホルダの追加  
 パーソナライズ値 167  
 プレーンテキスト、スケジュール形式 111  
 プログラム オブジェクト  
 Java 62  
 外部ファイルへのパス 65  
 シェルスクリプト 65  
 実行可能プログラム 62  
 スクリプト 62  
 バイナリファイル 65  
 バッチファイル 65  
 補助ファイルへのパス 65  
 プログラムオブジェクト 61  
 Java プログラム 66  
 環境変数 66  
 管理 61  
 コマンドライン引数、指定 63  
 作業ディレクトリ 63  
 作業ディレクトリ、選択 64  
 作業ディレクトリ、変更 64  
 実行可能プログラム 64, 65  
 認証 68  
 ファイルのアップロード 65  
 ユーザアカウント 68

プロパティ  
 オブジェクト 38  
 プロファイル 147  
 アクセス 154  
 競合 153  
 グローバルプロファイルターゲット 149  
 公開の役割 147  
 作成 148  
 プロファイルターゲット 148  
 プロファイル値 148  
 競合 153  
 種類 150  
 変数 152  
 プロファイルの解決 210  
 プロファイル値の変数 152  
 プロンプト 45  
 更新 46

## ほ

翻訳されたレポート  
 表示 57

## ま

マージされた PDF ファイル、書式設定  
 202, 203

## ゆ

ユーザフォルダ 26  
 優先表示ロケール 18  
 ユニバース  
 Web Intelligence ドキュメント 55

## ら

ライセンス  
 BI アナリスト 11  
 BI ビューア 11  
 指定ユーザ 11  
 同時接続ユーザ 11  
 ライフサイクルマネジメントコンソール  
 レポートオブジェクトのインポート 56

## り

リッチテキスト、スケジュール形式 111  
 リンク先レポート 51  
 リンク元レポート 51

## れ

## レポート 28

- BI ラUNCHパッドでの表示 57

- BW コンテンツの移行 56

- Null パラメータ値 59

- パーソナライゼーション 58

## レポートインスタンス

- 管理 39, 124

- 制限の設定 126

- 表示 125

- 履歴 121

- 列 125

## レポートオブジェクト

- イベントに連動するスケジュール 116, 117, 118

- イベントの発生 118

- インスタンスの制限の設定 126

- 管理 39

- サーバの指定 43

- 最新表示オプション 41

- 出力先 87

## レポートオブジェクト (続き)

- 使用する Job Server の指定 43

- 処理拡張機能 50

- 追加とハイパーリンクの設定 53

- データの共有 42

- データベース設定の指定 44

- ハイパーリンク 51

- ハイパーリンクの表示 53

- 表示オプション 42

- フィルタ 47

- フィルタの指定 47

- プロンプト値 45

- 既存のハイパーリンクを使用した追加 52

- レポート間のナビゲーション 51

- レポート間のハイパーリンク 51

- レポートタブの公開 205

- レポートの最新表示 41

- レポートバースト 211

- Crystal レポート 156

- Web Intelligence ドキュメント 156

- サードパーティソースドキュメント 156

## レポートバースト (続き)

- 静的ソースドキュメント 156

- セキュリティ 156

- ログオン認証情報 156

- レポート表示オプション

- 設定 43

- レポート変数とパラメータ 58

## ろ

- ローカルプロファイルターゲット 148

- Crystal レポート 192

- Web Intelligence ドキュメント 206

- ログオン、CMC 16

## わ

## ワークフロー

- アラート 136

- プロファイルと公開 147